高崎市文化財調査報告書第 327 集

上中居前屋敷遺跡

－高前幹線事業に伴う発掘調査－

２０１４

高崎市教育委員会

序

高崎市は群馬県の南西部にあり、北西に榛名山、北東に赤城山、西に妙義山などの上毛三山を望む関東平野の西北部を市域としております。

古くから文化の栄えたこの地域では、史跡綿貫観音山古墳や元島名将軍塚古墳が築造され、中世には和田氏家臣団をはじめとする武士の城館が多く築かれました。近世には例幣使街道など交通の要衝・商都として栄え、現在もその交通の利便性から北関東有数の「交通拠点都市」として躍進しております。

高崎市は平成23年4月に中核市へ移行し、さらなる発展やより良いまちづくりのため、交通網の整備や区画整理などの事業を実施してきました。本書で報告する上中居前屋敷遺跡は、高崎・前橋両市を結ぶ都市計画道路の建設に伴い発掘調査した遺跡であり、平成21・22・24・25年度分の調査成果をまとめたものです。調査では、古墳時代の溝・中世寺院・中近世の区画溝などの遺構や遺物が発見され、この地域の歴史を知るうえで貴重な資料を得ることができました。なかでも古墳時代の溝から出土した東海系・在地系の土器群、中世寺院に関連する建物跡や瓦類などは、この地域を開拓した人々の営みやその後の発展の様子を今に伝える重要な遺産です。本書がこの地域の文化財をより良く理解し保護していくことに役立ち、そして研究の一助となれば幸いです。

最後に、本遺跡の発掘調査ならびに報告書刊行にあたりご協力・ご指導いただきました地元の皆様、関係諸機関の方々に厚く御礼申し上げますとともに、厳しい気候の中、困難な調査に従事していただいた作業員の方々の労をねぎらい、序といたします。

平成26年3月

高崎市教育委員会
教育長　飯野　眞幸

例言

1　本書は高崎都市計画道路3・2・1高前幹線事業に伴って実施した平成21・22・24・25年度「上中居前屋敷遺跡」の発掘調査報告書である。

2　本遺跡は群馬県高崎市上中居町877-1・877-11・817-1(1区)、813-2・3(2-1区)、802-6(2-2区)、799-1・800-1(3区)、814-1・814-2・814-5・814-10(4区)に所在する。

3　発掘調査および整理作業は高崎市教育委員会文化財保護課埋蔵文化財担当が行った。調査組織は以下のとおりである。

平成21年度：(事務局)田口一郎　須田奈保子　山田いずみ　(調査担当)黒田晃　明石雅夫
平成22年度：(事務局)田口一郎　須田奈保子　山田いずみ　(調査担当)黒田晃　手島芙実子
平成24年度：(事務局)田口一郎　神澤久幸　山田いずみ　(調査担当)清水豊　手島芙実子
平成25年度：(事務局)田口一郎　神澤久幸　山田いずみ　(調査担当)大野義人　岡崎裕子
(整理担当)大野義人　手島芙実子

4　発掘調査期間は以下のとおりである。

平成21年度：上中居前屋敷遺跡1次調査(平成21年6月15日～平成21年12月25日)
平成22年度：上中居前屋敷遺跡2次調査(平成22年8月17日～平成22年12月1日)
平成24年度：上中居前屋敷遺跡3次調査(平成24年7月6日～平成24年8月29日)
平成25年度：上中居前屋敷遺跡4次調査(平成25年6月10日～平成25年8月8日)

5　整理作業期間は平成25年4月1日～平成26年3月31日である。

6　本書の執筆・編集は大野・手島が行った。
遺物整理・実測、図版作成等は担当職員、および担当職員の指示の下に青木千賀子、見野恵美子、塚本福代、萩原真理子、吉田三枝子が行った。

8　遺構の撮影は発掘調査担当職員が行った。遺物の写真撮影は業者に委託し、一部を手島が行った。

9　本事業に際し、発掘調査における表土掘削および埋め戻し作業は(株)井ノ上が行った。また、遺構平面図・空中写真撮影を(株)測研・(株)シン技術コンサル、自然科学分析をパリノ・サーヴェイ(株)に委託した。

10　本遺跡の出土遺物・記録類は高崎市教育委員会文化財保護課で保管している。

11　発掘調査にあたり、地元関係者の方々、高崎市役所都市整備部都市施設課にご協力をいただいた。

12　発掘調査にあたり、多くの作業員の方々の協力をいただいた。記して感謝する。

凡例

1　本書に使用した地図は、高崎市都市計画図（1/2500）、国土地理院発行の 1/25,000 地形図『高崎』である。

2　本書中の座標値は平面直角座標第Ⅸ系国家座標（世界測地系）であり、方位はその座標北（G.N.）である。高さは、東京湾平均海面（T.P.）を基準とする海抜高であらわす。

3　本書で使用した遺構記号は次のとおりである。溝：SD、井戸：SE、土坑：SK、ピット：Pit である。

4　遺構・遺物図の縮尺は原則として以下のとおりであり、各図にスケールを付した。縮尺を変更したものについては、各図に別途スケールを付した。

遺構：溝・土坑・柱穴・ピット・井戸 1/40

遺物：土器 1/3、瓦・軟質陶器・板碑 1/4、石器・金属製品 1/3、石臼 1/6、古銭 1/1

5　遺物写真の縮尺は原則として以下のとおりである。縮尺を変更したものについては、各図にスケールを付した。

土器・瓦・軟質陶器・板碑 1/4、石器・金属製品 1/3、石臼 1/6、古銭 1/1

6　遺構の切り合い関係、遺物における漆付着範囲・ガラス質物付着範囲などにはトーンを用いており、凡例は各図に付した。

7　遺物図における 1 点破線は釉の範囲を示す。また、中近世の陶磁器については 1 点破線を補足するため、遺物図断面に釉際部分を表す三角マークを付した。

8　遺物観察表に用いた単位は cm であり、（　）で示した数値は推定値、［　］で示した数値は残存値である。

9　本書で使用した火山灰の略称については、以下のとおりである。

As-A：浅間 A 軽石（天明 3 年の浅間山噴火に由来）

As-B：浅間 B 軽石（天仁元年の浅間山噴火に由来）

As-C：浅間 C 軽石（4 世紀初頭の浅間山噴火に由来）

Hr-FA：榛名二ッ岳渋川（6 世紀初頭の榛名山噴火に由来）

10　出土瓦の色調については、遺物観察表で以下の略称を用いた。

１Ａ：褐灰色（10YR5/1）

１Ｂ：褐灰色（10YR5/1）表面および中心部が褐灰色、それ以外は灰白色（10YR8/1）を呈する

２　：黄灰色（2.5Y6/1）

３Ａ：にぶい黄橙色（10YR7/3）

３Ｂ：にぶい黄橙色（10YR7/3）中心部が褐灰色（10YR5/1）を呈する

11　遺構・遺物図のトレースおよび本書の編集は Adobe 社の Illustrator を用いた。

目次

口絵　序文　例言　凡例
目次　挿図目次　表目次
第１章　調査に至る経緯
第１節　調査に至る経緯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
第２節　調査の方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
第３節　調査日誌抄 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

第２章　遺跡の立地と環境
第１節　地理的環境 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
第２節　歴史的環境 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

第３章　検出遺構
第１節　基本層序 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
第２節　調査の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
第３節　溝跡 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
第４節　井戸跡 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・65
第５節　礎石建物・土坑跡 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・73
第６節　掘立柱建物・ピット ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・88
第７節　As-A 軽石充填遺構 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・96
第８節　遺構外出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・98
第９節　自然科学分析 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 105

第４章　成果と課題
第１節　上中居前屋敷遺跡の遺構変遷 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 107
第２節　中世寺院と墓域 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 108
第３節　中世瓦の分析 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 111

挿図目次

第1図　上中居前屋敷遺跡調査区位置図 …… 4
第2図　上中居前屋敷遺跡周辺遺跡分布図 …… 5
第3図　上中居前屋敷遺跡全体図・等高線図 …… 8
第4図　1区調査区全体図 …… 10
第5図　2区調査区全体図 …… 12
第6図　3区調査区全体図 …… 14
第7図　4区調査区全体図 …… 16
第8図　基本層序図 …… 17
第9図　1・2・4号溝断面図 …… 18
第10図　3号溝平面図・断面図 …… 20
第11図　3号溝出土遺物図 …… 21
第12図　6号溝断面図および3・4号溝出土遺物図 …… 22
第13図　5号溝断面図および7～10号溝平面図・断面図 …… 24
第14図　7号溝出土遺物図① …… 25
第15図　7号溝出土遺物図② …… 26
第16図　7号溝出土遺物図③ …… 27
第17図　7・9号溝出土遺物図 …… 28
第18図　11号溝平面図・断面図および出土遺物図 …… 30
第19図　12・13号溝平面図・断面図 …… 32
第20図　14・15号溝平面図・断面図 …… 34
第21図　13号溝出土遺物図① …… 35
第22図　13号溝出土遺物図② …… 36
第23図　14・15号溝出土遺物図 …… 37
第24図　16～18号溝断面図 …… 38
第25図　17・19～22号溝断面図および17・22号溝出土遺物図 …… 39
第26図　23～25号溝断面図 …… 40
第27図　26・28～30号溝断面図 …… 41
第28図　29号溝断面図・出土遺物図 …… 42
第29図　27～29号溝出土遺物図 …… 43
第30図　31～33号溝断面図 …… 44
第31図　34～36号溝断面図・出土遺物図 …… 46
第32図　35・36号溝出土遺物図 …… 47
第33図　37号溝断面図・出土遺物図 …… 47
第34図　38号溝断面図・出土遺物図 …… 48
第35図　39～41号溝断面図 …… 48
第36図　42号溝出土遺物図 …… 49
第37図　42・43号溝断面図 …… 49
第38図　44～46号溝平面図・断面図 …… 52
第39図　44号溝遺物出土状況図および50号溝平面図・47～50号溝断面図 …… 53
第40図　44・45号溝出土遺物図 …… 54
第41図　45・50号溝出土遺物図 …… 55
第42図　51～54号溝断面図・53号溝出土遺物図 …… 56
第43図　1号井戸平面図・断面図および出土遺物図 …… 65
第44図　2～4号井戸平面図・断面図および4号井戸出土遺物図 …… 66
第45図　5～8号井戸平面図・断面図および6・8号井戸出土遺物図 …… 67
第46図　9～13号井戸平面図・断面図 …… 68
第47図　14～16号井戸平面図・断面図 …… 69
第48図　17号井戸平面図・断面図および14～16・18号井戸出土遺物図 …… 70
第49図　18・19号井戸平面図・断面図 …… 71
第50図　20～22号井戸平面図・断面図および21・22号井戸出土遺物図 …… 72
第51図　1号礎石建物跡平面図 …… 75
第52図　1号礎石建物跡断面図 …… 76
第53図　1～5号土坑平面図・断面図 …… 77
第54図　19～21号土坑平面図・断面図 …… 78
第55図　22～24号土坑平面図・断面図 …… 79
第56図　25・26号土坑平面図・断面図 …… 80
第57図　27～29号土坑平面図・断面図 …… 80
第58図　30～34号土坑平面図・断面図 …… 81
第59図　35～38号土坑平面図・断面図 …… 82
第60図　39～42号土坑平面図・断面図 …… 83
第61図　43～46号土坑平面図・断面図 …… 84
第62図　47～51号土坑平面図・断面図 …… 85
第63図　52号土坑平面図・断面図および22・36・40・44号土坑出土遺物図 …… 86
第64図　45・46号土坑出土遺物図 …… 87
第65図　1号掘立柱建物・4～8号ピット平面図・断面図 …… 89
第66図　9～12号ピット平面図・断面図 …… 90
第67図　22～37号ピット平面図・断面図 …… 91
第68図　38～52号ピット平面図・断面図 …… 92
第69図　53～67号ピット平面図・断面図 …… 93
第70図　68～80号ピット平面図・断面図 …… 94
第71図　81～95号ピット平面図・断面図 …… 95
第72図　96～101号ピット平面図・断面図 …… 96
第73図　As-A軽石充填遺構平面図・断面図 …… 97
第74図　遺構外遺物出土状況図 …… 98
第75図　遺構外出土遺物図① …… 99
第76図　遺構外出土遺物図② …… 100
第77図　遺構外出土遺物図③ …… 101
第78図　遺構外出土遺物図④ …… 102
第79図　種実遺体・昆虫遺体 …… 106
第80図　上中居前屋敷遺跡遺構変遷図 …… 110
第81図　中世Ⅰ～Ⅲ期の剣頭文軒平瓦 …… 112

表目次

第１表　上中居前屋敷遺跡周辺遺跡一覧表 …… 6
第２表　溝跡出土遺物観察表① …… 57
第３表　溝跡出土遺物観察表② …… 58
第４表　溝跡出土遺物観察表③ …… 59
第５表　溝跡出土遺物観察表④ …… 60
第６表　溝跡出土遺物観察表⑤ …… 61
第７表　溝跡出土遺物観察表⑥ …… 62
第８図　溝跡出土遺物観察表⑦ …… 63
第９表　溝跡出土遺物観察表⑧ …… 64
第 10 表　溝跡出土遺物観察表⑨ …… 65
第 11 表　井戸跡出土遺物観察表① …… 72
第 12 表　井戸跡出土遺物観察表② …… 73
第 13 表　土坑跡出土遺物観察表 …… 87
第 14 表　遺構外出土遺物観察表① …… 103
第 15 表　遺構外出土遺物観察表② …… 104

第１章　調査に至る経緯

第１節　調査に至る経緯

平成20年10月、都市整備部都市施設課より、高崎都市計画道路3･2･1号高前幹線事業に伴う埋蔵文化財の照会があった。事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地であることから、翌年６月９日に都市施設課より文化財保護法第94条に基づく通知が文化財保護課に提出された。事業予定地周辺では上中居土地区画整理事業や住宅建設に伴う調査によって、古墳時代から平安時代の集落跡や中近世の館跡などが調査されており、事業予定地においても同様の遺構が検出されるものと予測された。都市施設課と文化財保護課との間で埋蔵文化財保護の協議をおこなったが、事業計画の変更は困難であるとの回答を得たため、記録保存を目的とした発掘調査を実施した。

平成19・20年度および平成21年度調査の一部については『下中居天神裏遺跡』として報告済みのため、本報告書では平成21・22・24・25年度までの４ヵ年度分の調査報告をおこなうこととする。

第２節　調査の方法

発掘調査は、平成21年度は平成21年６月15日から12月25日、平成22年度は平成22年８月17日から12月１日、平成24年度は平成24年７月６日から８月29日、平成25年度は平成25年６月10日から平成25年８月８日まで調査をおこなった。

発掘調査対象地は約6,000㎡と広大であり、排出土の仮置き場や安全を考慮して、調査対象地を便宜的に小調査区に分割して調査を実施した。発掘調査中の掘削によって生じた排出土は、未調査箇所および調査済み箇所をそれぞれ仮置き場として事業地内で管理した。

発掘調査は、遺構が検出される深度（遺構確認面）まで重機を使用した表土除去作業をおこなった。遺構確認面では人力により遺構平面プランの検出をおこない、遺構の形状や重複関係の確認をおこなった。遺構確認後は土層観察用ベルトの設定や半裁方向を決定し、順次人力での掘削をおこなった。土層観察用ベルトは、各遺構の覆土堆積状況を観察し、分層作業や写真撮影、断面図化作業をおこなった後に取り除いた。掘削が完了した遺構は35mmモノクロ・カラーリバーサルフィルムおよびデジタルカメラによる撮影をおこない、光波測距儀や平板測量で平面図・断面図ならびに遺物出土状況の記録図作成をおこなった。なお、調査最終段階では６×６版フィルムによる航空写真撮影を実施した。検出した遺物は出土状況の記録写真や分布状況の記録図面を作成した後、遺構または層位ごとに取り上げをおこなった。調査終了後は重機による埋め戻しをおこなった。

第３節　調査日誌抄

平成21年７月２日　重機を導入し、2-1区の表土掘削を開始。
９月３日　2-1区にてL字状の区画溝、中世の溝、根石を伴う柱穴、ピット多数検出。
10月22日　８号井戸より内耳鍋出土。中世の溝、柱穴群掘削終了。
11月16日　2-2区の表土掘削を開始。2-1区から続く溝を確認。
11月26日　10号溝より巴文軒丸瓦・剣頭文軒平瓦出土。
12月22日　2-2区の調査を終了し、航空写真を撮影。
12月25日　2-2区の埋め戻しを完了し、現場での発掘調査を終了。

平成22年８月24日　重機を導入し、1-1区の表土掘削を開始。
９月３日　５・７号溝掘削終了。下層より古墳前期を中心とする土器が多量に出土。
９月17日　３号溝より古墳前期を中心とする土器が多量に出土。
９月22日　浅間C軽石上面で柳ヶ坪型土器・広口壺などを検出。
10月18日　1-1区の埋め戻しを完了し、1-2区の表土掘削を開始。
12月１日　1-2区の遺構掘削を終了し、航空写真を撮影。

平成24年７月10日　重機を導入し、３区の表土掘削を開始。
７月19日　33号溝より古墳中期の坏出土。
７月23日　34～36号溝より江戸後期の陶磁器出土。
８月９日　15号井戸より江戸後期の徳利２点出土。
８月24日　遺構掘削を終了し、全景・個別遺構完掘写真を撮影。
８月29日　埋め戻しを完了し、現場での発掘調査を終了。

平成25年６月10日　重機を導入し、調査区北部の表土掘削を開始。
６月14日　中世の溝を複数確認、８号溝より五輪塔・瓦出土。
６月27日　４号土坑より銅銭が複数枚出土。
６月28日　２号井戸より中世の瓦が多量に出土。
７月11日　重機を導入し、調査区南部の表土掘削を開始。
７月26日　遺構掘削を終了し、航空写真を撮影。遺構測量を実施。
７月30日　部分的に地山直上の遺構検出を実施。溝１条とピット数基を検出。
８月12日　埋め戻しを終了し、現場での発掘調査を終了。

第２章　遺跡の立地と環境

第１節　地理的環境

上中居前屋敷遺跡は高崎市上中居町に所在し、JR 高崎駅から東に約 1.5km の距離に位置している。周辺の地形は北西から南東方向に緩やかに傾斜しており、榛名山麓を水源とする多数の河川が南東方向へ流下している。榛名・赤城両山の間を流れる利根川は前橋泥流を基盤とする前橋台地を、榛名山東南麓を水源とする中小河川は相馬ヶ原扇状地を形成し、碓井川・烏川・井野川流域は河川の浸食により、小規模な低地と微高地が複雑に入り組んだ地形を形成している。前橋台地上には井野川が流れ、この流域に形成される井野川低地帯を境として、おおむね西域を指して高崎台地と呼称する場合が多い。高崎台地上にはその基盤である前橋泥流の上位に、高崎泥流と呼ばれる泥流が堆積している。また、井野川低地帯の高位段丘には、高崎泥流が堆積するとともに、その低位段丘には６世紀代の榛名山二ツ岳の噴火に関連した井野川泥流の堆積が認められている。

本遺跡周辺は戦国時代に長野氏によって敷設されたとされる長野堰から分水した水路が複数流れるエリアである。長野堰は大橋町で一貫堀川に分流し、高関町付近で地獄堰・矢中堰・倉賀野堰に分かれ、最終的に烏川や井野川へ流れ込む。本遺跡はこのうち矢中堰と倉賀野堰に挟まれた南東方向へのびる微高地上に立地している。

第２節　歴史的環境

本遺跡周辺では古墳時代や中世を中心に数多くの遺跡が調査されている。以下にその一部を取り上げて歴史的環境を概観したい。

旧石器・縄文時代　本遺跡周辺では前橋泥流層が厚く堆積しているため、旧石器時代の遺構は検出されていない。縄文時代の遺跡も顕著とは言い難く、遺物の出土はあっても遺構の検出は少ない。遺構は上中居遺跡群で縄文中期後半頃を中心とすると考えられる集石遺構、土坑、被熱痕跡および当該期の土器群が確認されており、遺構群との時期関係は不明ながらも土偶や石棒なども出土している。さらに縄文後期の土器群も一括廃棄された状態で出土しているため、継続的な土地利用の様子がうかがわれる。また、下中居条里遺跡では縄文中期後半の竪穴住居跡１軒、土坑５基が確認されている。遺物は宿大類村西遺跡で縄文前期の石器が多量に出土しているほか、高関高根遺跡、高関東沖・村前遺跡、高関堰村遺跡などで縄文中期から後期の土器・石器が出土している。

弥生時代　前橋台地上では弥生中期後半頃から集落が営まれ始める。烏川左岸段丘上には土器型式の標識遺跡として著名な竜見町遺跡、高崎城Ⅴ・Ⅵ遺跡、城南小学校校庭遺跡が、烏川と井野川に挟まれた台地上の微高地には高崎競馬場遺跡、高関村前遺跡、高関堰村遺跡、高関東沖・村前遺跡などが所在する。弥生中期後半に入ると城南小学校校庭遺跡などで集落が形成され始める。当該期には環濠集落の存在が特筆され、高関堰村遺跡、高関東沖・村前遺跡、高崎城Ⅴ・Ⅵ遺跡で確認されている。中期後半の集落は後期初頭までの短期間で終息を迎え、集落数はほぼ半減する。その後、後期後葉になると再び集落が増加し、高関村前遺跡、高関堰村遺跡、高関東沖・村前遺跡、下中居条里遺跡、宿大類村西遺跡などで集落が確認されている。さらに、高関高根遺跡では中期中葉頃のピット内再葬墓である可能性を有する遺構が検出され、高崎城三の丸遺跡では弥生中期後半と考えられる方形周溝墓が確認され、群馬県内での最古例として知られる。また、上大類北宅地遺跡でも弥生後期の方形周溝墓が確認されている。中でも、宿大類村西遺跡の住居跡から出土した南関東系の壷は弥生後期前半に位置付けられ、中居町一丁目遺跡、上大類北宅地遺跡に先行して、南関東地域との交流を示す例として注目される。弥生後期になると大規模な集落が形成され、集落数自体も増加するが、井野川下流域の低地帯周辺から遺跡は発見されていない。

古墳時代　古墳時代の遺跡は縄文時代・弥生時代に比べ飛躍的に増加する。特に、井野川左岸から烏川への合流点にかけての微高地上に集落が広がり、井野川左岸・烏川左岸下流域に古墳が集中する。また、井野川に沿った微高地の東側から利根川右岸にかけて後背湿地が広がっており、近年の発掘調査の結果、古墳時代前期にまで遡る水田が累々と営まれていたことが明らかになってきた。

古墳前期の集落は中居町一丁目遺跡、上中居遺跡群、宿大類村西遺跡、上大類北宅地遺跡などで集落と方形周溝墓、下中居条里遺跡、上中居辻薬師Ⅲ遺跡で集落が、上中居辻薬師Ⅱ遺跡、柴崎遺跡群では方形周溝墓が確認されている。中でも、中居町一丁目遺跡では南関東系の壷、上大類北宅地遺跡では樽式壷と南関東系甕類が出土し、貝沢柳町遺跡、倉賀野万福寺遺跡、下佐野Ⅰ遺跡では東海西部系加飾壷が方形周溝墓から出土している。また、上中居遺跡群の住居跡から南関東系の壷が、高崎城Ⅸ遺跡では東海西部系加飾壷が、中居町一丁目遺跡、上中居遺跡群、寺尾町下遺跡では布留式土器が出土している。これら井野川下流域は外来系土器の影響が濃厚な地域であり、東海西部系を中心とした複数系統の集団の流入が古墳前期における当地域の急速な開発につながったと推測されている。

古墳中期の集落は前期から継続する上大類北宅地遺跡、西島相ノ沢遺跡、下中居条里遺跡、下佐野Ⅰ・Ⅱ遺跡などで確認されるにとどまる。

古墳後期の集落は柴崎遺跡群、高関村前遺跡、高関村前Ⅱ遺跡、高関東沖・村前遺跡、上中居辻薬師Ⅱ遺跡、上中居遺跡群、下佐野Ⅰ・Ⅱ地区で確認されており、古墳中期に一度は減少した集落が再び増加していく。生産遺跡は東町Ⅲ遺跡で As-C 下の水田跡と Hr-FA・Hr-FP を含む洪水層下の水田跡が、高関東沖・村前遺跡では後期の畠跡が確認されている。

古墳前期に該当する古墳は、４世紀初頭築造とされる前方後方墳の元島名将軍塚古墳、４世紀後半代の柴崎蟹沢古墳がある。柴崎蟹沢古墳は小規模ながら「正始元年」銘の三角縁神獣鏡を有し、この鏡と同笵関係にあるものが、奈良県桜井茶臼山古墳、兵庫県森尾古墳、山口県竹島御家老屋敷古墳から出土している。中期初頭になると、烏川左岸および井野川下流域に大規模な大型前方後円墳が進出し、浅間山古墳、大鶴巻古墳、それより一段階後出の５世紀後半築造の小鶴巻古墳、越後塚古墳などが分布する。後期初頭になると、聖天山古墳、６世紀後半には井野川中流域における中核的な首長墓と考えられている五霊神社古墳・浜尻天王山古墳などが築造される。

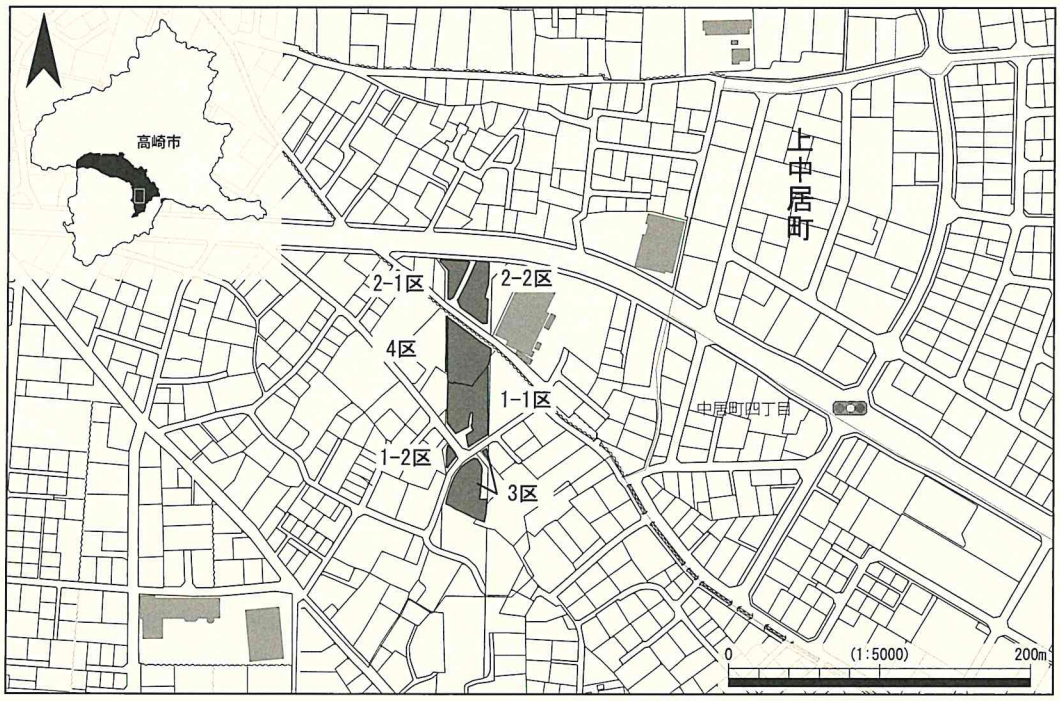
一方、上佐野町から下佐野町にかけての烏川左岸一帯には、古墳前期から始まり６世紀後半を主体とする佐野古墳群が形成される。代表的な古墳は前期末から中期初頭に築造された大型円墳の長者屋敷天王山古墳、古墳後期の凝灰岩の切石を用いて石室を構築した漆山古墳、蔵王塚古墳である。

奈良・平安時代　奈良・平安時代になると条里制の導入や灌漑技術の発達に伴い、大規模な水田開発がおこなわれる。本遺跡周辺においても高関村前Ⅱ遺跡、高関北沖遺跡、下中居条里遺跡、栄町Ⅰ～Ⅲ遺跡、東町Ⅰ～Ⅵ遺跡などで As-B 下水田が確認されている。これらが帰属する集落も近辺の微高地上に営まれ、高関村前遺跡、下中居条里遺跡などで当該期の住居跡が確認されている。また、東町Ⅳ遺跡では８世紀代と想定される洪水層の下から、旭町Ⅰ遺跡・真町Ⅰ遺跡では９世紀代の洪水層の下から水田跡が検出された。Hr-FA・Hr-FP 関連の洪水は複数回起こったと考えられており、今後古墳時代から平安時代後期までの農耕遺構が検出される可能性は高いと考えられる。

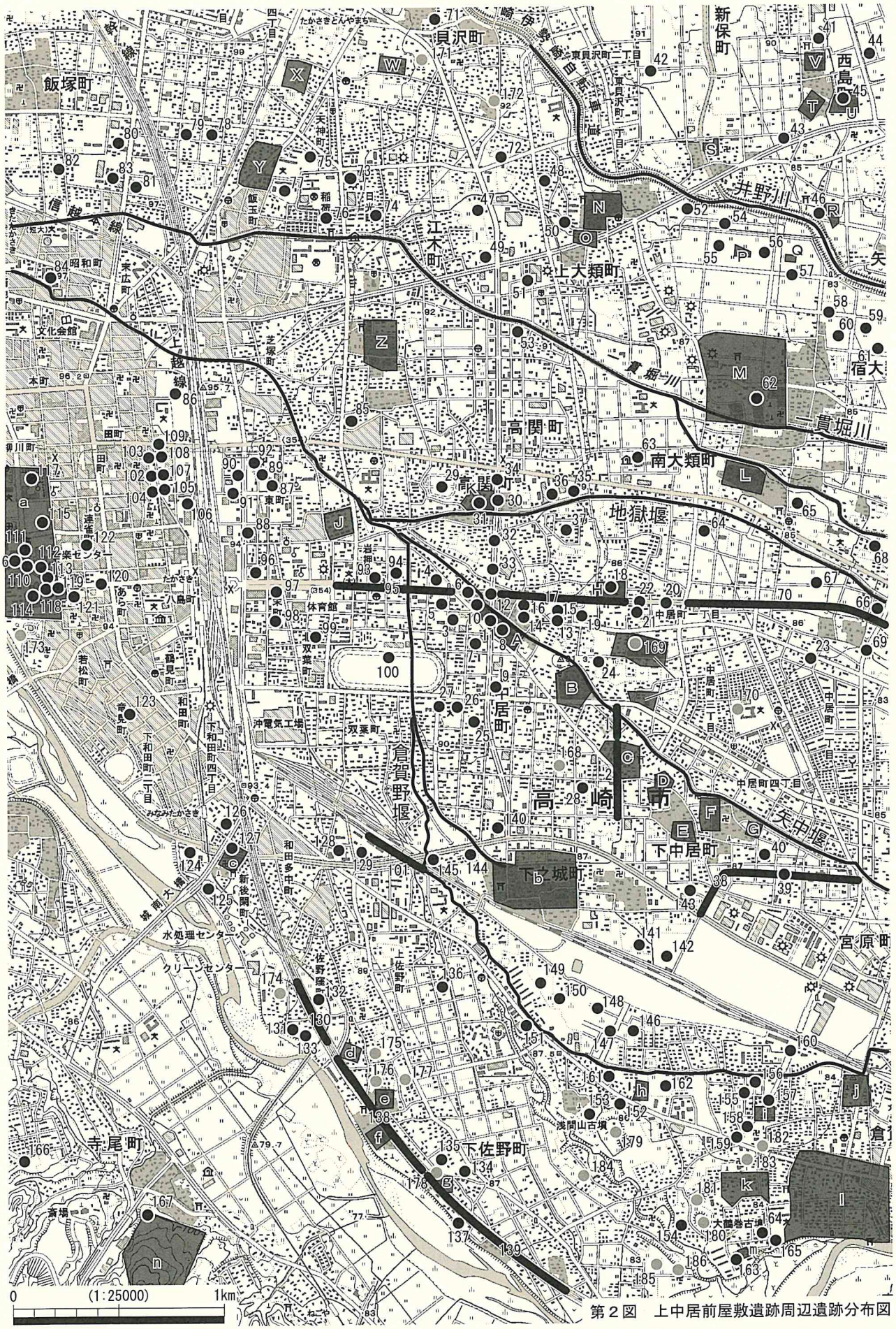
中世　中世になると寺尾・山名・倉賀野・綿貫・嶋名・和田・長野各氏が高崎市域に拠点を築き、多くの城館・環濠屋敷が造営されるようになる。本遺跡周辺は和田氏の領域に含まれ、和田氏に関係する一族の環濠屋敷が地獄堰、矢中堰に沿うように分布する。下中居新井屋敷、高尾屋敷はそれぞれ和田氏騎馬衆の新井大学、高尾佐渡守の屋敷と推定されており、これらの武士団が和田氏の軍事力を支えていたと考えられている。これら屋敷跡の一部は発掘調査でも確認されており、下中居天神裏遺跡において下中居新井屋敷の堀、上中居岡東遺跡２次調査および上中居遺跡群では丸茂屋敷の堀が、上中居辻薬師遺跡および上中居西屋敷Ⅱ遺跡において反町城の堀と郭が、高関堰村遺跡では高関屋敷の

堀がそれぞれ検出されている。また、下之城村前Ⅳ遺跡では堀や掘立柱建物など館と想定される遺構が確認されており、和田氏下之城の関連施設と推測されている。

近世　近世になると慶長三年（1598）井伊直政が箕輪城から高崎城に拠点を移したことにより、城下町が形成される。現在のJR高崎駅西口周辺を中心に町屋や社寺が建ち並び、中山道と三国街道が通ることから宿場町としても繁栄する。周辺では上中居辻薬師遺跡、上中居辻薬師Ⅱ遺跡では中世から継続する反町城の一部が調査され、近世の陶磁器が出土している。また、天明三年（1783）の浅間山噴火に伴うAs-A軽石を除去した災害復旧痕（処理溝）が東町遺跡、栄町遺跡など多数確認されている。



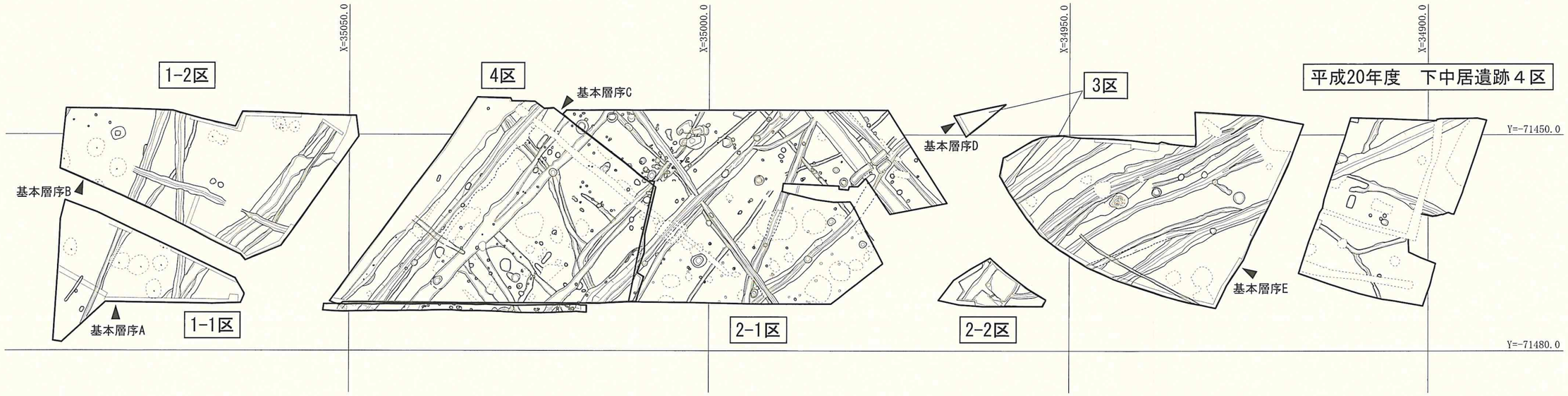
第１図　上中居前屋敷遺跡調査区位置図



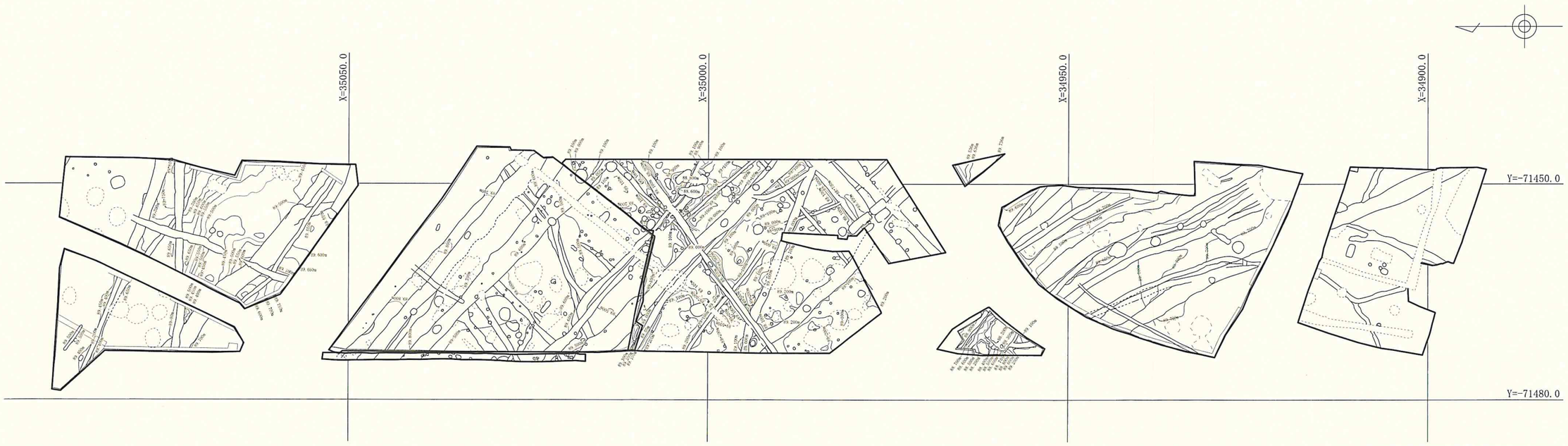
第２図　上中居前屋敷遺跡周辺遺跡分布図

第１表　上中居前屋敷遺跡周辺遺跡一覧表

No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名
1	上中居前屋敷遺跡	56	天田Ⅱ遺跡	111	高崎城Ⅳ(坪ノ桝形及び三ノ丸遺跡)	164	倉賀野万福寺Ⅱ遺跡
2	下中居天神裏遺跡	57	宿大類村北遺跡	112	高崎城Ⅴ(東門及び三ノ丸遺跡)	165	倉賀野宮之前遺跡
3	上中居平塚Ⅰ遺跡	58	宿大類矢島前遺跡	113	高崎城Ⅵ(三ノ丸遺跡)	166	石原鶴辺遺跡
4	上中居平塚Ⅱ遺跡	59	天神遺跡	114	高崎城Ⅶ(三ノ丸遺跡)	167	寺尾町下遺跡
5	上中居平塚遺跡３	60	宿大類村東遺跡	115	高崎城Ⅷ(追手門遺跡)	168	越後塚古墳(佐野村74)
6	上中居早道場遺跡	61	山鳥遺跡	116	高崎城Ⅸ(三ノ丸遺跡)	169	稲荷塚古墳(佐野村71)
7	上中居西屋敷遺跡	62	宿大類村西遺跡	117	高崎城ＸⅠ(高松第１駐車場遺跡)	170	念仏塚古墳(佐野村69)
8	上中居西屋敷Ⅱ遺跡	63	南大類中通遺跡	118	高崎城ＸⅡ(三ノ丸遺跡)	171	五霊神社古墳(高崎市223)
9	上中居西屋敷Ⅲ遺跡	64	南大類柳原沖遺跡	119	高崎城ＸⅢ(三ノ丸遺跡)	172	聖天山古墳(高崎市227)
10	上中居西屋敷遺跡４	65	南大類村南遺跡	120	高崎城下町遺跡	173	頼政神社古墳
11	上中居辻薬師遺跡	66	柴崎遺跡群(Ⅲ) (新堀・根際・吹手西A・富士塚B)	121	城下町Ⅱ遺跡	174	御堂塚古墳(佐野村10)
12	上中居辻薬師Ⅱ遺跡	67	柴崎遺跡群(Ⅳ) (西沖・柳原・吹手西B)	122	桧物町遺跡	175	漆山古墳(佐野村27)
13	上中居辻薬師遺跡４次調査	68	柴崎遺跡群(Ⅴ) (殿谷戸・旭・富士塚、集人・吹手・峰岸)	123	竜見町遺跡	176	蔵王塚古墳(佐野村65)
14	上中居辻薬師遺跡５次調査	69	西浦・吹手西遺跡(西浦１、吹手西１)	124	城南小学校庭遺跡(新後閑寺廻遺跡)	177	長者屋敷天王山古墳(佐野村34)
15	上中居辻薬師遺跡６次調査	70	柴崎遺跡群・南大類遺跡群 (柴崎富士塚前・東原・新堀・西浦・西沖、南大類柳原)	125	新後閑寺廻遺跡(２次調査)	178	浅間山古墳(倉賀野町１)
16	上中居辻薬師遺跡７次調査	71	貝沢Ⅰ遺跡	126	新後閑遺跡	179	大鶴巻古墳(倉賀野町２)
17	上中居遺跡群	72	貝沢柳町遺跡	127	新後閑遺跡２	180	小鶴巻古墳(倉賀野町３)
18	上中居岡東遺跡２次調査	73	林製作所遺跡	128	和田多中遺跡	181	一本杉古墳(倉賀野町６)
19	上中居岡西遺跡２次調査	74	日光町遺跡	129	上佐野樋越遺跡	182	安楽寺古墳
20	中居町一丁目遺跡	75	稲荷町Ⅰ遺跡	130	船橋遺跡	183	庚申塚古墳(佐野村62)
21	中居町一丁目遺跡２	76	稲荷町Ⅱ遺跡	131	上佐野船橋遺跡	184	大山古墳(佐野村52)
22	中居町一丁目遺跡３	77	飯玉Ⅰ・Ⅱ遺跡	132	上佐野船橋Ⅱ遺跡	185	茶臼山古墳(佐野村53)
23	矢中遺跡群(中居町二丁目遺跡)	78	飯塚大苗代遺跡	133	上佐野船橋Ⅲ遺跡	186	桜塚古墳(高崎市207)
24	上中居宇名室遺跡	79	飯塚十二前遺跡	134	下佐野一本木遺跡	A	反町城
25	上中居荒神Ⅰ遺跡	80	飯塚東金井遺跡	135	下佐野一本木遺跡２	B	新堀の砦(中居の砦)
26	上中居荒神Ⅱ遺跡	81	飯塚東金井Ⅱ遺跡	136	下佐野観音塚遺跡	C	下中居新井屋敷
27	上中居荒神遺跡３次調査	82	飯塚西金井遺跡	137	下佐野長者屋敷遺跡	D	高尾屋敷(くぐり窓)
28	上中居島薬師遺跡	83	飯塚西金井Ⅱ遺跡	138	下佐野遺跡Ⅰ地区	E	下中居福田屋敷
29	高関高根遺跡	84	昭和町Ⅰ遺跡	139	下佐野遺跡Ⅱ地区	F	下中居佐藤屋敷
30	高関堰村遺跡	85	江木西前沖遺跡	140	下之城村北遺跡	G	道場屋敷
31	高関堰村遺跡２	86	江木諏訪西遺跡	141	下之城村東遺跡	H	丸茂屋敷
32	高関村前遺跡	87	東町遺跡	142	下之城村東遺跡２	I	宇名室環濠遺構
33	高関村前Ⅱ遺跡	88	東町Ⅱ遺跡	143	下之城・村東遺跡３	J	岡田屋敷
34	高関東沖・村前遺跡	89	東町Ⅲ遺跡	144	下之城村西遺跡	K	高関屋敷(角田屋敷)
35	高関東沖Ⅱ遺跡	90	東町Ⅳ遺跡	145	下之城村前Ⅱ遺跡	L	大類館
36	高関東沖Ⅲ遺跡	91	東町Ⅴ遺跡	146	下之城村前Ⅲ遺跡	M	大類城
37	岡久保遺跡	92	東町Ⅵ遺跡	147	下之城村前Ⅳ遺跡	a	和田城(近世高崎城)
38	下中居条里遺跡	93	岩押町Ⅰ遺跡	148	下之城村前Ⅴ遺跡	b	和田下之城
39	下中居条里Ⅱ遺跡	94	岩押町Ⅱ遺跡	149	下之城仲沖遺跡	c	新後閑屋敷
40	下中居条里Ⅲ遺跡	95	岩押町Ⅲ遺跡	150	下之城仲沖Ⅱ遺跡	d	佐野屋敷
41	西島相ノ沢遺跡	96	栄町Ⅰ遺跡	151	倉賀野西上正六遺跡	e	堀口屋敷
42	新保町遺跡(Ⅰ～Ⅶ)	97	栄町Ⅱ遺跡	152	倉賀野東上正六遺跡	f	清水屋敷
43	新保八坂遺跡	98	栄町Ⅲ遺跡	153	倉賀野東上正六遺跡(２次)	g	倉賀野新堀屋敷
44	西島遺跡群(Ⅲ)	99	北双葉町遺跡	154	倉賀野丙下正六遺跡	h	永泉寺の砦
45	西島遺跡群(Ⅳ)	100	高崎競馬場遺跡	155	倉賀野条里Ⅰ遺跡(倉賀野上稲荷・三坊木)	h	永泉寺の砦
46	矢島町村西・増殿遺跡	101	双葉町Ⅰ遺跡				
47	上大類八反田遺跡	102	真町Ⅰ遺跡	156	倉賀野条里Ⅱ遺跡(倉賀野上稲荷２・三坊木２)		
48	上大類薬師遺跡	103	真町Ⅱ遺跡				
49	上大類坂サ堰遺跡	104	真町Ⅲ遺跡	157	倉賀野条里Ⅲ遺跡(倉賀野上稲荷３)		
50	上大類北宅地遺跡(１・２次)	105	旭町Ⅰ遺跡	158	倉賀野条里Ⅳ遺跡(倉賀野上稲荷４)		
51	上大類野地田遺跡	106	旭町Ⅱ遺跡	159	倉賀野条里Ⅴ遺跡(倉賀野上稲荷５)		
52	上大類川押Ⅱ遺跡	107	旭町Ⅲ遺跡	160	倉賀野条里Ⅵ遺跡(倉賀野続橋)		
53	上大類若宮遺跡	108	旭町Ⅳ遺跡	161	倉賀野上新堀Ⅰ遺跡		
54	川押遺跡	109	弓町Ⅰ遺跡	162	倉賀野下新堀遺跡		
55	天田遺跡	110	高崎城Ⅲ(坪ノ桝形遺跡)	163	倉賀野万福寺遺跡		



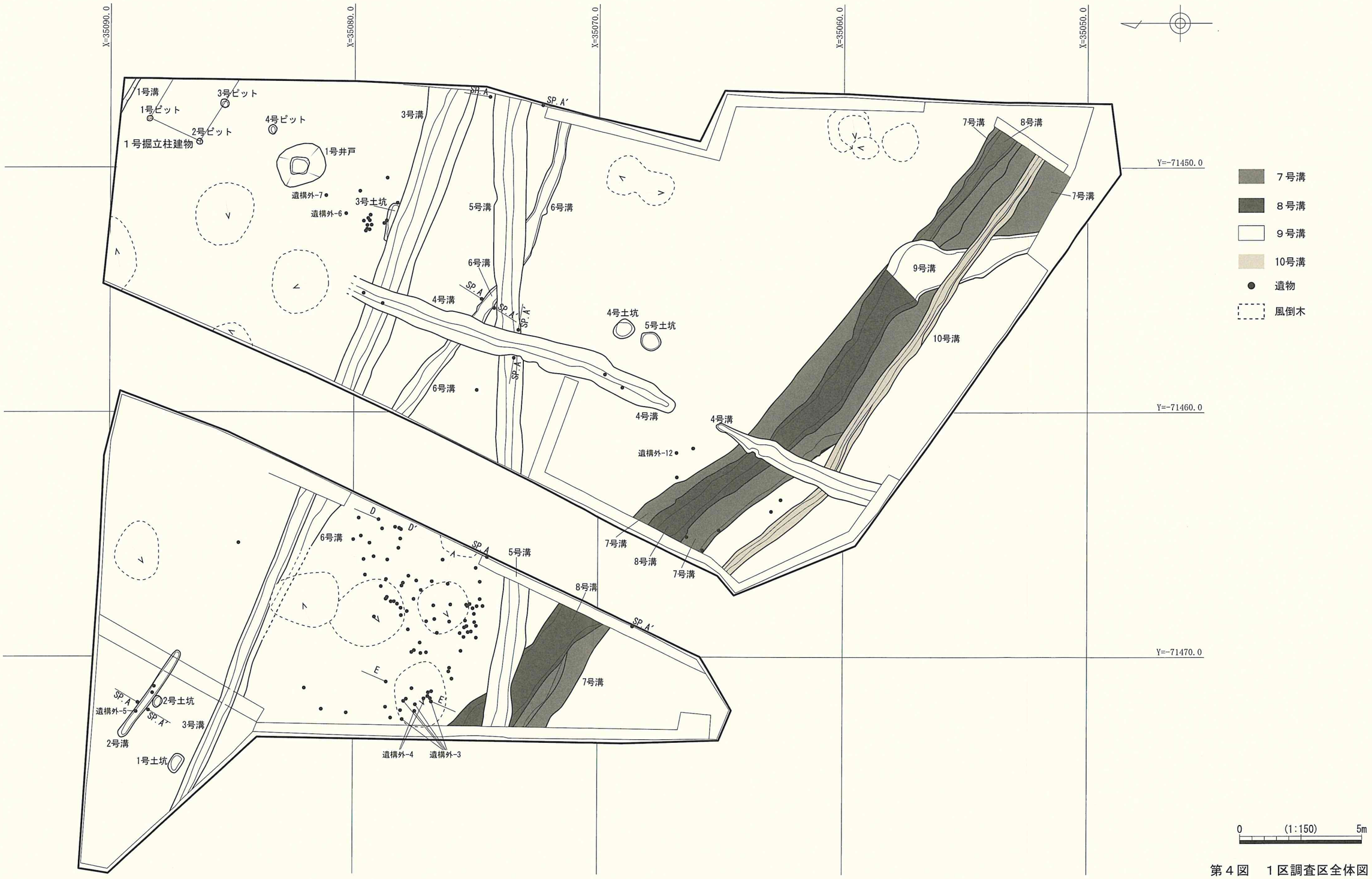
上中居前屋敷遺跡全体図



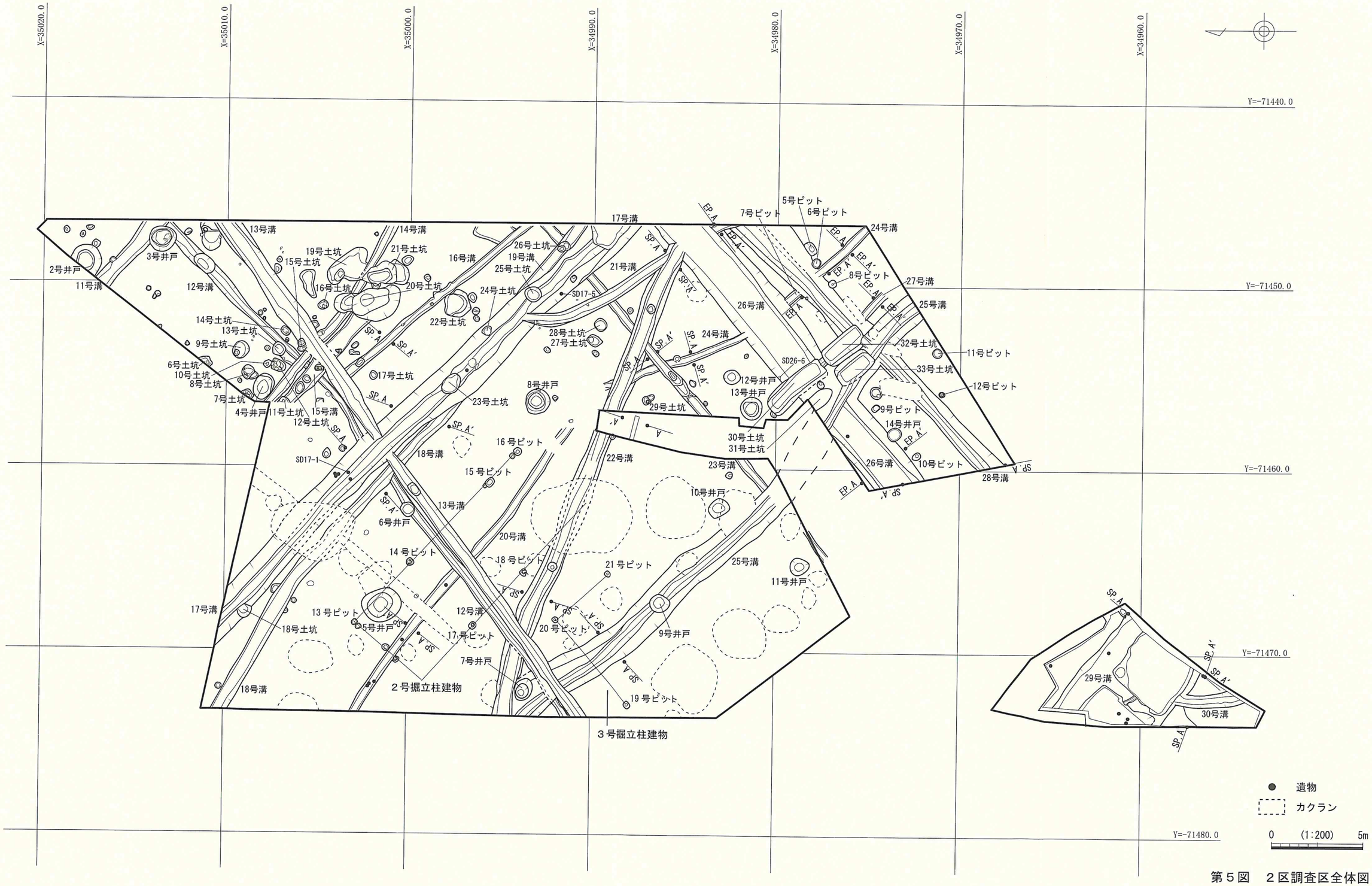
上中居前屋敷遺跡等高線図

0　(1:600)　10m

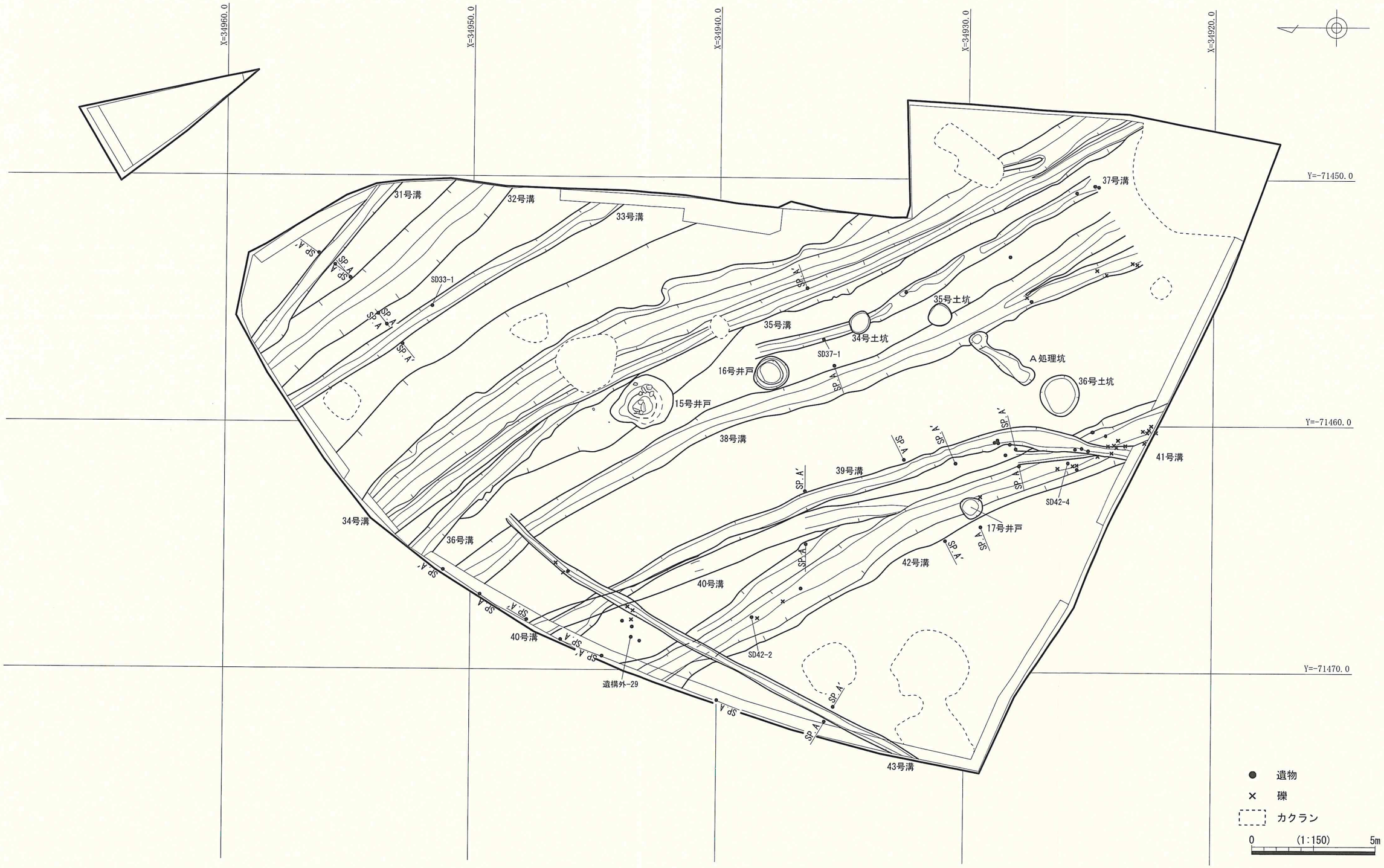
第３図　上中居前屋敷遺跡全体図・等高線図



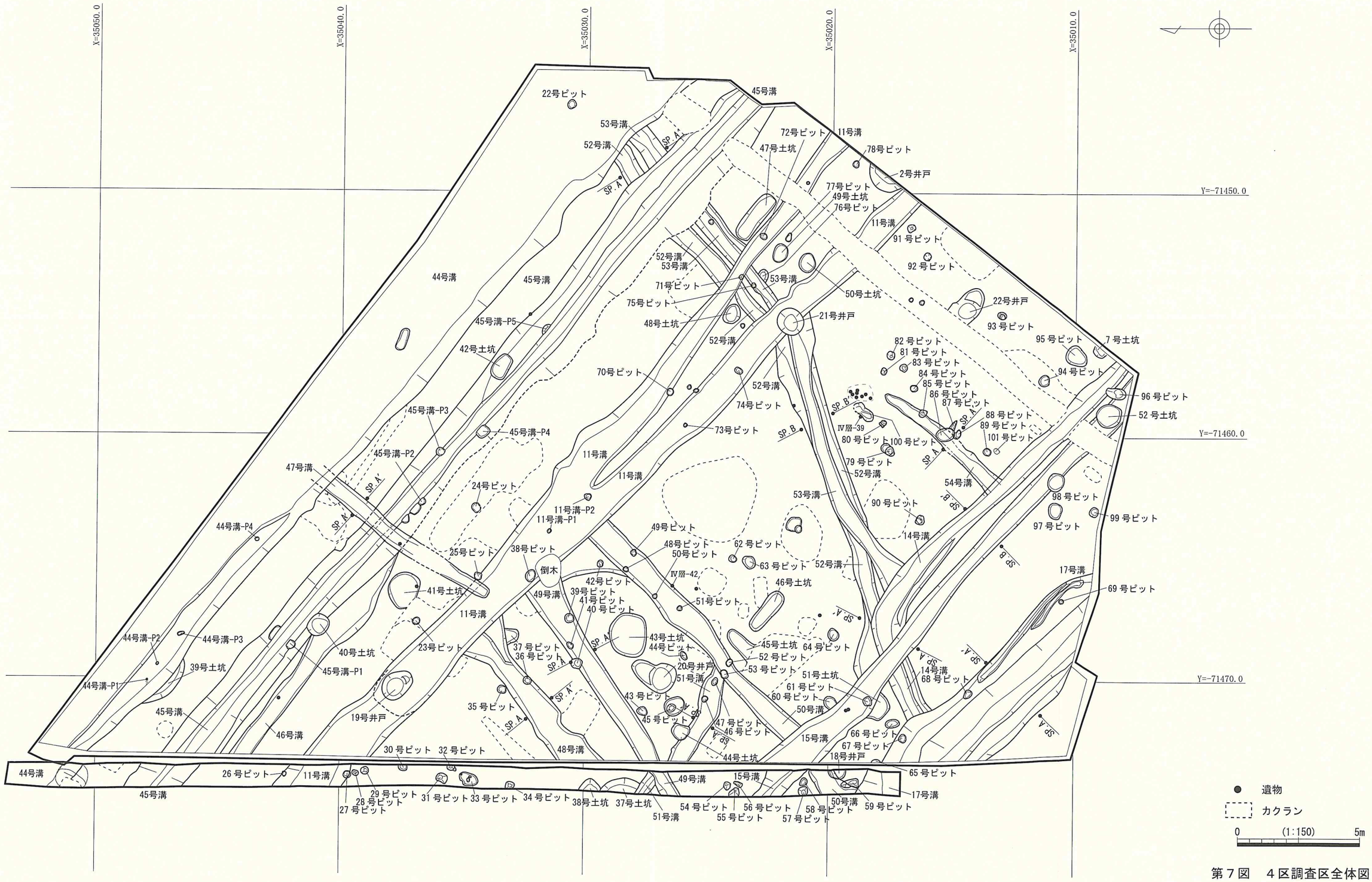
第４図　１区調査区全体図



第５図　２区調査区全体図



第６図　３区調査区全体図

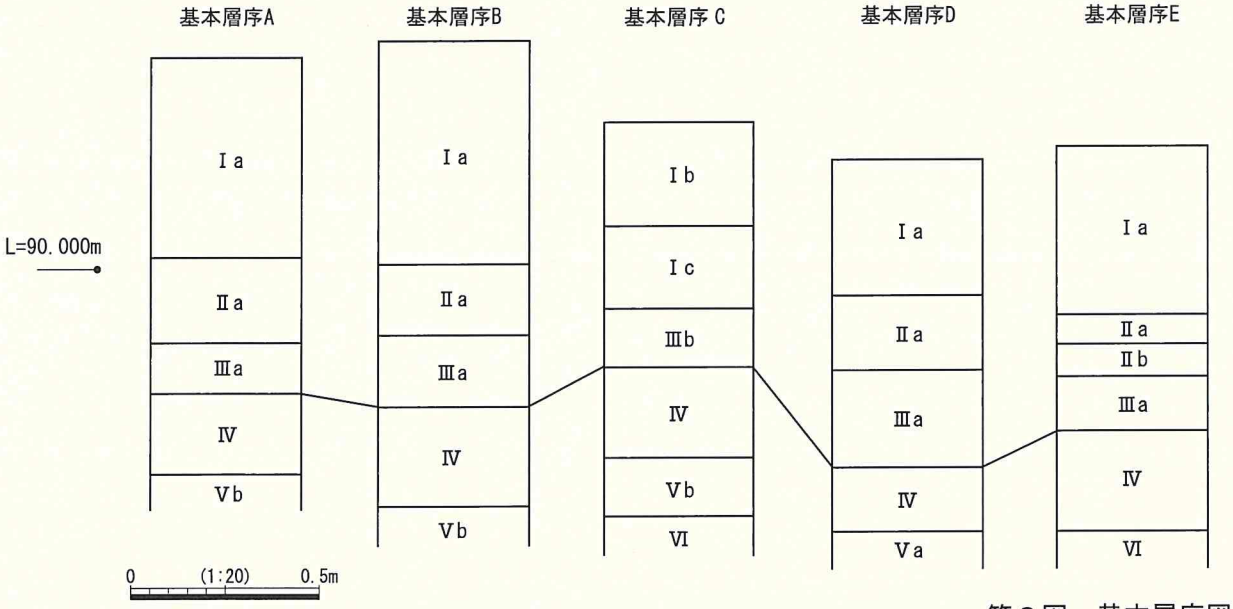


第７図　４区調査区全体図

第３章　検出した遺構・遺物

第１節　基本層序

本遺跡では、Ⅰ～Ⅵ層の基本土層を確認した。Ⅰ層は現表土・耕作土の一部にあたり、As-A軽石を含む暗褐色～灰黄褐色細砂層である。Ⅱ層はAs-B軽石を含む黒褐色シルト層で、低地部分でのみAs-B二次堆積層を確認した。Ⅲ層は黒褐色シルト～砂質土層で原則的にAs-Bなどの軽石を含まない。Ⅳ層はAs-C軽石を少量含む黒褐色シルト層で、遺構確認面である。Ⅴ層は褐色から褐灰色の漸移層であるが、Ⅵ層の影響か彩度に乏しい。Ⅵ層は高崎泥流層で、低地付近でのみ確認された。なお、微高地上のⅡa層およびⅢ層では洪水由来と想定される黄褐色微砂ブロックを少量混入する。



第８図　基本層序図

基本層序

Ⅰa	暗褐色(10YR3/3)	細砂。As-A軽石含む。近現代耕作土
Ⅰb	灰黄褐色(10YR4/2)	黄色ブロック・礫やや多量含む。しまり強い、粘性弱い。
Ⅰc	にぶい黄色(2.5Y6/3)	黄色砂質土。As-A軽石微量混じる。しまり・粘性極めて弱い。
Ⅱa	暗褐色(10YR3/4)	シルト。As-B軽石混じる。
Ⅱb	黒褐色(10YR3/2)	シルト。部分的にピンク灰の混じるAs-B軽石主体の層。鉄分沈着。
Ⅲa	黒褐色(10YR2/3)	シルト。軽石粒少量含む。
Ⅲb	黒褐色(10YR3/1)	砂質土。炭粒・橙色粒微量含む。軽石粒少量含む。しまり強い、粘性弱い。
Ⅳ	黒褐色(10YR2/2)	シルト。白色軽石(As-C軽石)少量含む。遺構確認面
Ⅴa	褐色　(10YR4/4)	シルト。漸移層。
Ⅴb	褐灰色(10YR5/1)	シルト。地山ブロック多量含む。しまりやや弱い・粘性やや強い。漸移層。
Ⅵ	明黄褐色(10YR7/6)	シルト混じり微砂。高崎泥流層。

第２節　調査の概要

本遺跡は矢中堰と倉賀野堰に挟まれた微高地上に立地している。この微高地上には古墳時代から平安時代までの幅広い時期の集落が確認されており、矢中堰沿いでは多くの中世城館があったと推定されている。このうち、下中居新井屋敷・丸茂屋敷の堀が近年の調査により確認されている。

検出した遺構は、中世の掘立柱建物、溝跡54条、井戸跡22基、土坑52基、ピット101基であり、縄文時代および古墳時代から中世まで幅広い時期の遺構を確認した。

第３節　溝跡

検出した溝の総数は54条で、１区で10条、２区で20条、３区で13条、４区で11条を検出した。年代別にみてみると、古墳時代前期８条、古墳時代中期１条、古墳時代後期７条、As-B以前３条、As-B以降１条、中世12条、中世（15世紀）以前６条、中世～近世２条、近世５条、時期不明３条などとなっている。出土遺物をみてみると、３・７号溝から古墳前期を中心とする二重口縁壷・小型丸底壷・S字甕・樽式土器が多量に出土し、溝群の中で古い様相を呈する。また、11・13・15号溝からは13世紀後半から14世紀初頭の軒瓦を含む多量の瓦類と瓦質火鉢が出土しており、17号溝では経筒底板、27号溝では板碑、44号溝では小型の五輪塔が出土するなど中世寺院関連の貴重な資料となった。

１号溝（第９図）

走行方向：走行方位はN-58°-Wで、北西から南東に流れる　**規模・形状**：検出長1.4m、上幅1.2m、下幅0.34m、深さ96cm　**出土遺物**：土師器甕　**覆土**：上層に洪水起源とみられる微砂が堆積し、下層には黒褐色粘土層が堆積することから、一時滞水状態にあったものが洪水により埋没したと考えられる。　**遺構年代**：出土遺物から古墳時代を上限とすると考えられる。

２号溝（第９図）

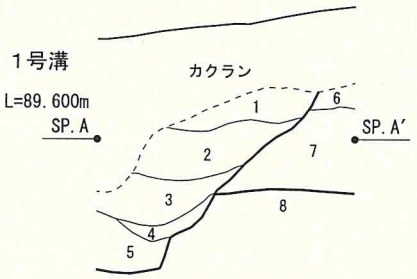
走行方向：走行方位はN-55°-Wで、北西から南東に流れる　**規模・形状**：検出長4.3m、上幅0.34m、下幅0.2m、深さ20cm　**出土遺物**：なし　**覆土**：細砂混じりシルト層が堆積するが非常に浅く、溝として機能していたかは不明。　**遺構年代**：不明

３号溝（第10～12図）

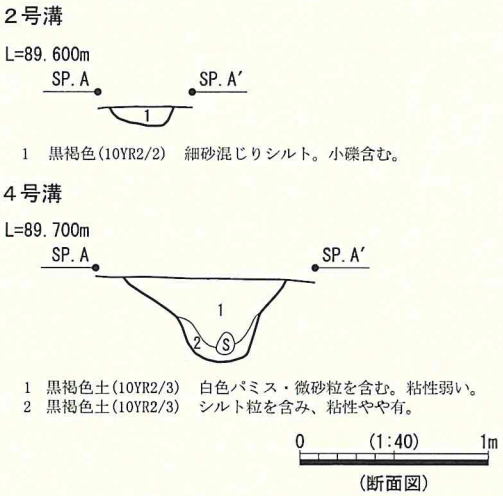
重複：４号溝に切られる　**走行方向**：走行方位はN-68°-Wで、北西から南東に流れる　**規模・形状**：検出長32.0m、上幅2.0～2.3m、下幅0.3～0.4m、深さ50～78cm　**出土遺物**：須恵器坏、土師器坏・高坏・器台・壷・二重口縁壷・小型丸底壷・甕・台付甕・小型甕、S字甕、樽式土器、縄文土器（加曽利E3）　**覆土**：下層に水成堆積が確認できることから水路と考えられる。　**遺構年代**：覆土にAs-C軽石を含み、古墳時代前期の遺物が多量に出土することから、古墳時代前期と考えられる。

４号溝（第９･12図）

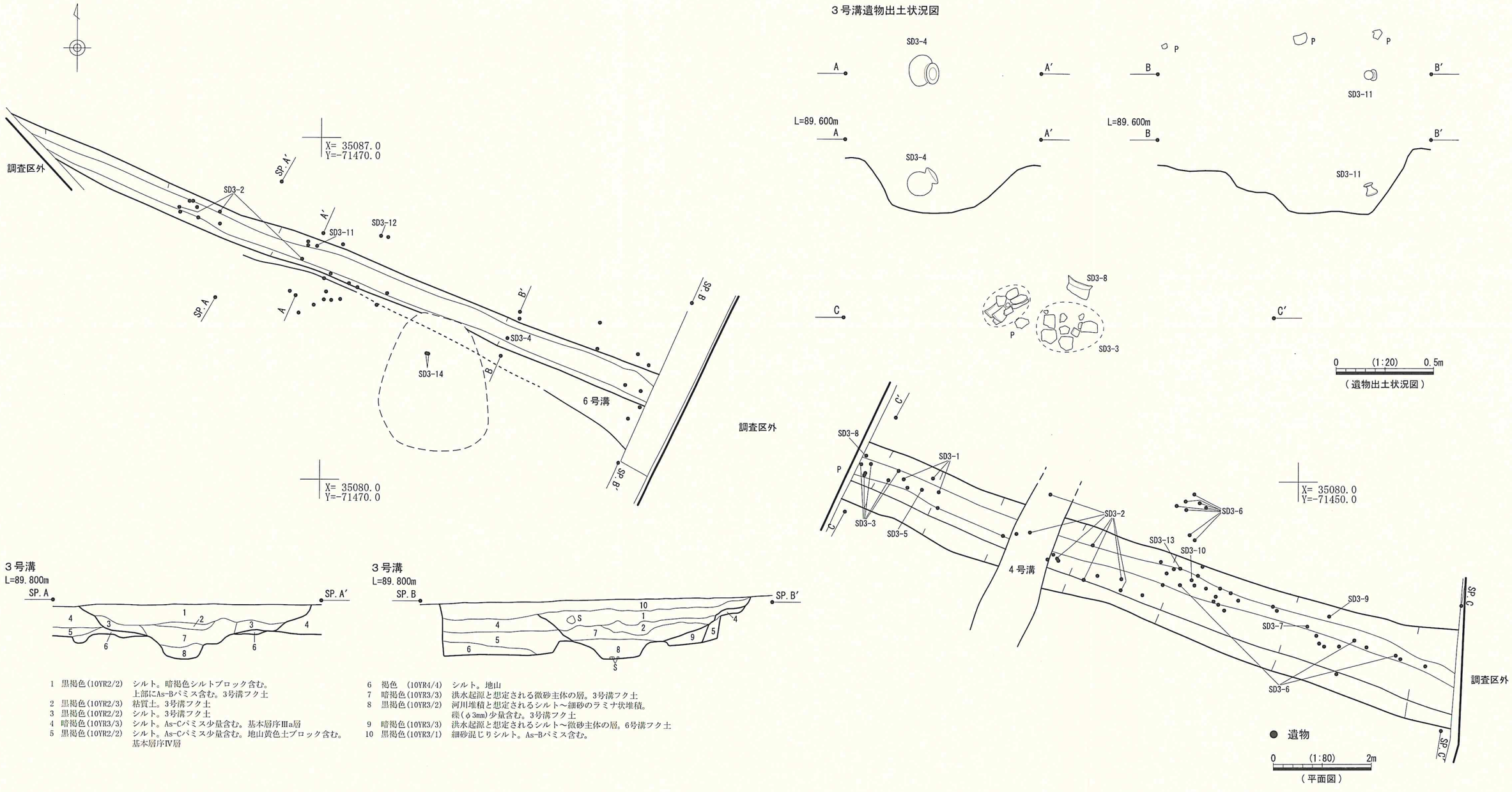
重複：３・５～８・10号溝を掘り込む　**走行方向**：走行方位はN-22°-Eで、北東から南西に流れる　**規模・形状**：検出長23.5m、上幅0.8m、下幅0.3m、深さ43cm　**出土遺物**：土師器甕・S字甕・小型甕、軟質陶器鉢、縄文土器（加曽利E3）　**覆土**：上層は微砂をブロック状に含み、下層は黒褐色粘質土層が堆積することから、滞水状態の時期もあったと考えられる。　**遺構年代**：Hr-FA起源とみられる洪水層を覆土とする６号溝を掘り込むことから、６世紀初頭以降の開削と考えられる。



1　暗褐色土(10YR3/3)　白色パミスをわずかに含む。粘性やや有。１号溝フク土
2　暗褐色土(10YR3/4)　やや粒の大きい白色パミスを含む。１号溝フク土
3　暗褐色土(10YR3/4)　部分的に砂粒を含む。１号溝フク土
4　暗褐色土(10YR3/3)　粘性やや有。１号溝フク土
5　黒褐色土(10YR2/3)　粘性やや有。１号溝フク土
6　黒褐色土(10YR3/2)　白色パミスを含む。地山
7　黒褐色土(10YR2/2)　白色パミスを含む。地山
8　褐色シルト(10YR4/6)　地山



第９図　１・２・４号溝断面図



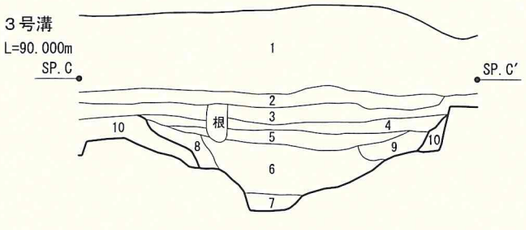
３号溝
L=89.800m

1　黒褐色(10YR2/2)　シルト。暗褐色シルトブロック含む。
　　上部にAs-Bパミス含む。3号溝フク土
2　黒褐色(10YR2/3)　粘質土。3号溝フク土
3　黒褐色(10YR2/2)　シルト。3号溝フク土
4　暗褐色(10YR3/3)　シルト。As-Cパミス少量含む。基本層序Ⅲa層
5　黒褐色(10YR2/2)　シルト。As-Cパミス少量含む。地山黄色土ブロック含む。
　　基本層序Ⅳ層

３号溝
L=89.800m

6　褐色　(10YR4/4)　シルト。地山
7　暗褐色(10YR3/3)　洪水起源と想定される微砂主体の層。3号溝フク土
8　黒褐色(10YR3/2)　河川堆積と想定されるシルト～細砂のラミナ状堆積。
　　礫(φ3mm)少量含む。3号溝フク土
9　暗褐色(10YR3/3)　洪水起源と想定されるシルト～微砂主体の層。6号溝フク土
10　黒褐色(10YR3/1)　細砂混じりシルト。As-Bパミス含む。

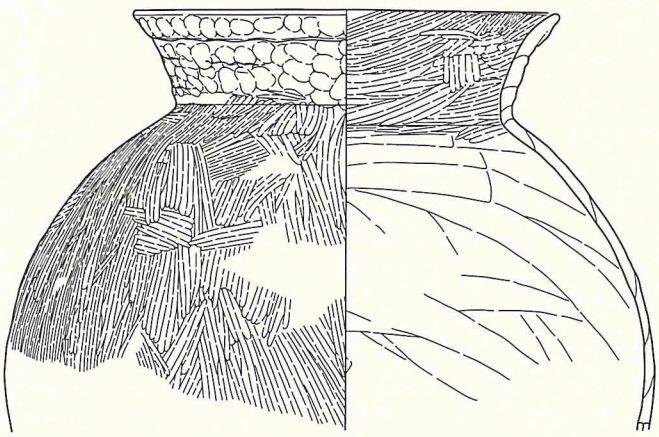
３号溝
L=90.000m

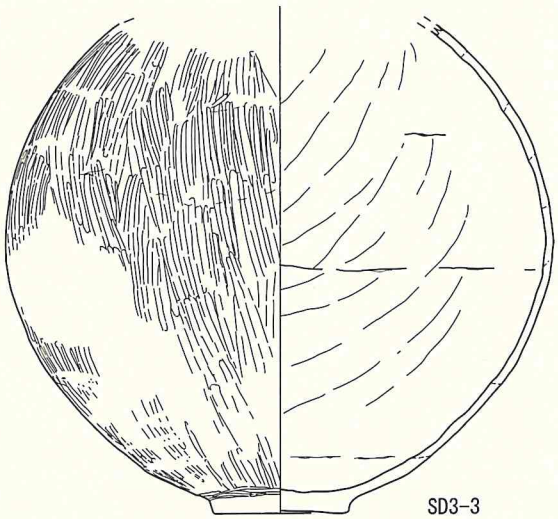


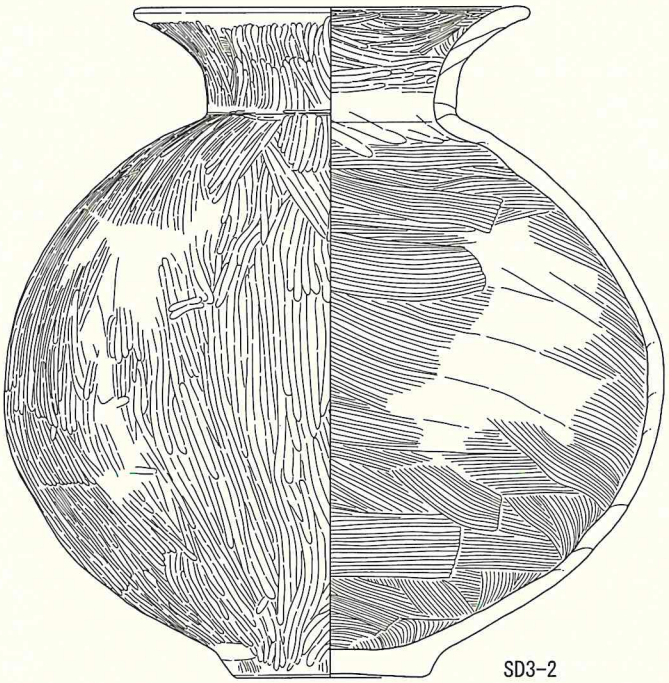
1　暗褐色(10YR3/3)　細砂。As-Aパミス含む。近現代耕作土
2　暗褐色(10YR3/3)　シルト。
3　黒褐色(10YR2/2)　シルト。基本層序Ⅱa層
4　黒褐色(10YR2/2)　シルト。暗褐色シルトブロック含む。3号溝フク土
5　黒褐色(10YR2/3)　粘質土。3号溝フク土
6　黒褐色(10YR3/2)　河川堆積と想定されるシルト～細砂のラミナ状堆積。
　　3号溝フク土
7　黒色　(10YR2/1)　シルト。3号溝フク土
8　黒褐色(10YR3/2)　微砂混じりシルト。3号溝フク土
9　黒褐色(10YR3/2)　シルト。As-Cパミス微量含む。3号溝フク土
10　黒色　(10YR2/1)　シルト。As-Cパミス含む。基本層序Ⅲa層

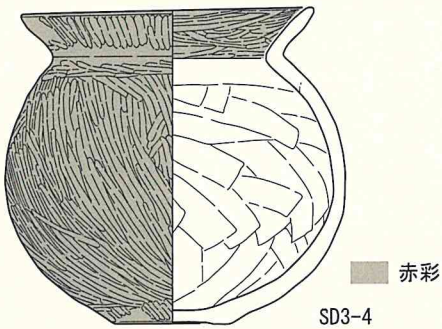
0 (1:40) 1m
（断面図）

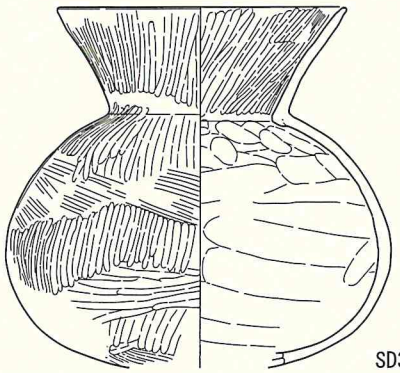
第 10 図　３号溝平面図･断面図

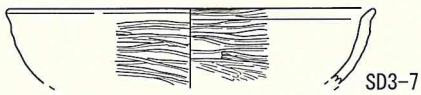


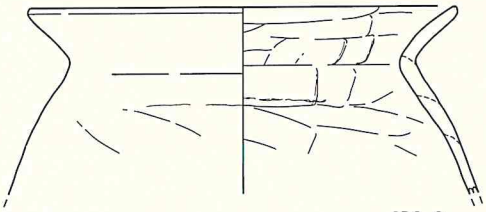






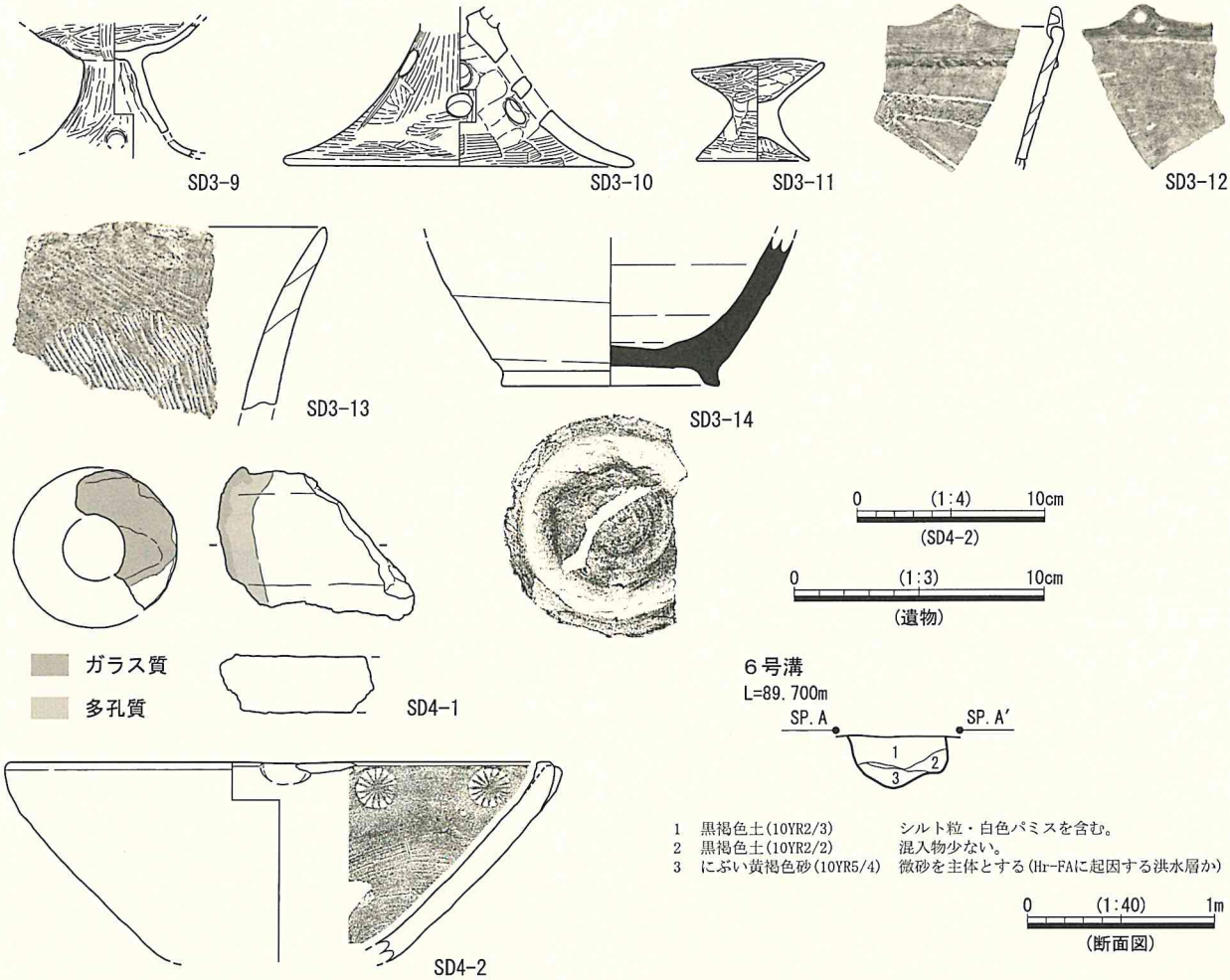






0　(1:3)　10cm
(遺物)

第11図　３号溝出土遺物図



第12図　６号溝断面図および３・４号溝出土遺物図

５号溝（第 13 図）

重複：６・７号溝を掘り込み、４号溝に切られる　**走行方向**：走行方位は N-90°-E で、西から東に流れる　**規模・形状**：検出長 26.0m、上幅 1.6 ～ 2.6m、下幅 0.5m、深さ 76 ～ 84cm　**出土遺物**：なし　**覆土**：Hr-FA の洪水起源とみられる微砂がレンズ状に堆積することから、複数回の洪水によって埋没した水路と考えられる。　**遺構年代**：Hr-FA 起源と考えられる洪水層を覆土とすることから、６世紀初頭以前の開削と考えられる。

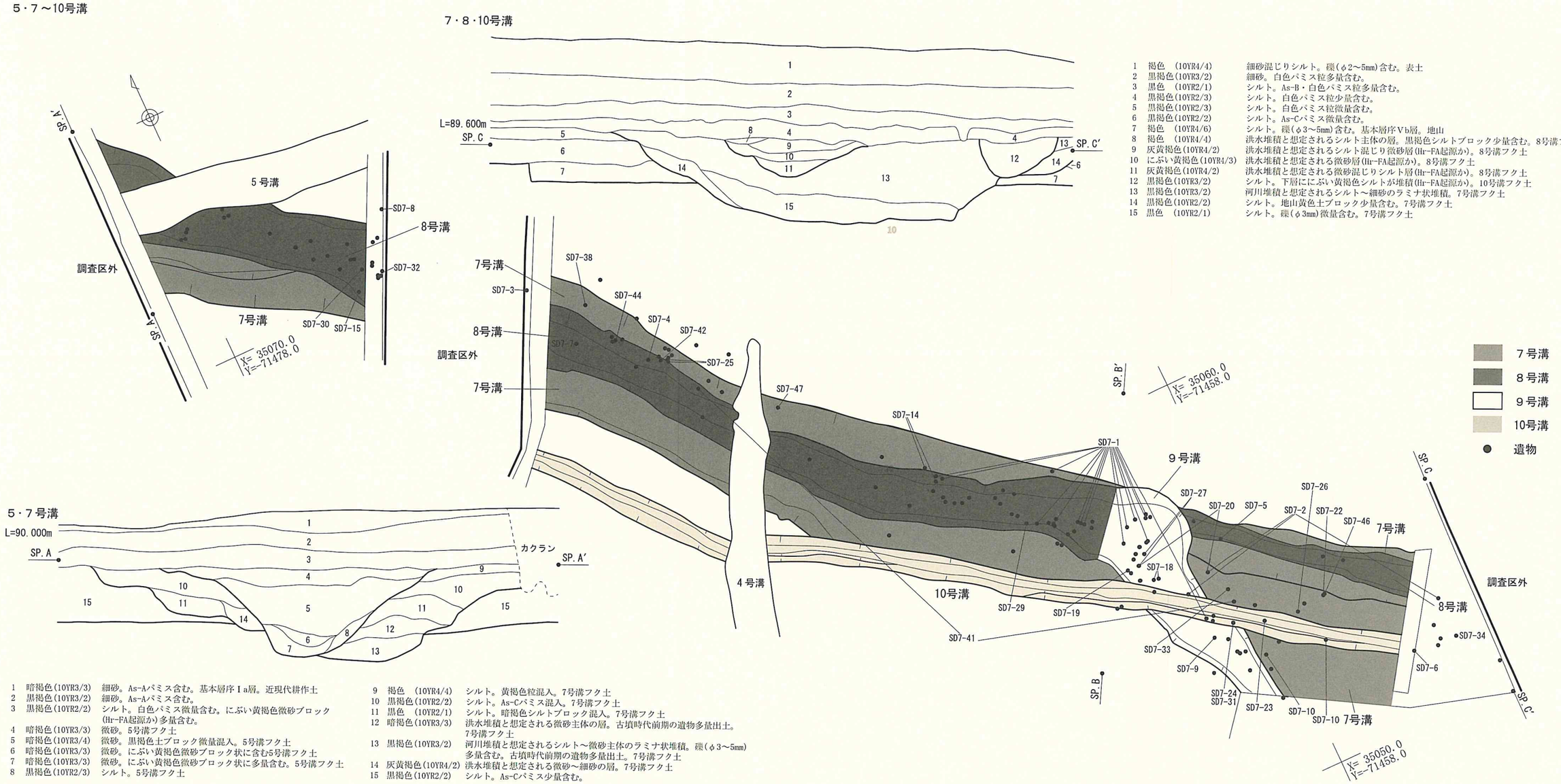
６号溝（第 12 図）

重複：４・５号溝に切られる　走行方向：N-60°-W で、北西から南東に流れる　**規模・形状**：検出長 27.3m、幅 0.5 ～ 0.8m、深さ 27cm　**出土遺物**：土師器　覆土：下層に Hr-FA の洪水起源とみられる微砂が堆積することから水路と考えられる。　**遺構年代**：Hr-FA 起源と考えられる洪水層を覆土とすることから、６世紀初頭以前の開削と考えられる。

７号溝（第 13 ～ 17 図）

重複：４・５・８・９号溝に切られる　**走行方向**：走行方位は N-38°-W で、北西から南東に流れる　**規模・形状**：検出長 35.0m、上幅 2.4 ～ 3.8m、下幅 0.6 ～ 1.8m、深さ 50 ～ 90cm　**出土遺物**：土師器高坏・器台・壷・二重口縁壷・小型丸底壷・甕・台付甕・S 字甕・小型甕・鉢、樽式土器、縄文土器（加曽利 E3、後期）　**覆土**：上層に黒褐色～黒色のシルト層、下層に微砂主体の洪水堆積層とシルト～微砂主体の水成堆積が確認できることから、水路が洪水によって埋没し洪水堆積層が土壌化したものと考えられる。　**遺構年代**：出土遺物により古墳時代前期のものと考えられる。

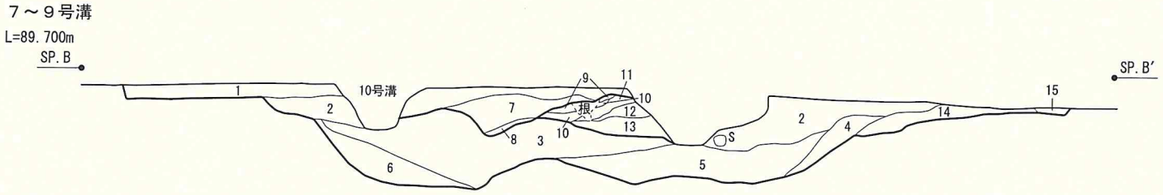
５・７～10号溝



1	褐色　(10YR4/4)	細砂混じりシルト。礫(φ2～5mm)含む。表土
2	黒褐色(10YR3/2)	細砂。白色パミス粒多量含む。
3	黒色　(10YR2/1)	シルト。As-B・白色パミス粒多量含む。
4	黒褐色(10YR2/3)	シルト。白色パミス粒少量含む。
5	黒褐色(10YR2/3)	シルト。白色パミス粒微量含む。
6	黒褐色(10YR2/2)	シルト。As-Cパミス微量含む。
7	褐色　(10YR4/6)	シルト。礫(φ3～5mm)含む。基本層序Ⅴb層。地山
8	褐色　(10YR4/4)	洪水堆積と想定されるシルト主体の層。黒褐色シルトブロック少量含む。8号溝フク土
9	灰黄褐色(10YR4/2)	洪水堆積と想定されるシルト混じり微砂層(Hr-FA起源か)。8号溝フク土
10	にぶい黄褐色(10YR4/3)	洪水堆積と想定される微砂層(Hr-FA起源か)。8号溝フク土
11	灰黄褐色(10YR4/2)	洪水堆積と想定される微砂混じりシルト層(Hr-FA起源か)。8号溝フク土
12	黒褐色(10YR3/2)	シルト。下層ににぶい黄褐色シルトが堆積(Hr-FA起源か)。10号溝フク土
13	黒褐色(10YR3/2)	河川堆積と想定されるシルト～細砂のラミナ状堆積。7号溝フク土
14	黒褐色(10YR2/2)	シルト。地山黄色土ブロック少量含む。7号溝フク土
15	黒色　(10YR2/1)	シルト。礫(φ3mm)微量含む。7号溝フク土

1	暗褐色(10YR3/3)	細砂。As-Aパミス含む。基本層序Ⅰa層。近現代耕作土
2	黒褐色(10YR3/2)	細砂。As-Aパミス含む。
3	黒褐色(10YR2/2)	シルト。白色パミス微量含む。にぶい黄褐色微砂ブロック(Hr-FA起源か)多量含む。
4	暗褐色(10YR3/3)	微砂。5号溝フク土
5	暗褐色(10YR3/4)	微砂。黒褐色土ブロック微量混入。5号溝フク土
6	暗褐色(10YR3/3)	微砂。にぶい黄褐色微砂ブロック状に含む5号溝フク土
7	暗褐色(10YR3/3)	微砂。にぶい黄褐色微砂ブロック状に多量含む。5号溝フク土
8	黒褐色(10YR2/3)	シルト。5号溝フク土
9	褐色　(10YR4/4)	シルト。黄褐色粒混入。7号溝フク土
10	黒褐色(10YR2/2)	シルト。As-Cパミス混入。7号溝フク土
11	黒色　(10YR2/1)	シルト。暗褐色シルトブロック混入。7号溝フク土
12	暗褐色(10YR3/3)	洪水堆積と想定される微砂主体の層。古墳時代前期の遺物多量出土。7号溝フク土
13	黒褐色(10YR3/2)	河川堆積と想定されるシルト～微砂主体のラミナ状堆積。礫(φ3～5mm)多量含む。古墳時代前期の遺物多量出土。7号溝フク土
14	灰黄褐色(10YR4/2)	洪水堆積と想定される微砂～細砂の層。7号溝フク土
15	黒褐色(10YR2/2)	シルト。As-Cパミス少量含む。

７～９号溝



1	黒褐色(10YR2/3)	シルト。
2	黒褐色(10YR3/2)	細砂混じりシルト。黒褐色シルトをブロック状に含む。7号溝フク土
3	黒褐色(10YR3/2)	河川堆積と想定されるシルト～細砂のラミナ状堆積。7号溝フク土
4	黒褐色(10YR2/2)	シルト。地山黄色土ブロック少量含む。7号溝フク土
5	黒色　(10YR2/1)	シルト。礫(φ3mm)微量含む。7号溝フク土
6	黒褐色(10YR3/2)	細砂混じりシルト。7号溝フク土
7	黄褐色(2.5Y5/3)	河川堆積と想定される細砂～微砂のラミナ状堆積。9号溝フク土
8	暗灰黄色(2.5Y5/2)	細砂。9号溝フク土
9	灰黄褐色(10YR4/2)	洪水堆積と想定されるシルト混じり微砂層(Hr-FA起源か)。8号溝フク土
10	にぶい黄褐色(10YR4/3)	洪水堆積と想定される微砂層(Hr-FA起源か)。8号溝フク土
11	灰黄褐色(10YR4/2)	洪水堆積と想定される微砂混じりシルト層(Hr-FA起源か)。8号溝フク土
12	にぶい黄褐色(10YR5/4)	洪水堆積と想定される微砂主体の層。(Hr-FA起源か)。8号溝フク土
13	黒褐色(10YR3/2)	河川堆積と想定される微砂主体のラミナ状堆積。8号溝フク土
14	褐色　(10YR4/6)	シルト。礫(φ3～5mm)含む。基本層序Ⅴ層。地山
15	黒褐色(10YR2/2)	シルト。As-Cパミス微量含む。基本層序Ⅱa層

0　(1:40)　1m
（断面図）

0　(1:100)　2m
（平面図）

第13図　５号溝断面図および７～10号溝平面図・断面図

８号溝（第 13 図）

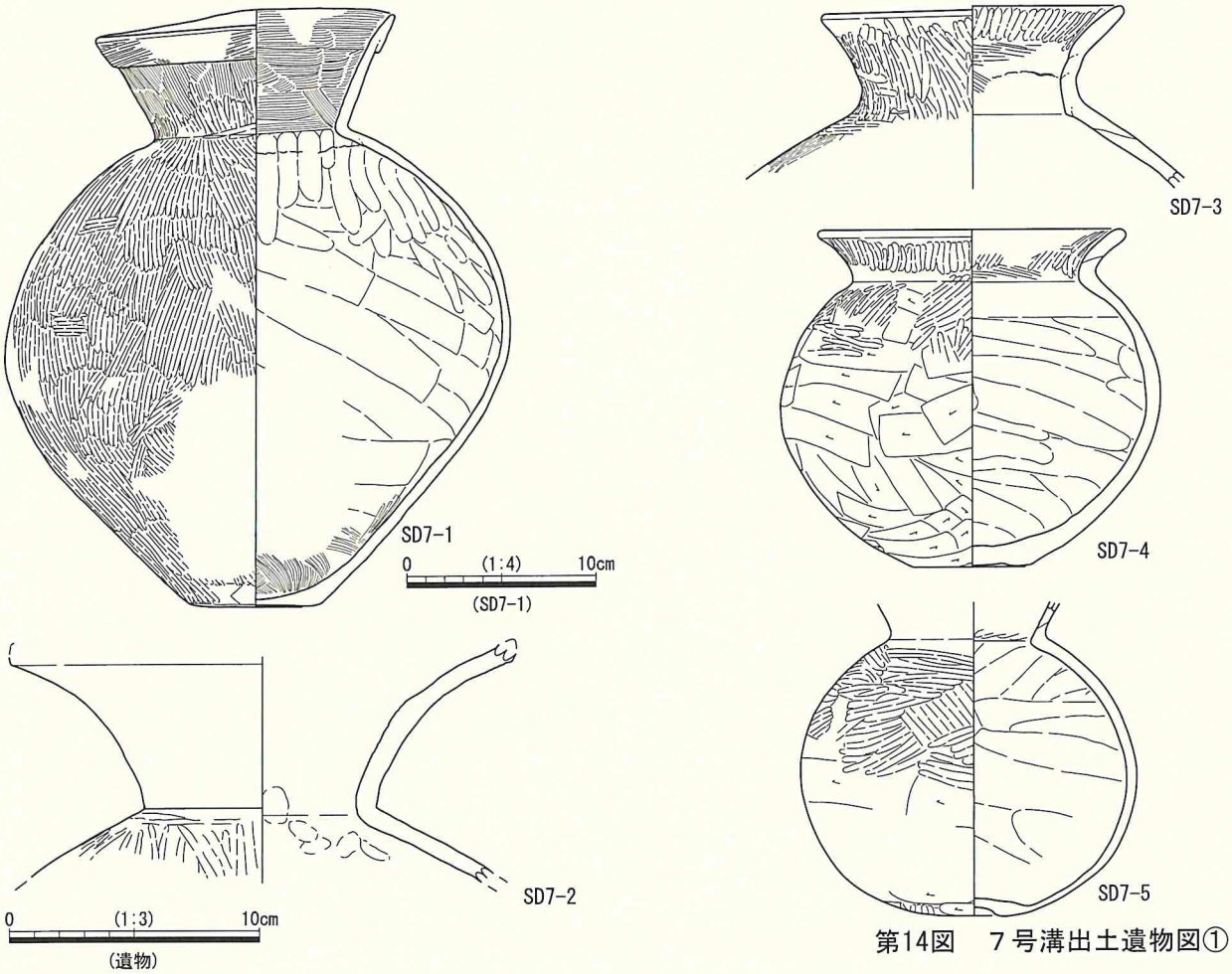
重複：７号溝を掘り込み、４・９号溝に切られる　**走行方向**：走行方位は N-54°-W で、北西から南東に流れる　**規模・形状**：検出長 31.6m、上幅 1.4m、下幅 0.58m、深さ 33 ～ 54cm　**出土遺物**：土師器甕・S 字甕、縄文土器（縄文中期後葉）　**覆土**：上層に Hr-FA の洪水起源とみられる微砂が堆積し、下層に微砂主体の水成堆積が確認できることから Hr-FA 起源の洪水により埋没した水路と考えられる。　**遺構年代**：Hr-FA 起源と考えられる洪水層を覆土とすることから、６世紀初頭以前の開削と考えられる。

９号溝（第 13･17 図）

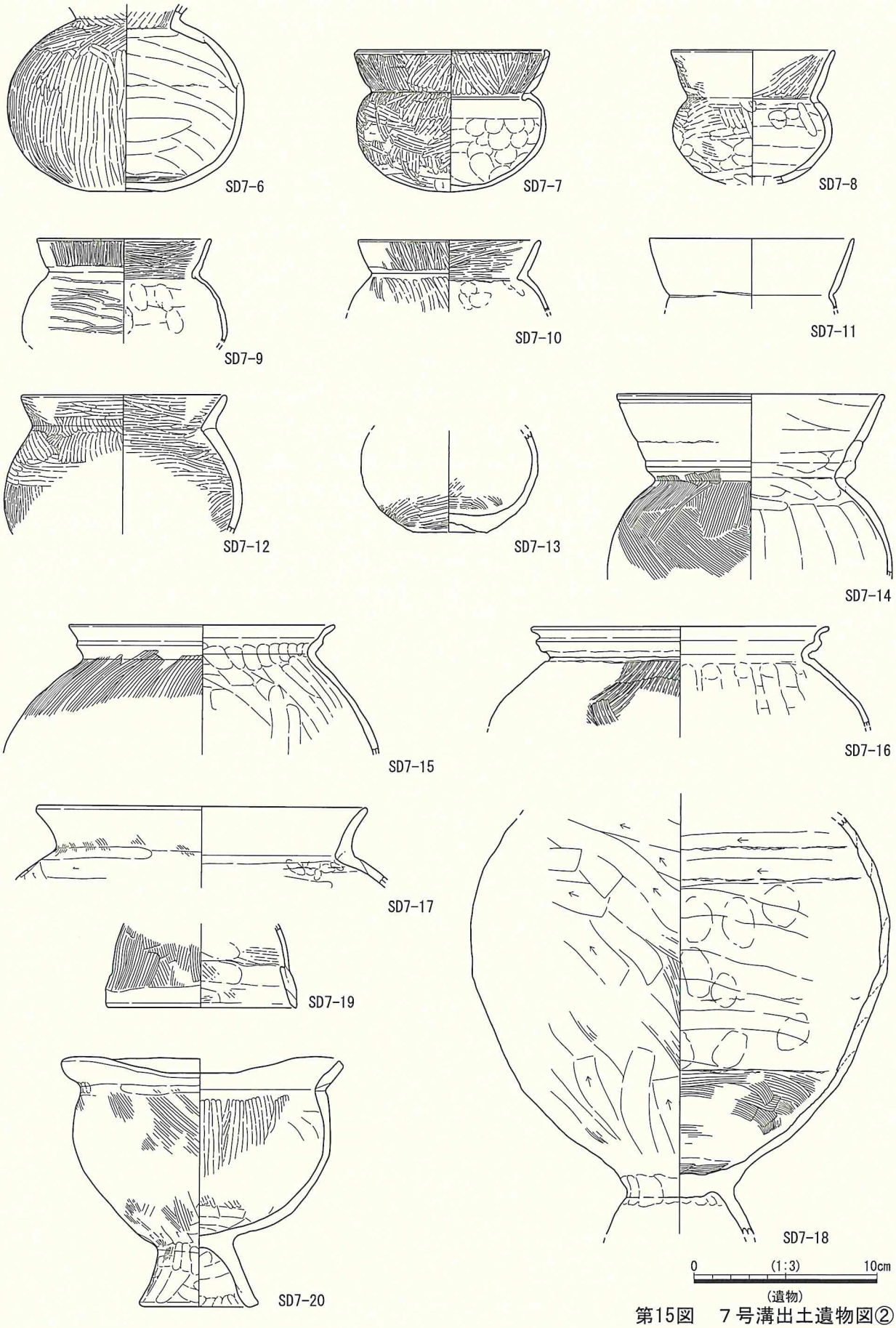
重複：７・８号溝を掘り込み、10 号溝に切られる　**走行方向**：走行方位は N-10°-W で、北西から南東に流れる　**規模・形状**：検出長：4.7m、上幅 2.2m、下幅 1.96m、深さ 20cm　**出土遺物**：土師器高坏・壷・二重口縁壷・甕・台付甕・S 字甕、縄文土器（加曽利 E3）　**覆土**：上層に Hr-FA の洪水起源とみられる微砂ブロックを含むシルト層が堆積し、下層に細砂～微砂主体の水成堆積が確認できることから、Hr-FA 起源の洪水により埋没した水路と考えられる。　**遺構年代**：Hr-FA 起源と考えられるブロックを覆土に含むことから、６世紀初頭以前の開削と考えられる。

10 号溝（第 13 図）

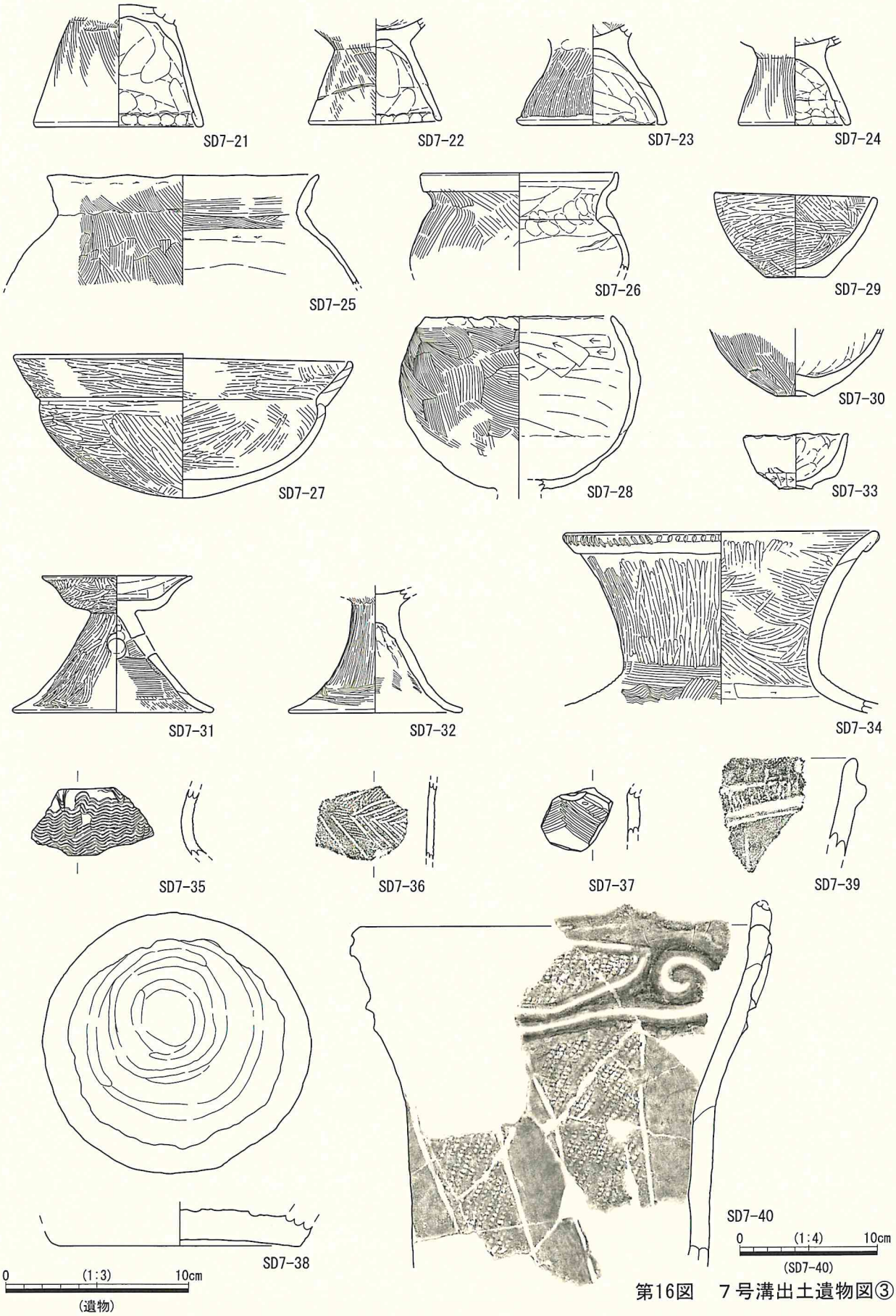
重複：９号溝を掘り込み、４号溝に切られる　**走行方向**：走行方位は N-55°-W で、北西から南東に流れる　**規模・形状**：検出長 21.3m、幅 0.6m、深さ 34cm　**出土遺物**：土師器甕・S 字甕、縄文土器（縄文中期後葉）　**覆土**：Hr-FA の洪水起源とみられる微砂ブロックを含むシルト層が堆積することから、Hr-FA 起源の洪水によって埋没し洪水堆積層が土壌化したものと考えられる。　**遺構年代**：Hr-FA 起源と考えられるブロックを覆土に含むことから、６世紀初頭以前の開削と考えられる。



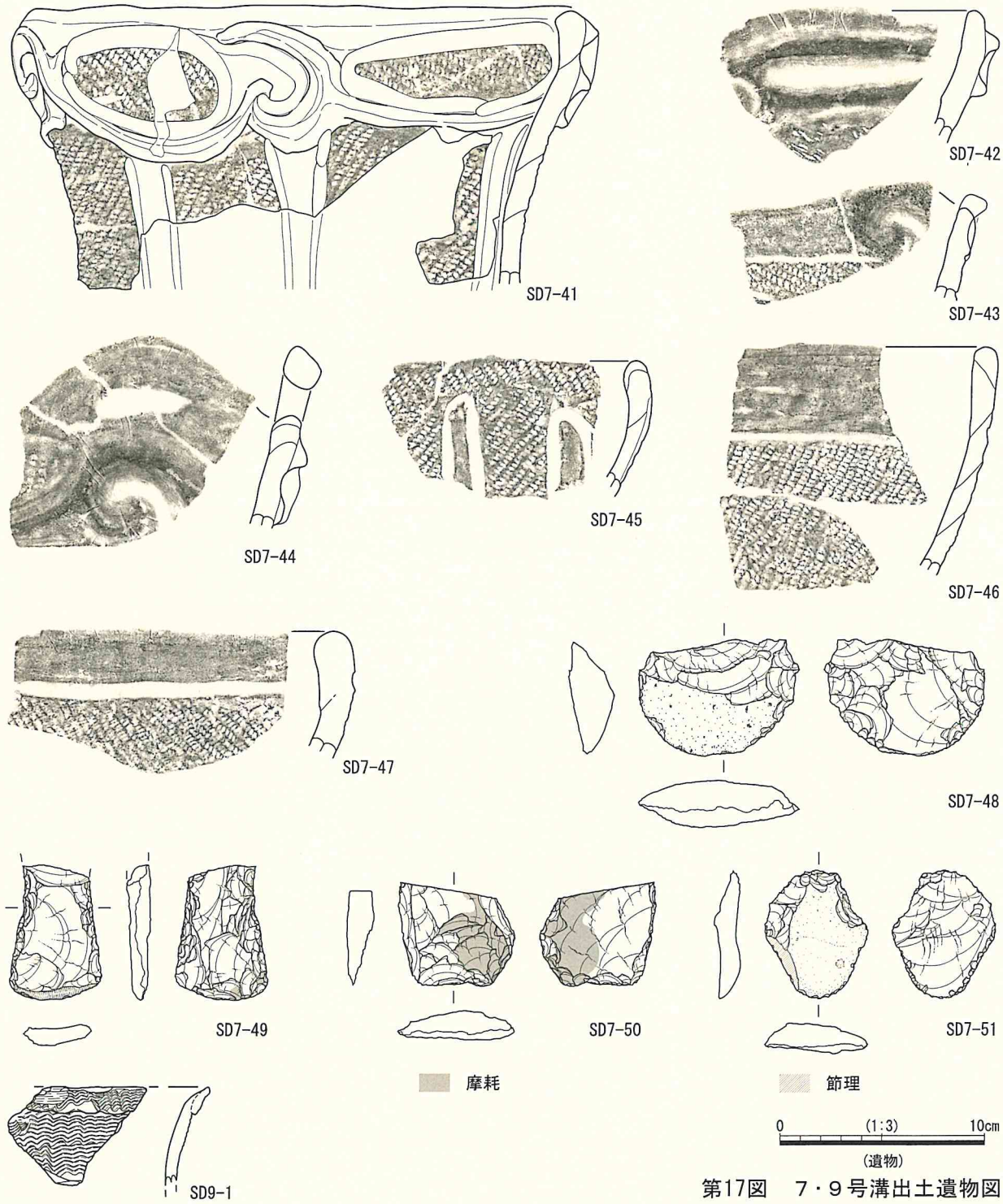
第14図　７号溝出土遺物図①



第15図　７号溝出土遺物図②



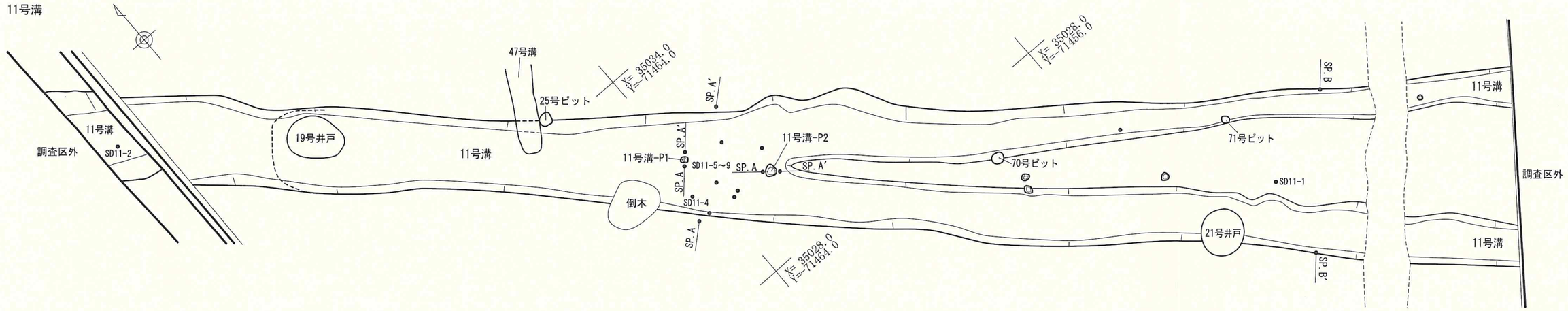
第16図　７号溝出土遺物図③



第17図　７・９号溝出土遺物図

11 号溝（第 18 図）

重複：３号井戸に切られる。12 号溝と重複するが前後関係不明。　**走行方向**：走行方位は N-50°-W で、北西から南東に流れる　**規模・形状**：検出長 38.5m、上幅 1.0m、深さ 27cm　**出土遺物**：土師質土器皿、丸瓦・平瓦、土師器坏・甕・S 字甕・小型甕　**覆土**：中層に洪水起源とみられる黄色砂質土を微量含み、下層は水成堆積が確認できることから、水路と考えられる。　**遺構年代**：出土遺物および覆土の状況から、中世のものと考えられる。　**所見**：13 号溝と連続する L 字状の区画溝となる可能性も考えられる。

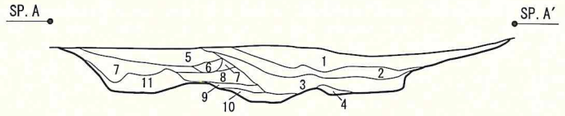


● 遺物

0　1:100　2m

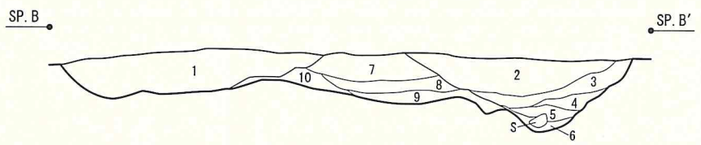
（平面図）

11 号溝
L=89.700m



1　灰黄褐色土（10YR5/2）　やや砂質。As-A 粒やや少量。しまり強い、粘性弱い。
2　褐灰色土（10YR5/1）　やや砂質。橙色粒やや少量。しまりやや強い、粘性やや弱い。
3　褐灰色土（10YR4/1）　橙色粒少量。しまりやや弱い、粘性やや強い。
4　褐灰色土（10YR4/1）　砂質。しまりやや強い、粘性弱い。
5　褐灰色土（10YR4/1）　軽石粒やや少量。橙色粒やや多量。しまり強い、粘性弱い。
6　にぶい黄色土（2.5Y6/4）　やや砂質。地山土主体。灰色土ブロック多量。しまり・粘性やや強い。
7　褐灰色土（5/1）　黄・黒色土ブロック少量。しまりやや強い、粘性やや弱い。
8　灰黄褐色土（10YR6/2）　細砂質。斑点状に酸化。しまりやや弱い、粘性弱い。
9　黒色土（10YR2/1）　砂層。しまり・粘性なし。
10　褐灰色土（10YR5/1）　砂層。小石多量。しまり・粘性なし。
11　褐灰色土（10YR4/1）　白色粒やや多量。橙色粒多量。しまり強い、粘性やや弱い。

11 号溝
L=89.700m

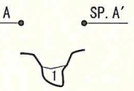


1　褐灰色土（10YR5/1）　As-A 粒やや多量。炭粒やや少量。橙色粒少量。しまり強い、粘性弱い。
2　黒褐色土（10YR3/1）　砂質。しまり強い、粘性弱い。
3　褐灰色土（10YR4/1）　やや砂質。灰色土ブロック。しまりやや強い、粘性やや弱い。
4　褐灰色土（10YR4/1）　砂質。黄色砂。しまりやや弱い、粘性弱い。
5　灰黄色土（10YR7/2）　砂層。しまり・粘性なし。
6　灰色土（N6/1）　細砂層。しまり・粘性なし。
7　黒褐色土（10YR3/1）　小礫やや少量。しまり・粘性やや強い。
8　褐灰色土（10YR4/1）　黄色粒ごく少量。しまりやや強い、粘性強い。
9　褐灰色土（10YR5/1）　白色粒・地山ブロックごく少量。しまりやや強い、粘性強い。
10　褐灰色土（10YR6/1）　黄色粒多量。白色粒やや多量。しまり強い、粘性やや弱い。

11 号溝 -P1
L=89.400m

1　黒褐色土（10YR3/1）　地山粒少量。しまり・粘性やや強い。

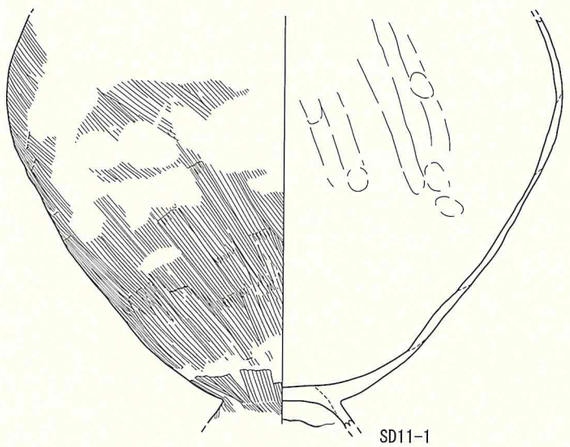
11 号溝 -P2
L=89.400m

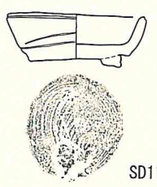


1　褐灰色土（10YR4/1）　砂粒多量。地山粒やや少量。しまり弱い、粘性強い。

0　1:40　1m

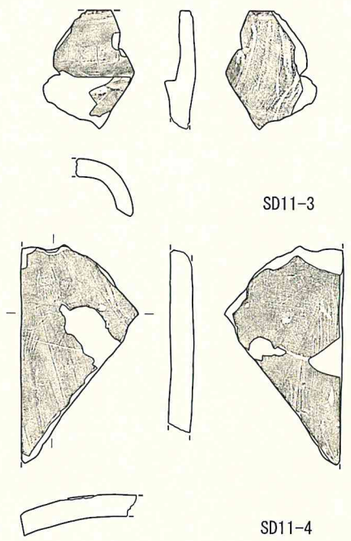
（断面図）





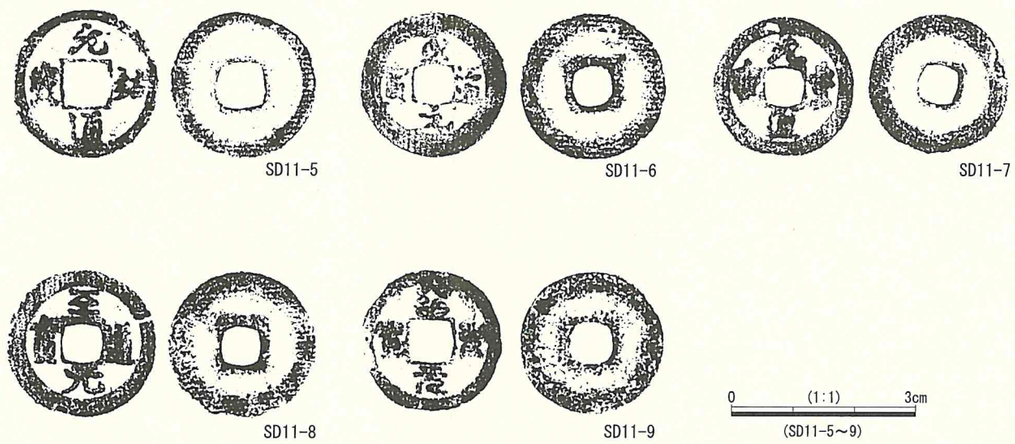
0　(1:3)　10cm

(SD11-1・2)



0　(1:6)　20cm

(SD11-3・4)



0　(1:1)　3cm

(SD11-5～9)

第18図　11号溝平面図・断面図および出土遺物図

12 号溝（第 19 図）

重複：20・22・25 号溝を掘り込み、13 ～ 15・17 号溝・13 号土坑・３・６号井戸に切られる　**走行方向**：走行方位は N-50°-E で、北東から南西に流れる　**規模・形状**：検出長 34.6m、幅 0.4 ～ 0.8m、深さ 12 ～ 24cm で底部は平坦である。　**出土遺物**：縄文土器（縄文中期後葉）　**覆土**：黄褐色粒を含む砂質土　**遺構年代**：15 世紀以降に廃絶した 13 ～ 15 号溝に切られることから、それ以前に開削された溝と考えられる。

13 号溝（第 19･21･22 図）

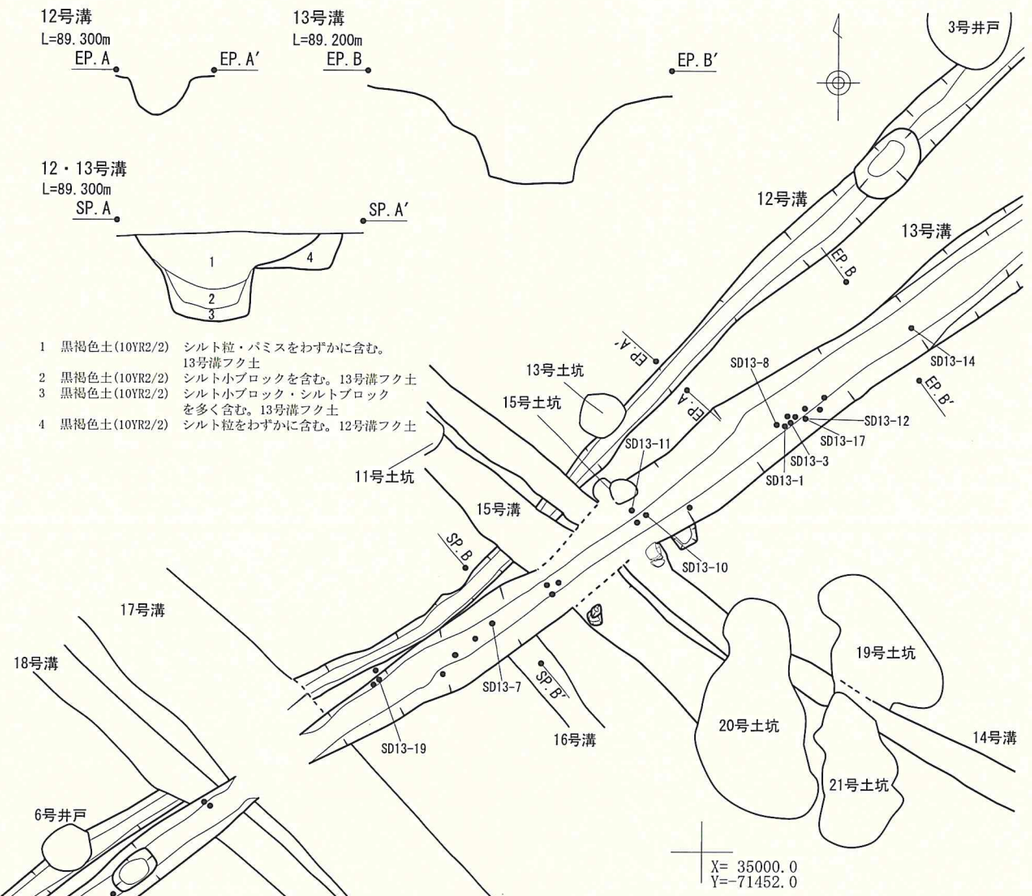
重複：12・14・15・17・20・22・25 号溝を掘り込み、15 号土坑に切られる　**走行方向**：走行方位は N-53°-E で、北東から南西に流れる　**規模・形状**：検出長 33.2m、上幅 0.7 ～ 1.3m、下幅 0.4m、深さ 57cm で底部は平坦である。　**出土遺物**：軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦・熨斗瓦、土師質土器皿、内耳鍋、須恵器坏・甕、縄文土器（加曽利 E3）　**覆土**：黄褐色粒を含む砂質土で、中層から下層で人頭大の礫と瓦類がまとまって廃棄された状態で検出された。　**遺構年代**：13 世紀後半から 14 世紀初頭の瓦類や 14 世紀後半から 15 世紀代の内耳鍋が出土することから、15 世紀以降の廃絶と考えられる。　**所見**：13 号溝の北西で柱穴群が集中しているため、屋敷地の南側の区画溝と考えられる。11 号溝とはＬ字状に連続する可能性もある。また、人頭大の礫が多く出土していることから、石組をともなう溝であった可能性もある。

14 号溝（第 20･23 図）

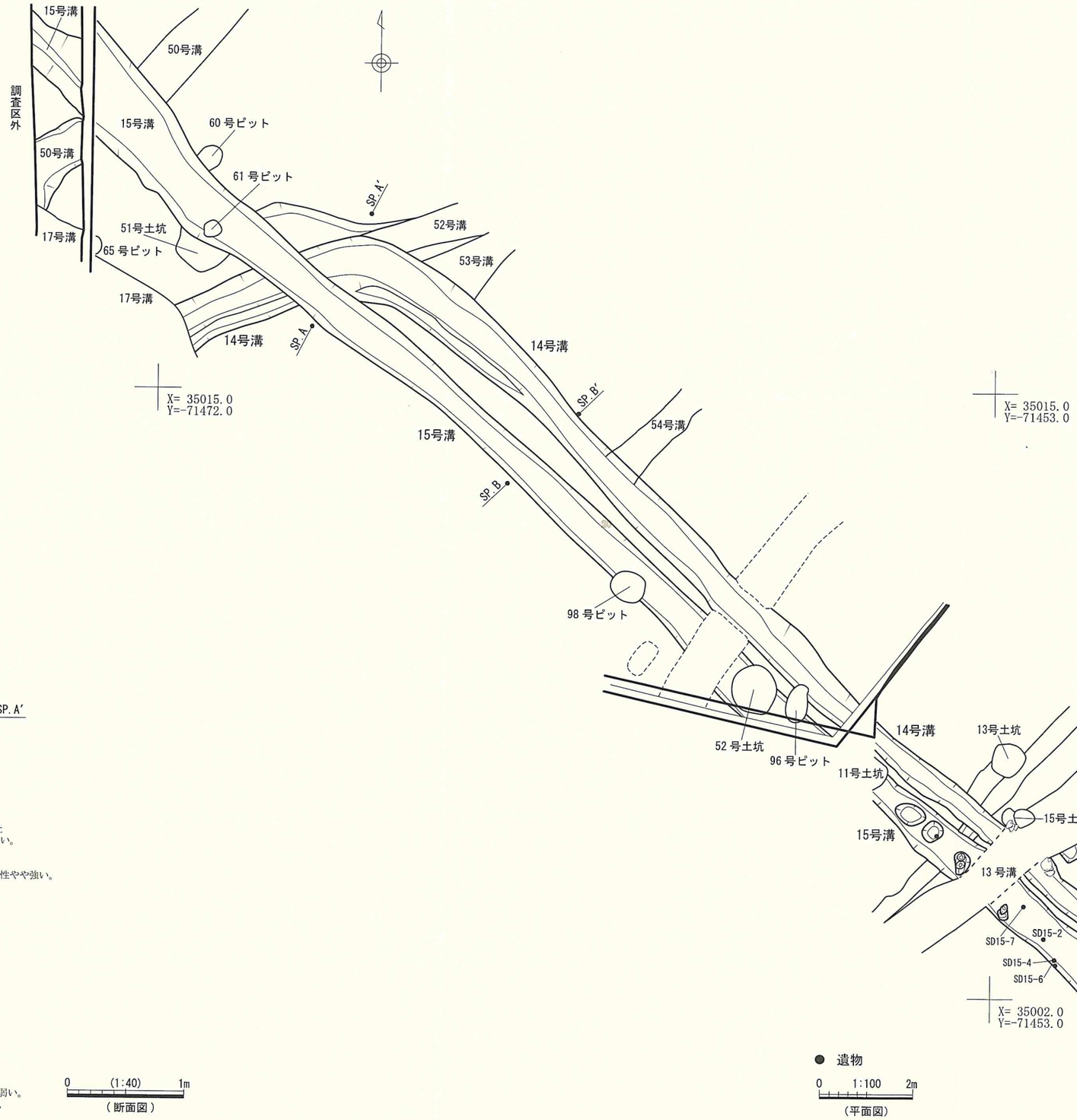
重複：12 号溝を掘り込み、13 号溝・19 ～ 21 号土坑に切られる　**走行方向**：走行方位は N-55°-W で、北西から南東に流れる　**規模・形状**：検出長 34.0m、上幅 0.5 ～ 0.8m、下幅 0.4m、深さ 32cm で底部は平坦である。　**出土遺物**：軒平瓦、内耳鍋、火鉢、須恵器甕　**覆土**：赤色粒を含むシルト層　**遺構年代**：13 世紀後半から 14 世紀初頭の瓦類や 14 世紀後半から 15 世紀代の内耳鍋が出土することから､15 世紀以降の廃絶と考えられる。　**所見**：４区南西で西へ屈曲することから区画溝と考えられる。

15 号溝（第 20･23 図）

重複：12 号溝・11・20 号土坑を掘り込み、13 号溝に切られる　**走行方向**：走行方位は N-45°-W で、北西から南東に流れる　**規模・形状**：検出長 28.5m、幅 0.7 ～ 1.5m、深さ 26cm　**出土遺物**：丸瓦・平瓦、内耳鍋・鉢・火鉢、施釉陶器、焼締陶器　**覆土**：黄褐色粒を含む砂質土で、上層から中層で人頭大の礫と瓦・土器類がまとまって廃棄された状態で検出された。　**遺構年代**：13 世紀後半から 14 世紀初頭の瓦類や 14 世紀後半から 15 世紀代の内耳鍋が出土することから、15 世紀以降の廃絶と考えられる。



第 19 図　12･13 号溝平面図･断面図

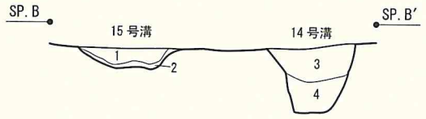


第20図　14･15号溝平面図･断面図

14号･15号溝
L=89.800m

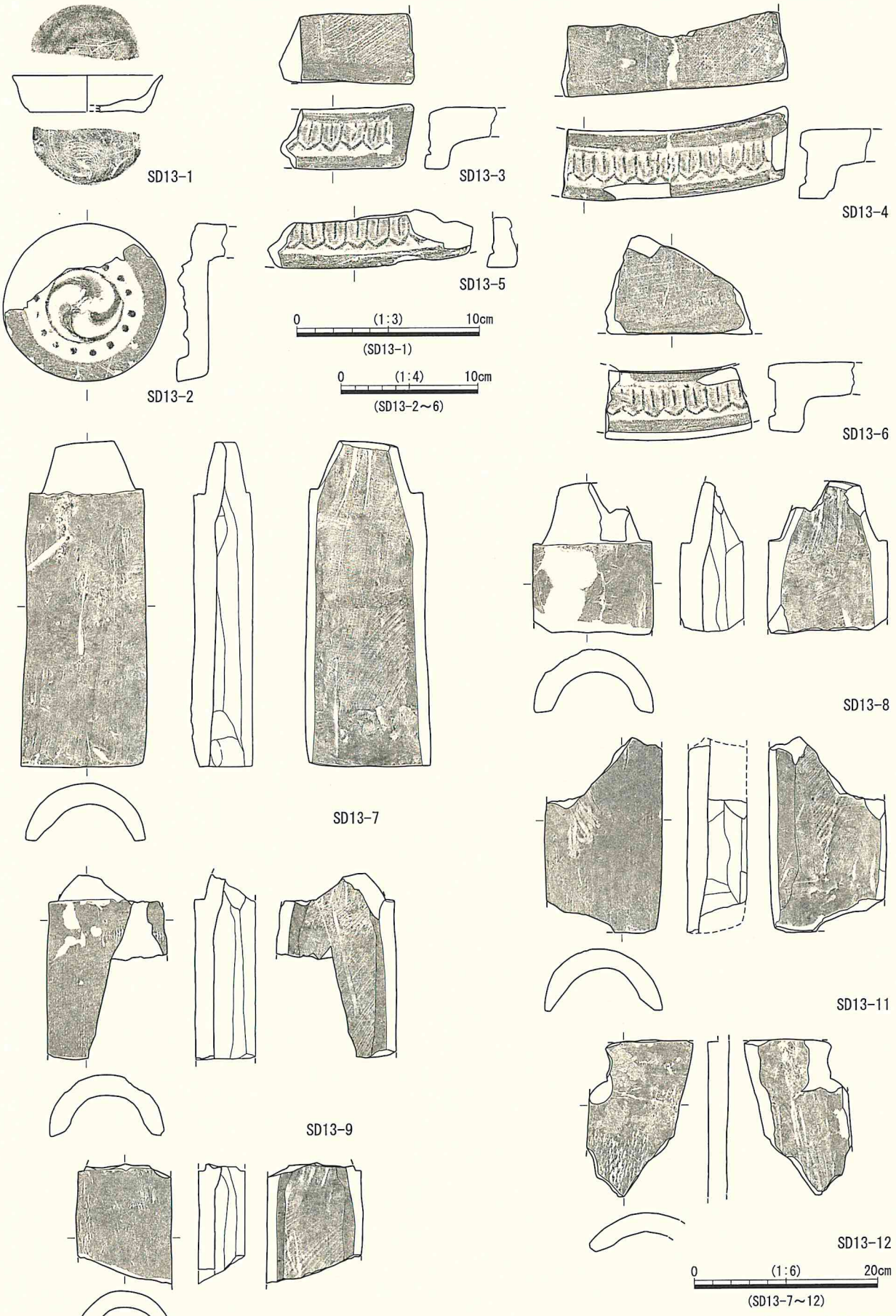
1　黒褐色土（10YR3/1）　白・橙色軽石粒多量。しまり強い、粘性弱い。15号溝フク土
2　褐灰色土（10YR4/1）　軽石粒やや少量。橙色粒やや多量。しまり強い、粘性やや弱い。
3　褐灰色土（10YR5/1）　白・橙色粒やや少量。しまり・粘性やや強い。
4　褐灰色土（10YR4/1）　やや砂質。地山ブロック少量。しまり弱い、粘性やや強い。
5　褐灰色土（10YR4/1）　地山ブロック極めて多量。地山崩落？。しまりやや弱い、粘性やや強い。
6　褐灰色土（10YR6/1）　細砂層。斑点状に酸化。しまり・粘性なし。
11号溝フク土

14号･15号溝
L=89.600m

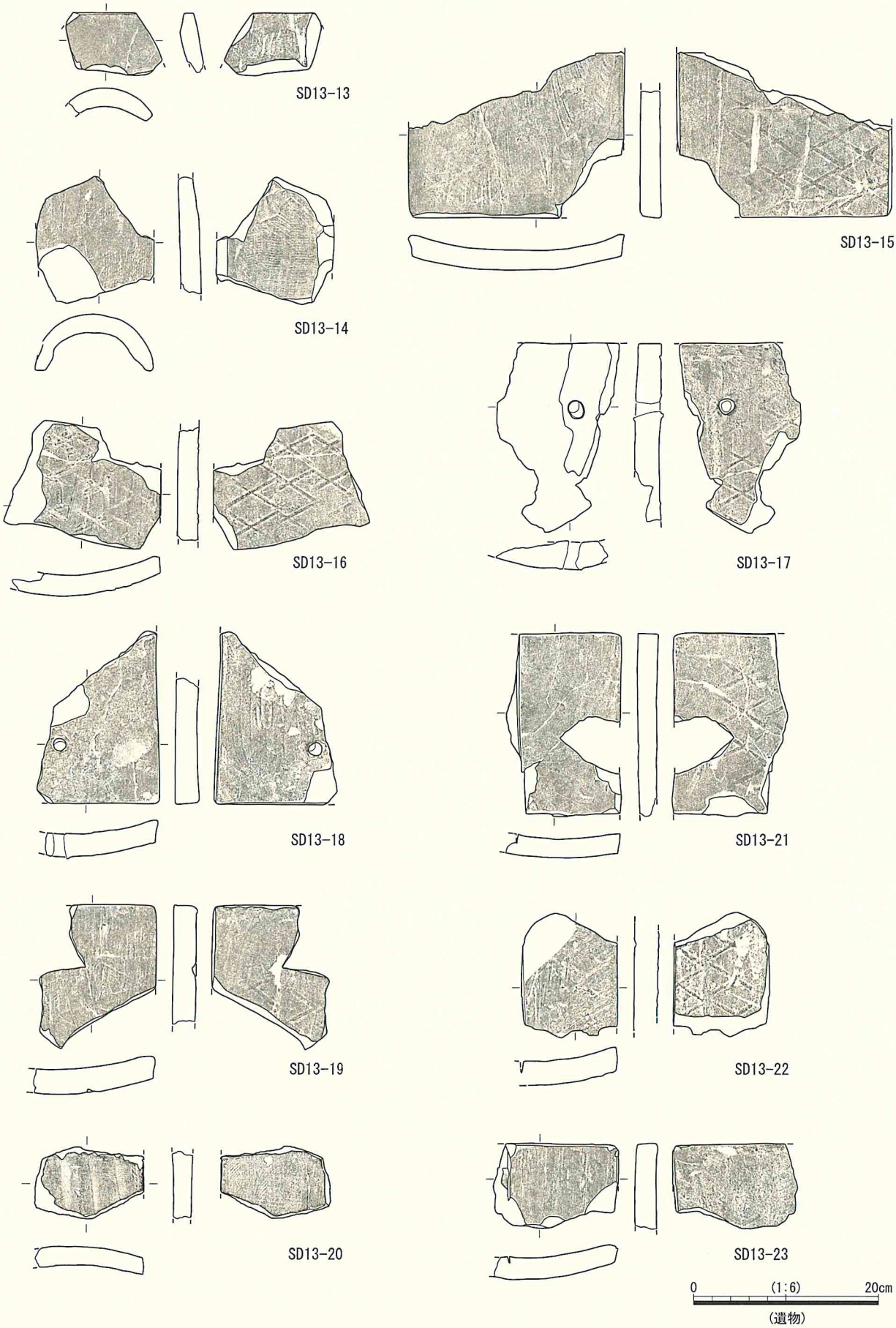


1　褐灰色土（10YR4/1）　白色粒多量。黄色粒やや少量。しまり強い、粘性弱い。
2　褐灰色土（10YR4/1）　地山ブロック多量。しまり・粘性やや弱い。
3　黒褐色土（10YR3/1）　白・橙色粒少量。小石ごく少量。しまりやや強い、粘性やや弱い。
4　褐灰色土（10YR4/1）　砂粒やや多量。地山ブロック少量。しまり弱い、粘性やや強い。

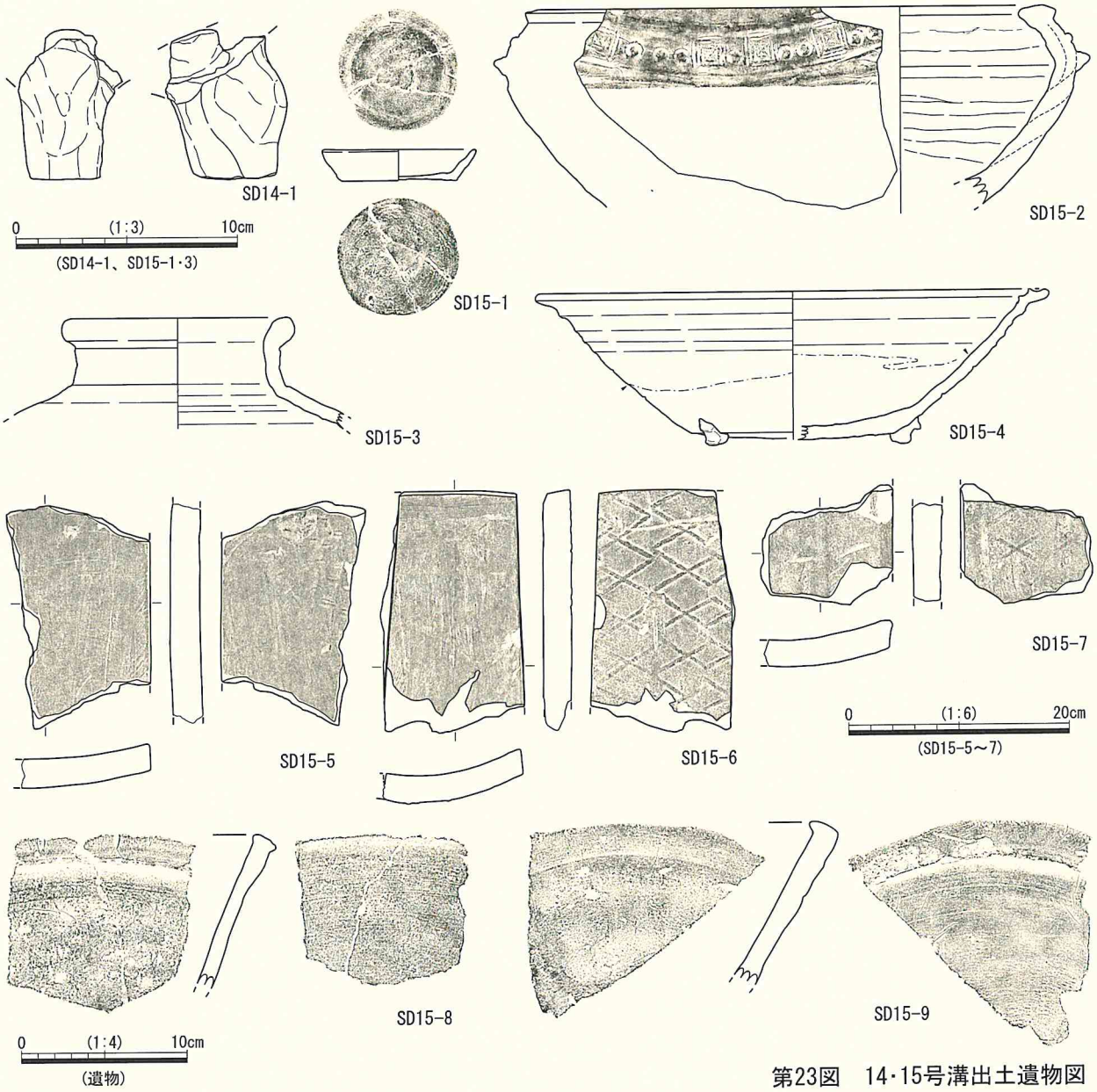
0　(1:40)　1m
（断面図）



第21図　13号溝出土遺物図①



第22図　13号溝出土遺物図②



第23図　14・15号溝出土遺物図

16 号溝（第 24 図）

走行方向：走行方位は N-40°-W で、北西から南東に流れる　**規模・形状**：検出長 13.0m、上幅 0.6m、下幅 0.5m、深さ 20cm で底部はほぼ平坦である。　**出土遺物**：丸瓦、土師器 S 字甕　**覆土**：下層に黄褐色粒を含む。　**遺構年代**：出土遺物から 14 世紀以降の廃絶と考えられる。　**所見**：遺構群の東辺を区画する溝と考えられ、23 号溝と連続する L 字状の溝である可能性が高い。

17 号溝（第 24・25 図）

重複：12・17 ～ 19・23 号溝を掘り込み、13 号溝・18・23 ～ 25 号土坑に切られる　**走行方向**：走行方位は N-48°-W で、北西から南東に流れる　**規模・形状**：検出長 40.7m、幅 1.6 ～ 2.2m、深さ 64 ～ 84cm で底部はほぼ平坦である。　**出土遺物**：丸瓦・平瓦、土師質土器皿、内耳鍋・鉢、焼締陶器、漆器、銅製品（経筒底板か）　**覆土**：上層は黄褐色粒を含むシルト層、下層は黒褐色粘質土層が堆積することから、水を溜めた堀のような性格をもった区画溝と考えられる。　**遺構年代**：出土遺物の帰属年代から 15 世紀以降の廃絶と考えられる。

18 号溝（第 24 図）

重複：17 号溝に切られる　**走行方向**：走行方位は N-60°-W で、北西から南東に流れる　**規模・形状**：検出長 38.8m、幅 0.6 ～ 0.9m、深さ 38cm　**出土遺物**：なし　**覆土**：洪水起源とみられるにぶい黄褐色の砂質土層でシルトブロックをわずかに含む。　**遺構年代**：15 世紀以降に廃絶した 17 号溝に切られることから、それ以前に開削された溝と考えられる。

19 号溝（第 25 図）

重複：17 号溝・26 号土坑に切られる　**走行方向**：走行方位は N-50°-W で、北西から南東に流れる　**規模・形状**：検出長 6.3m、幅 0.6m、深さ 28cm で底部はほぼ平坦である。　**出土遺物**：なし　**覆土**：暗褐色砂質土層でシルトブロックを多量に含む。　**遺構年代**：15 世紀以降に廃絶した 17 号溝に切られることから、それ以前に開削された溝と考えられる。

20 号溝（第 25 図）

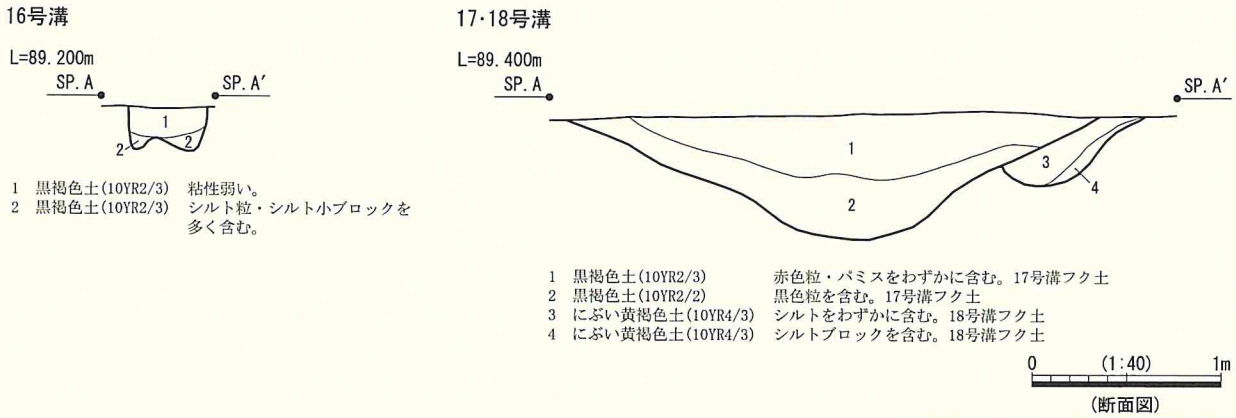
重複：12・13 号溝に切られる　**走行方向**：走行方位は N-52°-W で、北西から南東に流れる　**規模・形状**：検出長 19.4m、上幅 0.6m、下幅 0.4m、深さ 16cm で底部はほぼ平坦である。　**出土遺物**：土師器坏・甕・壷、縄文土器（加曽利 E3）　**覆土**：下層に地山黄色土ブロックを含むことから人為的な埋没の可能性がある。　**遺構年代**：15 世紀以降に廃絶した 13 号溝に切られることから、それ以前に開削された溝と考えられる。上限は不明であるが、中世の遺構群とは主軸が異なるため、出土遺物の帰属年代である古墳時代まで遡る可能性もある。

21 号溝（第 25 図）

重複：23 号溝を掘り込む。22・26・28 号溝と重複するが前後関係不明。　**走行方向**：走行方位は N-32°-W で、北西から南東に流れる　**規模・形状**：検出長 12.2m、上幅 0.6m、下幅 0.2m、深さ 38cm　**出土遺物**：なし　**覆土**：下層に黒褐色粘質土層が堆積することから、滞水状態の時期もあったと考えられる。　**遺構年代**：15 世紀以降に廃絶した 23 号溝に切られることから、それ以前に開削された溝と考えられる。

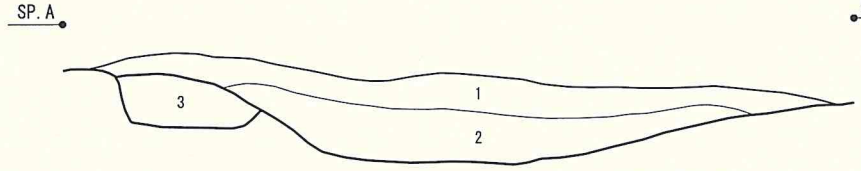
22 号溝（第 25 図）

重複：７号井戸を掘り込み、12・13・23・24 号溝に切られる。21 号溝と重複するが前後関係不明。　**走行方向**：走行方位は N-70°-W で、北西から南東に流れる　**規模・形状**：検出長 27.5m、上幅 1.0 ～ 1.3m、下端 0.5m、深さ 46cm で底部は平坦である。　**出土遺物**：土師器高坏・甕、縄文土器（加曽利 E3）　**覆土**：上層に黒褐色粘質土層、下層に粗砂から小礫を主体とする水成堆積が確認できることから、当初は水路として使用されていたと考えられる。　**遺構年代**：15 世紀以降に廃絶した13号溝に切られることから、それ以前に開削された溝と考えられる。上限は不明であるが、中世の遺構群とは主軸が異なるため、出土遺物の帰属年代である古墳時代まで遡る可能性もある。



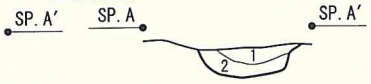
第24図　16～18号溝断面図

17・19号溝
L=89.400m



1　暗褐色土(10YR3/3)　シルト粒・シルトブロックを多く含む。粘性有。17号溝フク土
2　黒褐色土(10YR2/3)　シルト粒を含む。粘性極めて強い。17号溝フク土
3　暗褐色土(10YR3/3)　シルト粒・シルトブロック・砂粒を多量に含む。19号溝フク土

20号溝
L=89.300m

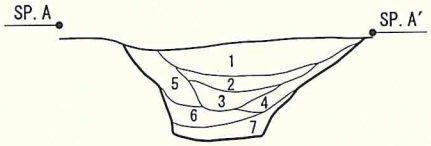


1　黒褐色土(10YR2/3)　赤色粒を含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　シルト粒・シルト小ブロックをやや多く含む。

21号溝
L=89.200m

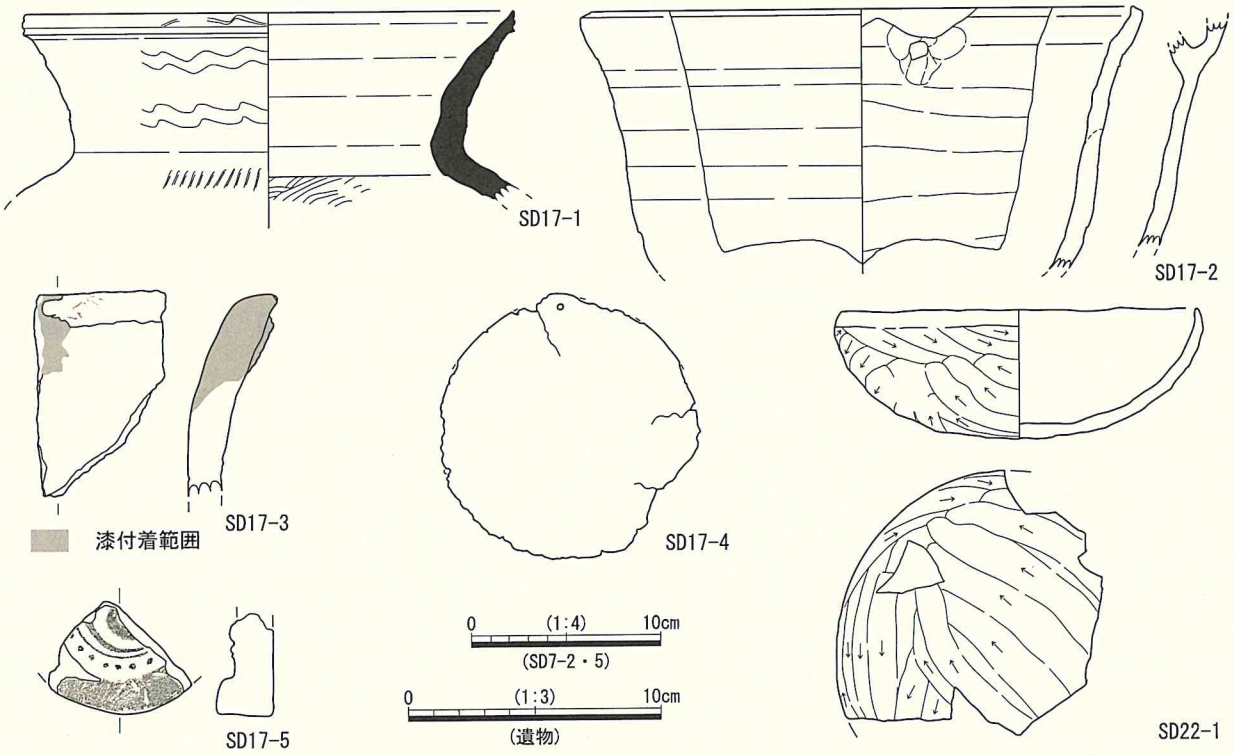
1　黒褐色10YR2/3)　小礫をブロック状にわずかに含む。21号溝フク土
2　暗褐色土(10YR3/3)　黄褐色シルト・砂粒を含む。21号溝フク土
3　黒褐色土(10YR2/3)　シルト粒をわずかに含む。粘性有。21号溝フク土
4　黒褐色土(10YR3/2)　黄褐色シルトを多量に含む。粘性有。21号溝フク土

22号溝
L=89.300m



1　黒褐色土(10YR2/3)　赤色粒を含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)　シルト粒・シルト小ブロックを含む。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　シルトを含む。
4　黒褐色土(10YR2/3)　砂粒を多量含む。
5　黒褐色土(10YR2/3)　シルト粒・シルトブロックを多量含む。
6　砂層　やや粒の大きい砂を主体とする層。
7　黒褐色土(10YR2/3)　砂粒を多量に含む。
8　黒褐色土(10YR2/3)　シルトブロックを多量に含む。

0　(1:40)　1m
(断面図)



第25図　17･19～22号溝断面図および17･22号溝出土遺物図

23 号溝（第 26 図）

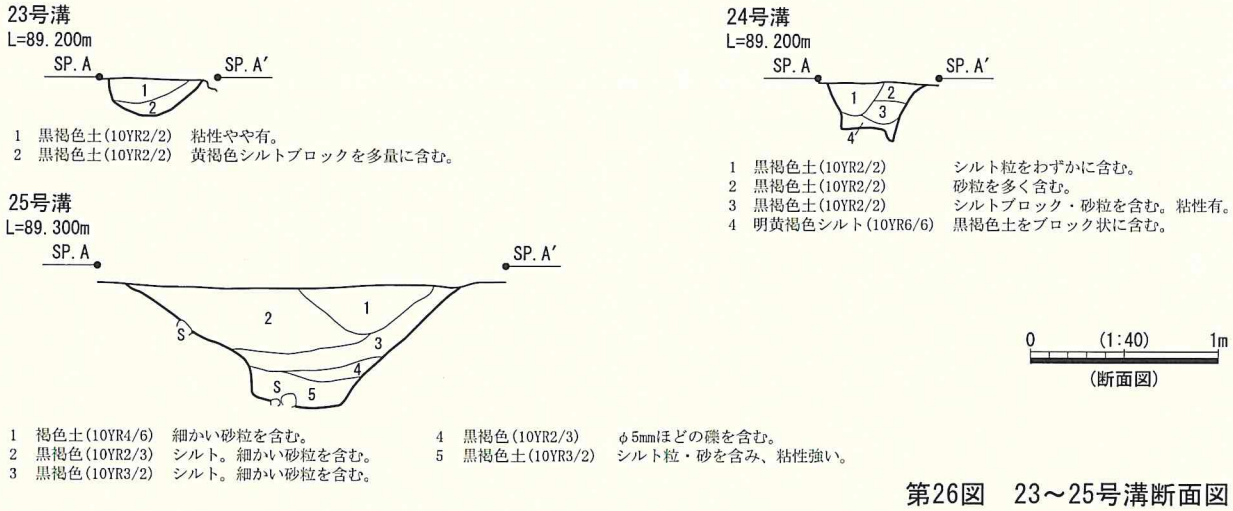
重複：22・24 号溝を掘り込み、17・19・21 号溝に切られる。25 号溝と重複するが前後関係不明。**走行方向**：走行方位は N-50°-E で、北東から南西に流れる　**規模・形状**：検出長 23.7m、上幅 0.5m、下幅 0.4m、深さ 20cm で底部はほぼ平坦である。　**出土遺物**：なし　**覆土**：下層に地山黄色土ブロックを多量に含むことから、人為的な埋没の可能性がある。　**遺構年代**：23 号溝と連続すると考えられる 16 号溝の年代により、15 世紀以降に廃絶したと考えられる。　**所見**：遺構群の南辺を区画する溝と考えられ、16 号溝と連続する L 字状の溝である可能性が高い。

24 号溝（第 26 図）

重複：22 号溝を掘り込み、23 号溝に切られる。26・28 号溝と重複するが前後関係は不明。　**走行方向**：走行方位は N-30°-W で、北西から南東に流れる　**規模・形状**：検出長 17.3m、上幅 0.4m、下幅 0.3m、深さ 22cm で底部はほぼ平坦である。　**出土遺物**：土師器坏、縄文土器（加曽利 E3）　**覆土**：下層に地山黄色土ブロック・黄褐色粒を含む。　**遺構年代**：15 世紀以降に廃絶した 23 号溝に切られることから、それ以前に開削された溝と考えられる。

25 号溝（第 26 図）

重複：７号井戸を掘り込み、12・13 号溝・31・33 号土坑に切られる。23・26・28 号溝・９号井戸と重複するが前後関係不明。　**走行方向**：走行方位は N-45°-W で、北西から南東に流れる　**規模・形状**：検出長 31.0m、上幅 1.6 ～ 2.0m、下幅 0.5 ～ 0.8m、深さ 60 ～ 70cm　**出土遺物**：板碑、土師器甕、縄文土器（縄文中期後葉）　**覆土**：黒褐色～暗褐色の粘質土層が堆積することから、水を溜めた堀のような性格をもった区画溝と考えられる。　**遺構年代**：15 世紀以降に廃絶した 13 号溝に切られることから、それ以前に開削された溝と考えられる。



第26図　23～25号溝断面図

26 号溝（第 27･28 図）

重複：30 ～ 33 号土坑・14 号井戸に切られる。21・22・24・25 号溝と重複するが前後関係不明。**走行方向**：走行方位は N-50°-E で、北東から南西に流れる　**規模・形状**：検出長 18.0m、上幅 3.0m、下幅 1.5m、深さ 50cm で底部はほぼ平坦である。　**出土遺物**：丸瓦・熨斗瓦、内耳鍋・片口鉢、陶磁器、石臼、縄文土器（縄文中期後葉）　**覆土**：黒褐色土層　**遺構年代**：14 世紀後半から 15 世紀代に帰属する内耳鍋や片口鉢、近世の陶磁器類が出土することから、近世に廃絶したと考えられる。ただし、溝の主軸が 13・23 号溝と近似しており、開削時期は中世まで遡る可能性がある。　**所見**：溝の基底部で検出された柱根は９・10 号ピットとともに 26 号溝にかけられた橋脚の柱穴となる可能性がある。

27 号溝（第 29 図）

重複：28 号溝と重複するが、遺構の重複が激しく前後関係不明。　**走行方向**：走行方位は N-45°-W で、北西から南東に流れる　**規模・形状**：検出長 3.6m、上幅 0.5m、下幅 0.2m、深さ 14cm で底部はほぼ平坦である。　**出土遺物**：板碑　**覆土**：不明　**遺構年代**：不明

28 号溝（第 27･29 図）

重複：32・33 号土坑・6 ～ 8 号ピットに切られる。21・24・25・27 号溝と重複するが前後関係不明。**走行方向**：走行方位は N-48°-W で、北西から南東に流れる　**規模・形状**：検出長 19.0m、上幅 1.2 ～ 2.4m、下幅 0.26 ～ 0.4m、深さ 50cm で底部はほぼ平坦である。　**出土遺物**：丸瓦、内耳鍋、焼締

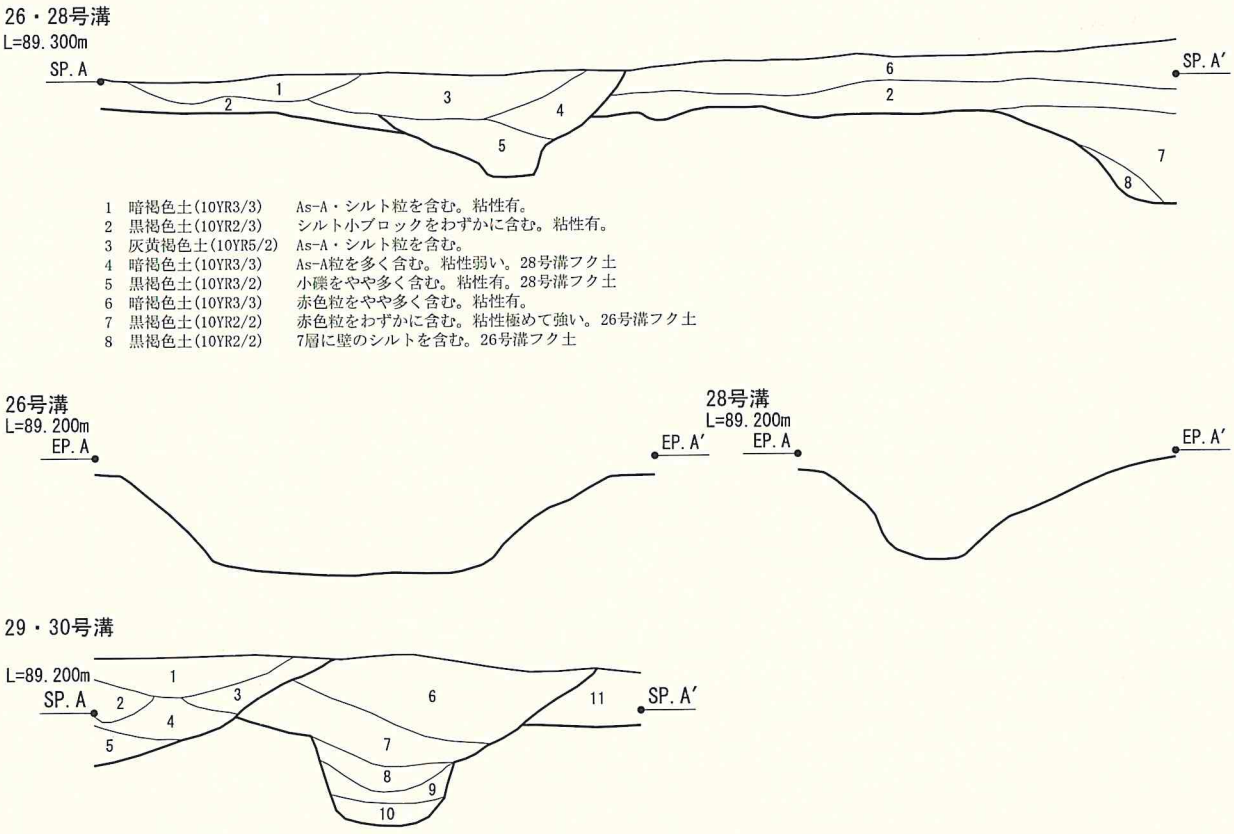
陶器、陶磁器、縄文土器（縄文中期後葉）　**覆土**：上層にAs-A軽石を多量に含み、下層は小礫をやや多量に含む黒褐色粘質土層が堆積する。このことから、水を溜めた堀のような性格をもった溝と考えられるが、水路として使用された時期もあったとみられる。　**遺構年代**：上層にAs-A軽石を含むことから、近世に廃絶したと考えられる。

29号溝（第27～29図）

重複：30号溝を掘り込む　走行方向：走行方位はN-50°-Wで、北西から南東に流れる　**規模・形状**：検出長6.0m、上幅5.0m、下幅3.0m、深さ1.0mで底部は平坦である。　**出土遺物**:内耳鍋、陶磁器、漆器、曲げ物、こも編み石　**覆土**：上層はAs-A軽石を含む砂質土、中層は黒褐色土層、下層は細砂を主体とする水成堆積層で部分的にAs-A軽石が介在する。調査区西壁では中層でAs-A一次堆積層が確認できる。　**遺構年代**：As-A一次堆積層を覆土とすることから、近世のものと考えられる。

30号溝（第27図）

重複：29号溝に切られる　**走行方向**：走行方位はN-5°-Wで、北から南に流れる　**規模・形状**：検出長3.5m、上幅0.7m、下幅0.5m、深さ80cmで底部はほぼ平坦である。　**出土遺物**:なし　**覆土**:上層は黒褐色粘質土層、中層は灰黄褐色砂質土、下層はシルトブロックを多量に含む粘質土が堆積することから、滞水と流水を繰り返していたと考えられる。　**遺構年代**：遺構の重複関係から、近世以降のものと考えられる。ただし出土遺物がなく、鍵層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできない。

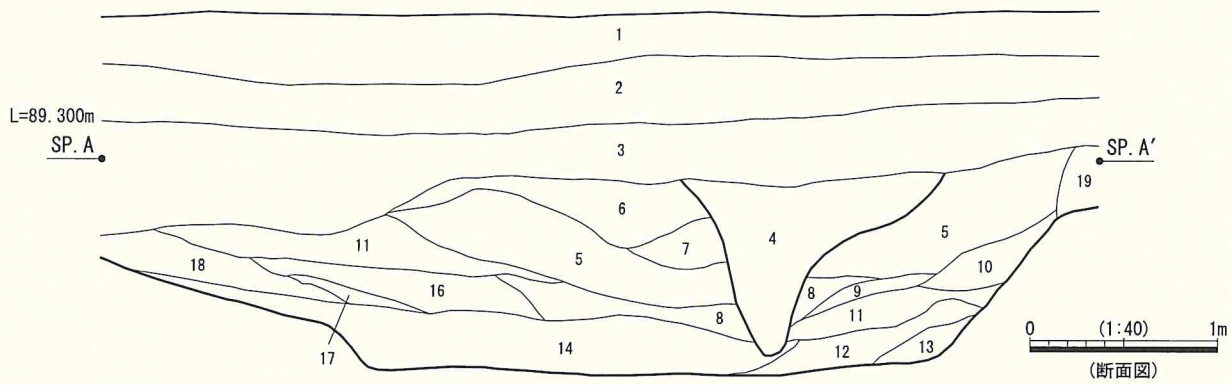


1　暗褐色土(10YR3/3)　As-A・シルト粒を含む。粘性有。
2　黒褐色土(10YR2/3)　シルト小ブロックをわずかに含む。粘性有。
3　灰黄褐色土(10YR5/2)　As-A・シルト粒を含む。
4　暗褐色土(10YR3/3)　As-A粒を多く含む。粘性弱い。28号溝フク土
5　黒褐色土(10YR3/2)　小礫をやや多く含む。粘性有。28号溝フク土
6　暗褐色土(10YR3/3)　赤色粒をやや多く含む。粘性有。
7　黒褐色土(10YR2/2)　赤色粒をわずかに含む。粘性極めて強い。26号溝フク土
8　黒褐色土(10YR2/2)　7層に壁のシルトを含む。26号溝フク土

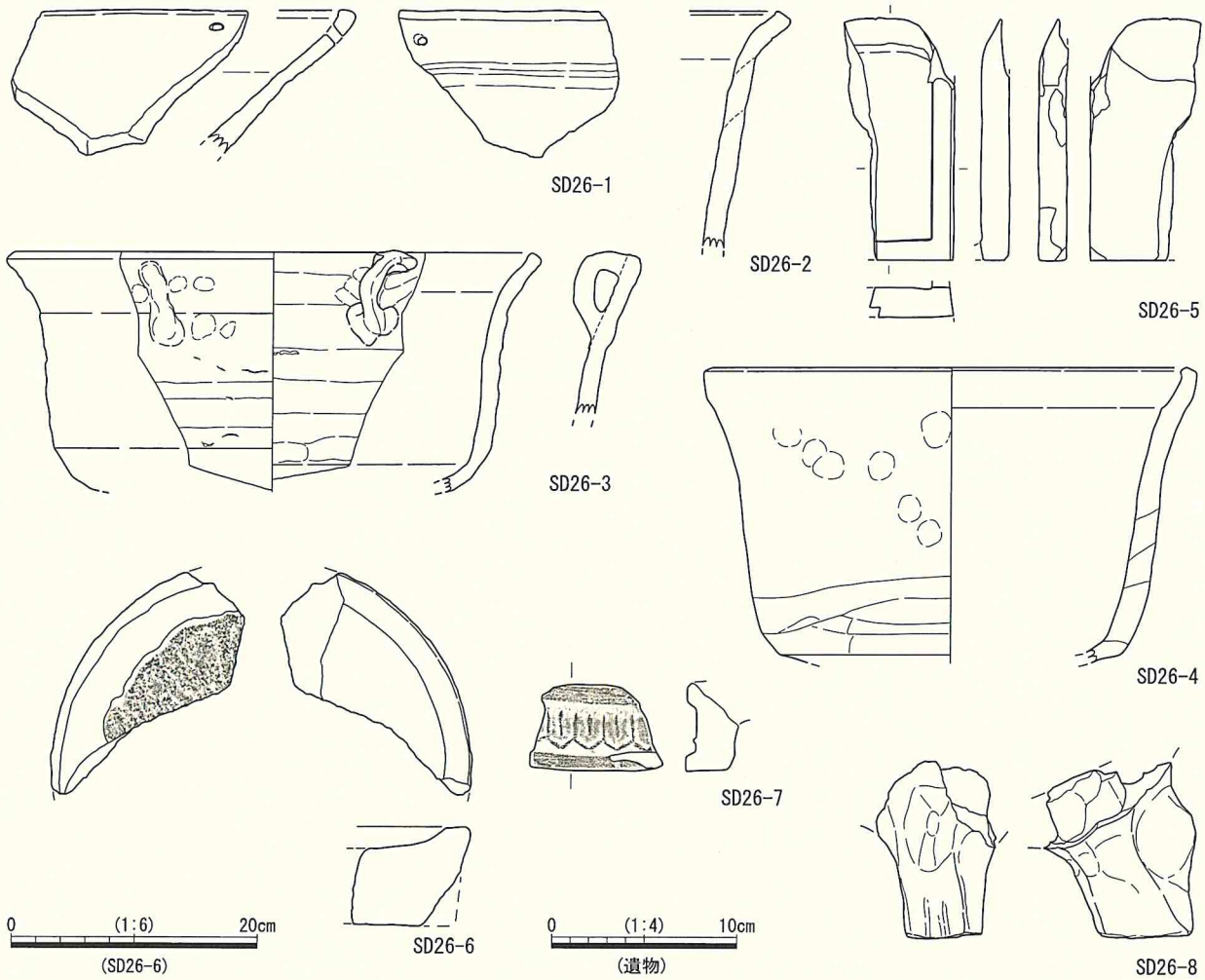
1　褐色土(10YR4/4)　As-A粒を多く含む。粘性弱い。
2　暗褐色土(10YR3/4)　砂粒を含む。粘性やや強い。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　砂粒を含む。粘性有。
4　黒褐色土(10YR2/3)　As-A粒を含む。粘性やや強い。
5　黒褐色土(10YR2/2)　As-A粒・砂粒を多量に含む。粘性弱い。
6　黒褐色土(10YR2/3)　シルトを含み、小礫をわずかに含む。粘性有。30号溝フク土
7　黒褐色土(10YR2/2)　シルトを含み、砂粒を含む。粘性やや強い。30号溝フク土
8　灰黄褐色土(10YR4/2)　シルトを多く含む。粘性弱い。30号溝フク土
9　黒褐色土(10YR2/2)　シルト粒・小ブロックを多く含む。粘性有。30号溝フク土
10　黒褐色土(10YR2/2)　灰黄褐色のシルトブロックを多量に含む。30号溝フク土
11　黒褐色土(10YR2/3)　粘性やや強い。地山（混入物少ない）。

第27図　26･28～30号溝断面図

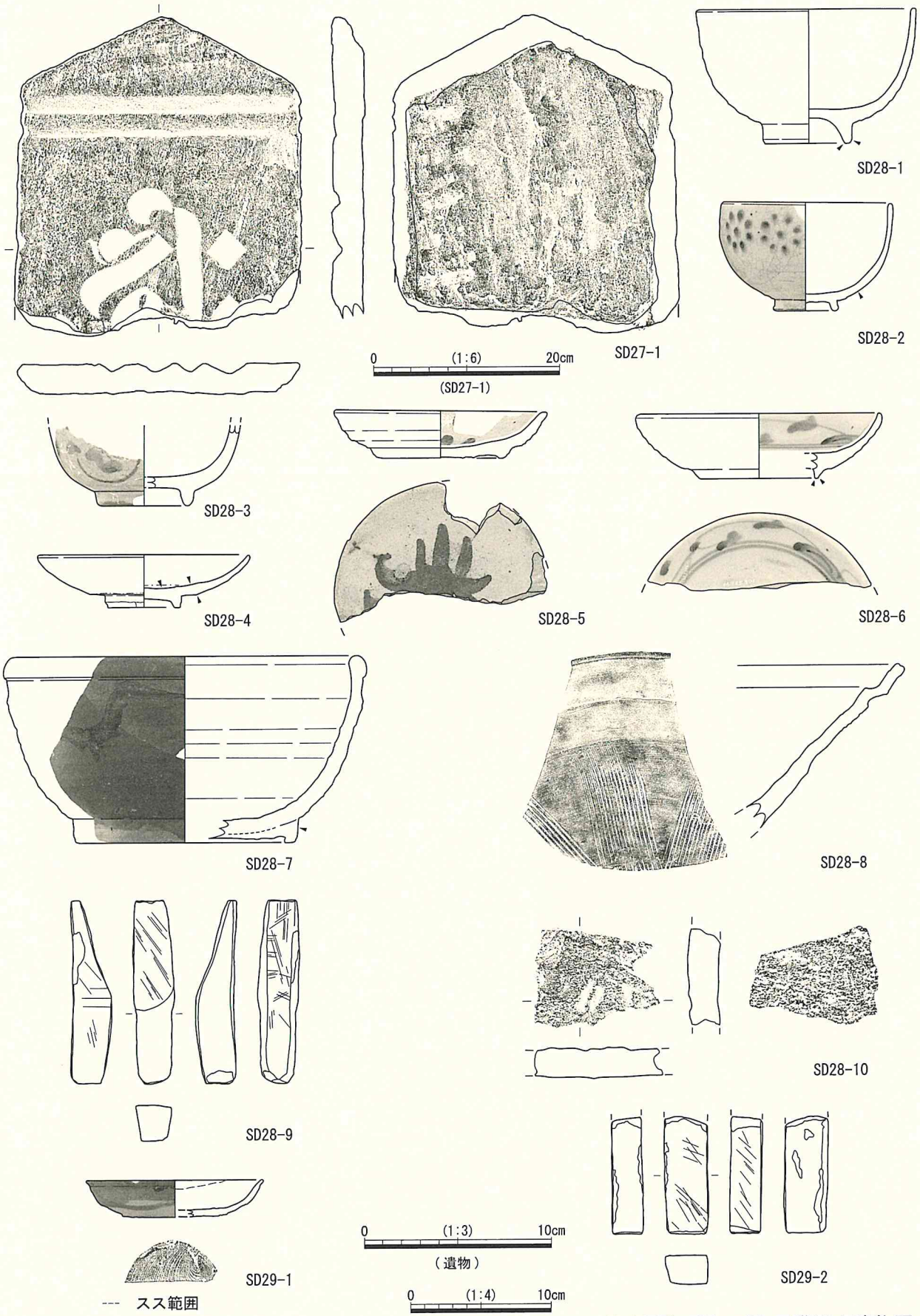
29号溝



1　黒褐色土(10YR3/2)　礫や廃材を含む。表土
2　オリーブ褐色土(2.5Y4/3)　As-A粒・小礫を含む。
3　黒褐色土(10YR3/2)　As-A粒をやや多く含む。
4　黒褐色土(10YR3/2)　As-A粒・砂粒をわずかに含む。
5　黒褐色土(10YR2/3)　As-A粒を含む。
6　暗褐色土(10YR3/4)　As-A粒・砂粒を含む。粘性弱い。
7　暗褐色土(10YR3/4)　As-A粒・砂粒を多く含む。
8　にぶい黄褐色土(10YR4/2)　As-Aをわずかに含む。細かい砂粒を多く含む。粘性弱い。
9　黒褐色土(10YR3/2)　シルトを含む。粘性強い。
10　黒褐色土(10YR2/2)　シルト小ブロックを含む。粘性強い。
11　灰黄褐色土(10YR4/2)　砂粒を多量に含む。
12　黒褐色土(10YR2/3)　黒色土をブロック状に含む。粘性強い。
13　黒色土(10YR2/1)　砂粒を含む。粘性強い。
14　As-A粒と考えられるパミスと砂の混土。部分的にシルトブロックを含む。
15　暗褐色土(10YR3/3)　シルトブロック・シルト粒を含む。粘性弱い。
16　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　細かい砂粒を多く含む。
17　黒褐色土(10YR3/2)　細かい砂粒を含む。
18　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　細かい砂粒を多く含む。16層とほぼ同じ土
19　黒褐色土(10YR3/1)　赤色粒をわずかに含む。地山



第28図　29号溝断面図・出土遺物図



第 29 図　27 ～ 29 号溝出土遺物図

31 号溝（第 30 図）

重複：32 号溝を掘り込む　**走行方向**：走行方位は N-40°-W で、北西から南東に流れる　**規模・形状**：検出長 8.5m、上幅 0.6 ～ 1.0m、下幅 0.28 ～ 0.52m、深さ 14cm で底部はほぼ平坦である。**出土遺物**：土師器、施釉陶器、縄文土器（縄文中期後葉）　**覆土**：Hr-FA の洪水起源とみられる土が堆積することから、Hr-FA 洪水により埋没したと考えられる。　**遺構年代**：Hr-FA 起源と考えられる洪水層を覆土とすることから、６世紀初頭以前の開削と考えられる。

32 号溝（第 30･31 図）

重複：31 号溝に切られる　**走行方向**：走行方位は N-40°-W で、北西から南東に流れる　**規模・形状**：検出長 11.6m、上幅 2.0m、下幅 0.4m、深さ 62cm　**出土遺物**：土師器坏　**覆土**：上層に As-C 軽石粒を含む　**遺構年代**：覆土に As-C 軽石を含むことから、As-C 降下以前の開削と考えられる。

33 号溝（第 30･31 図）

走行方向：走行方位は N-30°-W で、北西から南東に流れる　**規模・形状**：検出長 15.4m、上幅 0.6 ～ 0.84m、下幅 0.22 ～ 0.4m、深さ 23cm　**出土遺物**：土師器坏・S 字甕　**覆土**：上層に As-C 軽石粒を含む　**遺構年代**:覆土に As-C 軽石を含み、上層から古墳時代中期の土器が出土することから、古墳時代中期頃の廃絶と考えられる。

34 号溝（第 31 図）

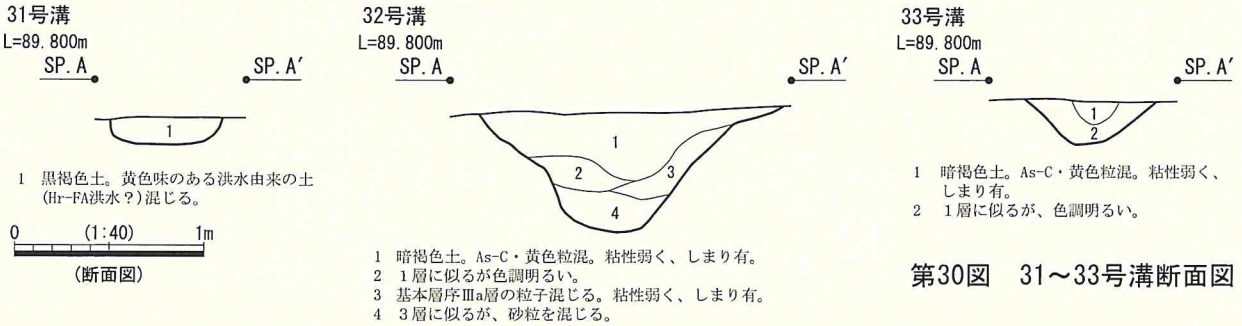
重複：35 号溝に切られる　**走行方向**：走行方位は N-20°-W で、北西から南東に流れる　**規模・形状**：検出長 33.3m、上幅 1.45 ～ 1.8m、下幅 0.5m、深さ 85cm　**出土遺物**：須恵器坏・甕、土師器坏・S 字甕、陶器碗・筒型香炉・擂鉢・片口鉢・水注・仏飯器、磁器碗、焼締陶器甕、砥石　**覆土**：As-A・As-B 軽石を少量含む細砂が堆積することから、水路と考えられる。　**遺構年代**：覆土に As-A・As-B 軽石を含み、18 世紀代の陶磁器が多量に出土することから近世に廃絶したと考えられる。ただし、13 世紀後半の焼締陶器も出土しており、流れ込みの可能性があるものの開削時期が中世まで遡る可能性もある。

35 号溝（第 31･32 図）

重複：34・36 号溝を掘り込む　**走行方向**：走行方位は N-20°-W で、北西から南東に流れる　**規模・形状**：検出長 34.3m、上幅 0.5 ～ 0.9m、下幅 0.3m、深さ 58cm で底部はほぼ平坦である。　**出土遺物**：土師器高坏、陶器碗・筒型香炉・片口鉢、磁器碗、内耳鍋、縄文土器（縄文中期後葉）　**覆土**：As-A 軽石を含むシルト混じり細砂が堆積することから、水路と考えられる。　**遺構年代**：覆土に As-A 軽石を含み、18 世紀代の陶磁器が出土することから、近世に廃絶したと考えられる。

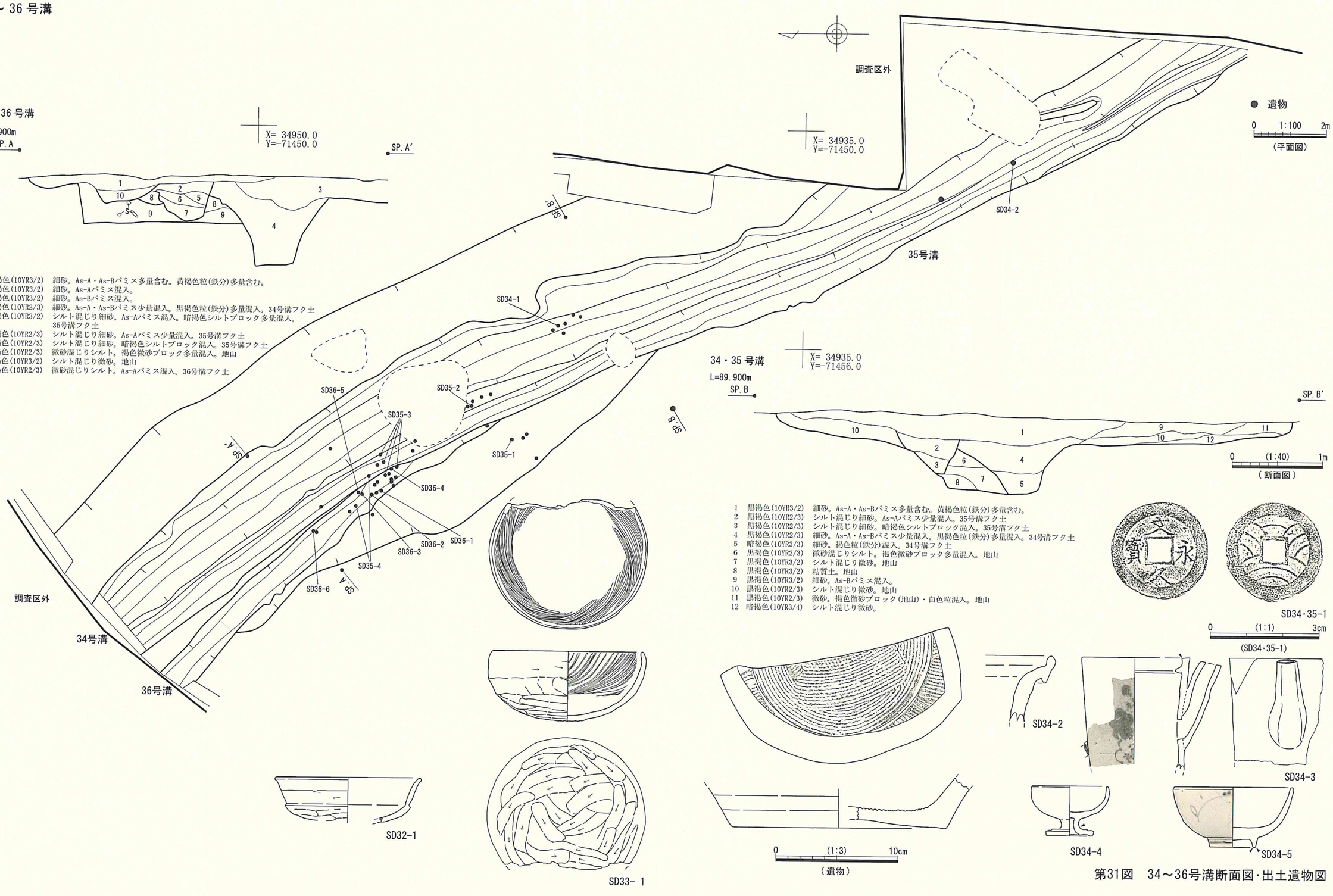
36 号溝（第 31･32 図）

重複：35 号溝に切られる　**走行方向**：走行方位は N-40°-W で、北西から南東に流れる　**規模・形状**：検出長 11.5m、上幅 0.4 ～ 0.8m、下幅 0.3 ～ 0.4m、深さ 40cm で底部は平坦である。　**出土遺物**：土師器坏・甕・S 字甕、陶器碗・筒型香炉・徳利・猪口、磁器碗、砥石　**覆土**：As-A 軽石を含む黒褐色細砂を覆土とし、上面は As-A・As-B を多量に含む細砂が堆積する。　**遺構年代**：覆土に As-A 軽石を含み、18 世紀代の陶磁器が出土することから、近世に廃絶したと考えられる。



第30図　31～33号溝断面図

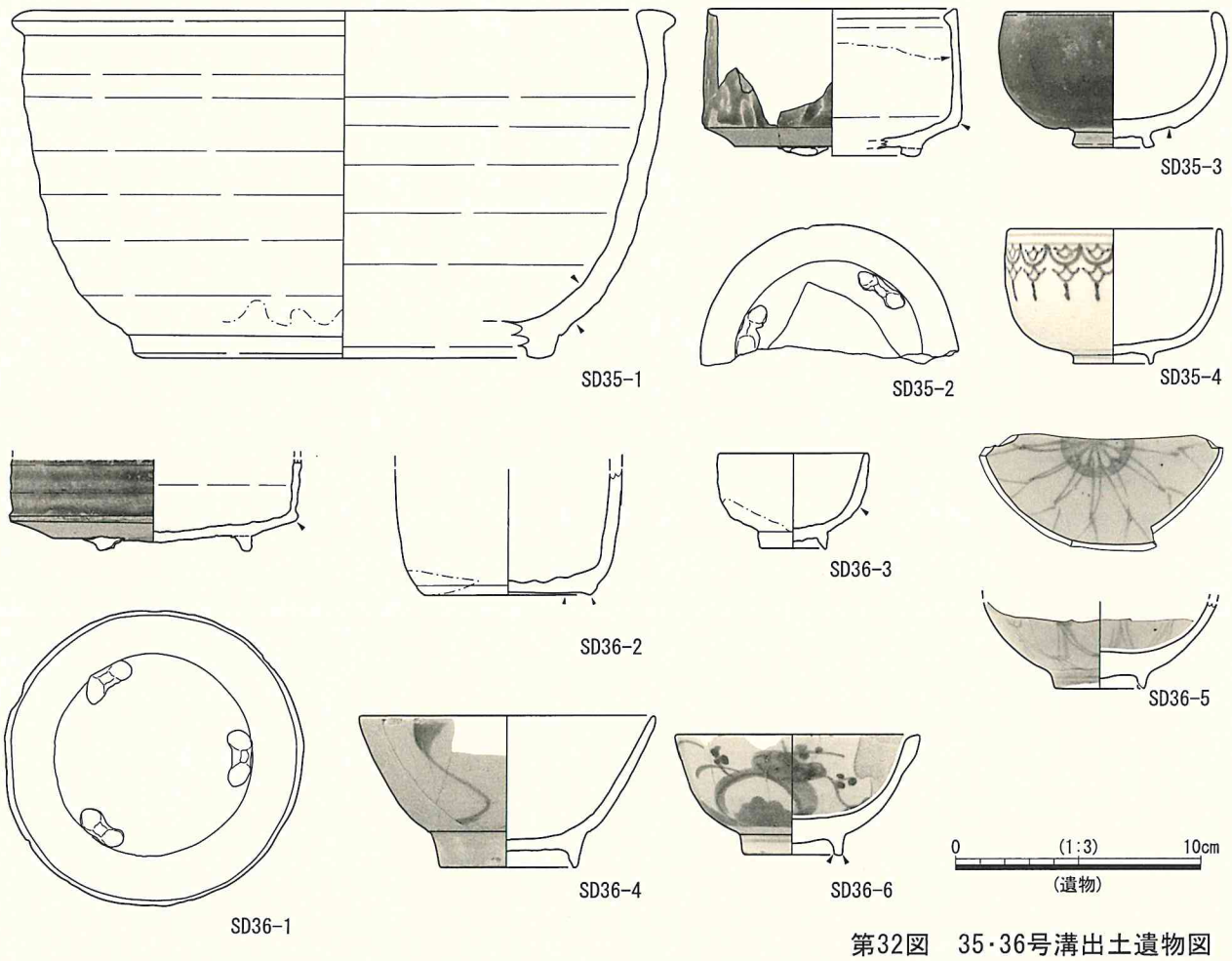
34 ～ 36 号溝



1　黒褐色(10YR3/2)　細砂。As-A・As-Bパミス多量含む。黄褐色粒(鉄分)多量含む。
2　黒褐色(10YR3/2)　細砂。As-Aパミス混入。
3　黒褐色(10YR3/2)　細砂。As-Bパミス混入。
4　黒褐色(10YR2/3)　細砂。As-A・As-Bパミス少量混入。黒褐色粒(鉄分)多量混入。34号溝フク土
5　黒褐色(10YR3/2)　シルト混じり細砂。As-Aパミス混入。暗褐色シルトブロック多量混入。35号溝フク土
6　黒褐色(10YR2/3)　シルト混じり細砂。As-Aパミス少量混入。35号溝フク土
7　黒褐色(10YR2/3)　シルト混じり細砂。暗褐色シルトブロック混入。35号溝フク土
8　黒褐色(10YR2/3)　微砂混じりシルト。褐色微砂ブロック多量混入。地山
9　黒褐色(10YR3/2)　シルト混じり微砂。地山
10　黒褐色(10YR2/3)　微砂混じりシルト。As-Aパミス混入。36号溝フク土

1　黒褐色(10YR3/2)　細砂。As-A・As-Bパミス多量含む。黄褐色粒(鉄分)多量含む。
2　黒褐色(10YR2/3)　シルト混じり細砂。As-Aパミス少量混入。35号溝フク土
3　黒褐色(10YR2/3)　シルト混じり細砂。暗褐色シルトブロック混入。35号溝フク土
4　黒褐色(10YR2/3)　細砂。As-A・As-Bパミス少量混入。黒褐色粒(鉄分)多量混入。34号溝フク土
5　暗褐色(10YR3/3)　細砂。褐色粒(鉄分)混入。34号溝フク土
6　黒褐色(10YR2/3)　微砂混じりシルト。褐色微砂ブロック多量混入。地山
7　黒褐色(10YR3/2)　シルト混じり微砂。地山
8　黒褐色(10YR3/2)　粘質土。地山
9　黒褐色(10YR3/2)　細砂。As-Bパミス混入。
10　黒褐色(10YR2/3)　シルト混じり微砂。地山
11　黒褐色(10YR2/3)　微砂。褐色微砂ブロック(地山)・白色粒混入。地山
12　暗褐色(10YR3/4)　シルト混じり微砂。

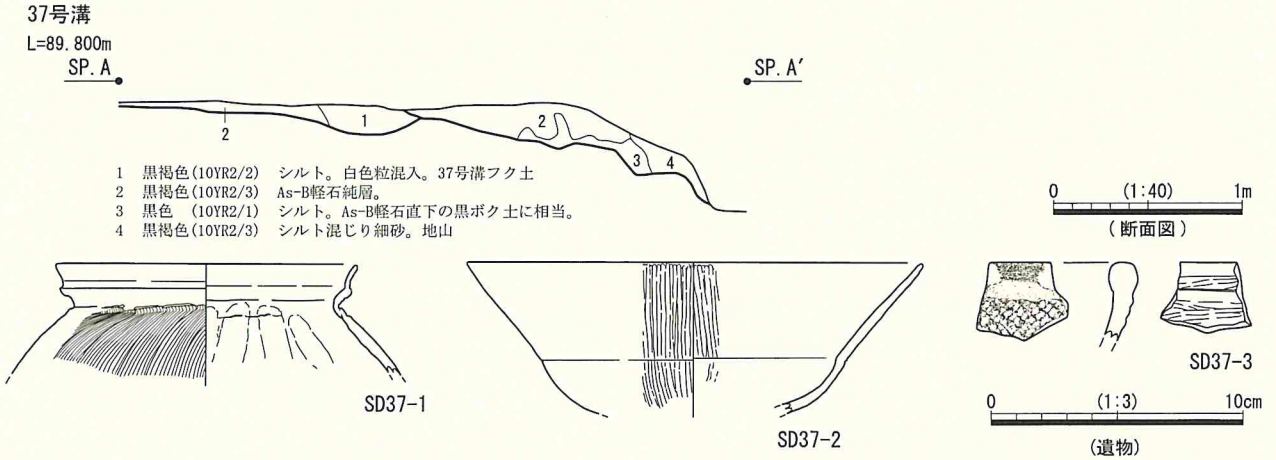
第31図　34～36号溝断面図・出土遺物図



第32図　35･36号溝出土遺物図

37 号溝（第 33 図）

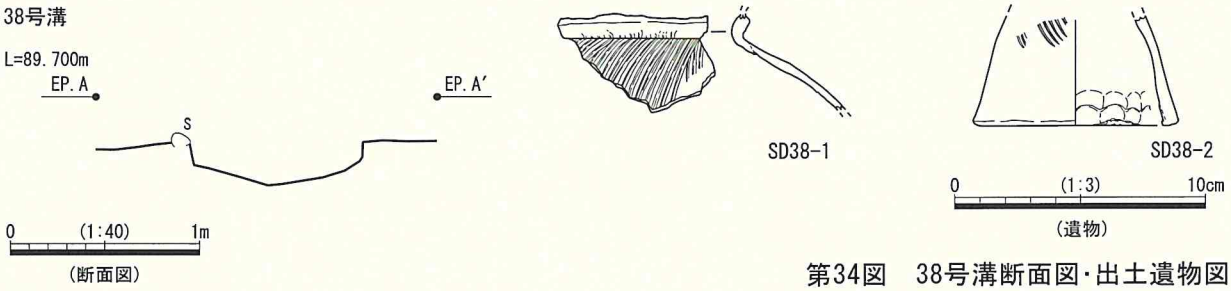
重複：34 号土坑に切られる　**走行方向**：走行方位は N-20°-W で、北西から南東に流れる　**規模・形状**:検出長 15.2m、上幅 0.5 ～ 0.8m、下幅 0.25m、深さ 15cm で底部はほぼ平坦である。　**出土遺物**:土師器甕・S 字甕・坩、縄文土器（縄文中期後葉）　**覆土**：黒褐色シルト層を覆土とし、As-B 軽石純層に掘り込まれる。　**遺構年代**：As-B 純層に掘り込まれることから、As-B 降下以前の廃絶と考えられる。ただし、わずかながら古墳時代前期の土師器が出土しており、流れ込みの可能性があるものの、開削時期が古墳時代まで遡る可能性もある。



第33図　37号溝断面図･出土遺物図

38 号溝（第 34 図）

重複：35 号土坑に切られる　**走行方向**：走行方位は N-20°-W で、北西から南東に流れる　**規模・形状**：検出長 30.0m、上幅 0.95 ～ 1.4m、下幅 0.22 ～ 0.6m、深さ 40cm　**出土遺物**：土師器甕・台付甕・S 字甕・小型丸底壷　**覆土**：黒褐色シルト層　**遺構年代**：出土遺物の帰属年代から古墳時代前期のものと考えられる。



第34図　38号溝断面図・出土遺物図

39 号溝（第 35 図）

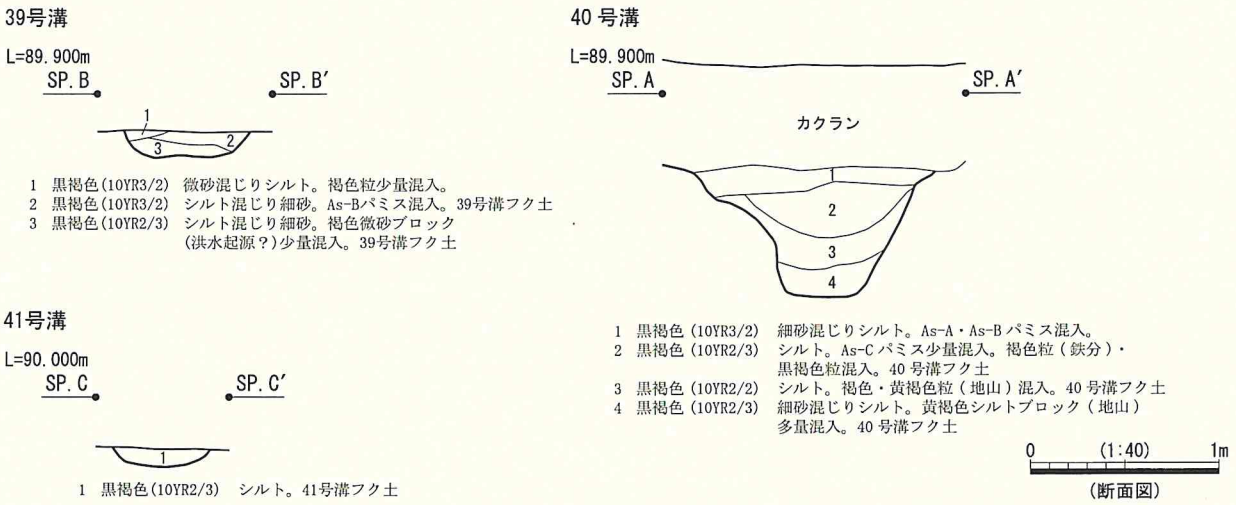
重複：41・42 号溝を掘り込み、40・43 号溝に切られる　**走行方向**：走行方位は N-20°-W で、北西から南東に流れる　**規模・形状**：検出長 26.0m、上幅 0.5 ～ 0.65m、下幅 0.3m、深さ 10cm　**出土遺物**：土師器甕・台付甕、馬歯　**覆土**：As-B 軽石を含む細砂混じりシルト～シルト混じり細砂が堆積することから、水路と考えられる。　**遺構年代**：遺構の重複関係から、As-B 降下以前に開削されたと考えられる。

40 号溝（第 35 図）

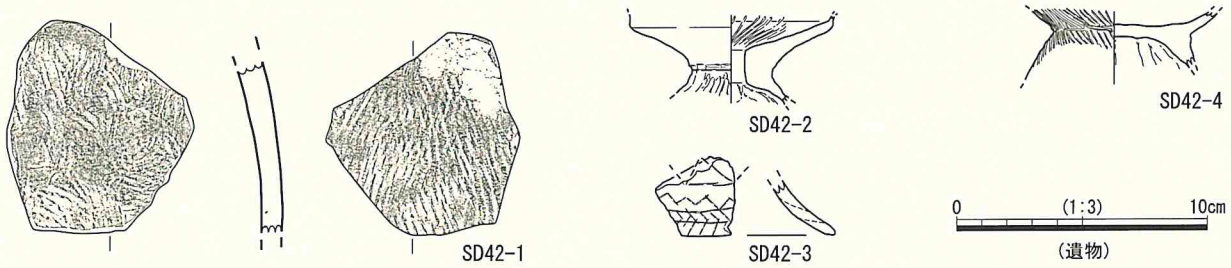
重複：39 号溝を掘り込み、42 号溝に切られる　**走行方向**：走行方位は N-20°-W で、北西から南東に流れる　**規模・形状**：検出長 15.5m、上幅 0.9m、下幅 0.45m、深さ 87cm　**出土遺物**：なし　**覆土**：上層から中層に As-C 軽石を含む黒褐色シルトが堆積し、下層に地山黄色土ブロックを含む細砂混じりシルトが堆積する　**遺構年代**：覆土に As-C 軽石を含むことから、As-C 降下以降に廃絶したと考えられる。

41 号溝（第 35 図）

重複：42 号溝を掘り込み、39 号溝に切られる　**走行方向**：走行方位は N-3°-W で、北から南に流れる　**規模・形状**：検出長 2.3m、上幅 0.5m、下幅 0.3m、深さ 10cm　**出土遺物**：土師器甕・S 字甕　**覆土**：黒褐色シルト　**遺構年代**：出土遺物がなく、鍵層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできない。



第35図　39～41号溝断面図



第36図　42号溝出土遺物図

42 号溝（第 36･37 図）

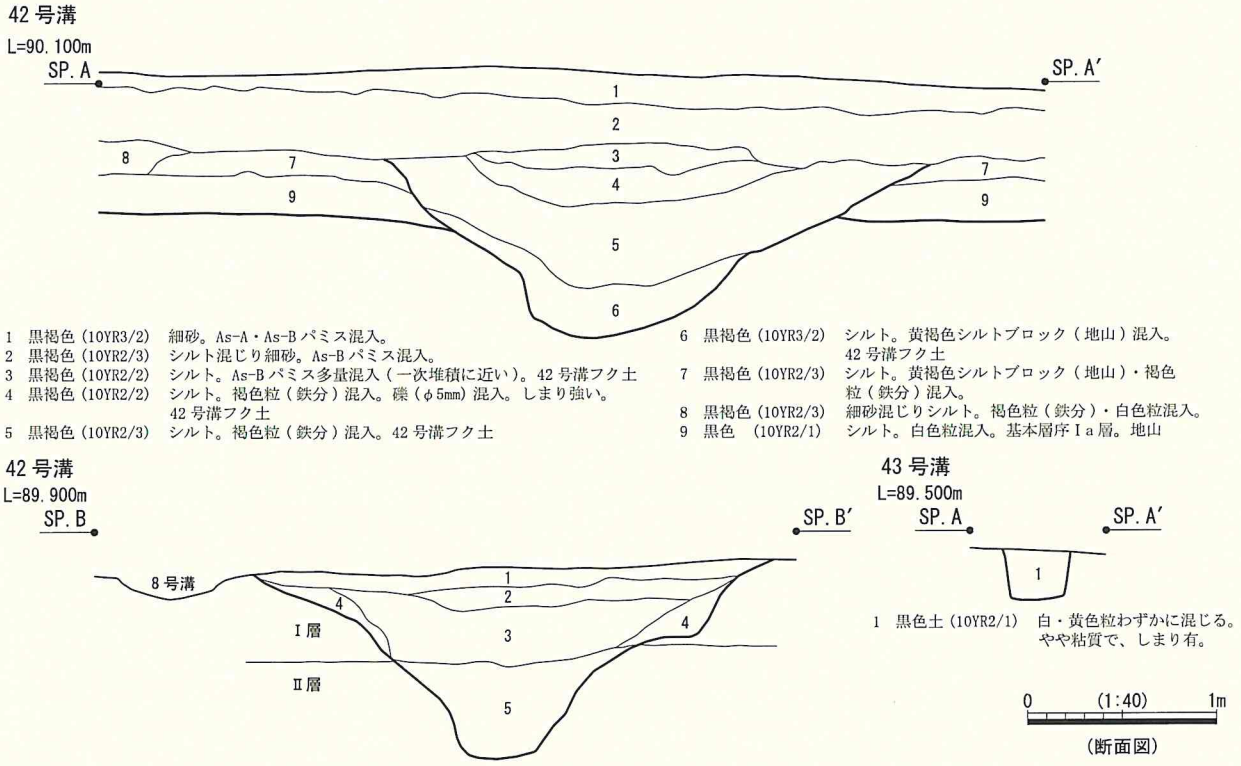
重複：40 号溝を掘り込み、39・41・43 号溝・17 号井戸に切られる　**走行方向**：走行方位は N-25°-W で、北西から南東に流れる　**規模・形状**：検出長 27.0m、上幅 1.9 ～ 2.8m、下幅 0.4 ～ 0.7m、深さ 1.0m　**出土遺物**:須恵器甕、土師器壷・甕・S 字甕・器台、弥生土器（吉ヶ谷式系）、内耳鍋　**覆土**:上層に一次堆積に近い As-B が堆積し、下層は地山黄色土ブロックを含む黒褐色シルトが堆積することから、水を溜めた堀のような区画溝と考えられる。ただし、上層に 2 ～ 5mm 大の礫を含むことから、水路として使用された時期もあったとみられる。　**遺構年代**：覆土の上層に一次堆積に近い As-B が堆積することから、As-B 降下以前に廃絶したと考えられる。出土遺物の大半が古墳時代前期に帰属することから、流れ込みの可能性があるものの、開削時期が古墳時代まで遡る可能性がある。

備考：平成 20 年度下中居天神裏遺跡 4 区 27 号溝と同一の溝

43 号溝（第 37 図）

重複：39・40・42 号溝を掘り込む　**走行方向**：走行方位は N-30°-E で、北東から南西に流れる

規模・形状：検出長 19.0m、上幅 0.45m、下幅 0.2m、深さ 25cm　**出土遺物**：陶器碗　**覆土**：黒色粘質土　**遺構年代**：遺構の重複関係から As-B 降下以降の開削と考えられる。



第37図　42･43号溝断面図

44 号溝（第 38 ～ 40 図）

重複：52・53 号溝を掘り込み、47 号溝に切られる　**走行方向**：走行方向はN-52°-W で、北西から南東に流れる　**規模・形状**：検出長 37.9m、上幅 4.7m以上、下幅 4.4m以上、深さ 63cm　**出土遺物**：陶磁器碗・皿、染付碗、軟質陶器鉢、丸瓦・平瓦、五輪塔、須恵器甕、土師器甕、S 字甕、縄文土器、鉄片、動物の歯　**覆土**：細砂質、最下層に砂利層　**遺構年代**：出土遺物から中世に開削されたと考えられる。

45 号溝（第 38･40･41 図）

重複：46・52・53 号溝を掘り込み、47 号溝に切られる　**走行方向**：走行方向はN-50°-W で、北西から南東に流れる　**規模・形状**：検出長 36.8m、上幅 2.7 ～ 2.95m、下幅 0.4 ～ 0.5m、深さ 45 ～ 99cm　**出土遺物**：軒丸瓦・丸瓦・平瓦、龍泉窯青磁碗、片口鉢、焙烙、土師質土器皿、鞴羽口、銅銭、須恵器壺、土師器甕・壺・高坏、S 字甕　**覆土**：砂質、下層は粘質を呈する部分もある　**遺構年代**：出土遺物から中世に開削されたと考えられる。　**備考**：薬研掘りであり、中層より瓦が点的に出土。東部では古墳時代前期の土師器の混入が多数みられる。

46 号溝（第 38 図）

重複：45 号溝に切られる　**走行方向**：走行方向はN-53°-W で、北西から南東に流れる　**規模・形状**：検出長 8.5m、上幅 1.0 ～ 1.4m、下幅 0.7 ～ 1.1m、深さ 26cm　**出土遺物**：熨斗瓦、平瓦、S 字甕、縄文土器　**覆土**：砂粒を含む粘質土　**遺構年代**：出土遺物から中世に開削されたと考えられる。

47 号溝（第 39 図）

重複：11・44・45 号溝を掘り込む　**走行方向**：走行方向はN-34°-E で、北東から南西に流れる　**規模・形状**：検出長 7.8m、上幅 0.7m、下幅 0.4m、深さ 41cm　**出土遺物**：磁器碗、平瓦、土師器小片　**覆土**：砂質、As-A 軽石を少量含む　**遺構年代**：出土遺物および覆土の状況から As-A 降下以降と考えられる。

48 号溝（第 39 図）

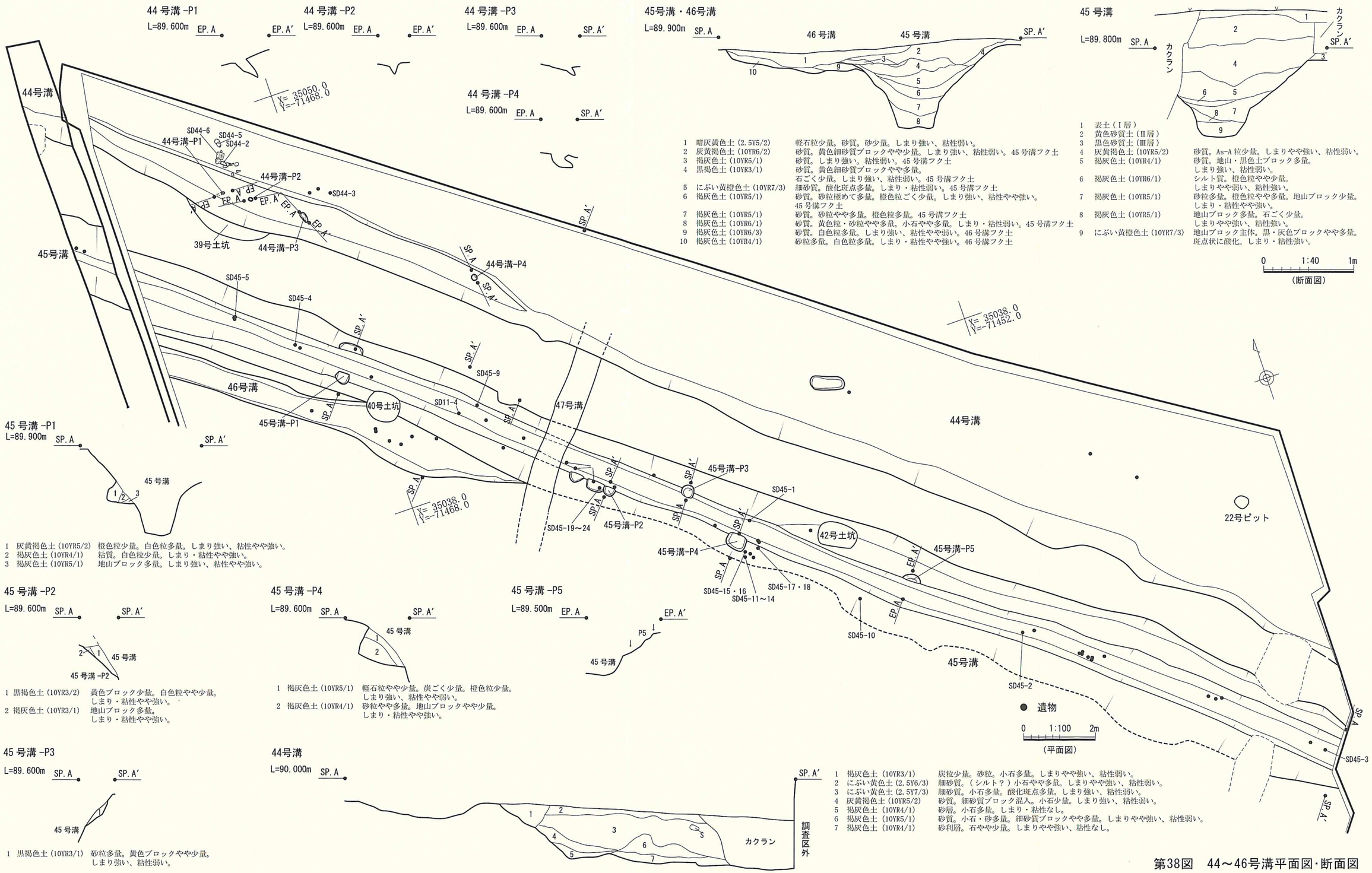
重複：11 号溝と重複するが前後関係不明　**走行方向**：走行方向はN-50°-E で、南西から北東に流れる　**規模・形状**：検出長 6.4m、上幅 1.1 ～ 1.5m、下幅 0.75 ～ 1.2m、深さ 40cm　**出土遺物**：陶器小片、S 字甕　**覆土**：地山黄色土ブロックの混入がみられる。最下層に砂層を形成　**遺構年代**：出土遺物から中世に開削されたと考えられる。

49 号溝（第 39 図）

重複：11 号溝と重複するが前後関係不明　**走行方向**：走行方向はN-57°-E で、南西から北東に流れる　**規模・形状**：検出長 10.4m、上幅 0.5 ～ 0.9m、下幅 0.65 ～ 1.15m、深さ 25cm　**出土遺物**：土師器小片　**覆土**：地山黄色土ブロックの混入が多くみられる　**遺構年代**：As-B 軽石を含まないため B 降下以前の可能性があるが、出土遺物が僅少であるため断定することはできない。

50 号溝（第 39･41 図）

重複：15 号溝に切られ、11 号溝と重複するが前後関係不明　**走行方向**：走行方向はN-44°-E で、南西から北東に流れる　**規模・形状**：検出長 11.5m、上幅 1.2m、下幅 0.9m、深さ 39cm　**出土遺物**：陶器皿、丸瓦・平瓦、土師器台付甕・壺、S 字甕、縄文土器　**覆土**：砂粒を少量含む粘質土。下層は地山黄色土ブロックの混入が多くみられる　**遺構年代**：出土遺物から中世に開削されたと考えられる。



1　灰黄褐色土 (10YR5/2)　橙色粒少量。白色粒多量。しまり強い、粘性やや強い。
2　褐灰色土 (10YR4/1)　粘質。白色粒少量。しまり・粘性やや強い。
3　褐灰色土 (10YR5/1)　地山ブロック多量。しまり強い、粘性やや強い。

1　黒褐色土 (10YR3/2)　黄色ブロック少量。白色粒やや少量。しまり・粘性やや強い。
2　褐灰色土 (10YR3/1)　地山ブロック多量。しまり・粘性やや強い。

1　黒褐色土 (10YR3/1)　砂粒多量。黄色ブロックやや少量。しまり強い、粘性弱い。

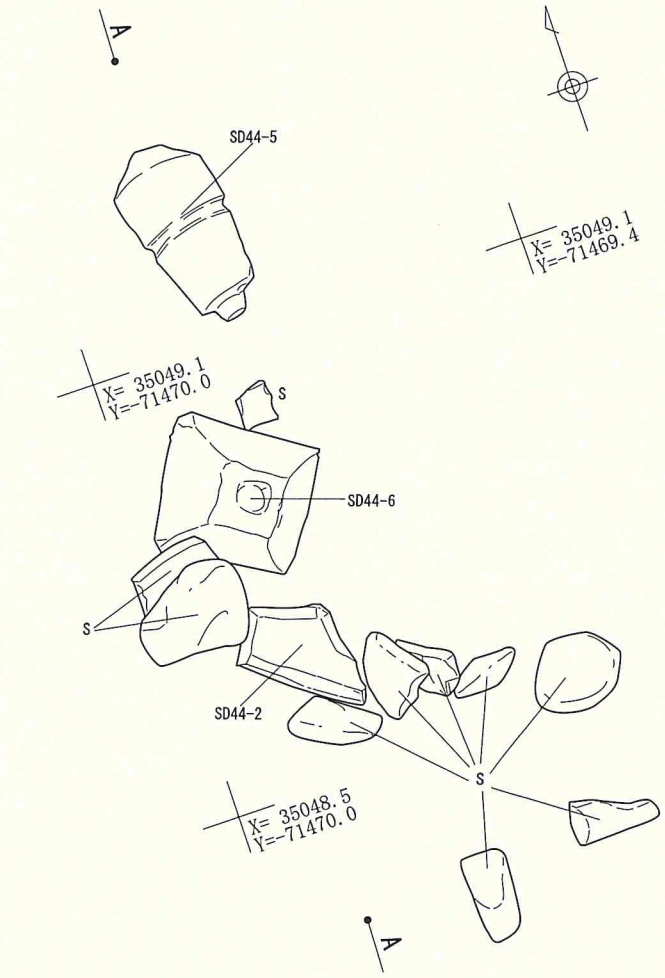
1　褐色土 (10YR3/1)　炭粒少量。砂粒。小石多量。しまりやや強い、粘性弱い。
2　にぶい黄色土 (2.5Y6/3)　細砂質。（シルト？）小石やや多量。しまりやや強い、粘性弱い。
3　にぶい黄色土 (2.5Y7/3)　細砂質。小石多量。酸化斑点多量。しまり強い、粘性弱い。
4　灰黄褐色土 (10YR5/2)　砂質。細砂質ブロック混入。小石少量。しまり強い、粘性弱い。
5　褐灰色土 (10YR4/1)　砂層。小石多量。しまり・粘性なし。
6　褐灰色土 (10YR5/1)　砂質。小石・砂多量。細砂質ブロックやや多量。しまりやや強い、粘性弱い。
7　褐灰色土 (10YR4/1)　砂利層。石やや少量。しまりやや強い、粘性なし。

1　暗灰黄色土 (2.5Y5/2)　軽石粒少量。砂質。砂少量。しまり強い、粘性弱い。
2　灰黄褐色土 (10YR6/2)　砂質。黄色細砂質ブロックやや少量。しまり強い、粘性弱い。45 号溝フク土
3　褐灰色土 (10YR5/1)　砂質。しまり強い。粘性弱い。45 号溝フク土
4　黒褐色土 (10YR3/1)　砂質。黄色細砂質ブロックやや多量。石ごく少量。しまり強い、粘性弱い。45 号溝フク土
5　にぶい黄橙色土 (10YR7/3)　細砂質。酸化斑点多量。しまり・粘性弱い。45 号溝フク土
6　褐灰色土 (10YR5/1)　砂質。砂粒極めて多量。橙色粒ごく少量。しまり強い、粘性やや強い。45 号溝フク土
7　褐灰色土 (10YR5/1)　砂質。砂粒やや多量。橙色粒多量。45 号溝フク土
8　褐灰色土 (10YR6/1)　砂質。黄色粒・砂粒やや多量。小石やや多量。しまり・粘性弱い。45 号溝フク土
9　褐灰色土 (10YR6/3)　砂質。白色粒多量。しまり強い、粘性やや弱い。46 号溝フク土
10　褐灰色土 (10YR4/1)　砂粒多量。白色粒多量。しまり・粘性やや強い。46 号溝フク土

1　表土（Ⅰ層）
2　黄色砂質土（Ⅱ層）
3　黒色砂質土（Ⅲ層）
4　灰黄褐色土 (10YR5/2)　砂質。As-A 粒少量。しまりやや強い、粘性弱い。
5　褐灰色土 (10YR4/1)　砂質。地山・黒色土ブロック多量。しまり強い、粘性弱い。
6　褐灰色土 (10YR6/1)　シルト質。橙色粒やや少量。しまりやや弱い、粘性強い。
7　褐灰色土 (10YR5/1)　砂粒多量。橙色粒やや多量。地山ブロック少量。しまり・粘性やや強い。
8　褐灰色土 (10YR5/1)　地山ブロック多量。石ごく少量。しまりやや強い、粘性強い。
9　にぶい黄橙色土 (10YR7/3)　地山ブロック主体。黒・灰色ブロックやや多量。斑点状に酸化。しまり・粘性強い。

第38図　44～46号溝平面図・断面図

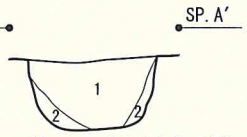
44号溝遺物出土状況図



(遺物出土状況図)

47 号溝

L=89.900m

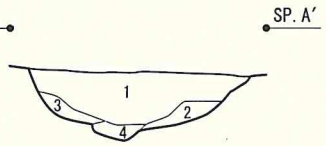


1　にぶい黄色土 (2.5Y6/3)　As-A 粒やや少量。砂質。しまりやや強い、粘性弱い。

2　灰黄褐色土 (10YR6/2)　As-A 粒少量。しまり・粘性やや強い。

48 号溝

L=90.000m



1　褐灰色土 (10YR4/1)　黄色土ブロックやや少量。しまり・粘性やや弱い。

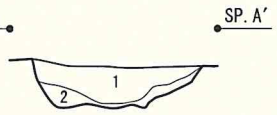
2　にぶい黄褐色土 (10YR5/3)　黄色土ブロック少量。しまりやや弱い、粘性やや強い。

3　灰褐色土 (10YR5/2)　黄色土ブロックやや少量。しまり・粘性やや弱い。

4　黒褐色土 (10YR3/1)　砂質。黄色土ブロックやや多量。しまり・粘性弱い。

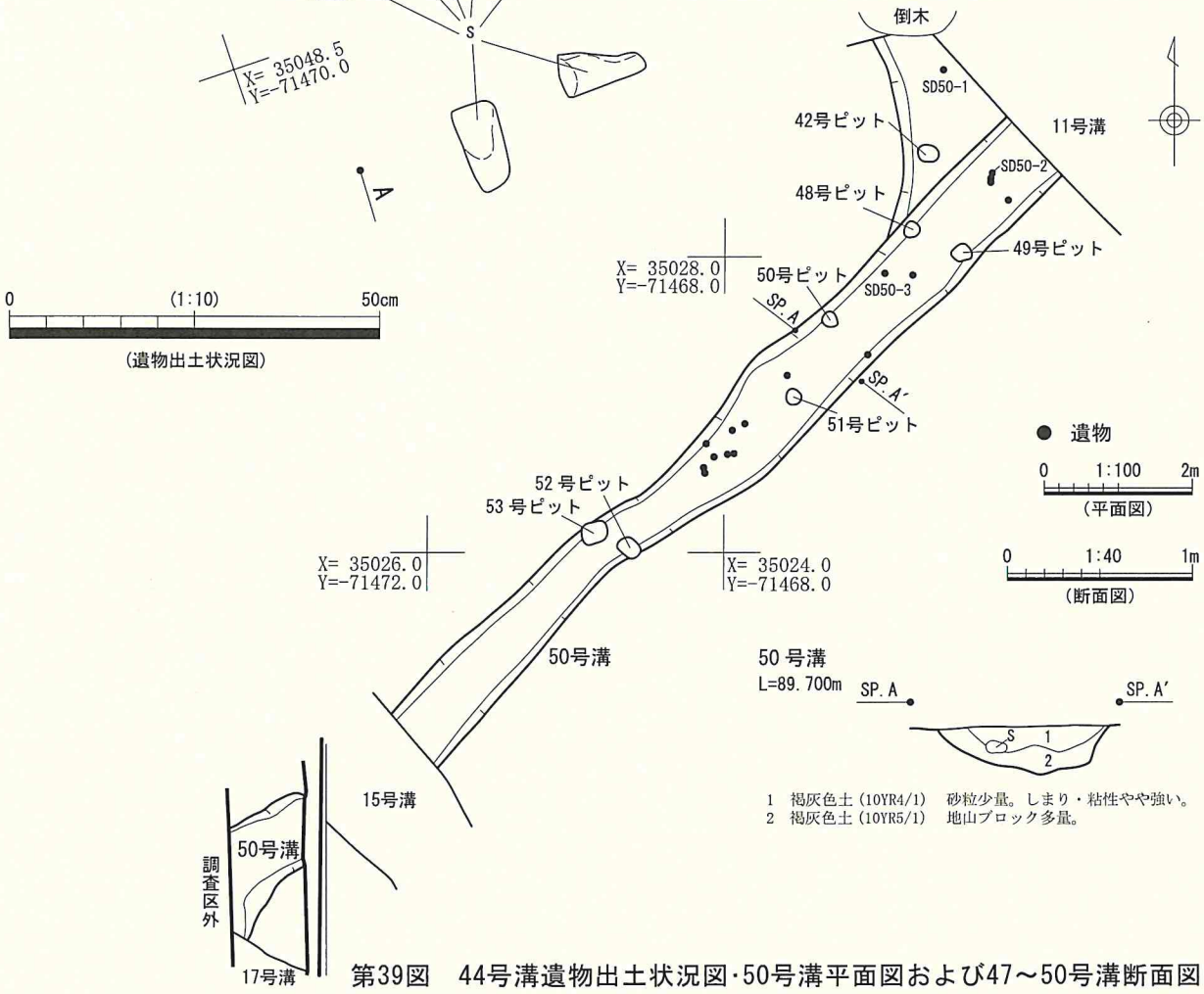
49 号溝

L=89.800m



1　褐灰色土 (10YR4/1)　白色粒やや少量。黄色土ブロックやや多量。しまり強い、粘性弱い。

2　褐灰色土 (10YR5/1)　地山ブロック多量。



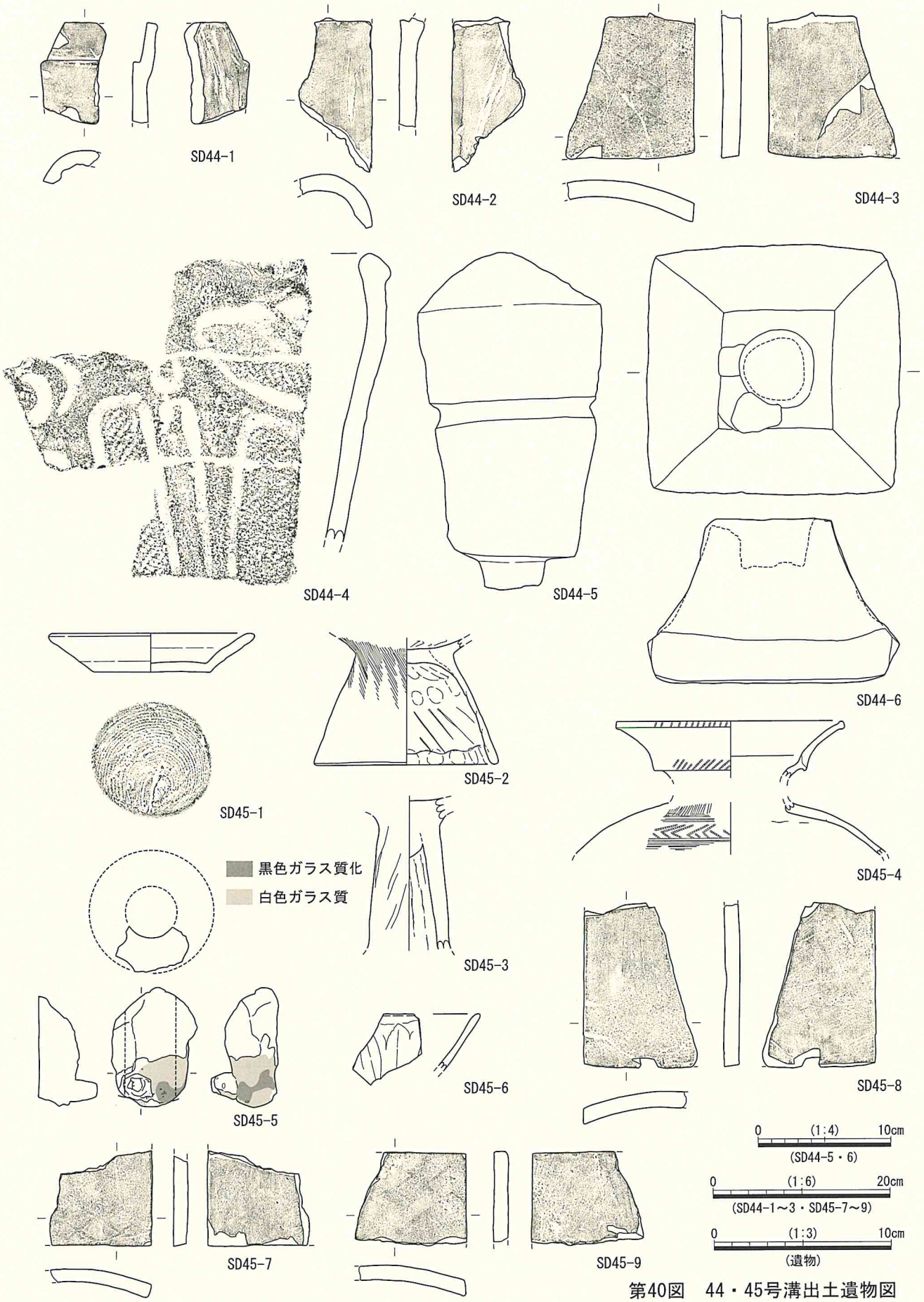
50 号溝

L=89.700m

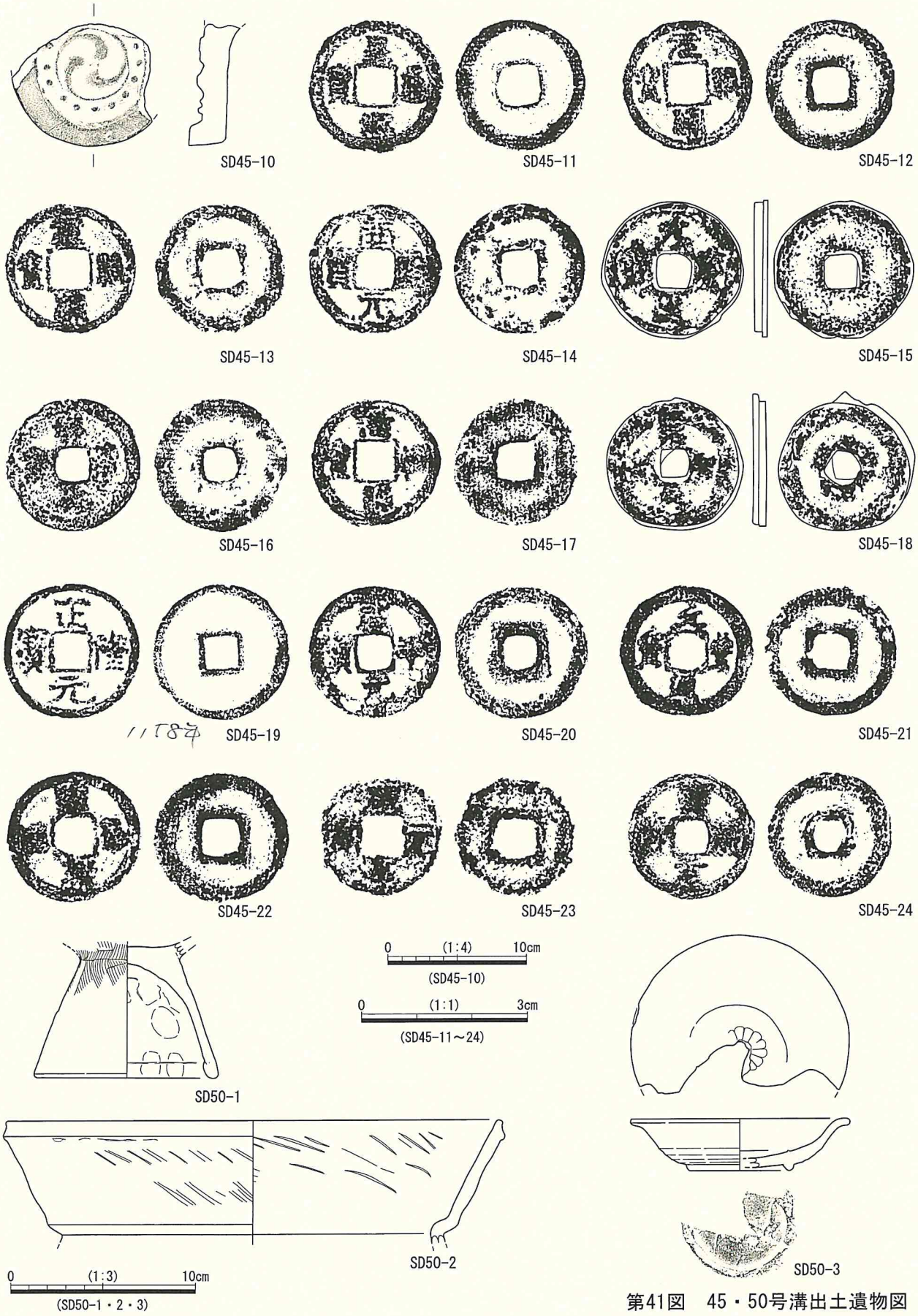
1　褐灰色土 (10YR4/1)　砂粒少量。しまり・粘性やや強い。

2　褐灰色土 (10YR5/1)　地山ブロック多量。

第39図　44号溝遺物出土状況図・50号溝平面図および47～50号溝断面図



第40図　44・45号溝出土遺物図



第41図　45・50号溝出土遺物図

51 号溝（第 42 図）

重複：50 号溝と重複するが前後関係不明　**走行方向**：走行方向は N-61°-W で、南東から北西に流れる　**規模・形状**：検出長 5.8m、上幅 0.5 ～ 0.9m、下幅 0.2、深さ 10 ～ 19cm　**出土遺物**：土師器小片、S 字甕　**覆土**：砂粒を少量、地山黄色土ブロックを多量に含む　**遺構年代**：出土遺物および覆土中に As-B 軽石を含まないことから古墳時代前期頃の可能性がある。

52 号溝（第 42 図）

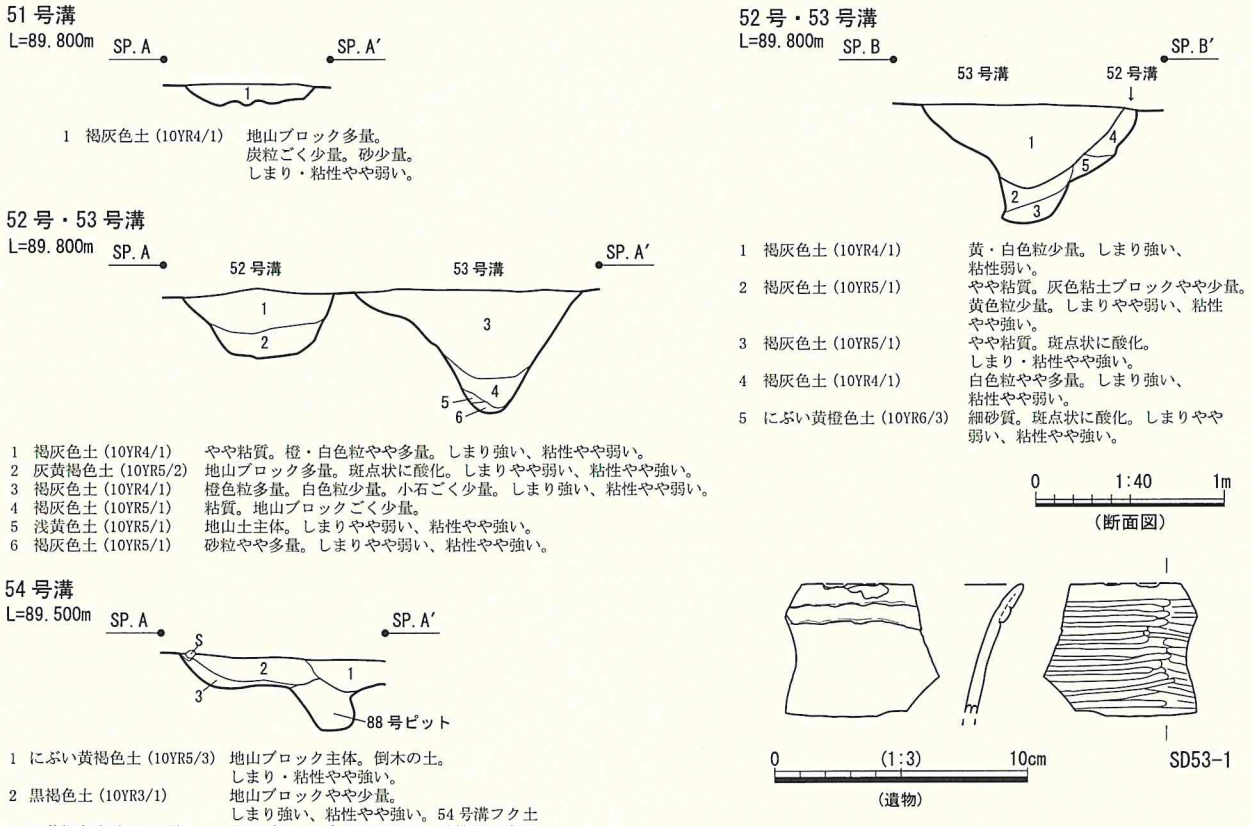
重複：11・14・15・44・45・53 号溝に切られる　**走行方向**：走行方向は N-50°-E および N-64°-E で、北東から南西に流れる　**規模・形状**：検出長 20.5m、上幅 0.8 ～ 1.6m、下幅 0.6 ～ 0.9m、深さ 34cm　**出土遺物**：土師器甕、S 字甕　**覆土**：粘質土。下層は地山黄色土ブロックの混入が多くみられる　**遺構年代**：出土遺物および覆土中に As-B 軽石を含まないことから古墳時代前期頃の可能性がある。

53 号溝（第 42 図）

重複：52 号溝を掘り込み、11・14・44・45・53 号溝に切られる　**走行方向**：走行方向は N-51°-E および N-73°-E で、北東から南西に流れる　**規模・形状**：検出長 21.4m、上幅 0.8 ～ 1.0m、下幅 0.6 ～ 0.7m、深さ 65cm　**出土遺物**：土師器甕・壺、S 字甕、弥生土器甕　**覆土**：粘質土　**遺構年代**：出土遺物および覆土中に As-B 軽石を含まないことから古墳時代前期頃の可能性がある。

54 号溝（第 42 図）

重複:14 号溝に切られる　**走行方向**:走行方向は N-40°-E で、北東から南西に流れる　**規模・形状**:検出長 6.0m、上幅 0.5 ～ 0.75m、下幅 0.35 ～ 0.5m、深さ 19cm　**出土遺物**：土師器小片、S 字甕　**覆土**：地山黄色土ブロックを多く含む粘質土　**遺構年代**：As-B 軽石を含まないため As-B 降下以前の可能性があるが、出土遺物が僅少であるため断定することはできない。



第42図　51～54号溝断面図・53号溝出土遺物図

第２表　溝跡出土遺物観察表①

図版	出土地	番号	種別 器種	法量（cm） 口径	底径	器高	調整 外面	内面	色調	胎土	残存	備考
第11図 PL.14	1区 SD3	1	土師器 壺	16.8	—	[16.7]	口縁部薄い粘土帯付加による折り返し後ヨコナデ・指オサエ、頸部ヨコナデ、胴部タテ・ヨコミガキ	口縁～頸部ヨコミガキ、胴部ヘラナデ	にぶい橙 10YR7/4 ～暗灰 N3/0	石英、黒雲母粒、白色粒多量	1/3	口縁部に輪積み痕を残すなど吉ヶ谷式系壺の影響が見られる
第11図 PL.15	1区 SD3	2	土師器 壺	(15.3)	7.7	26.6	口縁部ハケナデ後タテミガキ、胴部タテケズリ後タテミガキ、底部ハケナデ後ミガキ	口縁部ヨコハケ後ヨコミガキ、頸部ハケ後ナデ、胴部～底部ヨコ・ナナメハケ	浅黄橙 7.5YR8/6	石英、黒雲母粒、白色・赤色粒	3/4	球形胴化、胴部下端が屈曲するなど東海西部系壺の影響が見られる　焼成時の黒斑あり
第11図 PL.15	1区 SD3	3	土師器 壺	—	7.2	[25.8]	タテミガキ	ヘラナデ	浅黄橙 10YR8/4	長石、黒・褐色粒	2/3	—
第11図 PL.15	1区 SD3	4	土師器 小型壺	11.5	4.5	12.5	口縁部タテハケ、頸部タテハケ後ヨコナデ、胴部タテ・ナナメミガキ、底部ケズリ後ナデ	口縁部ヨコミガキ、肩部ヨコヘラナデ、胴部下半～底部ナナメヘラナデ	橙 5YR6/6	石英、黒雲母粒、赤色粒	完形	外面赤彩
第11図 PL.15	1区 SD3	5	土師器 坩	11.4	—	[14.3]	口縁部タテミガキ、頸部ヨコナデ、胴部ヨコハケ後タテ・ヨコミガキ	口縁部タテ・ナナメミガキ、胴部上半指オサエ・ヨコナデ、胴部下半ヘラナデ	明赤褐 5YR5/6	石英、長石、黒雲母粒、白色微細粒	1/2	布留傾向か
第11図 PL.15	1区 SD3	6	土師器 S字甕	16.2	9.8	29.8	口縁部ヨコナデ、胴部ナナメハケ、台部ナナメハケ後指ナデ・オサエ	口縁部ヨコナデ、肩部指ナデ・オサエ、胴部上位～中位タテナデ、下位ヨコナデ、一部ヘラナデ、台部下端折り返し後指ナデ・オサエ	浅黄橙 10YR8/4	石英、黒雲母粒、長石	2/3	台部内面に白色粒を多量に含む土貼付 古墳前期中葉以降
第11図 PL.15	1区 SD3	7	土師器 坏	(14.4)	—	[3.0]	ヨコミガキ	ヨコミガキ	赤 10YR5/6	白・黒色粒	口縁部 破片	内外面赤彩
PL.15	1区 SD3	8	土師器 甕	(16.8)	—	[7.4]	ヘラナデ	ヘラナデ	橙 7.5YR7/6	長石、白・黒色粒	口縁部 1/4	—
第12図 PL.15	1区 SD3	9	土師器 高坏	—	—	[5.5]	ヘラミガキ	坏部ナデ後ヨコミガキ。脚部指ナデ。脚部上半シボリ痕。	橙 7.5YR7/6	白・黒・褐色粒	2/3	透孔2ヵ所残存
第12図 PL.15	1区 SD3	10	土師器 器台	—	13.9	[6.4]	脚部上半タテミガキ、脚部下半ヨコミガキ、裾部ヨコナデ。	脚部上半ナデ、脚部下半～裾部ヨコ・ナナメハケ後ナデ	橙 7.5YR6/6	黒雲母粒多量、白色粒	1/2	脚部透孔2段3孔
第12図 PL.15	1区 SD3	11	土師器 ミニチュア高坏	5.2	4.5	4.1	指ナデ後ヨコミガキ	坏部指ナデ・一部ヨコハケ後ヨコミガキ、脚部指ナデ後ヨコ・タテミガキ	にぶい橙 7.5YR7/4	石英、黒雲母粒、赤色粒	完形	—

図版	出土地	番号	種別 器種	法量（cm） 口径	底径	器高	成・整形技法の特徴	色調	胎土	残存	備考
第12図 PL.15	1区 SD3	12	縄文土器 深鉢	—	—	—	波状口縁。口縁部に刻みを加えた細い隆帯を１条巡らせる。以下沈線による区画と単節LR縄文横位充填施文により幾何学的な文様が施される。口唇内面は抉られる。	黄灰 2.5Y4/1	石英、長石、黒色粒	破片	縄文後期前葉 堀之内２式

図版	出土地	番号	種別 器種	法量（cm） 口径	底径	器高	調整 外面	内面	色調	胎土	残存	備考
第12図 PL.15	1区 SD3	13	土師器 甕か壺	—	—	—	粗いナナメハケ	タテ・ナナメミガキ	灰黄 2.5Y7/2	石英、長石、黒色粒	破片	口縁部帯状の剥離痕
第12図 PL.15	1区 SD3	14	須恵器 壺	—	8.6	—	ロクロナデ。底部ヘラ切り後高台貼付。	ロクロナデ。	褐灰色 10YR5/1	長石、白・黒色粒	底部 4/5	—

図版	出土地	番号	種別 器種	法量(cm) 外径	内径	重量(g) 長さ	重さ	色調	作成技法等の特徴	残存	備考
第12図 PL.15	1区 SD4	1	フイゴ　羽口	6.5	2.5	[7.8]	86.0	灰白色 10YR7/1	先端は溶解し、黒色にガラス質化しており、白色のガラス質物が付着。内外面ナデ。	1/3	—

図版	出土地	番号	種別 器種	法量（cm） 口径	底径	器高	調整 外面	内面	色調	胎土	残存	備考
第12図 PL.15	1区 SD4	2	軟質陶器 片口鉢	(28.6)	—	[10.6]	ロクロナデ。	ヘラナデ。	橙 5YR6/6	雲母粒、白色粒	1/5	—

図版	出土地	番号	種別 器種	法量（cm） 口径	底径	器高	調整 外面	内面	色調	胎土	残存	備考
第14図 PL.15	1区 SD7	1	土師器 壺	15.8	6.8	31.8	口縁部薄い粘土帯付加による折り返し後ヨコハケ、頸部タテハケ後タテミガキ、胴部ミガキ	口縁～頸部ヨコ・ナナメハケ、胴部上位～中位ヘラナデ、下位ヨコ・ナナメハケ	にぶい黄橙 10YR7/4	石英、黒雲母粒、チャート、白色微細粒	2/3	—
第14図 PL.15	1区 SD7	2	土師器 壺	(20.0)	—	[9.0]	口縁～頸部ヨコナデ、肩部タテミガキ	口縁～頸部ヨコナデ、肩部ナデ、指オサエ	橙 7.5YR7/6	石英、長石、黒・褐色粒	口縁部 1/2	—
第14図 PL.15	1区 SD7	3	土師器 小型壺	11.8	—	[7.3]	口縁部ヨコナデ後タテミガキ、胴部ナデ後タテ・ヨコミガキ	口縁部ヨコナデ後タテミガキ、頸部ヨコハケ後ナデ、胴部ヘラケズリ	にぶい黄橙 10YR7/4	石英、黒雲母粒	1/3	—

第３表　溝跡出土遺物観察表②

図版	出土地	番号	種別 器種	法量（cm） 口径	底径	器高	調整 外面	内面	色調	胎土	残存	備考
第14図 PL.16	1区 SD7	4	土師器 小型甕	11.9	4.7	13.5	口縁部ヨコナデ後タテミガキ、胴部ヘラケズリ後ミガキ	口縁部ヨコハケ後タテミガキ、胴部ナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	石英、黒雲母粒、長石、赤色粒、白色微細粒多量	4/5	—
第14図 PL.16	1区 SD7	5	土師器 小型壺	—	2.2	[12.5]	口縁部ヨコナデ後タテミガキ、胴部ヨコケズリ後ヨコ・ナナメミガキ	口縁部ナデ後タテミガキ、胴部ハケ・指ナデ	浅黄橙 10YR8/4	石英、長石、黒雲母粒、白色微細粒	4/5	焼成時の黒斑あり
第15図 PL.16	1区 SD7	6	土師器 小型壺	—	4.0	[10.2]	タテ・ナナメミガキ	頸部タテ・ナナメミガキ、胴部ヘラナデ、底部ヨコハケ	にぶい橙 7.5YR7/3	石英、黒雲母粒、長石、赤色粒	2/3	焼成時の黒斑あり
第15図 PL.16	1区 SD7	7	土師器 坩	10.2	—	7.8	口縁部ヨコナデ後タテ・ナナメミガキ、体部ケズリ後ミガキ	口縁部ヨコナデ後タテ・ナナメミガキ、体部指ナデ・オサエ	浅黄橙 10YR8/3	石英、雲母粒、片岩、白色微細粒	4/5	—
第15図 PL.16	1区 SD7	8	土師器 坩	(8.9)	—	[7.4]	口縁部ヨコナデ後ミガキ、体部ナデ・一部ハケ後ミガキ	口縁部ヨコナデ後ミガキ、体部ヘラナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	石英、黒雲母粒	1/2	—
第15図 PL.16	1区 SD7	9	土師器 小型丸底壺	(9.6)	—	[5.8]	口縁部タテミガキ、肩部強いナデ、胴部ヨコケズリ後ヨコミガキ	口縁部ヨコミガキ、胴部ナデ	橙色 7.5YR7/6	長石、黒・褐色粒	1/4	布留系
第15図 PL.16	1区 SD7	10	土師器 小型丸底壺	(10.0)	—	[3.9]	口縁・胴部タテミガキ、肩部強いナデ	口縁部ヨコミガキ、胴部ナデ	橙色 5YR6/8	雲母粒、長石、黒・褐色粒	口縁部 1/3	—
第15図 PL.16	1区 SD7	11	土師器 小型丸底壺	(11.2)	—	[3.8]	口縁部ヨコミガキ	口縁部ヨコミガキ	にぶい褐色 7.5YR6/4	黒雲母、白色微細粒	口縁部 1/2	—
第15図 PL.16	1区 SD7	12	土師器 小型甕	(11.1)	—	[7.5]	口縁部ヨコミガキ・胴部タテ・ヨコミガキ	ヨコミガキ	浅黄橙 10YR8/3	石英、白色微細粒、赤色粒	1/4	布留傾向か
第15図 PL.16	1区 SD7	13	土師器 小型壺か鉢	—	4.1	[5.4]	ヘラミガキ	ヘラナデ後ヘラミガキ	にぶい橙 5YR7/4	長石、黒・褐色粒	胴部 1/3	—
第15図 PL.16	1区 SD7	14	土師器 S字甕	(14.5)	—	10.1	口縁部ヨコナデ、頸部～胴部タテ・ナナメハケ	口縁部・胴部ヘラナデ、頸部指ナデ	にぶい黄橙 10YR7/2	石英、黒雲母粒、片岩、白色微細粒	1/5	口縁部を伸長(山陰系甕との折衷)
第15図 PL.16	1区 SD7	15	土師器 S字甕	14.4	—	[7.0]	口縁部ヨコナデ、肩部ナナメハケ	口縁部ヨコナデ、頸部ナデ・指オサエ、肩部ナナメナデ、ヘラナデ	浅黄橙 10YR8/3	石英、黒雲母粒、片岩、赤色粒	1/5	—
第15図 PL.16	1区 SD7	16	土師器 S字甕	(16.2)	—	[6.4]	口縁部ヨコナデ、肩部ナナメハケ	口縁部ヨコナデ、肩部指ナデ	灰黄褐 10YR6/2	長石、褐色粒	口縁部 破片	—
第15図 PL.16	1区 SD7	17	土師器 甕	17.9	—	[4.4]	口縁部ナナメハケ後ヨコナデ、肩部ヘラケズリ後ナデ	口縁部ヨコハケ後ヨコナデ、肩部ヘラケズリ後ナデ・指オサエ	にぶい黄橙 10YR7/4	石英、黒雲母粒、チャート、白色微細粒	口縁部	—
第15図 PL.16	1区 SD7	18	土師器 台付甕	—	—	[22.7]	ハケナデ後ケズリ・ナデ	胴部ヘラナデ、胴部下端ハケナデ	にぶい黄橙 10YR7/3	長石、黒・褐色粒	1/4	—
第15図 PL.16	1区 SD7	19	土師器 S字甕	—	(10.3)	[4.6]	タテハケ後ヨコナデ	ヨコハケ後台部下端折り返し→ヨコ・ナナメハケ後ヨコナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	石英、黒雲母粒、チャート	台部 1/4	在地化
第15図 PL.16	1区 SD7	20	土師器 台付甕	(14.9)	6.5	13.6	口縁部ハケ後ナデ、胴部～台部ヘラケズリ→ハケ→ナデ・指オサエ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後タテミガキ、台部指ナデ・オサエ	にぶい黄橙 10YR7/4	石英、黒雲母粒、片岩、赤色粒	2/3	—
第16図 PL.16	1区 SD7	21	土師器 S字甕	—	11.3	[6.7]	ナナメハケ後指ナデ	台部下端折り返し後指ナデ・オサエ	にぶい黄橙 10YR7/3	石英、角閃石、黒色微細粒	台部	—
第16図 PL.16	1区 SD7	22	土師器 S字甕	—	7.3	[5.8]	ナナメハケ後指ナデ	台部下端折り返し後指ナデ・オサエ	橙 7.5YR6/6	石英、雲母粒	台部	輪積み痕残存
第16図 PL.16	1区 SD7	23	土師器 S字甕	—	8.1	[5.5]	台部上半タテハケ後ナナメハケ、台部下半ナデ・一部ヨコハケ	ナナメハケ後ナデ	にぶい橙 7.5YR7/4	石英、黒雲母粒、白色微細粒	台部 4/5	—
第16図 PL.16	1区 SD7	24	土師器 S字甕	—	6.2	[4.9]	タテハケ後指ナデ	台部下端折り返し後指ナデ・オサエ	にぶい橙 7.5YR7/4	石英、片岩、雲母粒	台部	輪積み痕残存
第16図 PL.16	1区 SD7	25	土師器 甕	(14.9)	—	[6.0]	口縁部ヨコナデ後ナナメハケ、胴部ナナメ～タテハケ	口縁～頸部ヨコハケ後ナデ、胴部指ナデ	にぶい褐 7.5YR5/3	長石、白・褐色粒	口縁部 破片	—
第16図 PL.16	1区 SD7	26	土師器 小型甕	(10.7)	—	[5.3]	口縁部ヨコナデ、胴部粗いタテ・ナナメハケ後ヘラナデ	ナナメハケ後ヨコナデ、指オサエ	橙 5YR6/6	石英、角閃石、黒雲母粒、白色粒	1/4	—
第16図 PL.16	1区 SD7	27	土師器 鉢	18.3	—	7.9	口縁部ヨコミガキ、体部ヨコ・ナナメミガキ	ヨコ・ナナメハケ後ヨコ・ナナメミガキ	橙 5YR7/6	石英、黒雲母粒、赤色粒	4/5	—
第16図 PL.16	1区 SD7	28	土師器 台付甕	10.4	—	[9.5]	口唇部指オサエ、胴部上半ハケナデ、胴部下半ナデ	胴部上半ヘラケズリ、胴部下半ヘラナデ	にぶい黄橙 10YR7/3	長石、黒・褐色粒	胴部 1/3	—
第16図 PL.16	1区 SD7	29	土師器 鉢	8.8	3.2	4.7	口唇部ナデ、体部ヘラケズリ後ヨコ→ナナメミガキ、底部ケズリ	ヨコ→ナナメミガキ	にぶい黄橙 10YR7/3	石英、白色微細粒多量、赤色粒	ほぼ完形	—

第４表　溝跡出土遺物観察表③

図版	出土地	番号	種別 器種	法量（cm） 口径	底径	器高	調整 外面	内面	色調	胎土	残存	備考
第16図 PL.16	1区 SD7	30	土師器 鉢	—	2.0	[3.7]	体部ナナメハケ、底部指オサエ	体部～底部ナナメナデ・指オサエ	灰白 10YR8/2	石英、黒雲母粒、赤色粒	1/2	S字鉢か
第16図 PL.16	1区 SD7	31	土師器 器台	(8.1)	(11.0)	7.5	器受部ヨコナデ後タテ・ヨコミガキ、台部タテ・ヨコミガキ	器受部タテ・ヨコミガキ、台部ヨコハケ後ナデ	浅黄橙 7.5YR8/6	石英、黒雲母粒、黒・白色粒	1/2	台部上位に透孔3ヵ所　器受部が小さく東海西部系の影響が見られる
第16図 PL.16	1区 SD7	32	土師器 高坏	—	9.5	[6.7]	脚部ハケ後タテミガキ、裾部ハケ後ヨコミガキ	坏部磨き、脚部ナナメハケ後ナデ、裾部ナデ	にぶい橙 5YR7/4	長石、黒・褐色粒	脚部 4/5	—
第16図 PL.16	1区 SD7	33	手捏ね土器	(5.6)	1.8	3.0	体部指ナデ、体部下端～底部ヘラケズリ	指ナデ	橙色 7.5YR7/6	石英、長石、黒・褐色粒	1/2	—
第16図 PL.16	1区 SD7	34	樽式土器 壷	(17.0)	—	[10.0]	口縁部細い粘土帯付加による折り返し後口唇上端にヘラ状工具による刻み、頸部に簾状文→櫛描波状文→櫛描直線文→タテミガキ	口縁部ミガキ、頸部ヘラケズリ	にぶい橙 7.5YR7/4	石英、黒雲母粒、黒・白色微細粒	口縁～頸部 1/3	—
第16図 PL.16	1区 SD7	35	樽式土器 甕か壷	—	—	[2.8]	頸部櫛描波状文	ナデ	にぶい赤褐 5YR5/4	黒雲母、白色微細粒、褐色粒	頸部破片	—
第16図 PL.16	1区 SD7	36	弥生土器 甕か壷	—	—	[4.3]	縄文施文後ヘラ状工具により重四角文施文。地文部以外は縄文磨消。	ナデ	黒褐 2.5Y3/1	雲母粒、白色微細粒	胴部破片	—
第16図 PL.16	1区 SD7	37	弥生土器 甕	—	—	[3.5]	櫛歯状工具による縦走羽状文・平行沈線施文	ナデ	にぶい褐 7.5YR5/3	黒雲母、白色微細粒	胴部破片	—
第16図 PL.16	1区 SD7	38	弥生土器 大型壷	—	13.4	[2.0]	ナデ	指ナデ	にぶい黄橙色 10YR7/4	長石、輝石安山岩、黒・褐色粒	底部	—
第16図 PL.16	1区 SD7	39	縄文土器 深鉢	—	—	[5.4]	口縁端部に刻みを加えた隆帯を1条巡らせる	ナデ	灰褐 7.5YR5/2	雲母粒、白・黒色粒	口縁部破片	縄文後期か

図版	出土地	番号	種別 器種	法量（cm） 口径	底径	器高	成・整形技法の特徴	色調	胎土	残存	備考
第16図 PL.16	1区 SD7	40	縄文土器 深鉢	(30.4)	—	[25.5]	波状口縁。口縁部は太い丸棒状工具により渦文と楕円区画を表出。区画内にはRLの単節縄文を充填施文。胴部には沈線を垂下させ、地文部と無文部を区画。地文はRLの単節縄文を縦位に充填施文。	にぶい褐 7.5YR5/4	石英、長石、黒雲母粒、白色微細粒	1/3	縄文中期後半。加曽利E3式
第17図 PL.17	1区 SD7	41	縄文土器 深鉢	(26.5)	—	[13.6]	口縁部は太い丸棒状工具により渦文と楕円区画を表出。区画内にはRLの単節縄文を横位に充填施文。胴部には沈線を垂下させ、地文部と無文部を区画。地文はRLの単節を縦位に充填施文。	にぶい黄橙 10YR7/4	石英、長石、黒雲母粒、白色微細粒	1/4	縄文中期後半。加曽利E3式
第17図 PL.17	1区 SD7	42	縄文土器 深鉢	—	—	—	口縁部は楕円区画を隆帯により表出。胴部上端は無節縄文を施文。	にぶい黄橙 10YR7/3	石英多量、白色微細粒	破片	縄文中期後半 撚り戻しか
第17図 PL.17	1区 SD7	43	縄文土器 深鉢	—	—	—	口縁部は渦文を隆帯により表出。胴部上端は単節RL縄文を施文後棒状工具による沈線で横位に区画。	にぶい褐 7.5YR5/3	石英、雲母粒多量	破片	縄文中期後半
第17図 PL.17	1区 SD7	44	縄文土器 深鉢	—	—	—	口唇部に舌状把手。以下渦文と楕円区画を隆帯により表出。区画内には単節縄文を充填施文。	にぶい橙 7.5YR6/4	石英、黒雲母粒多量	破片	縄文中期後半 加曽利E3式
第17図 PL.17	1区 SD7	45	縄文土器 深鉢	—	—	—	口縁部内湾。地文に単節RL縄文を縦位・横位施文後、棒状工具により上端∩状の区画を描く。	橙 7.5YR6/6	石英、長石、黒雲母粒、白色微細粒	破片	縄文中期後半
第17図 PL.17	1区 SD7	46	縄文土器 深鉢	—	—	—	口縁部は丸棒状工具による沈線で横位に区画し、無文帯を表出。胴部は単節RL縄文を施文。	にぶい黄橙 10YR7/3	石英、長石、黒雲母粒、白・赤色粒	破片	縄文中期後半
第17図 PL.17	1区 SD7	47	縄文土器 深鉢	—	—	—	口縁部は丸棒状工具による沈線で横位に区画し、無文帯を表出。胴部は単節LR縄文を施文。	にぶい黄橙 10YR7/4	石英、雲母粒、白色微細粒	破片	縄文中期後半

図版	出土地	番号	種別 器種	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g) 重さ	石材	作成技法等の特徴	残存	備考
第17図 PL.17	1区 SD7	48	石器 スクレイパー	5.72	7.88	2.3	93.8	頁岩	礫皮をもつ剥片を素材とし、縁辺に2次加工や微細剥離痕が認められる。刃部形態は円刃。	—	—
第17図 PL.17	1区 SD7	49	石器 打製石斧	[6.62]	4.5	[1.2]	30.2	黒色頁岩	撥形。礫皮をもつ剥片を素材とし、両側縁部に直接打撃による両面加工を施す。刃部に摩耗痕。全体にリダクションが顕著。	1/2	—
第17図 PL.17	1区 SD7	50	石器 スクレイパー	5.05	5.7	1.4	40.8	ホルンフェルス	打製石斧の端部片を素材とし、縁辺(3側縁)に微細剥離痕。微細剥離痕より古い剥離痕や摩耗痕は打製石斧として使用された痕跡と考えられる。	—	打製石斧の未製品を転用か
第17図 PL.17	1区 SD7	51	石器 スクレイパー	6.3	5.05	1.5	38.0	黒色頁岩	礫皮をもつ剥片を素材とし、縁辺の一部(下半)に連続する微細剥離痕が認められる。	—	—

図版	出土地	番号	種別 器種	法量（cm） 口径	底径	器高	調整 外面	内面	色調	胎土	残存	備考
第17図 PL.17	1区 SD9	1	樽式土器 甕	—	—	[4.8]	口縁部薄い粘土帯付加による折り返し後、口縁～頸部櫛描波状文	ヘラミガキ	にぶい橙色 7.5YR7/3	長石、輝石安山岩、黒色粒	口縁部破片	—

第５表　溝跡出土遺物観察表④

図版	出土地	番号	種別 器種	法量（cm） 口径	底径	器高	調整 外面	内面	色調	胎土	残存	備考
第18図 PL.17	4区 SD11	1	土師器 S字甕	—	—	[20.2]	ナナメハケ	胴部指ナデ・オサエ	にぶい黄橙 10YR7/4	白・黒色粒	1/2	台部内面に砂粒を多く含む粘土貼付
第18図 PL.17	4区 SD11	2	土師質土器 皿	6.6	4.9	2.5	ロクロナデ。底部回転糸切り。	ロクロナデ	にぶい褐 7.5YR6/4	雲母粒、白色微細粒	完形	底部糸切り失敗の痕跡

図版	出土地	番号	種別 器種	全長 (cm)	幅・玉縁長 (cm)	厚さ (cm)	凸面調整	凹面調整	側端面調整	色調 焼成	残存	備考
第18図 PL.17	4区 SD11	3	丸瓦	[11.5]	玉縁長：6.5	最大：2.9 最小：1.1	玉縁部ヨコナデ	32本/3cmの細かい布目痕。	玉縁部凸側縁・凹面端部・側縁面取り	1B/軟質	玉縁部破片	—

図版	出土地	番号	種別 器種	全長・幅 (cm)	厚さ (cm)	凸面調整	凹面調整	側端面調整	色調 焼成	残存	備考
第18図 PL.17	4区 SD11	4	平瓦	全長：[21.2] 幅：11.5	2.3	タテナデ	細かい布目痕	—	1B/軟質	破片	—

図版	出土地	番号	種別 器種	法量(cm) 外径	内径	厚さ	重量(g) 重さ	残存	作成技法等の特徴	備考
第18図 PL.17	4区 SD11	5	銅銭 元祐通寶	2.5	0.7	0.1	2.4	完形	行書。	—
第18図 PL.17	4区 SD11	6	銅銭 至道元寶	2.5	0.6	0.1	3.6	完形	行書。模鋳銭。	—
第18図 PL.17	4区 SD11	7	銅銭 元豐通寶	2.35	0.6	0.1	3.0	完形	行書。	—
第18図 PL.17	4区 SD11	8	銅銭 至道元寶	2.5	0.6	0.1	3.3	完形	真書。模鋳銭。	—
第18図 PL.17	4区 SD11	9	銅銭 □□元寶	2.4	0.6	0.1	3.2	完形	隷書。	—

図版	出土地	番号	種別 器種	法量（cm） 口径	底径	器高	調整 外面	内面	色調	胎土	残存	備考
第21図 PL.17	2-1区 SD13	1	かわらけ	(8.2)	6.4	2.0	ロクロナデ。底部右回転糸切り。	ロクロナデ。底部と体部の指オサエ強め。	橙 5YR7/6	長石粒、黒色粒、雲母粒	1/3	—

図版	出土地	番号	種別 器種	瓦当径 (cm)	内区 内区径	外区 外縁幅	外縁高	外区文様	全長 (cm)	瓦当厚 (cm)	凸面調整	凹面調整	接合法	色調 焼成	残存	備考
第21図 PL.17	2-1区 SD13	2	巴文軒丸瓦 (左巴)	11.8	7.9	1.8	0.9	珠文 (16)	[5.0]	1.4	周縁ナデ、叩き	瓦当裏面ナデ	丸瓦先端未加工。	1A/軟質	瓦当部	笵傷進行

図版	出土地	番号	種別 器種	上弦幅 (cm)	下弦幅 (cm)	瓦当部 外縁幅	全長 (cm)	瓦当厚 (cm)	凸面調整	凹面調整	接合法	色調 焼成	残存	備考
第21図 PL.17	2-1区 SD13	3	剣頭文軒平瓦	[8.2]	[8.1]	0.9	[5.2]	1.35	顎凸面・裏面ヨコナデ	瓦当外縁上端面取り	折り曲げ技法	1A/軟質	瓦当部	笵詰め
第21図 PL.17	2-1区 SD13	4	剣頭文軒平瓦	[16.2]	[16.3]	0.9～1.0	[5.2]	2.2	顎凸面・裏面ヨコナデ	瓦当外縁上端面取り	折り曲げ技法	1A/軟質	瓦当部	笵詰め
第21図 PL.17	2-1区 SD13	5	剣頭文軒平瓦	—	[13.7]	0.9	[2.4]	2.0	顎凸面・裏面ヨコナデ	—	折り曲げ技法	3A/軟質	瓦当部	—
第21図 PL.17	2-1区 SD13	6	剣頭文軒平瓦	[8.7]	[10.5]	1.0	[7.2]	2.1	顎凸面・裏面ヨコナデ	瓦当外縁上端面取り	折り曲げ技法	3B/軟質	瓦当部	—

図版	出土地	番号	種別 器種	全長 (cm)	幅・玉縁長 (cm)	厚さ (cm)	凸面調整	凹面調整	側端面調整	色調 焼成	残存	備考
第21図 PL.18	2-1区 SD13	7	丸瓦	35.6	広端：13.3 玉縁：6.4 玉縁長：5.8	最大：3.2 最小：0.9	玉縁部ヨコナデ、胴部縄叩き後丁寧なタテナデ。胴部凸面側縁丸くナデ調整。	30本/3cmの細かい布目痕。コビキA。	玉縁部凸側縁・凹面端部・側縁面取り。胴部凹側面・側縁、広端部凹側面を面取り。	2/軟質	完形	—
第21図 PL.18	2-1区 SD13	8	丸瓦	[16.4]	広端：[13.1] 玉縁：(6.4) 玉縁長：6.6	最大：3.0 最小：1.3	玉縁部ヨコナデ、胴部縄叩き後丁寧なタテナデ。胴部凸面側縁丸くナデ調整。	30本/3cmの細かい布目痕。コビキA。	玉縁部凸側縁・凹面端部・側縁面取り。胴部凹側面・側縁部面取り。	1B/軟質	1/3	—
第21図 PL.18	2-1区 SD13	9	丸瓦	[20.2]	広端：[13.0] 玉縁：— 玉縁長：—	最大：3.0 最小：1.3	玉縁部ヨコナデ、胴部縄叩き後丁寧なタテナデ。胴部凸面側縁丸くナデ調整。	30本/3cmの細かい布目痕。コビキA。	胴部凹側面・側縁部面取り。	2/軟質	2/3	—
第21図 PL.18	2-1区 SD13	10	丸瓦	[13.1]	広端：[10.3] 玉縁：— 玉縁長：—	最大：2.4 最小：1.7	胴部縄叩き後丁寧なタテナデ。胴部凸面側縁丸くナデ調整。	30本/3cmの細かい布目痕。コビキA。	胴部凹側面・側縁部面取り。	3A/軟質	1/2	—
第21図 PL.18	2-1区 SD13	11	丸瓦	[21.4]	広端：[12.8] 玉縁：— 玉縁長：—	最大：2.4 最小：1.5	胴部縄叩き後丁寧なタテナデ。胴部凸面側縁丸くナデ調整。	30本/3cmの細かい布目痕。コビキA。	胴部凹側面・側縁・広端部凹側面を面取り。	2/軟質	2/3	—
第21図 PL.18	2-1区 SD13	12	丸瓦	[17.0]	—	最大：2.3 最小：2.0	胴部縄叩き後丁寧なタテ・ヨコナデ。胴部凸面側縁丸くナデ調整	細かい布目痕。コビキA.	胴部凹側面・側縁部面取り。	3B/軟質	1/3	—
第22図 PL.18	2-1区 SD13	13	丸瓦	[6.8]	広端：— 玉縁：6.8 玉縁長：6.8	最大：2.1 最小：1.1	玉縁部ヨコナデ	細かい布目痕	玉縁部凸側縁・凹面端部・側縁部面取り。	3A/軟質	1/6	—
第22図 PL.18	2-1区 SD13	14	丸瓦	[13.1]	広端：12.8 玉縁：— 玉縁長：—	最大：2.1 最小：1.2	胴部縄叩き後丁寧なタテナデ。胴部凸面側縁丸くナデ調整。	32本/3cmの細かい布目痕。コビキA。	胴部凹面側縁部面取り。	3A/軟質	1/3	—

第６表　溝跡出土遺物観察表⑤

図版	出土地	番号	種別 器種	全長・幅 (cm)	厚さ (cm)	凸面調整	凹面調整	側端面調整	色調/焼成	残存	備考
第22図 PL.18	2-1区 SD13	15	平瓦	全長：[13.7] 広端：23.6 狭端：—	2.4	斜格子叩き。離れ砂付着。	布目痕は見られず、離れ砂付着。コビキA。	凹側面・広端部面取り。	3B/軟質	1/3	—
第22図 PL.18	2-1区 SD13	16	平瓦	全長：[12.3]	2.2	斜格子叩き。離れ砂付着。	タテナデ	凹側面を面取り。	3A/軟質	1/5	凹面に斜格子叩きの圧痕
第22図 PL.18	2-1区 SD13	17	平瓦	全長：[19.2]	2.7	斜格子叩き。離れ砂付着。	タテナデ、離れ砂付着。	—	1A/軟質	1/5	凹面から凸面へ穿孔(円形釘穴)
第22図 PL.18	2-1区 SD13	18	平瓦	全長：[18.7]	2.7	タテナデ、離れ砂付着。	板状工具による叩き、離れ砂付着。	—	3B/軟質	1/5	凹面から凸面へ穿孔(円形釘穴)
第22図 PL.18	2-1区 SD13	19	平瓦	全長：[13.3]	2.7	斜格子叩き。離れ砂付着。	無文叩き。細かい布目痕。	—	2/軟質	1/5	—
第22図 PL.18	2-1区 SD13	20	平瓦	全長：[7.8]	2.1	無文叩き。細かい布目痕。	細かい布目痕。コビキA。	—	1A/軟質	1/6	—
第22図 PL.18	2-1区 SD13	21	熨斗瓦	全長：[20.0] 広端：— 狭端：11.0	2.1	斜格子叩き。離れ砂付着。	細かい布目痕、離れ砂付着。	凹側面を面取り。半截面未調整。	2/軟質	2/3	截線を入れ焼成後に分割
第22図 PL.18	2-1区 SD13	22	熨斗瓦	全長：[13.4] 幅：10.4	2.6	斜格子叩き。離れ砂付着。	無文叩き、コビキA。	半截面未調整。	1B/軟質	1/2	截線を入れ焼成後に分割
第22図 PL.18	2-1区 SD13	23	熨斗瓦	全長：[9.2] 幅：13.3	2.3	無文叩き、離れ砂付着。	無文叩き、離れ砂付着。	凹側面を面取り。半截面未調整。	2/軟質	1/3	截線を入れ焼成後に分割

図版	出土地	番号	種別 器種	法量（cm） 口径	底径	器高	調整 外面	内面	色調	胎土	残存	備考
第23図 PL.18	2-1区 SD14	1	軟質陶器 火鉢	—	—	7.7	ナデ	—	にぶい橙 5YR6/4	白・黒・褐色粒	脚部	—
第23図 PL.18	2-1区 SD15	1	かわらけ	7.0	5.3	1.4	ロクロナデ。底部回転糸切り。	ロクロナデ。	灰白 2.5Y8/2	長石・黒色粒	ほぼ完形	口唇部スス付着
第23図 PL.18	2-1区 SD15	2	瓦質陶器 火鉢	(30.4)	—	[11.9]	口縁部ナデ後隆帯貼付。隆帯間に珠文・重四角文状の押印。口唇部・体部ヨコミガキ。	指ナデ	灰 N6/0	長石、黒・褐色粒	1/5	15世紀代
第23図 PL.18	2-1区 SD15	3	陶器 壺	(10.5)	—	[5.0]	灰釉。ロクロナデ。	ロクロナデ。	灰 N5/0	長石、黒色粒	口縁部破片	玉縁状口縁。16世紀。備前？
第23図 PL.18	2-1区 SD15	4	陶器 深皿	(31.0)	6.2	9.2	底部を除き灰釉。	灰釉。粘土紐脚付。	灰白 2.5Y8/2	長石、黒色粒	1/4	折縁。瀬戸

図版	出土地	番号	種別 器種	全長・幅 (cm)	厚さ (cm)	凸面調整	凹面調整	側端面調整	色調/焼成	残存	備考
第23図 PL.18	2-1区 SD15	5	平瓦	全長：[19.9]	2.7	無文叩き。指頭痕。	30本/3cmの細かい布目痕。コビキ	—	1A/軟質	1/5	—
第23図 PL.19	2-1区 SD15	6	熨斗瓦	全長：[21.9] 広端：[12.7] 狭端：10.6	2.6	斜格子叩き。離れ砂付着。	細かい布目痕。無文叩き。	狭端部凹面側、凹側面を面取り。半截面未調整。	2/軟質	2/3	截線を入れ焼成後に分割
第23図 PL.19	2-1区 SD15	7	熨斗瓦	全長：[8.8] 幅：11.7	2.6	斜格子叩き。離れ砂付着。	無文叩き、離れ砂付着。コビキA。	凹側面を面取り。半截面未調整。	1B/軟質	1/3	截線を入れ焼成後に分割

図版	出土地	番号	種別 器種	法量（cm） 口径	底径	器高	調整 外面	内面	色調	胎土	残存	備考
第23図 PL.19	4区 SD15	8	軟質陶器 鉢	—	—	[9.3]	口唇～口縁部ヨコナデ、体部ヨコナデ後指オサエ	ヨコナデ	灰 N5/0	長石、黒色粒	口縁～体部破片	14世紀後半
第23図 PL.19	4区 SD15	9	軟質陶器 鉢	—	—	[8.0]	口縁部ヨコナデ、体部上端ヨコナデ、体部中位ヘラナデ	ヨコナデ	灰 5Y5/1	長石、雲母粒、白色微細粒	口縁～体部破片	15世紀前半
第25図 PL.19	2-1区 SD17	1	須恵器 甕	(19.6)	—	[7.5]	口縁～頸部櫛描波状文、胴部平行叩き。	口縁～頸部ロクロナデ。胴部同心円状当て具痕。	褐灰 7.5YR6/1	長石、黒色粒	口縁～胴部破片	—
第25図 PL.19	2-1区 SD17	2	軟質陶器 内耳鍋	(29.8)	—	[13.8]	口縁～体部ハケナデ、底部ヘラケズリ	ヨコナデ	黒褐 10YR3/1	長石、黒色粒	1/5	14世紀後半～15世紀初頭
第25図 PL.19	2-1区 SD17	3	焼締陶器 甕	—	—	[8.1]	ロクロナデ	ロクロナデ	褐灰 10YR4/1	石英、長石、黒色粒	口縁部破片	漆による補修痕

図版	出土地	番号	種別 器種	法量(cm) 直径	厚さ	重量(g) 重さ	材質	作成技法等の特徴	残存	備考
第25図 PL.19	2-1区 SD17	4	銅製品 経筒(底板)	[11.0]	0.05	22.6	銅	経筒身部と底板を鋲留するための小孔2ヵ所残存。平底。針書の痕跡あり。	ほぼ完形	—

図版	出土地	番号	種別 器種	瓦当径 (cm)	内区 内区径	外区 外縁幅	外縁高	外区文様	全長 (cm)	瓦当厚 (cm)	凸面調整	凹面調整	接合法	色調 焼成	残存	備考
第25図 PL.19	2-1区 SD17	5	巴文軒丸瓦（左	—	—	1.9	0.8	珠文	[3.3]	2.0	周縁ナデ	瓦当裏面ナデ	—	1A/軟質	瓦当部	—

図版	出土地	番号	種別 器種	法量（cm） 口径	底径	器高	調整 外面	内面	色調	胎土	残存	備考
第25図 PL.19	2-1区 SD22	1	土師器 坏	14.2	—	5.2	ラケズリ	ナデ	橙 5YR7/6	石英、長石、黒色粒	1/3	7世紀後半
第28図 PL.19	2-1区 SD26	1	軟質陶器 鉢	—	—	[7.7]	口縁部ヨコナデ、体部ナデ	ナデ	灰白 2.5Y7/1	長石、黒雲母	口縁部破片	補修孔あり 15世紀前半
第28図 PL.19	2-1区 SD26	2	軟質陶器 内耳鍋	—	—	[12.8]	口縁部ナデ。体部ヘラケズリ後ナデ・指オサエ	ヨコナデ	にぶい橙 7.5YR6/4	長石、黒雲母	1/6	14世紀後半～15世紀初頭

第７表　溝跡出土遺物観察表⑥

図版	出土地	番号	種別 器種	法量（cm） 口径	底径	器高	調整 外面	内面	色調	胎土	残存	備考
第28図 PL. 19	2-1区 SD26	3	軟質陶器 内耳鍋	(29. 0)	—	[13. 0]	口縁部ナデ、体部雑なナデ・指オサエ、底部ヘラケズリ	ヨコナデ	灰 7. 5Y4/1	長石、黒雲母、白色微細粒	1/5	内耳貼付部外面に粘土貼付 14世紀後半～15世紀初頭
第28図 PL. 19	2-1区 SD26	4	軟質陶器 内耳鍋	(25. 8)	(18. 4)	[16. 0]	口縁部ナデ。体部雑なナデ・指オサエ、底部ヘラケズリ	ヨコナデ	黒褐 7. 5YR3/1	長石、黒雲母、白色微細粒	1/4	14世紀後半～15世紀初頭

図版	出土地	番号	種別 器種	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g) 重さ	石材	作成技法等の特徴	残存	備考
第28図 PL. 19	2-1区 SD26	5	石製品 硯	[13. 2]	[5. 7]	[1. 6]	179. 4	黒色頁岩	—	1/2	—

図版	出土地	番号	種別 器種	法量(cm) 直径	厚さ	重量(kg) 重さ	石材	作成技法等の特徴	残存	備考
第28図 PL. 19	2-1区 SD26	6	石製品 石臼(上臼)	(34. 0)	8. 1	1. 4	輝石安山岩	上端際に供給孔とみられる残穴あり。擂り目使用により摩耗。	1/6	—

図版	出土地	番号	種別 器種	上弦幅 (cm)	下弦幅 (cm)	瓦当部 外縁幅	全長 (cm)	瓦当厚 (cm)	凸面調整	凹面調整	接合法	色調 焼成	残存	備考
第28図 PL. 19	2-1区 SD26	7	剣頭文軒平瓦	[4. 3]	[7. 5]	1. 0	[3. 2]	2. 3	顎凸面・裏面ヨコナデ	瓦当外縁上端面取り	折り曲げ技法	1A/軟質	瓦当部	—

図版	出土地	番号	種別 器種	法量（cm） 口径	底径	器高	調整 外面	内面	色調	胎土	残存	備考
第28図 PL. 19	2-1区 SD26	8	軟質陶器 火鉢	—	—	7. 1	ナデ、ヘラケズリ	—	橙 2. 5YR6/6	白・黒・褐色粒	脚部	—

図版	出土地	番号	種別 器種	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(kg) 重さ	石材	作成技法等の特徴	残存	備考
第29図 PL. 19	2-1区 SD27	1	石製品 板碑	[32. 4]	30. 8	3. 5	6. 8	緑泥片岩	頂角の下に二条の横線を刻み、横線の下に主尊種子を刻む。裏面には平ノミ状工具痕が残る。	1/3	—

図版	出土地	番号	種別 器種	法量（cm） 口径	底径	器高	調整 外面	内面	色調	胎土	残存	備考
第29図 PL. 19	2-1区 SD28	1	陶器 碗	12. 6	4. 8	7. 2	灰釉。	灰釉。	にぶい黄 2. 5Y6/4	長石、黒色粒	1/3	瀬戸・美濃系
第29図 PL. 19	2-1区 SD28	2	陶器 碗	9. 3	3. 5	5. 9	灰釉＋呉須絵。体部八弁花。	灰釉。	灰白 5Y7/1	白・黒色粒	3/4	肥前系
第29図 PL. 19	2-1区 SD28	3	陶胎染付 碗	—	5. 2	[4. 5]	灰釉＋呉須絵。高台内施釉。	灰釉。	灰 10Y6/1	白・黒色粒	1/4	唐津 17世紀末～18世紀前半
第29図 PL. 19	2-1区 SD28	4	陶器 皿	11. 4	4. 0	2. 8	灰釉。底部を除き灰釉。	灰釉。蛇ノ目釉剥ぎ	灰オリーブ 7. 5Y5/2	褐色粒	1/2	瀬戸・美濃系
第29図 PL. 19	2-1区 SD28	5	陶器 皿	11. 4	7. 0	2. 7	灰釉＋鉄絵。蘭竹文。	灰釉。	灰白 2. 5Y8/1	長石	1/2	瀬戸・美濃系 17世紀前半
第29図 PL. 19	2-1区 SD28	6	磁器 皿	13. 2	(6. 2)	3. 5	灰釉。	灰釉＋呉須絵。体部つる草文。蛇ノ目釉剥ぎ	灰白 5GY8/1	黒色粒	1/3	肥前系 1700～1780年代
第29図 PL. 19	2-1区 SD28	7	陶器 鉢	(19. 4)	(12. 0)	10. 0	底部を除き錆釉。	錆釉	褐 7. 5YR4/4	長石、黒色粒	1/4	美濃
第29図 PL. 19	2-1区 SD28	8	陶器 擂鉢	—	—	[11. 1]	体部回転ヘラケズリ。錆釉。	櫛目7～8本	灰白 5Y8/2	長石、黒・褐色粒	1/6	瀬戸

図版	出土地	番号	種別 器種	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g) 重さ	石材	作成技法等の特徴	残存	備考
第29図 PL. 19	2-1区 SD28	9	石製品 砥石	13. 2	2. 9	2. 6	124	流紋岩	4面使用。背面斜位線条痕が顕著。	完形	—
第29図 PL. 19	2-1区 SD28	10	石製品 板碑	[5. 3]	[6. 7]	1. 6	114	緑泥片岩	種子とみられる線刻あり。	破片	—

図版	出土地	番号	種別 器種	法量（cm） 口径	底径	器高	調整 外面	内面	色調	胎土	残存	備考
第29図 PL. 20	2-2区 SD29	1	陶器 油受け皿	(9. 5)	(5. 6)	2. 0	錆釉。体部下位露胎。	錆釉。口唇部煤付着。	暗赤褐 5YR3/3	黒色粒	1/3	志戸呂系。18世紀前半

図版	出土地	番号	種別 器種	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g) 重さ	石材	残存	作成技法等の特徴	備考
第29図 PL. 20	2-2区 SD29	2	石製品 砥石	[8. 4]	3. 2	2. 2	108. 9	流紋岩	ほぼ完形	2面使用。	—

図版	出土地	番号	種別 器種	法量（cm） 口径	底径	器高	調整 外面	内面	色調	胎土	残存	備考
第31図 PL. 20	3区 SD32	1	土師器 坏	(12. 0)	—	[3. 7]	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヨコナデ	浅黄橙 7. 5YR8/4	長石、黒・褐色粒	1/5	—
第31図 PL. 20	3区 SD33	1	土師器 坏	12. 5	—	5. 8	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヨコナデ後放射状暗文	橙 2. 5YR6/6	長石、輝石安山岩、褐色粒	5/6	5世紀後半
第31図 PL. 20	3区 SD34	1	陶器 擂鉢	—	(16. 9)	[4. 2]	体部下端回転ヘラケズリ。底部回転糸切り。錆釉。	櫛目11～12本。	灰白色 2. 5Y8/2	白・黒色粒	底部 1/2	瀬戸・美濃系。18世紀
第31図 PL. 20	3区 SD34	2	焼締陶器 甕	—	—	[5. 4]	口縁部断面N字状。頸部板状工具によるナデ。	ナデ。頸部に自然釉かかる。	にぶい赤褐 5YR4/3	石英、黒色粒	口縁部破片	常滑 13世紀後半

第８表　溝跡出土遺物観察表⑦

図版	出土地	番号	種別 器種	法量（cm） 口径	底径	器高	調整 外面	内面	色調	胎土	残存	備考
第31図 PL.20	3区 SD34	3	陶器 水注	(9.2)	—	[8.8]	飴釉×うのふ釉。体部梅花文。	ロクロナデ。	灰白色 5Y7/2	白色微細粒	3/4	瀬戸・美濃系 18世紀前半
第31図 PL.20	3区 SD34	4	陶器 仏飯器	6.4	3.9	4.1	底部を除き灰釉	灰釉	灰白 2.5Y8/2	—	ほぼ完形	瀬戸・美濃系
第31図 PL.20	3区 SD34	5	磁器 染付碗	9.9	3.8	4.9	体部雪輪梅樹文。高台際圏線。	灰釉	灰白色 10Y8/1	—	1/2	肥前系 1710～1780年代
第32図 PL.20	3区 SD35	1	陶器 片口鉢	(27.0)	(17.2)	14.1	底部を除き灰釉	灰釉	灰白 2.5Y8/2	石英、長石	口縁～胴部破片	瀬戸・美濃系
第32図 PL.20	3区 SD35	2	陶器 筒型香炉	(10.1)	(7.7)	6.6	底部を除き飴釉。菊花文押印。腰部に粘土紐脚付。	ロクロナデ。	オリーブ褐 5Y5/4	白・黒色粒	3/4	瀬戸
第32図 PL.20	3区 SD35	3	陶器 碗	8.9	3.4	5.5	底部を除き鉄釉。	鉄釉。	黒 10YR1.7/1	白色粒	ほぼ完形	瀬戸・美濃系
第32図 PL.20	3区 SD35	4	磁器 染付碗	8.8	3.3	5.5	体部上端瓔珞文。口唇・高台際圏線。体部上端瓔珞文。	灰釉。口唇・高台際圏線。見込手描五弁花	灰白 N8/0	—	ほぼ完形	肥前系 18世紀後半

図版	出土地	番号	種別 器種	法量(cm) 外径	内径	厚さ	重量(g) 重さ	作成技法等の特徴	残存	備考
第31図 PL.20	3区 SD34・35	1	銅銭 文久永寶	2.62	0.6	0.1	2.9	真書。裏面青海波。文久3年(1863)初鋳。	完形	—

図版	出土地	番号	種別 器種	法量（cm） 口径	底径	器高	調整 外面	内面	色調	胎土	残存	備考
第32図 PL.20	3区 SD36	1	陶器 筒型香炉	11.8	11.7	[3.7]	底部を除き飴釉。腰部に粘土紐脚付。	ロクロナデ。底部に重ね焼き痕有。	オリーブ褐 2.5Y4/6	長石	1/3	瀬戸
第32図 PL.20	3区 SD36	2	陶器 徳利	—	6.8	[5.0]	ロクロナデ。灰釉。底部釉拭取り。	ロクロナデ	灰オリーブ 5Y5/3	白色粒	底部	瀬戸・美濃系。18世紀前半
第32図 PL.20	3区 SD36	3	陶器 猪口	6.1	2.8	3.9	底部を除き灰釉。	灰釉	灰白 5Y8/2	長石	2/3	瀬戸・美濃系18世紀後半～19世紀前半
第32図 PL.20	3区 SD36	4	陶器 碗	12.0	5.6	6.2	灰釉＋呉須絵。高台際圏線。	灰釉	灰白 5Y7/2	長石	1/4	肥前系
第32図 PL.20	3区 SD36	5	磁器 染付碗	—	4.0	[3.7]	体部二重網文。	体部一重網文。見込菊花文。	灰白 5GY8/1	—	1/3	肥前系。18世紀前半
第32図 PL.20	3区 SD36	6	磁器 染付碗	9.6	4.1	4.9	体部雪輪梅樹文。高台際圏線。	灰釉。	灰白 5GY8/1	—	ほぼ完形	肥前系 18世紀中頃～後半
第33図 PL.20	3区 SD37	1	土師器 S字甕	(12.0)	—	[4.4]	口縁部ヨコナデ、肩部ナナメハケ	口縁部ヨコナデ、肩部指ナデ・オサエ	にぶい黄橙 10YR7/3	長石、黒・褐色粒	口縁部破片	—
第33図 PL.20	3区 SD37	2	土師器 坩	(17.8)	—	[6.0]	タテミガキ	タテミガキ	にぶい黄橙 10YR7/4	長石、黒・褐色粒	1/4	—
第33図 PL.20	3区 SD37	3	縄文土器 浅鉢	—	—	—	地文RL横位施文後、口唇部に棒状工具により沈線を1条巡らせる。	口唇部肥厚。	にぶい褐 7.5YR5/4	黒雲母、白色微細粒	口縁部破片	縄文中期後半
第34図 PL.20	3区 SD38	1	土師器 S字甕	—	—	[3.9]	口縁部ヨコナデ、肩部ナナメハケ	口縁部ヨコナデ、肩部指ナデ・オサエ	にぶい黄橙 10YR7/3	長石、黒・褐色粒	口縁部破片	—
第34図 PL.20	3区 SD38	2	土師器 台付甕	—	(9.6)	[5.6]	台部上半ヨコナデ･ナナメハケ、台部下半ヨコナデ	ヨコナデ、指オサエ、台部下端折り返し	にぶい黄橙 10YR7/3	黒雲母、白色微細粒	台部破片	—
第36図 PL.20	3区 SD42	1	須恵器 甕	—	—	—	胴部平行叩き	胴部同心円状当て具痕	灰 N6/0	長石、白色微細粒	胴部破片	—
第36図 PL.20	3区 SD42	2	土師器 器台	—	—	[3.5]	器受部ヨコナデ、脚部ヘラナデ、タテミガキ	器受部タテミガキ、脚部指オサエ	にぶい褐 7.5YR6/3	長石、黒・褐色粒	1/3	—
第36図 PL.20	3区 SD42	3	土師器 器台	—	—	[2.2]	ヨコナデ後鋸歯文・綾杉文を線刻	ヘラナデ	橙 7.5YR7/6	長石、黒・褐色粒	脚部破片	—
第36図 PL.20	3区 SD42	4	土師器 S字甕	—	—	[2.7]	台部ナナメハケ	胴部ナデ、台部指オサエ	にぶい橙 7.5YR7/4	長石、黒・褐色粒	台部破片	台部内面に砂粒を多く含む粘土貼付

図版	出土地	番号	種別 器種	全長 (cm)	幅・玉縁長 (cm)	厚さ (cm)	凸面調整	凹面調整	側端面調整	色調 焼成	残存	備考
第40図 PL.20	4区 SD44	1	丸瓦	[11.5]	幅：[7.4] 玉縁長：4.3	最大：2.3 細小：1.2	玉縁部ヨコナデ。胴部縄叩き後丁寧なナデ。	細かい布目痕	玉縁部凸側縁・凹面端部・側縁面取り。胴部凹側面・側縁部面取り。	3A/軟質	玉縁部破片	—
第40図 PL.20	4区 SD44	2	丸瓦	[17.5]	幅：[8.3]	最大：2.7 最小：1.9	胴部縄叩き後丁寧なタテナデ。凸面側縁丸くナデ調整。	32本/3cmの細かい布目痕。コビキA	胴部凹側面・側縁部面取り。	1A/軟質	1/3	—

図版	出土地	番号	種別 器種	全長・幅 (cm)	厚さ (cm)	凸面調整	凹面調整	側端面調整	色調 焼成	残存	備考
第40図 PL.20	4区 SD44	3	平瓦	全長：[16.5] 幅：[14.6]	2.0～ 2.2	斜格子叩き。離れ砂付着。	無文叩き。離れ砂付着。	凹側面ナデ。	3A/軟質	1/4	—

図版	出土地	番号	種別 器種	法量（cm） 口径	底径	器高	成・整形技法の特徴	色調	胎土	残存	備考
第40図 PL.20	4区 SD44	4	縄文土器 深鉢	—	—	[16.3]	口縁部丸棒状工具による楕円区画を表出。区画内には縄文充填。胴部丸棒状工具による懸垂文を垂下させ、地文部にLRの単節縄文を充填。	にぶい黄橙 10YR6/4	石英、長石、白・褐色粒	口縁～胴部破片	縄文中期後半

第９表　溝跡出土遺物観察表⑧

図版	出土地	番号	種別 器種	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(kg) 重さ	石材	作成技法等の特徴	残存	備考
第40図 PL.20	4区 SD44	5	石製品 五輪塔	25.3	13.8	12.5	3.0	花崗岩質 砂岩	—	一部欠損	空・風輪
第40図 PL.20	4区 SD44	6	石製品 五輪塔	12.7	19.2	18.9	3.3	花崗岩質 砂岩	—	ほぼ完形	火輪

図版	出土地	番号	種別 器種	法量（cm） 口径	底径	器高	調整 外面	内面	色調	胎土	残存	備考
第40図 PL.20	4区 SD45	1	かわらけ	11.3	6.5	2.2	ロクロナデ。	ロクロナデ。底部と体部の境オサエ強め。	浅黄橙 10YR8/4	黒・褐色粒	完形	—
第40図 PL.20	4区 SD45	2	土師器 台付甕	—	10.0	[7.2]	ナナメハケ後指ナデ	底部ヘラナデ、台部下端折り返し後指ナデ・オサエ	にぶい黄橙 10YR6/4	石英、黒雲母、白色粒	台部	—
第40図 PL.20	4区 SD45	3	土師器 高坏	—	—	[8.5]	ヘラナデ	ナデ。シボリ痕残存。	赤褐 10YR6/6	石英、黒雲母、黒色粒	脚部 1/2	—
第40図 PL.20	4区 SD45	4	土師器 壺	(12.7)	—	[6.1]	口唇部・口縁部下端櫛歯状工具による刺突。口縁部ヨコナデ。胴部タテハケ→ヨコハケ→櫛歯状工具による綾杉文刺突。	ナデ	橙 7.5YR6/6	長石、雲母粒、黒・褐色粒	破片	—

図版	出土地	番号	種別 器種	法量(cm) 外径	内径	長さ	重量(g) 重さ	色調	作成技法等の特徴	残存	備考
第40図 PL.20	4区 SD45	5	フイゴ　羽口	(7.0)	(3.0)	[6.7]	66	にぶい橙 7.5YR7/4	先端は溶解し、黒色にガラス質化しており、白色のガラス質物が付着。	破片	—

図版	出土地	番号	種別 器種	法量（cm） 口径	底径	器高	調整 外面	内面	色調	胎土	残存	備考
第40図 PL.20	4区 SD45	6	青磁 碗	—	—	[4.0]	青磁釉。鎬蓮弁文。	青磁釉	オリーブ灰 2.5GY6/1	—	破片	龍泉窯

図版	出土地	番号	種別 器種	全長・幅 (cm)	厚さ (cm)	凸面調整	凹面調整	側端面調整	色調 焼成	残存	備考
第40図 PL.20	4区 SD45	7	平瓦	全長：[10.8] 幅：[11.7]	1.6	斜格子叩き。離れ砂付着。	タテナデ。離れ砂付着。	凹側面を面取り	1A/軟質	破片	—
第40図 PL.20	4区 SD45	8	平瓦	全長：[18.3] 幅：[12.7]	1.7～ 1.9	無文叩き、タテナデ。離れ砂付着。	タテナデ。離れ砂付着。コビキA	凹側面ナデ	3A/軟質	破片	—
第40図 PL.20	4区 SD45	9	平瓦	全長：[10.5] 幅：[12.6]	1.7	斜格子叩き。離れ砂付着。	無文叩き。離れ砂付着。	凹側面・狭端部ナデ	1A/軟質	破片	—

図版	出土地	番号	種別 器種	瓦当径 (cm)	内区 内区径	外区 外縁幅	外縁高	外区文様	全長 (cm)	瓦当厚 (cm)	凸面調整	凹面調整	接合法	色調 焼成	残存	備考
第41図 PL.20	4区 SD45	10	巴文軒丸瓦 (左巴)	(12.0)	(7.8)	1.8	0.9	珠文	[2.7]	1.8	周縁ナデ	瓦当裏面ナデ	丸瓦先端未加工	1B/軟質	瓦当部	—

図版	出土地	番号	種別 器種	法量(cm) 外径	内径	厚さ	重量(g) 重さ	作成技法等の特徴	残存	備考
第41図 PL.21	4区 SD45	11	銅銭 皇宋通寶	2.5	0.6	0.1	3.6	真書。模鋳銭。	完形	—
第41図 PL.21	4区 SD45	12	銅銭 元祐通寶	2.4	0.7	0.1	3.0	隷書。	完形	—
第41図 PL.21	4区 SD45	13	銅銭 皇宋通寶	2.4	0.7	0.1	3.0	隷書。模鋳銭。	完形	—
第41図 PL.21	4区 SD45	14	銅銭 開元通寶	2.4	0.7	0.1	3.2	—	完形	—
第41図 PL.21	4区 SD45	15	銅銭 元豊通寶	2.5	0.7	0.24	5.0	行書。	完形	錆により2枚接着。
第41図 PL.21	4区 SD45	16	銅銭 □□元寶	2.5	0.7	0.1	4.2	真書。	完形	—
第41図 PL.21	4区 SD45	17	銅銭 元祐通寶	2.35	0.7	0.1	2.6	隷書。	完形	—
第41図 PL.21	4区 SD45	18	銅銭 元□通寶	2.5	0.6	0.2	5.9	隷書。	完形	錆により2枚接着。
第41図 PL.21	4区 SD45	19	銅銭 正隆元寶	2.5	0.7	0.18	3.6	—	完形	—
第41図 PL.21	4区 SD45	20	銅銭 咸平元寶	2.4	0.6	0.1	2.4	真書。	完形	—
第41図 PL.21	4区 SD45	21	銅銭 元豊通寶	2.4	0.7	0.1	2.7	行書。	完形	—
第41図 PL.21	4区 SD45	22	銅銭 元祐通寶	2.4	0.7	0.1	2.9	隷書。	完形	—
第41図 PL.21	4区 SD45	23	銅銭 —	2.2	0.7	0.1	2.6	—	ほぼ完形	—
第41図 PL.21	4区 SD45	24	銅銭 □□元寶	2.35	0.6	0.1	3.0	隷書。	完形	—

図版	出土地	番号	種別 器種	法量（cm） 口径	底径	器高	調整 外面	内面	色調	胎土	残存	備考
第41図 PL.21	4区 SD50	1	土師器 台付甕	—	9.7	[7.4]	台部ナナメハケ後指・ヘラナデ	台部下端折り返し後指ナデ・オサエ	浅黄橙 10YR8/3	黒雲母、褐色粒	台部 4/5	台部内面に砂粒を多く含む粘土貼付

第10表　溝跡出土遺物観察表⑨

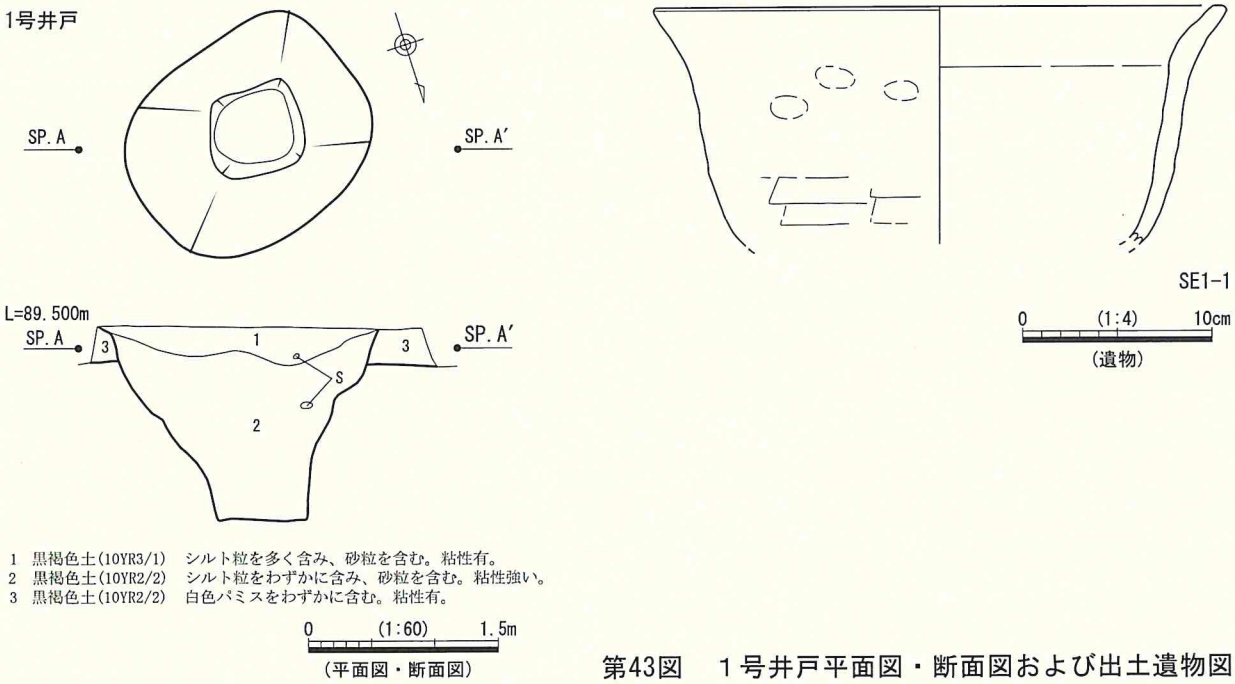
図版	出土地	番号	種別 器種	法量（cm）			調整		色調	胎土	残存	備考
				口径	底径	器高	外面	内面				
第41図 PL.21	4区 SD50	2	土師器 壺	26.7	—	[6.6]	口縁端部強い指ナデ、口縁部ヨコハケ後ヘラナデ	口縁部ヨコナデ後ヘラナデ	浅黄橙 10YR8/3	白・黒色粒	口縁部 1/4	—
第41図 PL.21	4区 SD50	3	陶器 皿	11.7	5.4	2.8	ロクロナデ。底部を除き灰釉。	見込に印花文。灰釉。	灰白 10YR8/2	石英、黒色粒	1/2	瀬戸・美濃系
第42図 PL.21	4区 SD53	1	弥生土器 甕	—	—	[5.2]	口縁部2段の粘土帯接合痕を残す。	ヨコヘラミガキ	にぶい褐 7.5YR6/3	長石、雲母粒、チャート、白色粒	口縁部 破片	—

第４節　井戸跡

検出した井戸の総数は22基で、１区で１基、２区で13基、３区で３基、４区で５基を検出した。年代別にみてみると、中世９基、近世５基、近代１基、時期不明７基となっている。出土遺物をみてみると、６号井戸から肩部に押印文を施す知多窯産の大甕が出土し、中世でもやや古い様相を呈する。また、５・８号井戸からは14世紀後半から15世紀前半代の内耳鍋が出土しており、19号井戸でも同時期の中世瓦が一括廃棄された状況で出土している。これら中世の井戸は、付近に存在する瓦葺建物とともに中世寺院にともなう遺構と考えられる。

１号井戸（第43図）

規模・形状：長径1.9m、短径1.6m、深さ1.5mで、平面形は不整円形を呈する。断面は上端部から0.5mの位置で緩い段差がつき、この部分から下はほぼ垂直に掘削されている。　**出土遺物**：土師器甕・S字甕、内耳鍋・鉢　**覆土**：シルト粒を含む黒褐色粘質土層　**遺構年代**：出土遺物に時期差がみられるが、15世紀代に廃絶したと考えられる。



第43図　１号井戸平面図・断面図および出土遺物図

２号井戸（第 44 図）

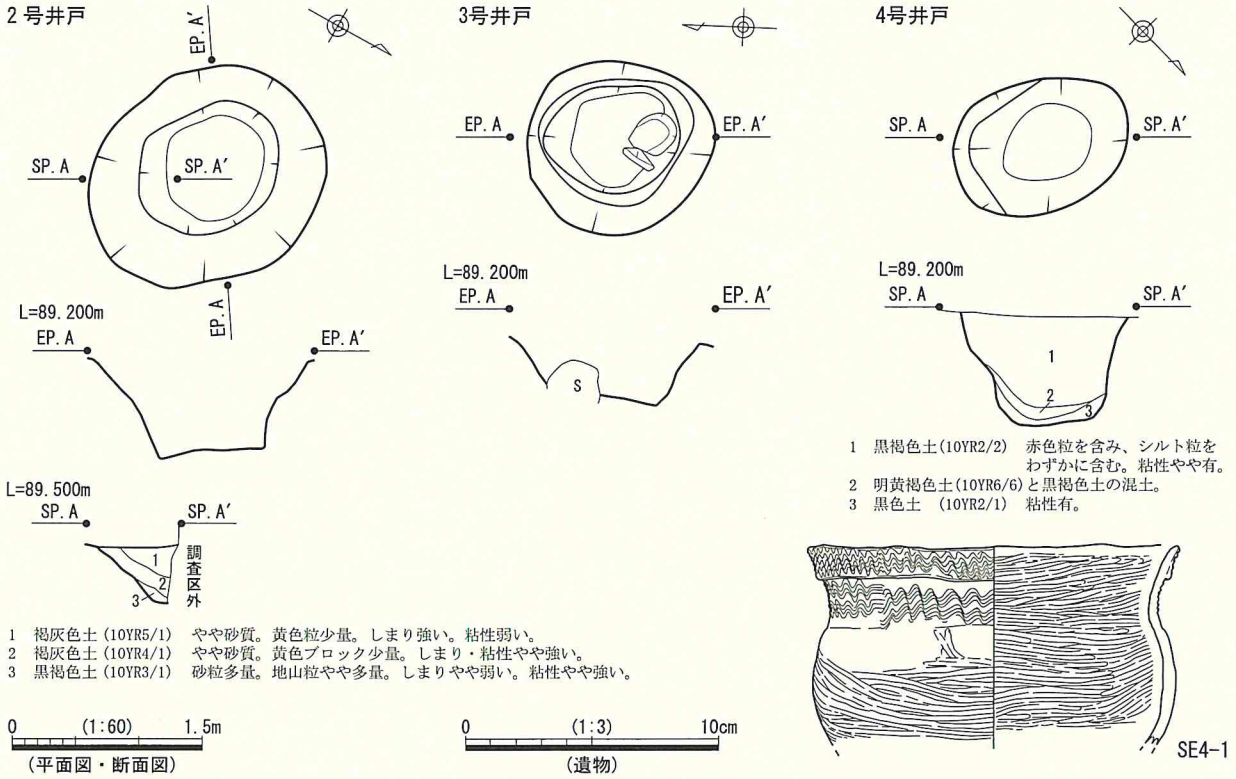
規模・形状：長径 1.9m、短径 1.7m、深さ 70cm で、平面形は不整円形を呈する。断面は台形状を呈するが、上端部から 0.4m の位置で緩い段差がつく。　**出土遺物**：なし　**覆土**：黄色土ブロックを少量含む褐灰色シルト層が堆積することから、人為的な埋没の可能性がある。　**遺構年代**：出土遺物がなく、鍵層となるテフラも含まれないため年代を特定することはできない。　**所見**：現状で見る限り、底面は湧水層に達していない。断面が台形状を呈することなどから、湧水する井戸ではなく、雨水等を溜めておく水溜めのような性格をもつ遺構であると考えられる。

３号井戸（第 44 図）

重複：11・12 号溝を掘り込む　**規模・形状**：長径 1.5m、短径 1.4m、深さ 50cm で、平面形は円形を呈する。断面は台形状を呈するが、上端部から 0.3m の位置で緩い段差がつく。　**出土遺物**：なし　**覆土**：不明。基底部で 40cm 大の礫を検出。　**遺構年代**：出土遺物がなく、鍵層となるテフラも含まれないため年代を特定することはできない。

４号井戸（第 44 図）

重複：14 号溝と重複するが前後関係不明　**規模・形状**：長径 1.4m、短径 1.0m、深さ 88cm で、平面形は楕円形を呈する。断面はほぼ台形状を呈するが、中位で段差が生じている。　**出土遺物**：軟質陶器鉢、弥生土器小型甕　**覆土**：覆土の大半は褐色粒を含む黒褐色土層で、下層は明黄褐色土と黒褐色土が堆積し、最下層には黒色土が堆積する。　**遺構年代**：出土遺物の帰属年代により中世には廃絶したと考えられる。



第44図　２～４号井戸平面図・断面図および４号井戸出土遺物図

５号井戸（第 45 図）

規模・形状：長径 2.0m、短径 1.7m、深さ 1.3m で、平面は不整円形を呈する。断面は上端部から 0.5m の位置で緩い段差がつき、この部分から下はほぼ垂直に掘削されている。　出土遺物：内耳鍋、軟質陶器、土師器坏　覆土：不明　遺構年代：出土遺物の帰属年代により 14 世紀後半には廃絶したと考えられる。

６号井戸（第 45 図）

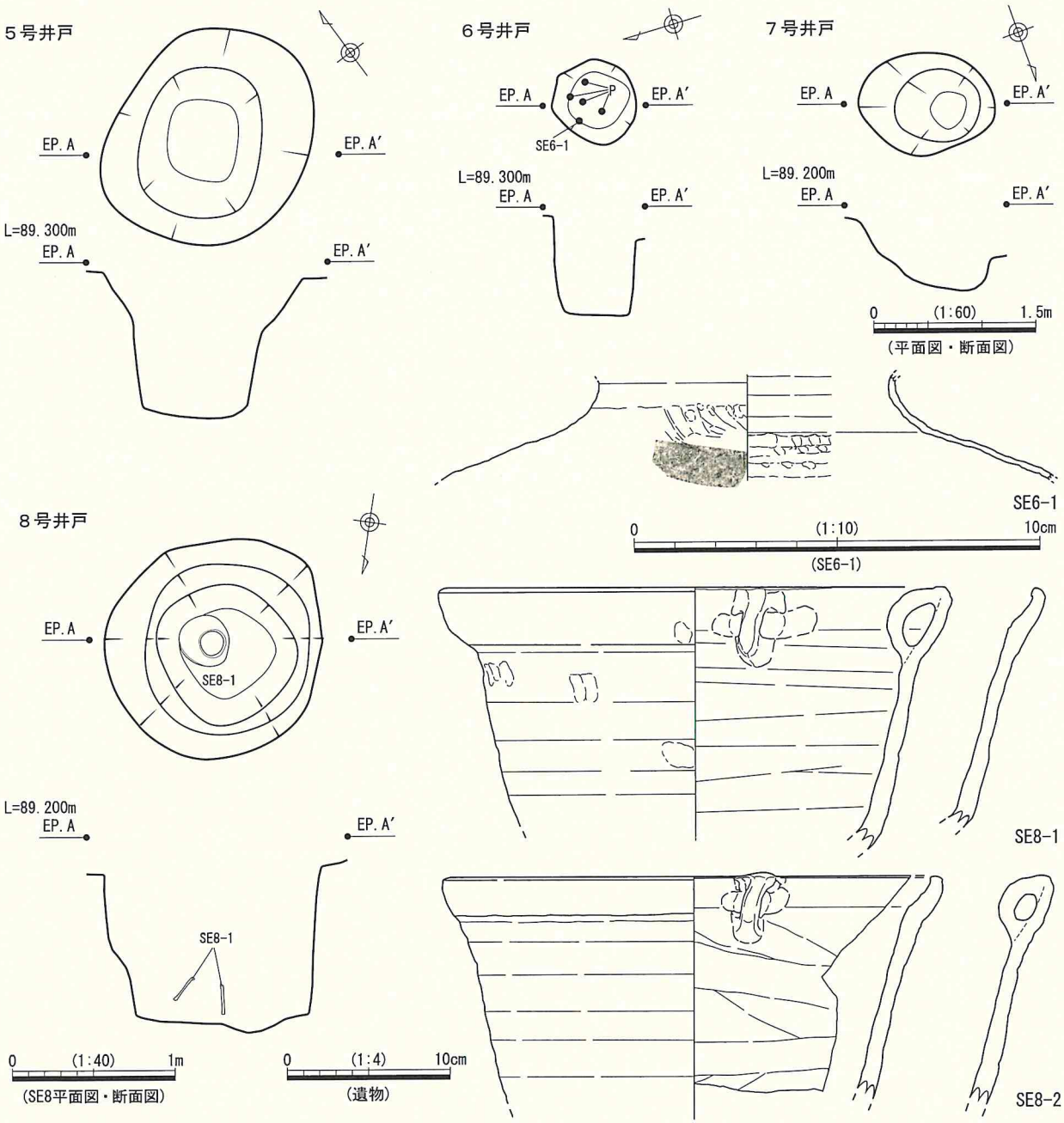
重複：12 号溝を掘り込む　　**規模・形状**：長径 0.8m、短径 0.7m、深さ 80cm で、平面は円形を呈する。**出土遺物**：焼締陶器大甕、黒色片岩（スス付着）　　**覆土**：下層には黄褐色土粒を含む黒褐色土が堆積する。　　**遺構年代**：出土遺物の帰属年代により中世には廃絶したと考えられる。

７号井戸（第 45 図）

重複：22・25 号溝に切られる　　**規模・形状**：長径 1.3m、短径 1.0m、深さ 68cm で、平面は不整円形を呈する。　　**出土遺物**：なし　　**覆土**：不明　　**遺構年代**：15 世紀以前に開削された 22・25 号溝に切られることから、それ以前に開削されたと考えられる。

８号井戸（第 45 図）

規模・形状：長径 1.3m、短径 1.0m、深さ 40cm で、平面は不整円形を呈する。　　**出土遺物**：内耳鍋・鉢、土師器甕　　**覆土**：不明　　**遺構年代**：14 世紀後半から 15 世紀前半代の内耳鍋が出土することから、15 世紀前半以降の廃絶と考えられる。



第45図　５～８号井戸平面図・断面図および６・８号井戸出土遺物図

９号井戸（第 46 図）

重複：25 号溝と重複するが前後関係不明　**規模・形状**：長径 1.1m、短径 1.0m、深さ 1.5m で、平面は不整円形を呈する。　**出土遺物**：なし　**覆土**：不明　**遺構年代**：出土遺物がなく、鍵層となるテフラの有無も不明であるため、年代を特定することはできない。

10 号井戸（第 46 図）

規模・形状：長径 1.1m、短径 0.9m、深さ 70cm で、平面は不整円形を呈する。断面は台形状を呈するが、上端部から 30cm の位置で緩い段差がつく。　**出土遺物**：なし　**覆土**：不明　**遺構年代**：出土遺物がなく、鍵層となるテフラの有無も不明であるため、年代を特定することはできない。

11 号井戸（第 46 図）

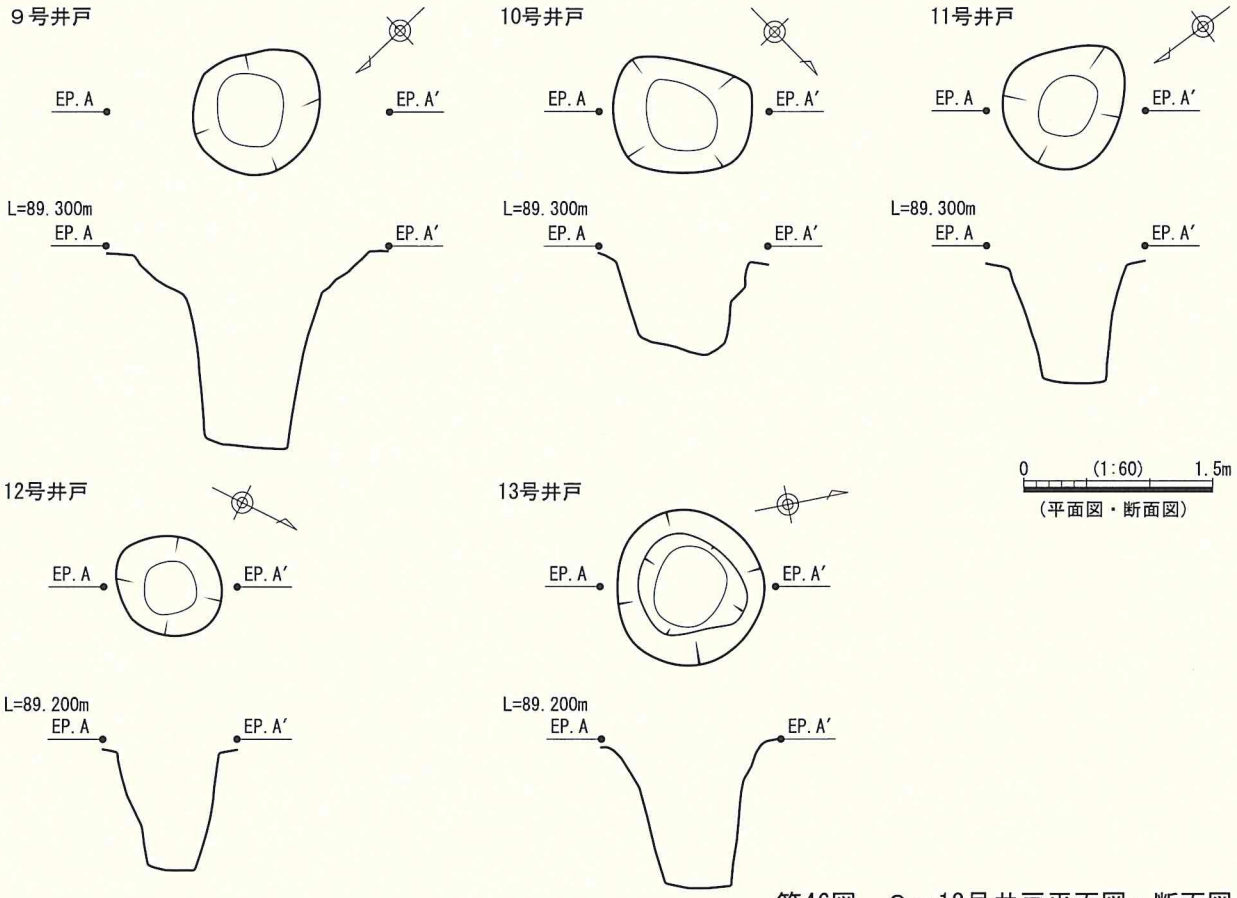
規模・形状：長径 1.1m、短径 1.0m、深さ 94cm で、平面は不整円形を呈する。　**出土遺物**：なし　**覆土**：不明　**遺構年代**：出土遺物がなく、鍵層となるテフラの有無も不明であるため、年代を特定することはできない。

12 号井戸（第 46 図）

規模・形状：長径 0.9m、短径 0.7m、深さ 94cm で、平面は不整円形を呈する。断面は台形状を呈するが、中位で段差が生じている。　**出土遺物**：なし　**覆土**：不明　**遺構年代**：出土遺物がなく、鍵層となるテフラの有無も不明であるため、年代を特定することはできない。

13 号井戸（第 46 図）

規模・形状：長径 1.3m、短径 1.2m、深さ 1.15m で、平面は不整円形を呈する。断面は台形状を呈するが、上端部から 0.3m の位置で緩い段差がつく。　**出土遺物**：なし　**覆土**：不明　**遺構年代**：出土遺物がなく、鍵層となるテフラの有無も不明であるため、年代を特定することはできない。



第46図　９～13号井戸平面図・断面図

14 号井戸（第 47・48 図）

重複：26 号溝を掘り込む　**規模・形状**：長径 0.8m、短径 0.6m、深さ 76cm で、平面形は不整円形を呈する。　**出土遺物**：磁器碗　**覆土**：不明　**遺構年代**：出土遺物および遺構の重複関係から、近世のものと考えられる。

15 号井戸（第 47・48 図）

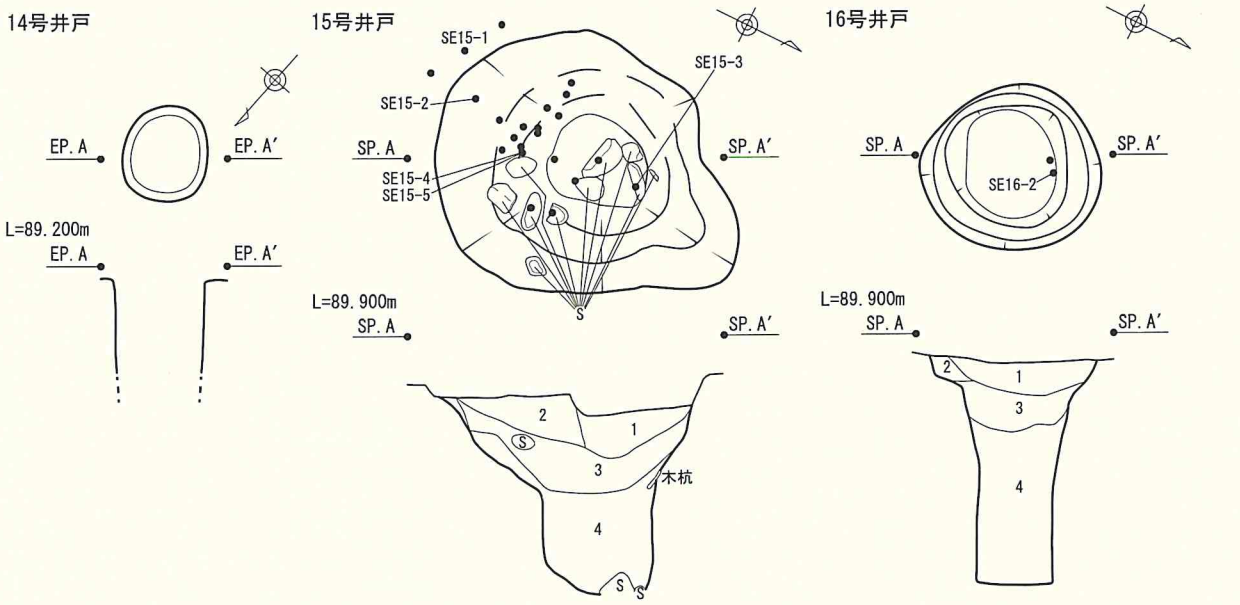
規模・形状：長径 2.6m、短径 2.0m、深さ 1.6m で、平面は不整円形を呈する。断面は上端部から 80cm の位置で緩い段差がつき、この部分から下はほぼ垂直に掘削されている。　**出土遺物**：陶器碗・擂鉢・徳利、磁器碗・皿、焼締陶器擂鉢、内耳鍋、焙烙、須恵器甕、土師器坏・甕・S 字甕　**覆土**：上層は As-A 軽石を含む黒褐色粗砂混じりシルト層、下層は地山黄色土ブロックを含む黒褐色細砂混じりシルト層が堆積することから、下層については人為的な埋没と考えられる。　**遺構年代**：基底部付近で 18 世紀末を中心とする陶磁器が出土することから、18 世紀末以降に廃絶したと考えられる。その他の遺物についても、井戸を埋める際に混入した可能性が高い。

16 号井戸（第 47・48 図）

規模・形状：長径 1.5m、短径 1.3m、深さ 1.75m で、平面は不整円形を呈する。　**出土遺物**：内耳鍋、土師器甕　**覆土**：As-A・As-B 軽石を含む黒褐色～黒色土層で、上層および下層では地山黄色土粒を多量に含む。地山黄色土粒を含むことなどから、人為的な埋没と考えられる。　**遺構年代**：覆土に As-A 軽石を含むことから近世に廃絶したと考えられる。

17 号井戸（第 48 図）

重複：42 号溝を掘り込む　**規模・形状**：直径 0.9m、深さ 1.7m で、平面は円形を呈する。　**出土遺物**：磁器碗　**覆土**：不明　**遺構年代**：出土遺物の帰属年代から近世に廃絶したと考えられる。



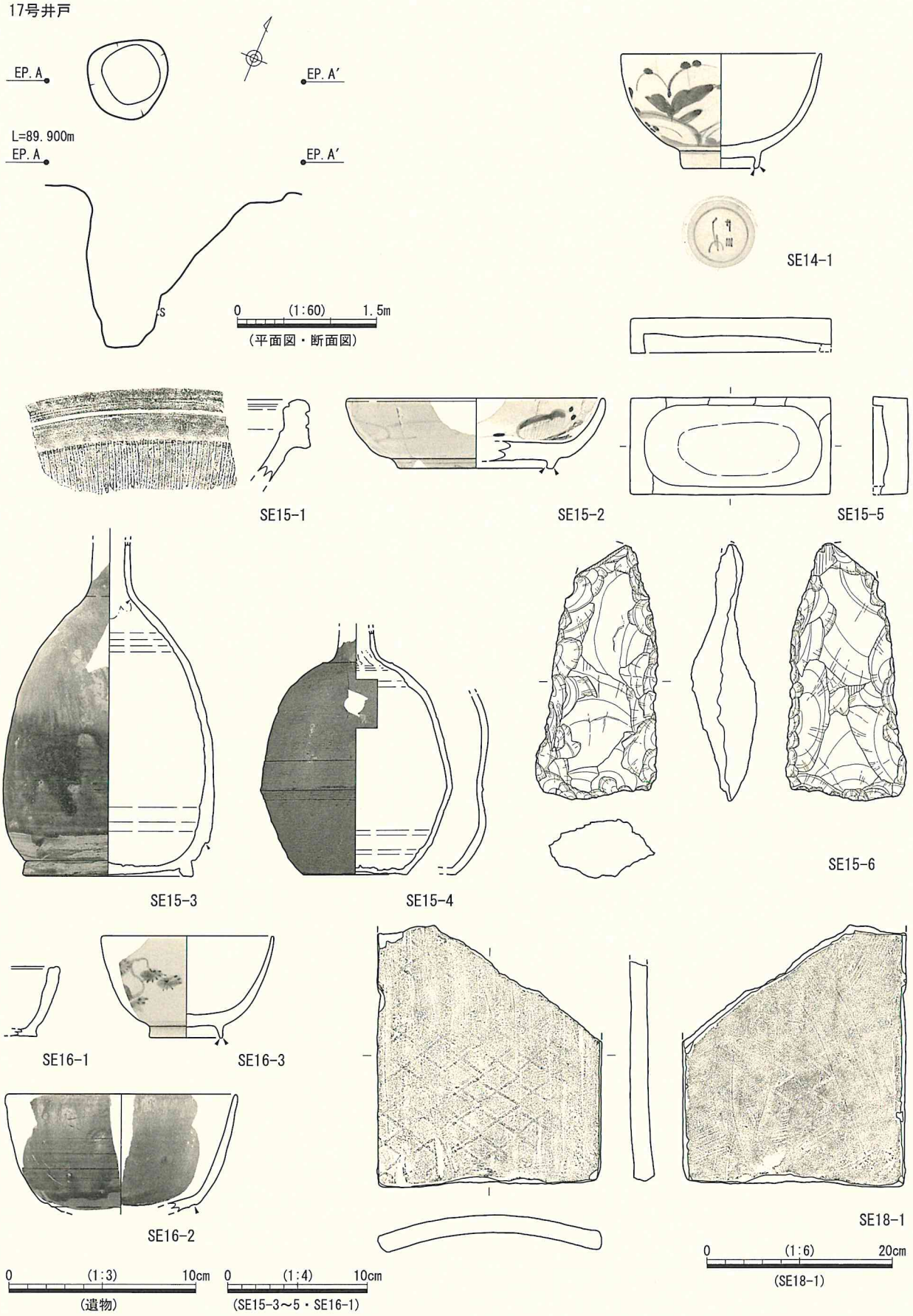
1　黒褐色（10YR2/3）　粗砂混じりシルト。As-A パミス混入。15 号井戸フク土
2　黒褐色（10YR2/3）　細砂混じりシルト。15 号井戸フク土
3　黒褐色（10YR2/2）　粗砂混じりシルト。15 号井戸フク土
4　黒褐色（10YR2/2）　細砂混じりシルト。黄褐色シルトブロック（地山）混入。15 号井戸フク土

1　黒褐色（10YR3/2）　As-A・As-B 混。黄色土粒・塊（φ1～2cm）混。しまり有。16 号井戸フク土
2　黒色　（10YR2/1）　As-A・As-B 混。黄色土粒・塊（φ1～2cm）混。しまり有。16 号井戸フク土
3　黒褐色（10YR3/2）　As-A・As-B 混。16 号井戸フク土
4　黒褐色（10YR3/2）　As-A・As-B 混。黄色土粒・塊（φ1～2cm）混。16 号井戸フク土

● 遺物

0　(1:60)　1.5m
（平面図・断面図）

第47図　14～16号井戸平面図・断面図



第48図　17号井戸平面図・断面図および14～16・18号井戸出土遺物図

18 号井戸（第 48・49 図）

規模・形状：長径 0.7m、残存短径 0.4m、深さ 0.54cm で、平面は円形を呈する。　**出土遺物**：丸瓦・平瓦、縄文土器　**覆土**：砂質土。下層ほどきめが細かい。　**遺構年代**：出土遺物から、中世以降と考えられる。

19 号井戸（第 49 図）

重複：11 号溝を掘り込む　**規模・形状**：長径 1.35m、短径 1.0m、深さ 1.29m で、平面は楕円形を呈する。　**出土遺物**：丸瓦・平瓦、土師器小片　**覆土**：下から砂層・粘質土・砂質土の順に堆積する。**遺構年代**：上層に中世の瓦を一括廃棄していることから、中世に廃絶したと考えられる。

20 号井戸（第 50 図）

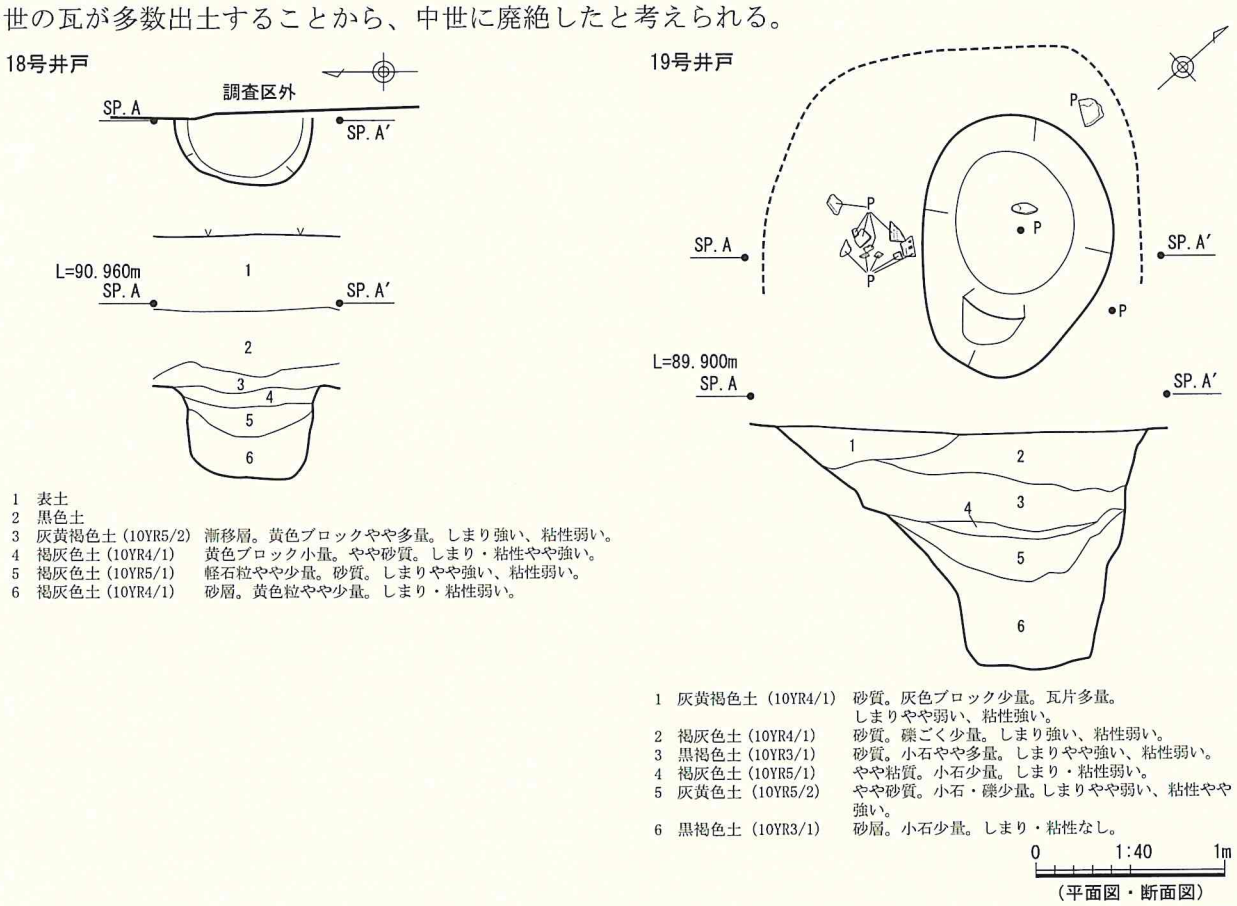
規模・形状：長径 1.4m、短径 1.1m、深さ 1.1m で、平面は不整円形を呈する。　**出土遺物**：土師器小片　**覆土**：砂質土。上層に As-A と思われる軽石が混入。　**遺構年代**：覆土上層に As-A が混入することから、近世以降に廃絶したと考えられる。

21 号井戸（第 50 図）

規模・形状：11・52・53 号溝を掘り込む　**規模・形状**：長径 1.1m、短径 1.0m、深さ 1.63m で、平面は円形を呈する。　**出土遺物**：軟質陶器内耳鍋・焙烙、桶　**覆土**：半截中に崩落したため上層は不明。下層は砂層が、最下層には砂利層が形成される　**遺構年代**：下層からコンクリートブロックを検出したため、近代以降の廃絶と考えられる

22 号井戸（第 50 図）

規模・形状：長径 1.6m、短径 1.0m、深さ 1.16m で、平面は楕円形を呈する。　**出土遺物**：丸瓦・平瓦、土師器小片　**覆土**：砂質土。黄色地山土ブロックが多量に混入。　**遺構年代**：上層から中世の瓦が多数出土することから、中世に廃絶したと考えられる。

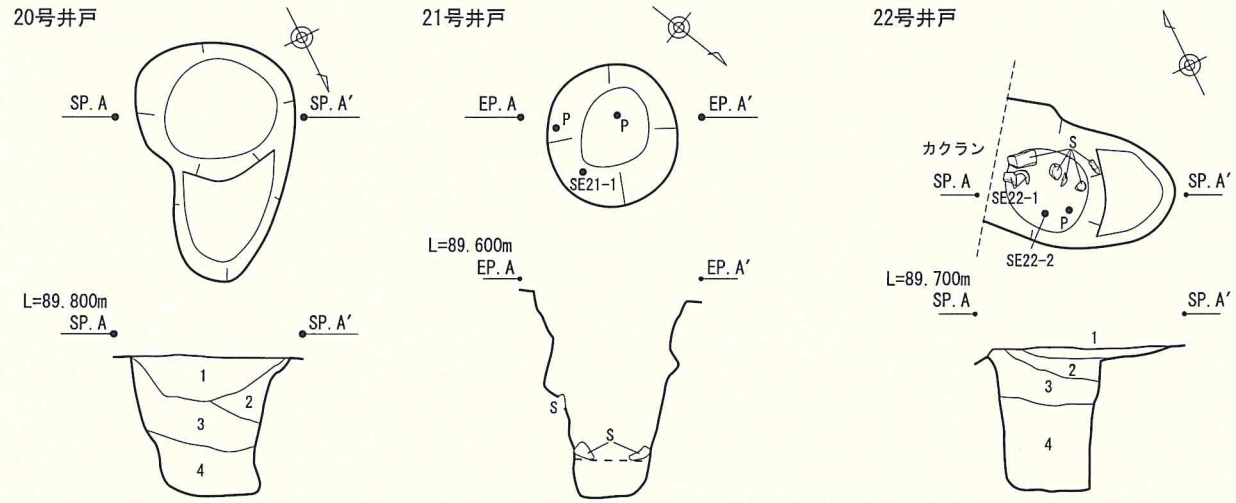


1　表土
2　黒色土
3　灰黄褐色土（10YR5/2）　漸移層。黄色ブロックやや多量。しまり強い、粘性弱い。
4　褐灰色土（10YR4/1）　黄色ブロック小量。やや砂質。しまり・粘性やや強い。
5　褐灰色土（10YR5/1）　軽石粒やや少量。砂質。しまりやや強い、粘性弱い。
6　褐灰色土（10YR4/1）　砂層。黄色粒やや少量。しまり・粘性弱い。

1　灰黄褐色土（10YR4/1）　砂質。灰色ブロック少量。瓦片多量。しまりやや弱い、粘性強い。
2　褐灰色土（10YR4/1）　砂質。礫ごく少量。しまり強い、粘性弱い。
3　黒褐色土（10YR3/1）　砂質。小石やや多量。しまりやや強い、粘性弱い。
4　褐灰色土（10YR5/1）　やや粘質。小石少量。しまり・粘性弱い。
5　灰黄色土（10YR5/2）　やや砂質。小石・礫少量。しまりやや弱い、粘性やや強い。
6　黒褐色土（10YR3/1）　砂層。小石少量。しまり・粘性なし。

（平面図・断面図）

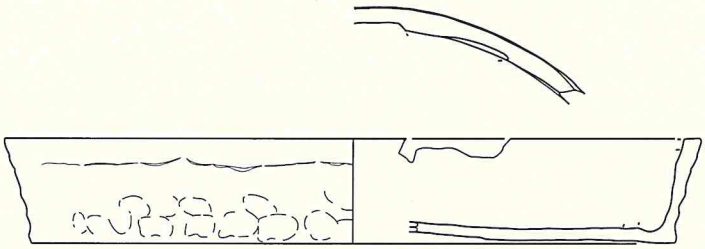
第49図　18・19号井戸平面図・断面図

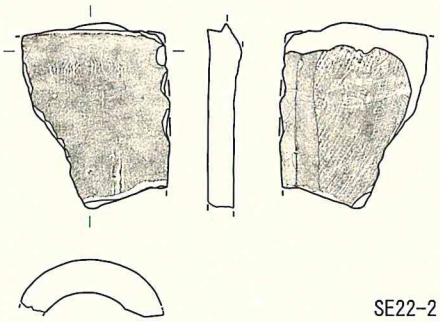


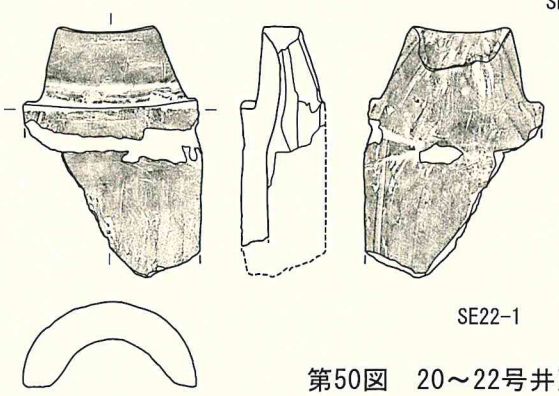
1　褐灰色土（10YR4/1）　砂質。軽石（As-A？）やや多量。しまり強い、粘性弱い。
2　にぶい黄橙色土（10YR7/4）　地山ブロック主体。しまりやや弱い、粘性やや強い。
3　黒褐色土（10YR3/1）　地山ブロック少量。しまり強い、粘性弱い。
4　褐灰色土（10YR4/1）　やや砂質。地山ブロックやや多量。しまり強い、粘性弱い。

1　褐灰色土（10YR5/2）　軽石（As-A？）粒多量。黄色ブロック多量。しまり非常に強い、粘性弱い。
2　褐灰色土（10YR4/1）　黄色ブロック多量。しまり強い、粘性やや強い。
3　黒褐色土（10YR3/1）　やや砂質。黄色粒少量。しまり・粘性やや弱い。
4　黒褐色土（10YR3/1）　砂質。黄色ブロック多量。しまり・粘性やや弱い。

0　(1:60)　1.5m
（平面図・断面図）







0　(1:4)　10cm
(SE21-1)

0　(1:6)　20cm
(遺物)

第50図　20～22号井戸平面図・断面図および21・22号井戸出土遺物図

第11表　井戸跡出土遺物観察表①

図版	出土地	番号	種別 器種	法量（cm） 口径	底径	器高	調整 外面	内面	色調	胎土	残存	備考
第43図 PL. 21	1区 SE1	1	軟質陶器 内耳鍋	(34. 2)	—	[12. 6]	口縁ヨコナデ、体部指オサエ後ヨコナデ	ヨコナデ	黒褐色 10YR3/1	長石、黒・褐色粒	1/10	—
第44図 PL. 21	2-1区 SE4	1	樽式土器 小型甕	14. 7	—	[7. 8]	口縁部細い粘土紐付加による折り返し後、櫛描波状文。頸部タテハケ後櫛描波状文。胴部ナデ後ヨコミガキ	ナデ後ヨコミガキ	にぶい黄橙 10YR7/3	長石、黒・褐色粒	口縁～胴部 1/3	—
第45図 PL. 21	2-1区 SE6	1	焼締陶器 大甕	—	—	[16. 5]	頸部ヨコナデ、胴部板状工具によるナデ・指オサエ。肩部に叩き	頸部ヨコナデ、胴部指ナデ・オサエ	灰黄褐 10YR5/2	長石、白色粒	頸部～胴部破片	常滑
第45図 PL. 21	2-1区 SE8	1	軟質陶器 内耳鍋	31. 5	—	[16. 2]	口縁部ヨコナデ、体部雑なナデ後指オサエ。	ヨコナデ	黒褐 7. 5YR3/1	長石、白色微細粒	底部欠損	内耳2耳残存 14世紀末～15世紀初頭
第45図 PL. 21	2-1区 SE8	2	軟質陶器 内耳鍋	30. 8	—	[14. 0]	口縁部ヨコナデ、体部雑なナデ後指オサエ。	ヨコナデ	褐灰 10YR6/1	長石、白色微細粒	1/3	内耳1耳残存 14世紀末～16世紀初頭
第48図 PL. 22	2-1区 SE14	1	磁器 染付碗	(10. 8)	4. 2	6. 2	灰釉＋呉須絵。雪輪梅樹文。高台際圏線。	灰釉。	灰白 10Y8/1	黒色粒	1/4	肥前系 1710～1780年代

第12表　井戸跡出土遺物観察表②

図版	出土地	番号	種別 器種	法量（cm） 口径	底径	器高	調整 外面	内面	色調	胎土	残存	備考
第48図 PL.22	3区 SE15	1	焼締陶器 擂鉢	—	—	[4.4]	錆釉。体部ヘラケズリ。	ヨコナデ	明赤褐 2.5YR5/6	長石、黒色粒	口縁部破片	—
第48図 PL.22	3区 SE15	2	磁器 染付皿	(14.0)	8.4	3.8	体部唐草文。高台際圏線。高台端部無釉、砂付着。	体部雪輪文	明緑灰 7.5GY8/1	—	1/3	肥前系 1700～1780年代
第48図 PL.22	3区 SE15	3	陶器 徳利	—	12.2	[24.0]	鉄釉。底部釉拭い取り。	無釉	黒褐 10YR2/2	黒色粒	ほぼ完形	美濃 18世紀末～19世紀前半
第48図 PL.22	3区 SE15	4	陶器 徳利	—	7.5	[17.5]	錆釉。	無釉	褐 7.5YR4/4	長石、黒色粒	ほぼ完形	美濃 18世紀末～19世紀前半

図版	出土地	番号	種別 器種	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g) 重さ	石材	作成技法等の特徴	残存	備考
第48図 PL.22	3区 SE15	5	石製品 硯	14.4	6.9	1.5	450	黒色頁岩	陸部使用によりレンズ状にくぼむ	ほぼ完形	—
第48図 PL.22	3区 SE15	6	石製品 打製石斧	[13.7]	6.4	3.2	240	頁岩	撥形。両側縁部に直接打撃による両面加工を施す。	ほぼ完形	—

図版	出土地	番号	種別 器種	法量（cm） 口径	底径	器高	調整 外面	内面	色調	胎土	残存	備考
第48図 PL.22	3区 SE16	1	軟質陶器 内耳鍋	—	—	[5.0]	ヨコナデ	ヨコナデ	黒褐 7.5YR3/1	雲母粒、黒・褐色粒	破片	—
第48図 PL.22	3区 SE16	2	磁器 染付碗	(12.4)	—	[6.3]	体部松文。高台際圏線。	—	オリーブ褐 5Y5/4	黒色粒	2/5	肥前系
第48図 PL.22	3区 SE16	3	陶器 碗	(9.2)	4.0	5.5	飴釉×うのふ釉。	飴釉×うのふ釉。	灰白 10Y8/1	黒色粒	1/6	美濃・尾呂茶碗 18世紀前半

図版	出土地	番号	種別 器種	全長・幅 (cm)	厚さ (cm)	凸面調整	凹面調整	側端面調整	色調 焼成	残存	備考
第48図 PL.22	4区 SE18	1	平瓦	全長：[28.3] 広端幅：23.2	1.9	斜格子叩き。離れ砂付着。	雑なナデ。離れ砂。	凸面側縁丸くナデ調整。	3B/軟質	3/4	—

図版	出土地	番号	種別 器種	法量（cm） 口径	底径	器高	調整 外面	内面	色調	胎土	残存	備考
第50図 PL.22	4区 SE21	1	軟質陶器 内耳鍋	36.8	33.8	5.6	口唇～口縁部ヨコナデ、体部ヨコナデ後指オサエ。底部離れ砂。	ヨコナデ。体部と底部の境強いナデ。内耳基部残存。	黒褐 10YR3/1	雲母粒	1/4	体部上位接合痕 17世紀前半

図版	出土地	番号	種別 器種	全長 (cm)	幅・玉縁長 (cm)	厚さ (cm)	凸面調整	凹面調整	側端面調整	色調 焼成	残存	備考
第50図 PL.22	4区 SE22	1	丸瓦	[20.9]	幅[13.7] 玉縁：7.6 玉縁長：6.1	最大：2.9 最小：1.5	玉縁部ヨコナデ。胴部縄叩き後丁寧なタテ・ヨコナデ胴部凸面側縁丸くナデ調整。	32本/3cmの細かい布目痕	玉縁部凸側縁・凹面端部・側縁面取り。胴部凹側面・側縁部面取り。	1B/軟質	1/4	—
第50図 PL.22	4区 SE22	2	丸瓦	[14.8]	幅：[11.7]	最大：2.7 最小：2.0	胴部縄叩き後ヨコナデ。胴部凸面側縁丸くナデ調整。	細かい布目痕。コビキA	胴部凹側面・側縁部面取り。	1B/軟質	1/3	—

第５節　礎石建物・土坑跡

検出した土坑跡の総数は52基で、１区で５基、２区で16基、３区で３基、４区で14基を検出した。なお、６～17号土坑に関しては礎石建物の柱穴である可能性が高いため、項目を分けて報告する。年代別にみてみると、縄文時代中期後葉１基、古墳時代以前１基、古墳時代以降１基、古墳時代前期４基、中世（15世紀）３基、中世（15世紀）以降７基、時期不明11基などとなっている。特筆すべき遺構としては、縄文中期後葉の22号土坑、土坑墓と考えられる40・44・45号土坑があげられる。

１．１号礎石建物跡

建物の柱穴と考えられる土坑は２－１区北辺中央部で検出された。建物の復元はできないものの、周辺の溝から軒瓦を含む多量の瓦が出土していることや遺構配置の状況から、建物の柱穴と推定した。やや大型の柱穴基底部には根石とみられる亜円礫を配することから、礎石建物にともなう柱穴の一部と考えられる。

６号土坑（第51・52図）

規模・形状：長径0.8m、短径（検出長）0.7m、深さ48cmで、平面形は隅丸方形を呈する。　**出土遺物**：なし　**覆土**：シルト粒・小ブロックを多量に含む黒褐色土　**遺構年代**：出土遺物がなく、鍵層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできないが、遺構の性格や形状から中世と推定される。

７号土坑（第 51・52 図）

規模・形状：長径 0.7m、短径 0.6m、深さ 45cm で、平面形は隅丸方形を呈する。　**出土遺物**：陶器鉢、縄文土器深鉢（縄文中期後葉）　**覆土**：地山ブロックを多量に含む黒褐色土　**遺構年代**：鍵層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできないが、遺構の性格や形状から中世と推定される。　**所見**：基底部に根石とみられる径 20cm 程度の亜円礫を配することから、礎石据付穴（柱穴）と考えられる。

８号土坑（第 51・52 図）

重複：４号井戸と重複するが前後関係不明　**規模・形状**：長径 0.7m、短径 0.6m、深さ 44cm で、平面形は隅丸方形を呈する。　**出土遺物**：なし　**覆土**：不明　**遺構年代**：出土遺物がなく、鍵層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできないが、遺構の性格や形状から中世と推定される。　**所見**：基底部に根石とみられる径 10cm 程度の亜円礫を配することから、礎石据付穴（柱穴）と考えられる。

９号土坑（第 51・52 図）

規模・形状：長径 1.0m、短径 0.8m、深さ 39cm で、平面形は隅丸方形を呈する。　**出土遺物**：なし　**覆土**：不明　**遺構年代**：出土遺物がなく、鍵層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできないが、遺構の性格や形状から中世と推定される。

10 号土坑（第 51・52 図）

規模・形状：長径 0.4m、短径 0.3m、深さ 34cm で、平面形は隅丸方形を呈する。　**出土遺物**：なし　**覆土**：不明　**遺構年代**：出土遺物がなく、鍵層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできないが、遺構の性格や形状から中世と推定される。

11 号土坑（第 51・52 図）

重複：15 号溝を掘り込む　**規模・形状**：長径 0.6m、短径 0.2m、深さ 35cm で、平面形は円形を呈する。　**出土遺物**：なし　**覆土**：黒色粒を含む黒色土　**遺構年代**：出土遺物がなく、鍵層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできないが、遺構の性格や形状から中世と推定される。　**所見**：基底部に根石または礎石とみられる径 36cm の亜円礫を配することから、礎石据付穴（柱穴）と考えられる。

12 号土坑（第 51・52 図）

規模・形状：長径 0.8m、短径 0.6m、深さ 24cm で、平面形は隅丸方形を呈する。　**出土遺物**：なし　**覆土**：シルト粒・小ブロックを多量に含む黒褐色土　**遺構年代**：出土遺物がなく、鍵層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできないが、遺構の性格や形状から中世と推定される。　**所見**：基底部に根石とみられる径 20cm 程度の亜円礫を配することから、礎石据付穴（柱穴）と考えられる。

13 号土坑（第 51・52 図）

重複：12 号溝を掘り込む　**規模・形状**：長径 0.7m、短径 0.7m、深さ 40cm で、平面形は隅丸方形を呈する。　**出土遺物**：なし　**覆土**：不明　**遺構年代**：出土遺物がなく、鍵層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできないが、遺構の性格や形状から中世と推定される。　**所見**：基底部に根石とみられる径２～5cm 程度の亜円礫を配することから、礎石据付穴（柱穴）と考えられる。

14 号土坑（第 51 図）

規模・形状：長径 0.6m、短径 0.35m、深さ 13cm で、平面形は隅丸方形を呈する。　**出土遺物**：なし　**覆土**：不明　**遺構年代**：出土遺物がなく、鍵層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできないが、遺構の性格や形状から中世と推定される。　**所見**：基底部に根石とみられる径 20cm 程度の亜円礫を配することから、礎石据付穴（柱穴）の可能性がある。

15 号土坑（第 51・52 図）

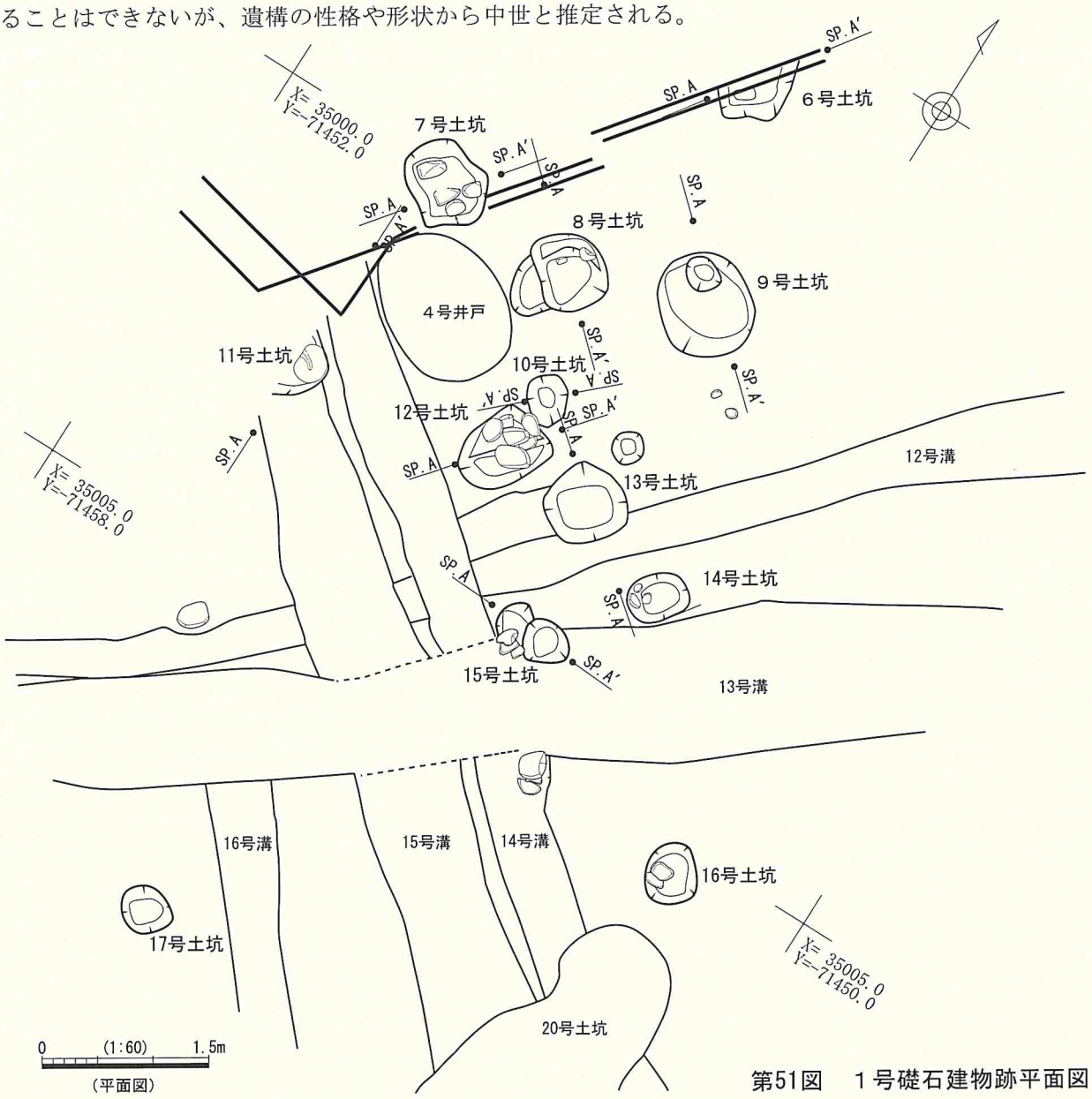
重複：13 号溝を掘り込む　**規模・形状**：長径 0.5m、短径 0.2m、深さ 26cm で、平面形は楕円形を呈する。　**出土遺物**：なし　**覆土**：不明　**遺構年代**：出土遺物がなく、鍵層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできないが、遺構の性格や形状から中世と推定される。　**所見**：基底部に根石とみられる径 20cm 程度の亜円礫を配することから、礎石据付穴（柱穴）の可能性がある。

16 号土坑（第 51 図）

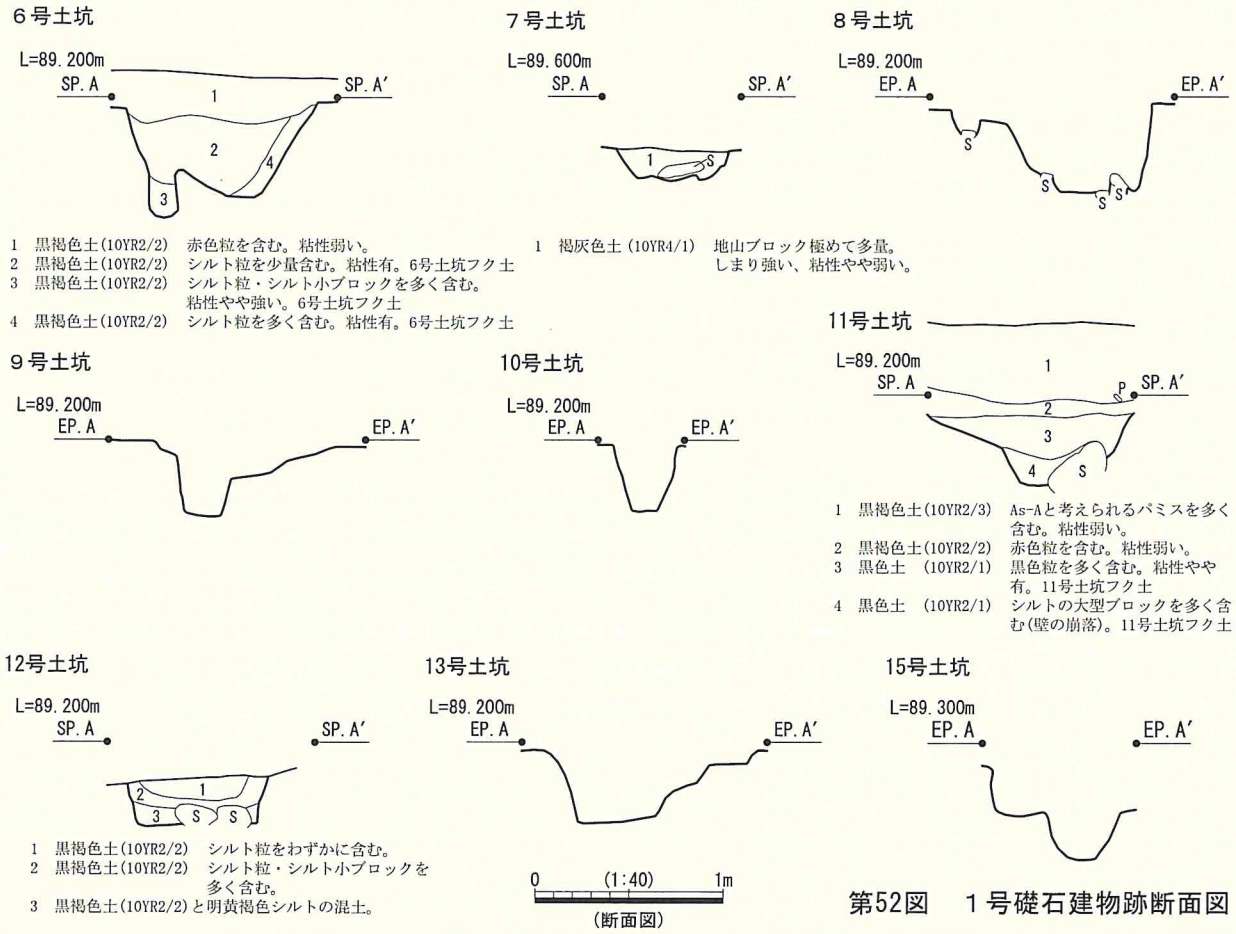
規模・形状：長径 0.55m、短径 0.4m、深さ 11.5cm で、平面形は隅丸方形を呈する。　**出土遺物**：なし　**覆土**：不明　**遺構年代**：出土遺物がなく、鍵層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできないが、遺構の性格や形状から中世と推定される。　**所見**：基底部に根石とみられる径 20cm 程度の亜円礫を配することから、礎石据付穴（柱穴）の可能性がある。

17 号土坑（第 51 図）

規模・形状：長径 0.5m、短径 0.4m、深さ 16.6cm で、平面形は不整円形を呈する。　**出土遺物**：なし　**覆土**：不明　**遺構年代**：出土遺物がなく、鍵層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできないが、遺構の性格や形状から中世と推定される。



第51図　１号礎石建物跡平面図



第52図　１号礎石建物跡断面図

２．土坑跡

１号土坑（第 53 図）

規模・形状：長径 0.8m、短径 0.5m、深さ 11cm で、平面形は楕円形を呈する。　**出土遺物**：なし　**覆土**：As-C 軽石を含むシルト層　**遺構年代**：覆土に As-C 軽石を含むことから、As-C 降下以降に廃絶したと考えられる。

２号土坑（第 53 図）

規模・形状：長径 0.48m、短径 0.38m、深さ 12cm で、平面形は楕円形を呈する。　**出土遺物**：なし　**覆土**：As-C 軽石を含むシルト層　**遺構年代**：覆土に As-C 軽石を含むことから、As-C 降下以降に廃絶したと考えられる。

３号土坑（第 53 図）

重複：３号溝と重複関係にあるが、覆土は３号溝上層とほとんど差異がないため、前後関係不明。

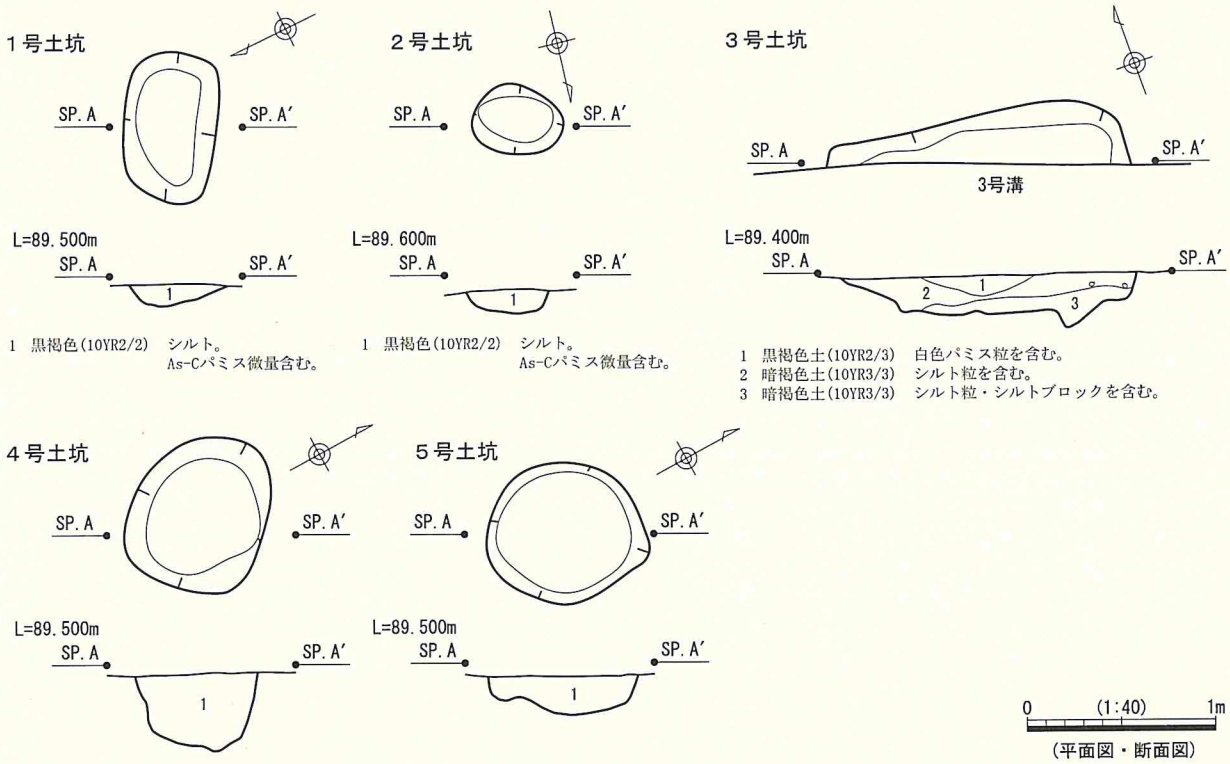
規模・形状：長径 1.6m、短径（残存長）0.4m、深さ 20cm　**出土遺物**：土師器 S 字甕　**覆土**：上層に白色パミスを含む黒褐色土で、下層はシルト粒を含む暗褐色土が堆積する。　**遺構年代**：古墳時代前期の溝である３号溝と重複関係にあり、S 字甕が出土しているが、前後関係は不明であり、遺物も流れ込みの可能性が高いため年代を断定することはできない。ただし、覆土の状況から古墳時代の可能性も考えられる。

４号土坑（第 53 図）

規模・形状：長径 0.9m、短径 0.7m、深さ 40cm で、平面形は不整円形を呈する。　**出土遺物**：縄文土器（縄文中期後葉）　**覆土**：白色パミス粒を含む黒色土（As-C 軽石か）　**遺構年代**：覆土の状況から、As-C 降下以降に廃絶した可能性が考えられる。

５号土坑（第 53 図）

規模・形状：長径 0.8m、短径 0.7m、深さ 10cm で、平面形は不整円形を呈する。　**出土遺物**：土師器 S 字甕　**覆土**：白色パミス（As-C 軽石か）・地山黄色土ブロックを含む黒褐色土　**遺構年代**：覆土の状況から、As-C 降下以降に廃絶した可能性が考えられる。



第53図　１～５号土坑平面図・断面図

18 号土坑（第５図）

重複：17 号溝を掘り込む　**規模・形状**：長径 0.8m、短径 0.6m、深さ 50cm で、平面形は不整円形を呈する。　**出土遺物**：なし　**覆土**：不明　**遺構年代**：15 世紀以降に廃絶した 17 号溝を掘り込むことから、それ以降の開削と考えられる。

19 号土坑（第 54 図）

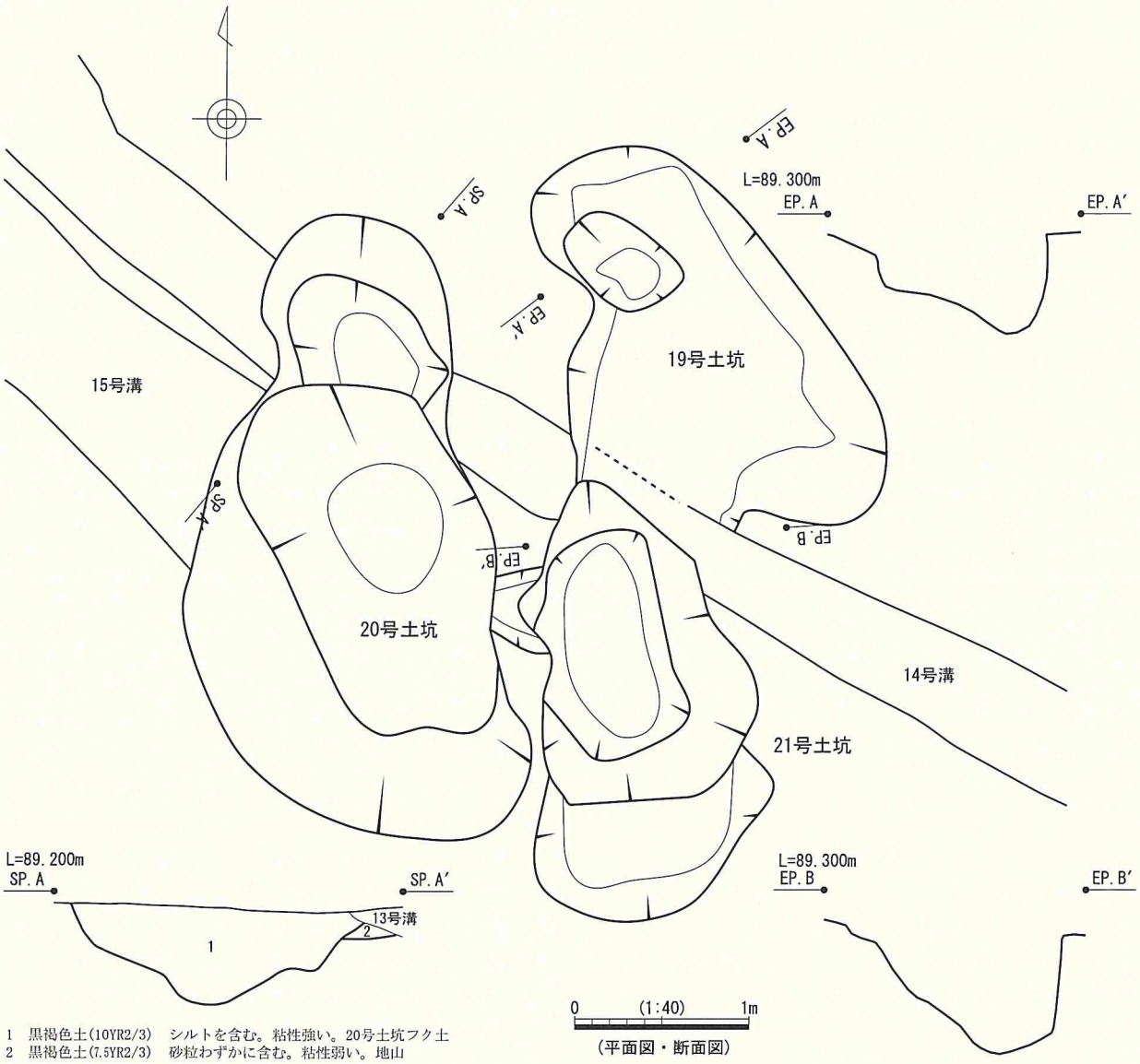
重複：14 号溝を掘り込む　**規模・形状**：長径 2.6m、短径 1.6m、深さ 53cm で、平面形は不整円形を呈する。　**出土遺物**：なし　**覆土**：不明　**遺構年代**：15 世紀以降に廃絶した 14 号溝を掘り込むことから、それ以降の開削と考えられる。

20 号土坑（第 54 図）

重複：14 号溝を掘り込み、15 号溝に切られる。　**規模・形状**：長径 2.7m、短径 1.8m、深さ 56cm ～ 1.0m で、平面形は楕円形を呈する。　**出土遺物**：なし　**覆土**：黒褐色土　**遺構年代**：15 世紀以降に廃絶した 14 号溝を掘り込むことから、15 世紀以降に開削されたと考えられる。ただし、断面写真では単一の土により埋没したような状況がみられ、14 号溝とそれほど時期差のない 15 号溝に切られることから、15 世紀頃に比較的短期間のうちに埋没したことが推定される。

21 号土坑（第 54 図）

重複：14 号溝を掘り込む　**規模・形状**：長径 1.9m、短径 1.0m、深さ 68cm で、平面形は楕円形を呈する。　**出土遺物**：なし　**覆土**：不明　**遺構年代**：15 世紀以降に廃絶した 14 号溝を掘り込むことから、それ以降の開削と考えられる。



第54図　19～21号土坑平面図・断面図

22 号土坑（第 55・63 図）

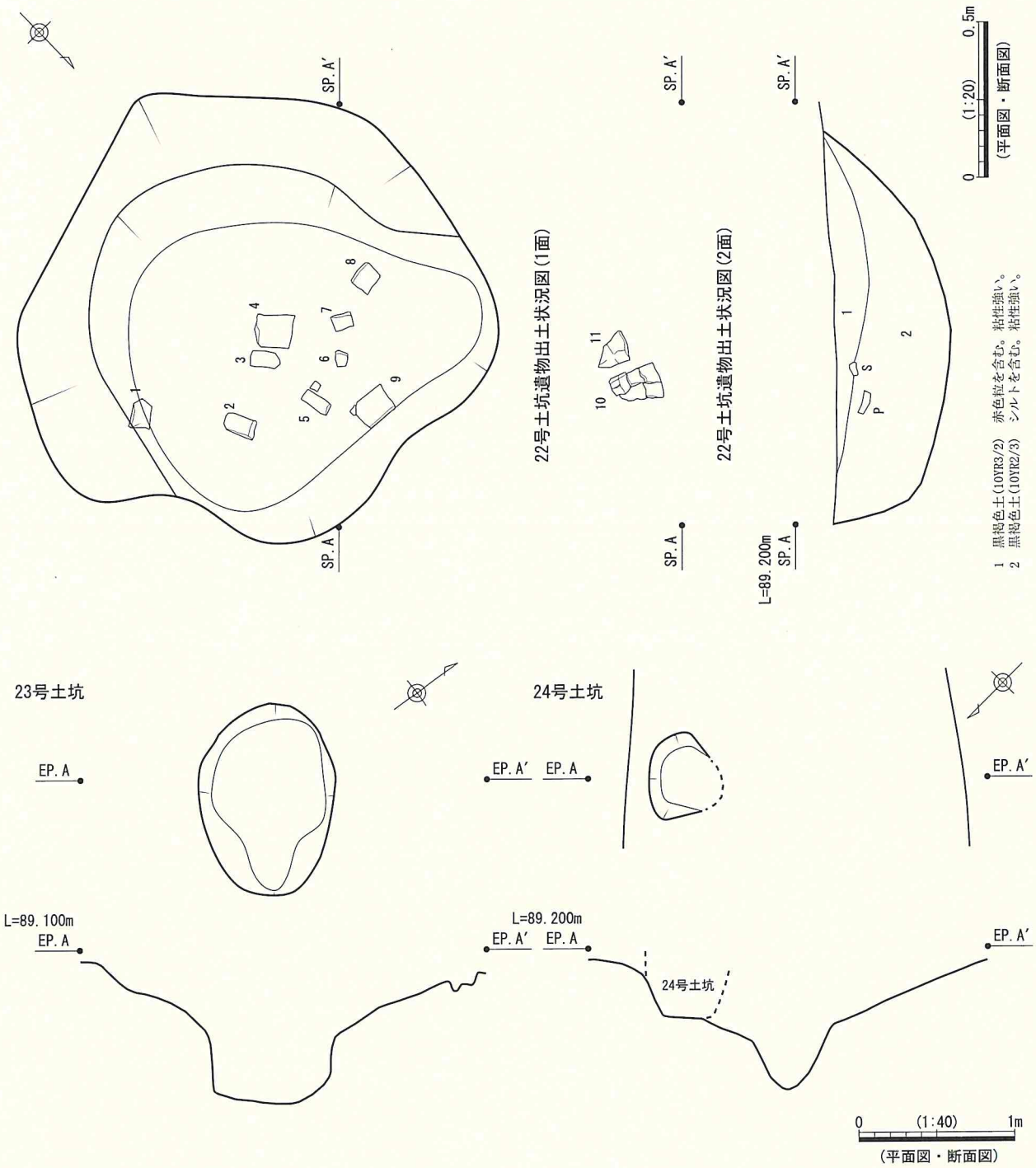
重複：16 号溝と重複するが前後関係不明　　**規模・形状**：長径 1.5m、短径 1.4m、深さ 38cm で、平面形は不整円形を呈する。　**出土遺物**：縄文土器深鉢（加曽利 E3 式）　**覆土**：上層に褐色粒子、下層にシルトブロック（地山黄色土か）を含む黒褐色土　**遺構年代**：覆土中位より多量の縄文土器が出土していることから、縄文時代中期後葉のものと考えられる。

23 号土坑（第 55 図）

重複：17 号溝を掘り込む　**規模・形状**：長径 1.9m、短径 1.2m、深さ 66cm で、平面形は楕円形を呈する。　**出土遺物**：なし　**覆土**：不明　**遺構年代**：15 世紀以降に廃絶した 17 号溝を掘り込むことから、それ以降の開削と考えられる。

24 号土坑（第 55 図）

重複：17 号溝を掘り込む　**規模・形状**：長径 0.6m、短径（残存長）0.3m、深さ 38cm で、平面形は不整円形を呈する。　**出土遺物**：なし　**覆土**：不明　**遺構年代**：15 世紀以降に廃絶した 17 号溝を掘り込むことから、それ以降の開削と考えられる。



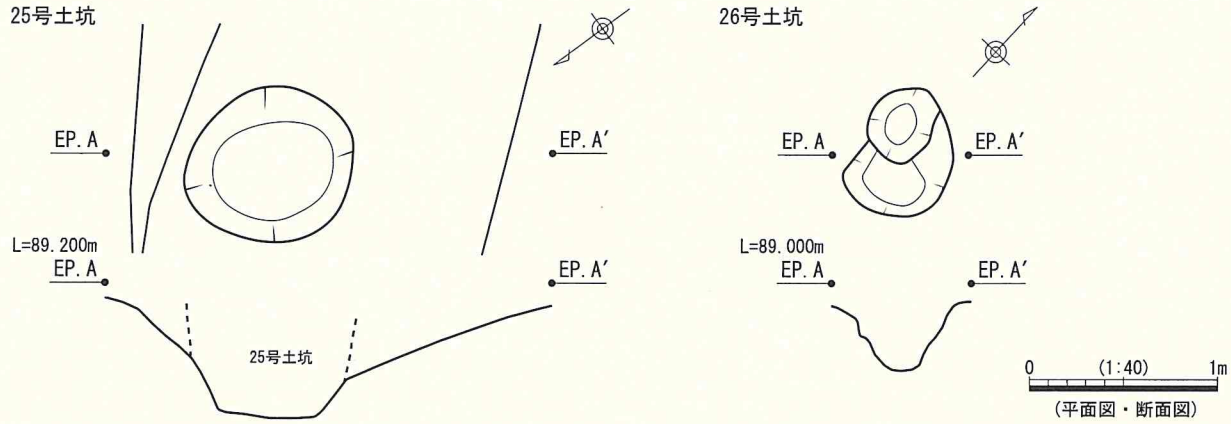
第55図　22～24号土坑平面図・断面図

25 号土坑（第 56 図）

重複：17 号溝を掘り込む　**規模・形状**：長径 1.0m、短径 0.8m、深さ 61cm で、平面形は円形を呈する。　**出土遺物**：なし　**覆土**：不明　**遺構年代**：15 世紀以降に廃絶した 17 号溝を掘り込むことから、それ以降の開削と考えられる。

26 号土坑（第 56 図）

重複：17 号溝を掘り込む　**規模・形状**：長径 0.4m、短径 0.3m、深さ 36cm で、平面形は不整円形を呈する。　**出土遺物**：なし　**覆土**：不明　**遺構年代**：15 世紀以降に廃絶した 17 号溝を掘り込むことから、それ以降の開削と考えられる。



第56図　25・26号土坑平面図・断面図

27 号土坑（第 57 図）

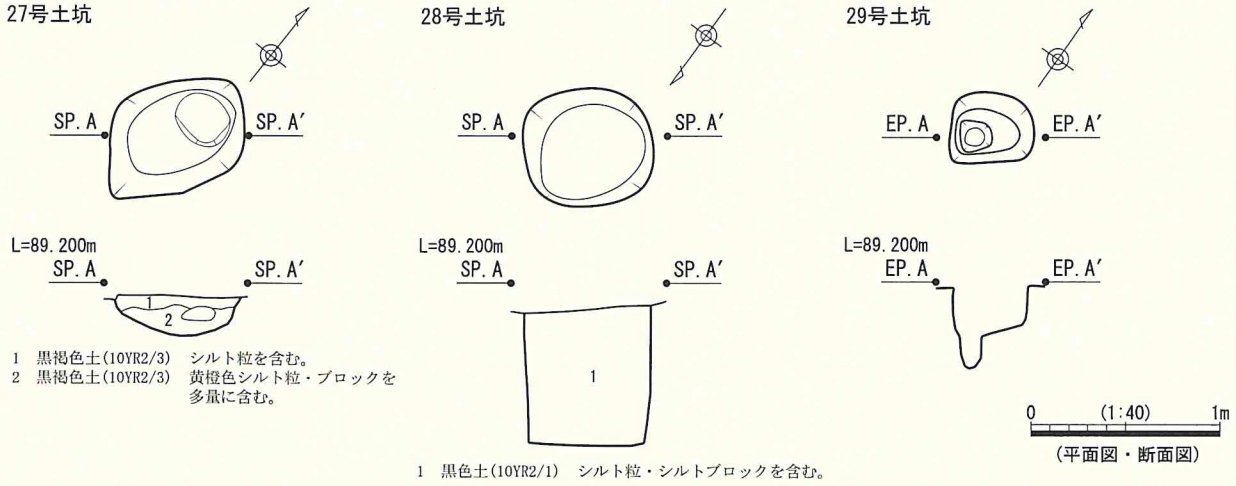
規模・形状：長径 0.7m、短径 0.55m、深さ 20cm で、平面形は隅丸方形を呈する。　**出土遺物**：なし　**覆土**：シルト粒・ブロックを多量に含む黒褐色土　**遺構年代**：出土遺物がなく、鍵層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできないが、遺構の性格や形状から中世と推定される。**所見**：基底部に根石とみられる径 16cm の亜円礫を配することから、礎石据付穴（柱穴）の可能性がある。

28 号土坑（第 57 図）

規模・形状：長径 0.7m、短径 0.6m、深さ 71cm で、平面形は隅丸方形を呈する。　**出土遺物**：なし　**覆土**：シルト粒・ブロックを含む黒色土　**遺構年代**：出土遺物がなく、鍵層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできない。

29 号土坑（第 57 図）

規模・形状：長径 0.7m、短径 0.3m、深さ 26cm で、平面形は隅丸方形を呈する。　**出土遺物**：なし　**覆土**：不明　**遺構年代**：出土遺物がなく、鍵層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできない。



第57図　27～29号土坑平面図・断面図

30 号土坑（第 58 図）

重複：26 号溝を掘り込む　規模・形状：長径 3.6m、短径 1.2m、深さ 50cm で、平面形は長方形を呈する。　**出土遺物**：内耳鍋、平瓦　**覆土**：黒褐色土　**遺構年代**：近世以降に廃絶した 26 号溝を掘り込むことから、それ以降と考えられる。

31 号土坑（第 58 図）

重複：26 号溝を掘り込む　**規模・形状**：長径（検出長）1.3m、短径 0.8m、深さ 16cm　**出土遺物**：なし　**覆土**：黒褐色土　**遺構年代**：近世以降に廃絶した 26 号溝を掘り込むことから、それ以降と考えられる。

32 号土坑（第 58 図）

重複：26・28 号溝を掘り込む　**規模・形状**：長径 2.5m、短径 1.0m、深さ 1.0m で、平面形は長方形を呈する。　**出土遺物**：なし　**覆土**：黒褐色土　**遺構年代**：近世以降に廃絶した 26・28 号溝を掘り込むことから、それ以降と考えられる。

33 号土坑（第 58 図）

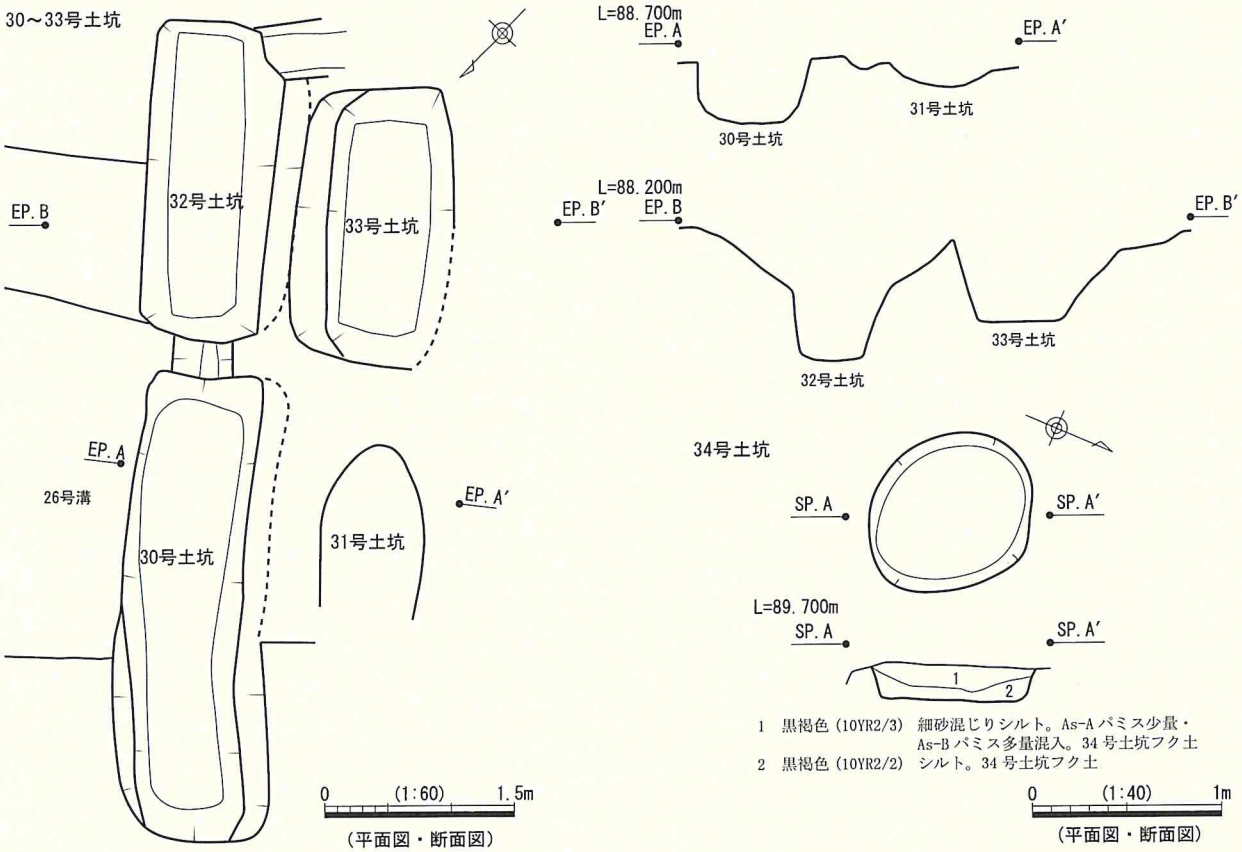
重複：26 号溝を掘り込む　**規模・形状**：長径 2.3m、短径 1.0m、深さ 67cm で、平面形は長方形を呈する。　**出土遺物**：なし　**覆土**：黒褐色土　**遺構年代**：近世以降に廃絶した 26 号溝を掘り込むことから、それ以降と考えられる。

34 号土坑（第 58 図）

重複：37 号溝を掘り込む　**規模・形状**：長径 1.0m、短径 0.8m、深さ 17cm で、平面形は不整円形を呈する。　**出土遺物**：土師器 S 字甕　**覆土**：上層は As-A 軽石を少量、As-B 軽石を多量に含む黒褐色細砂混じりシルト層で、下層はテフラを含まない黒褐色シルト層が堆積する。　**遺構年代**：As-B 降下以前に廃絶した 37 号溝を掘り込み、覆土上層に As-A 軽石を含むことから、As-B 降下以降に開削され、近世以降に廃絶したと考えられる。

35 号土坑（第 59 図）

重複：38 号溝を掘り込む　**規模・形状**：長径 0.95m、短径 0.9m、深さ 15cm で、平面形は不整円形を呈する。　**出土遺物**：なし　**覆土**：As-A 軽石を含む　**遺構年代**：覆土に As-A 軽石を含むことから、近世以降と考えられる。



第58図　30～34号土坑平面図・断面図

36 号土坑（第 59・63 図）

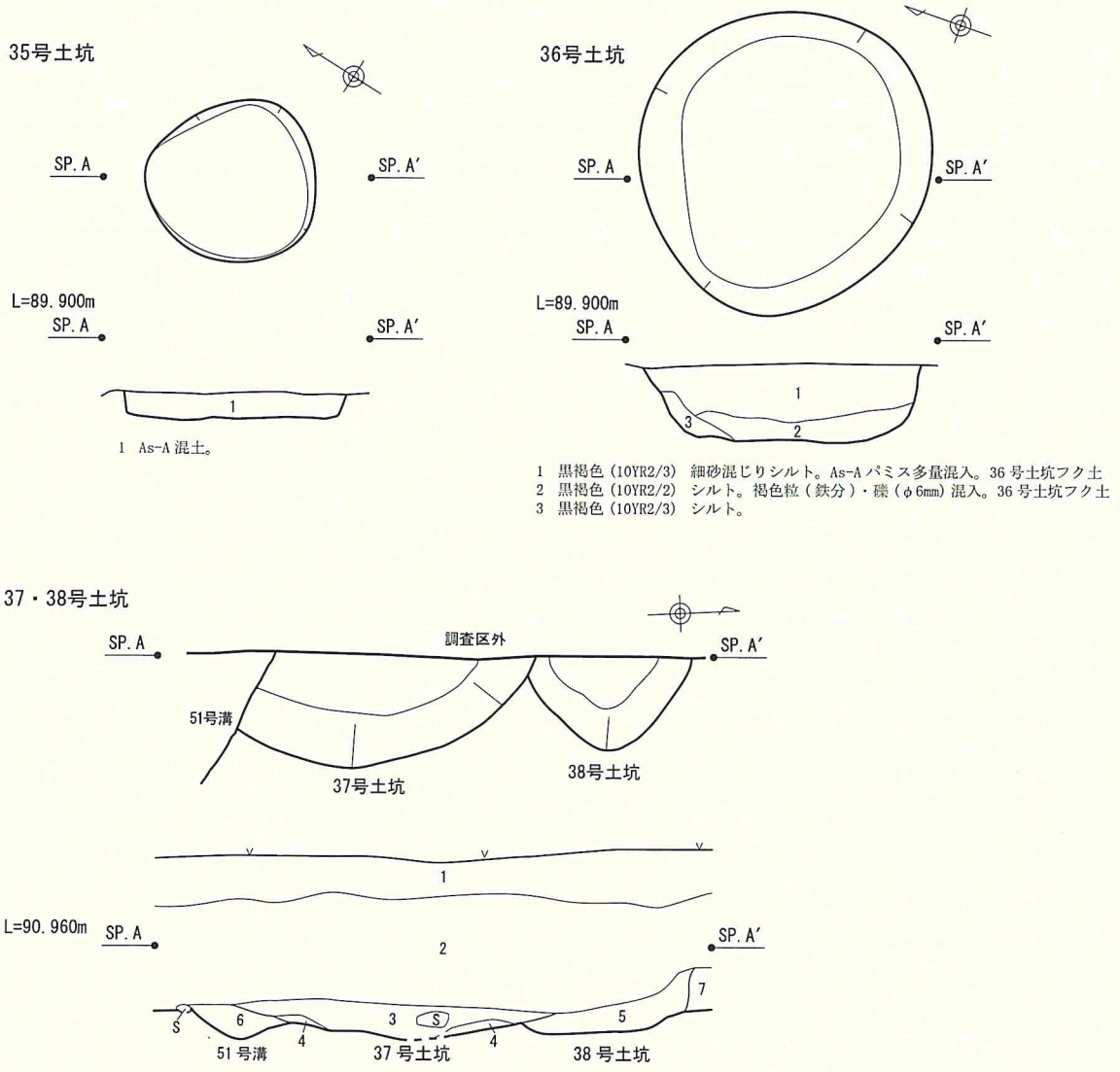
規模・形状：長径 1.7m、短径 1.55m、深さ 40cm で、平面形は不整円形を呈する。　**出土遺物**：なし　**覆土**：As-B 軽石を含む　**遺構年代**：覆土に As-B 軽石を含むことから、As-B 降下以前に開削されたと考えられる。

37 号土坑（第 59 図）

重複：51 号溝・38 号土坑を掘り込む　**規模・形状**：長径（検出長）1.3m、短径（検出長）0.65m、深さ 15cm で、平面形は円形を呈する。　**出土遺物**：なし　**覆土**：砂粒混じりの粘質土。黄色地山土ブロックを含む。　**遺構年代**：51 号溝を掘り込むことから、古墳時代以降と考えられる。

38 号土坑（第 59 図）

重複：37 号土坑に切られる　**規模・形状**：長径 0.8m、短径（検出長）0.5m、深さ 11cm で、平面形は円形を呈する。　**出土遺物**：なし　**覆土**：粘質土。黄色地山土ブロックを多く含む。　**遺構年代**：51 号溝・37 号土坑に切られることから、古墳時代以前と考えられる。



第59図　35～38号土坑平面図・断面図

39 号土坑（第 60 図）

重複：44 号溝と切り合うが前後関係不明瞭　**規模・形状**：長径（検出長）2.5m、短径（検出長）0.35m、深さ 16cm で、平面形は円形を呈する。　**出土遺物**：土師器坏、S 字甕、縄文土器　**覆土**：砂粒混じりの黒色土　**遺構年代**：44 号溝と覆土を共有することからほぼ同時期と考えられる。

40 号土坑（第 60・63 図）

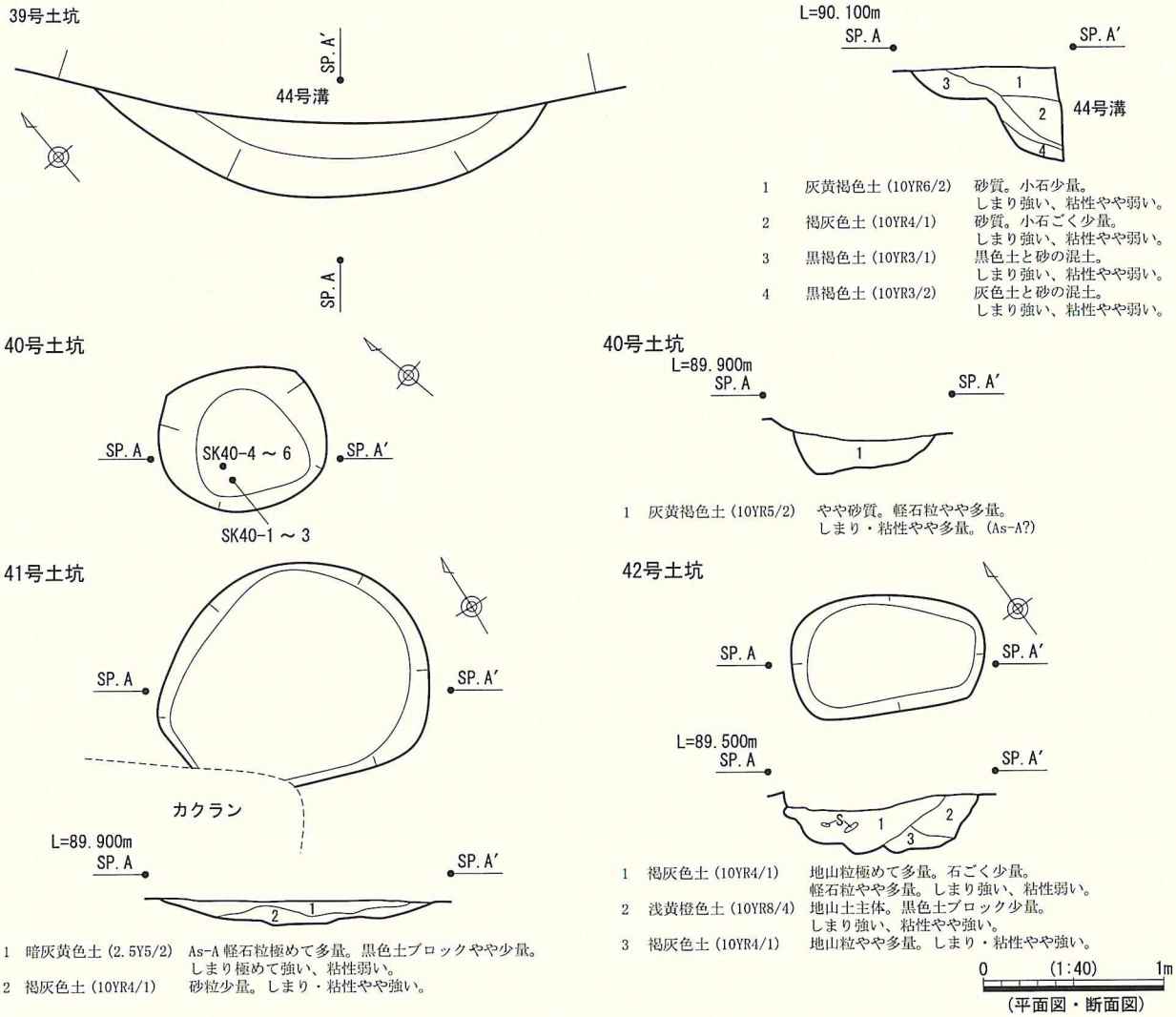
重複：45・46 号溝と切り合うが前後関係不明　**規模・形状**：長径 0.9m、短径 0.85m、深さ 24cm で、平面形は円形を呈する。　**出土遺物**：銅銭　**覆土**：軽石粒をやや多量に含む。　**遺構年代**：出土遺物と覆土の状況から近世以降と考えられる。　**所見**：銅銭が６枚出土しており、墓坑の可能性がある。

41 号土坑（第 60 図）

規模・形状：長径 1.5m、短径 1.25m、深さ 15cm で、平面形は円形を呈する。　**出土遺物**：土師器小片　**覆土**：硬くしまっており、As-A 軽石を多量に含む。　**遺構年代**：覆土に As-A 軽石を含むことから、近世以降と考えられる。

42 号土坑（第 60 図）

重複：45 号溝と切り合うが前後関係不明　**規模・形状**：長径 1.05m、短径 0.7m、深さ 33cm で、平面形は隅丸長方形を呈する。　**出土遺物**：なし　**覆土**：砂質土　**遺構年代**：出土遺物がなく、鍵層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできない。



第60図　39～42号土坑平面図・断面図

43 号土坑（第 61 図）

規模・形状：長径 1.8m、短径 1.5m、深さ 24cm で、平面形は隅丸方形を呈する。　**出土遺物**：陶磁器、染付碗、焙烙　**覆土**：黄色地山土ブロックを少量含む。　**遺構年代**：出土遺物から近世以降と考えられる。

44 号土坑（第 61・63 図）

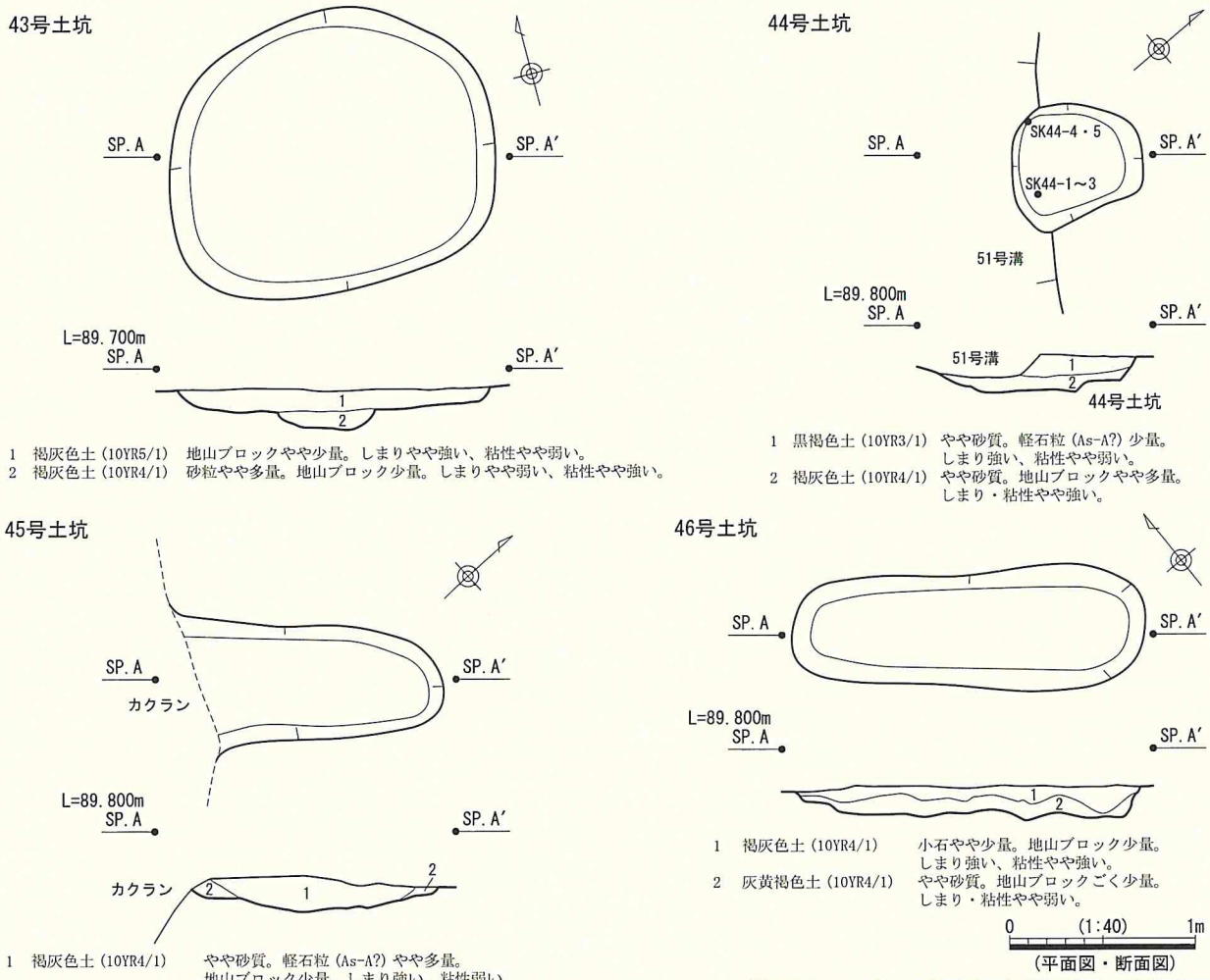
重複：51 号溝と切り合うが前後関係不明　**規模・形状**：長径 0.75m、短径 0.7m、深さ 18cm で、平面形は隅丸長方形を呈する。　**出土遺物**：銅銭　**覆土**：上層は軽石混じりの砂質土、下層は砂粒混じりの粘質土。　**遺構年代**：出土遺物と出土状況から近世以降と考えられる。　**所見**：銅銭が６枚出土しており、墓坑の可能性がある。各長辺の中央付近に３枚ずつ配される。

45 号土坑（第 61・64 図）

規模・形状：長径（検出長）1.4m、短径 0.7m、深さ 19cm で、平面形は隅丸長方形を呈する。　**出土遺物**：銅銭　**覆土**：砂粒・軽石粒を含む黒褐色土。　**遺構年代**：出土遺物と出土状況から近世以降と考えられる。　**所見**：銅銭が６枚出土しており、墓坑の可能性がある。各長辺の中央付近に３枚ずつ配される。

46 号土坑（第 61・64 図）

規模・形状：長径 1.9m、短径 0.75m、深さ 20cm で、平面形は隅丸長方形を呈する。　**出土遺物**：打製石斧　**覆土**：小石・黄色地山土ブロックを少量含む粘質土。　**遺構年代**：出土遺物は混入の可能性もあり、鍵層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできない。



第61図　43～46号土坑平面図・断面図

47 号土坑（第 62 図）

規模・形状：長径 2.25m、短径 1.3m、深さ 35cm で、平面形は長方形を呈する。　**出土遺物**：須恵器蓋、S 字甕　**覆土**：砂質土　**遺構年代**：出土遺物が僅少であり、鍵層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできない。

48 号土坑（第 62 図）

規模・形状：長径 0.8m、短径 0.7m、深さ 13cm で、平面形は円形を呈する。　**出土遺物**：なし　**覆土**：黄色地山土ブロックを少量含む灰褐色土。　**遺構年代**：出土遺物がなく、鍵層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできない。

49 号土坑（第 62 図）

規模・形状：長径 0.8m、短径 0.6m、深さ 12cm で、平面形は楕円形を呈する。　**出土遺物**：なし　**覆土**：黄色地山土ブロックを多量に含む褐灰色土。　**遺構年代**：出土遺物がなく、鍵層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできない。

50 号土坑（第 62 図）

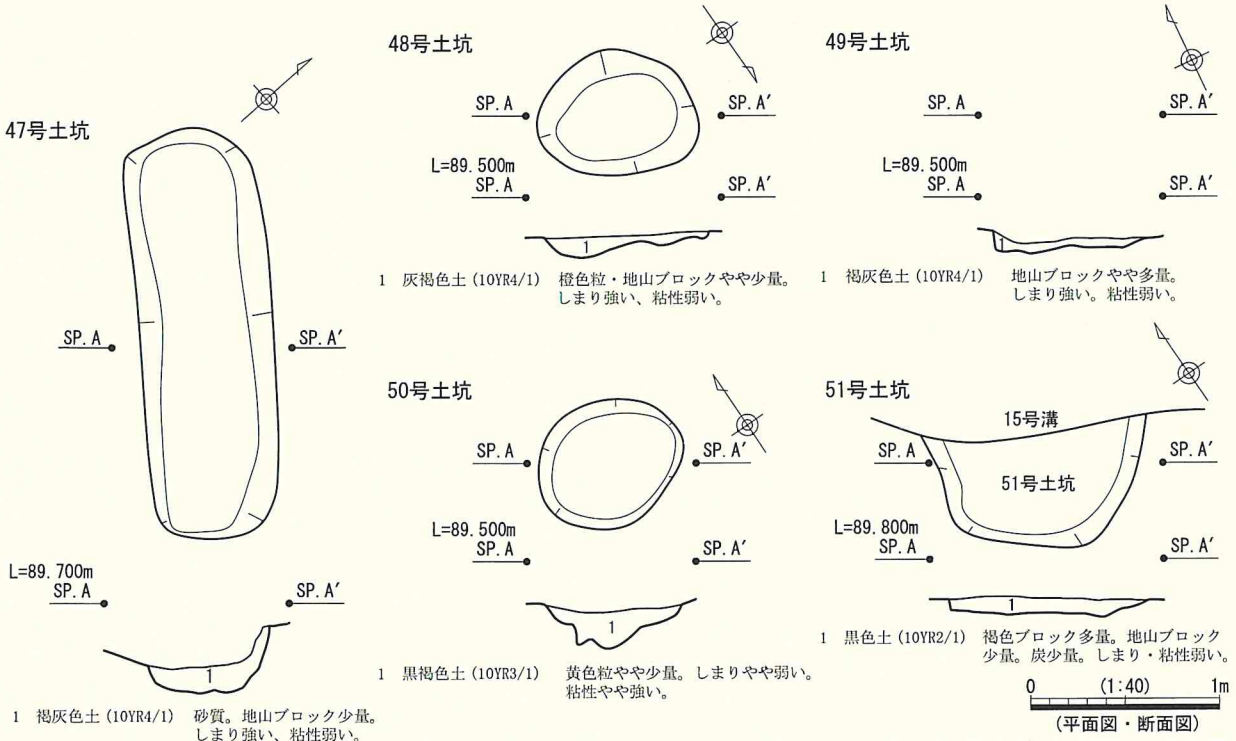
規模・形状：長径 0.8m、短径 0.7m、深さ 23cm で、平面形は円形を呈する。　**出土遺物**：なし　**覆土**：黒褐色粘質土　**遺構年代**：出土遺物がなく、鍵層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできない。

51 号土坑（第 62 図）

重複：15 号溝に切られる　**規模・形状**：長径 1.0m、短径（検出長）0.6m、深さ 10cm で、平面形は不整方形を呈する。　**出土遺物**：なし　**覆土**：黄色地山土ブロックを少量含む黒色土。　**遺構年代**：出土遺物がなく、鍵層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできない。

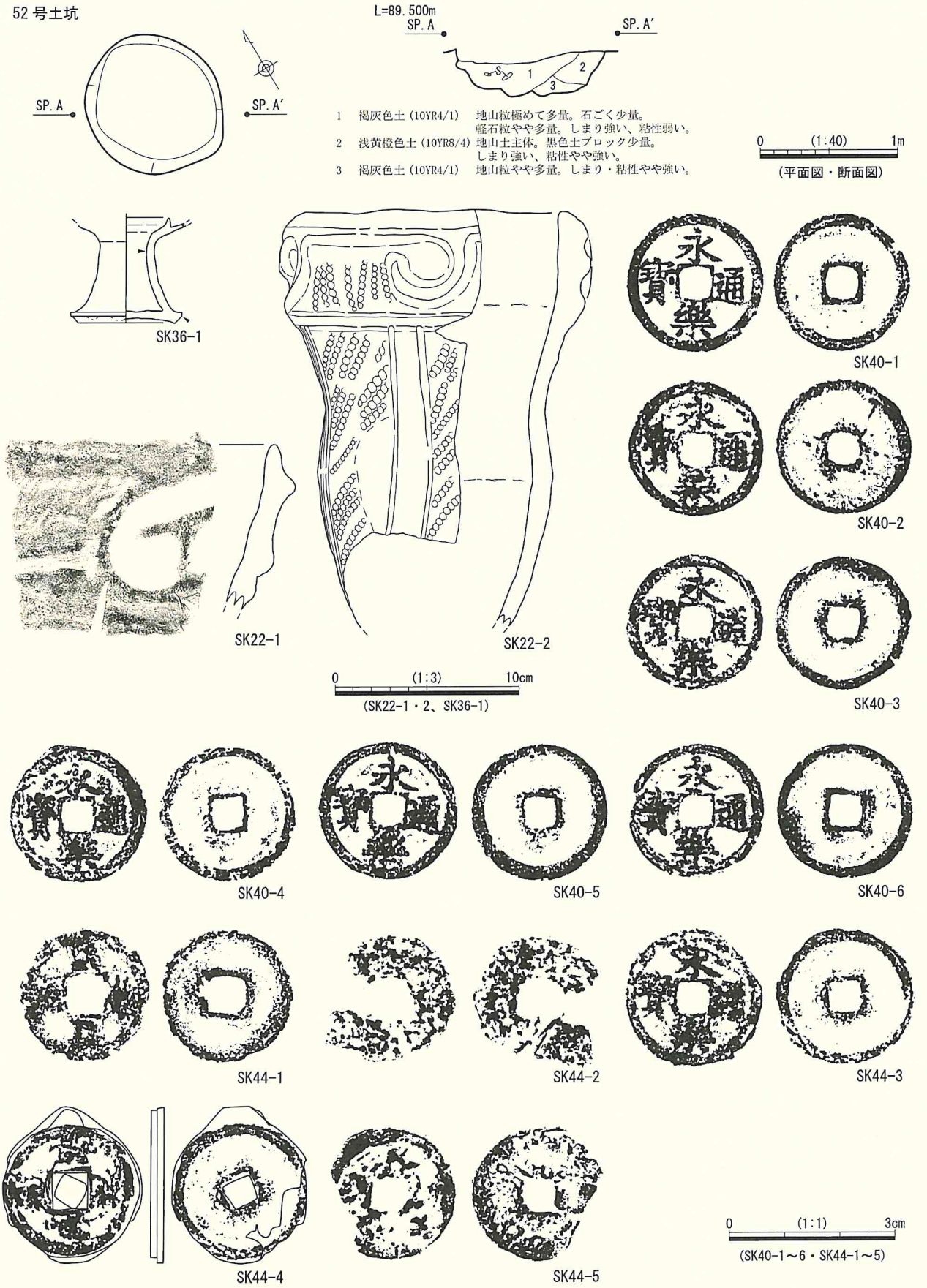
52 号土坑（第 63 図）

重複：15 号溝に切られる　**規模・形状**：直径 1.0m、深さ 19cm で、平面形は円形を呈する。　**出土遺物**：なし　**覆土**：黄色地山土ブロックを少量含む褐灰色土。　**遺構年代**：出土遺物がなく、鍵層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできない。

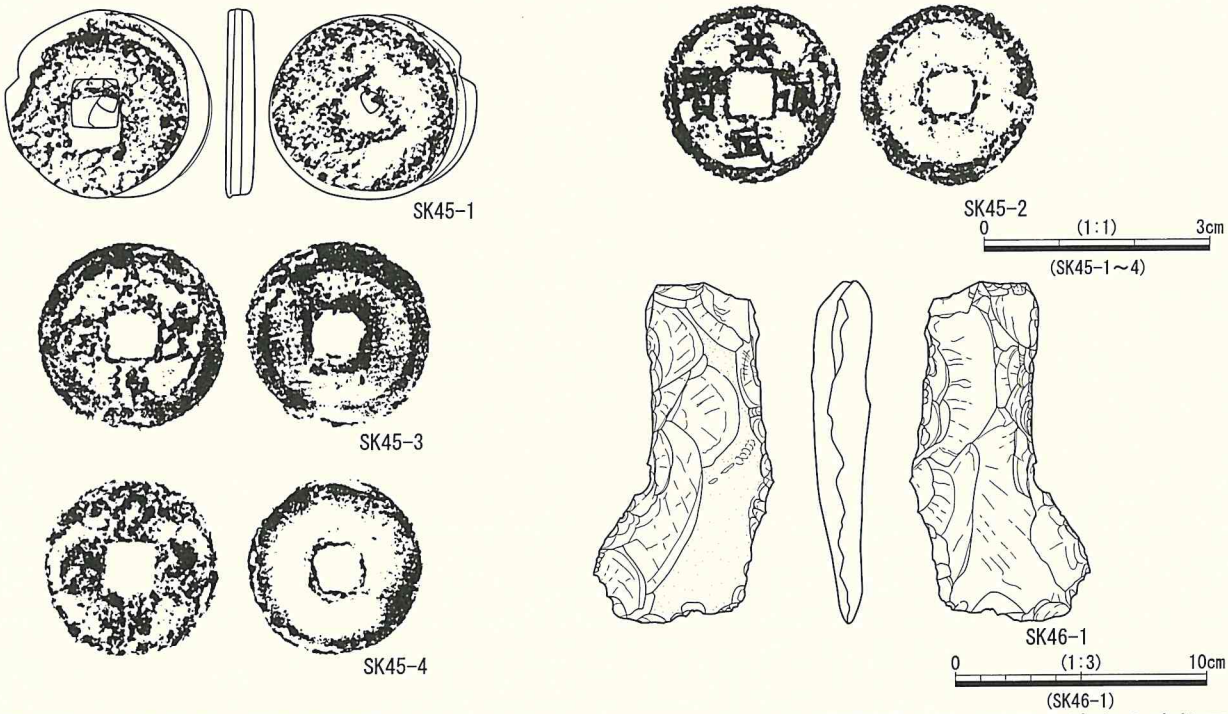


第62図　47～51号土坑平面図・断面図

52号土坑



第63図　52号土坑平面図・断面図および22・36・40・44号土坑出土遺物図



第64図　45・46号土坑出土遺物図

第13表　土坑跡出土遺物観察表

図版	出土地	番号	種別 器種	法量（cm） 口径	底径	器高	成・整形技法の特徴	色調	胎土	残存	備考
第63図 PL.22	2-1区 SK22	1	縄文土器 深鉢	—	—	[8.9]	口縁部に丸棒状工具により渦文と楕円区画を表出。	赤褐 5YR8/4	長石、黒色粒	口縁部破片	縄文中期後半
第63図 PL.22	2-1区 SK22	2	縄文土器 深鉢	(14.0)	—	[22.5]	口縁端部及び下位に隆帯を巡らせる。隆帯間には同様隆帯による渦文と窓枠状区画を表出。区画内にはLRの単節縄文を充填。胴部には渦文から2条単位の沈線を垂下させ、地文部と無文部を区画する。地文はLRの単節縄文を充填。	にぶい橙 7.5YR7/3	長石、角閃石、白色粒	1/3	縄文中期後半

図版	出土地	番号	種別 器種	法量（cm） 口径	底径	器高	調整 外面	内面	色調	胎土	残存	備考
第63図 PL.22	3区 SK36	1	陶器 燭台	—	6.0	[5.7]	底部を除き灰釉	灰釉	灰白 2.5Y8/2	黒色粒	ほぼ完形	瀬戸・美濃系

図版	出土地	番号	種別 器種	法量(cm) 外径	内径	厚さ	重量(g) 重さ	作成技法等の特徴	残存	備考
第63図 PL.22	4区 SK40	1	銅銭 永楽通寶	2.5	0.6	0.1	2.7	—	完形	—
第63図 PL.22	4区 SK40	2	銅銭 永楽通寶	2.5	0.6	0.1	4.2	—	完形	—
第63図 PL.22	4区 SK40	3	銅銭 永楽通寶	2.5	0.6	0.1	2.7	—	完形	—
第63図 PL.22	4区 SK40	4	銅銭 永楽通寶	2.4	0.7	0.1	3.0	—	完形	—
第63図 PL.22	4区 SK40	5	銅銭 永楽通寶	2.5	0.6	0.1	3.7	—	完形	—
第63図 PL.22	4区 SK40	6	銅銭 永楽通寶	2.5	0.6	0.1	4.2	—	完形	—
第63図 PL.22	4区 SK44	1	銅銭 □□通寶	2.4	0.7	0.1	2.6	—	完形	—
第63図 PL.22	4区 SK44	2	銅銭 —	2.4	0.7	0.1	1.4	—	一部欠損	—
第63図 PL.22	4区 SK44	3	銅銭 永楽通寶	2.5	0.6	0.1	2.8	—	完形	—
第63図 PL.23	4区 SK44	4	銅銭 —	2.65	0.7	0.25	3.4	—	完形	錆により2枚接着。
第63図 PL.23	4区 SK44	5	銅銭 —	2.4	0.6	0.1	1.4	—	一部欠損	—
第64図 PL.23	4区 SK45	1	銅銭 —	2.5	0.6	0.4	5.2	—	完形	錆により3枚接着。布付着。
第64図 PL.23	4区 SK45	2	銅銭 洪武通寶	2.45	0.5	0.1	2.3	—	完形	—
第64図 PL.23	4区 SK45	3	銅銭 元豊通寶	2.5	0.6	0.1	2.1	行書。	完形	—
第64図 PL.23	4区 SK45	4	銅銭 —	2.4	0.6	0.1	3.0	—	完形	—

図版	出土地	番号	種別 器種	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g) 重さ	石材	作成技法等の特徴	残存	備考
第64図 PL.23	4区 SK46	1	石器 打製石斧	13.5	7.2	2.3	169	泥岩	礫皮をもつ横長剥片を素材とし、周縁に直接打撃による両面加工を施す。	ほぼ完形	—

第６節　掘立柱建物・ピット

掘立柱建物・ピットは２-１区を中心に101基を検出した。掘立柱建物と考えられるピット群は遺構の遺存状況が悪く、復元には検討の余地を残すが３棟を検出した。なお、１・４区で検出したピットは紙面の都合上、切り合い関係や特記事項のあるものに限り報告することとする。

１．掘立柱建物跡

１号掘立柱建物（第65図）

主軸方位：N-25°-W　**規模・形状**：南北１間（検出長2.3m）、東西１間（検出長2.0m）、柱掘方径21～38cm、深さ14～30cm　**出土遺物**：なし　**覆土**：シルト粒・小ブロックを含む黒褐色土　**遺構年代**：出土遺物がなく、鍵層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできない。

所見：建物跡の復元には検討の余地も残すが、現状では矩形で完結する柱列１～３号ピットを掘立柱建物と推定した。

２号掘立柱建物（第５図）

主軸方位：N-45°-W　**規模・形状**：南北１間（5.0m）、東西３間（12.8m）、柱掘方径30～50cm、深さ24～37cm　**出土遺物**：なし　**覆土**：不明　**遺構年代**：出土遺物がなく、鍵層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできない。　**所見**：遺構の遺存状況が悪く、建物跡の復元には検討の余地を残すが、中世の溝である16号溝と主軸方位が近似しており、遺構の規模や配列から13～18号ピットを掘立柱建物と推定した。このうち13～16号ピットは柵列の可能性もある。

３号掘立柱建物（第５図）

主軸方位：N-48°-E　**規模・形状**：南北１間（3.8m）、東西１間（6.0m）、柱掘方径30～40cm、深さ30cm　**出土遺物**：なし　**覆土**：不明　**遺構年代**：出土遺物がなく、鍵層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできない。　**所見**：遺構の遺存状況が悪く、建物跡の復元には検討の余地を残すが、中世の溝である16号溝と主軸方位が近似しており、遺構の規模や配列から19～21号ピットを掘立柱建物と推定した。

２．ピット

４号ピット（第65図）

規模・形状：長径39cm、短径30cm、深さ16cmで、平面形は不整円形を呈する。　**出土遺物**：なし　**覆土**：シルト小ブロックを含む黒褐色土　**遺構年代**：出土遺物がなく、鍵層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできない。

５号ピット（第65図）

重複：28号溝と重複するが前後関係不明。　**規模・形状**：長径70cm、短径50cm、深さ34cmで、平面形は隅丸方形を呈する。　**出土遺物**：なし　**覆土**：不明　**遺構年代**：不明

６号ピット（第65図）

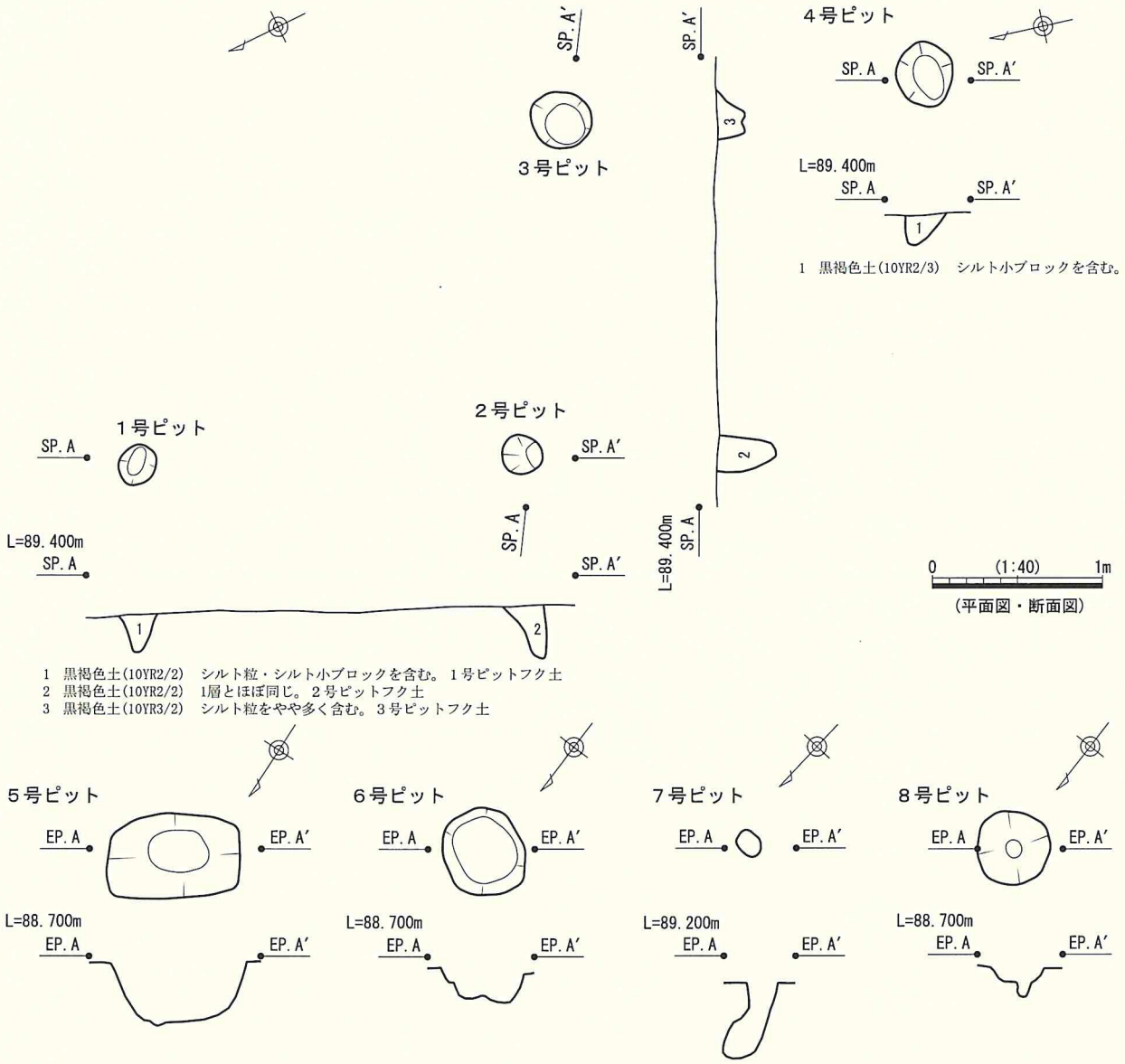
重複：28号溝を掘り込む　**規模・形状**：長径50cm、短径40cm、深さ14cmで、平面形は隅丸方形を呈する。　**出土遺物**:なし　**覆土**:不明　**遺構年代**:近世に廃絶した28号溝を掘り込むことから、近世以降と考えられる。

７号ピット（第65図）

重複：28号溝を掘り込む　**規模・形状**：長径18cm、短径10cm、深さ44cmで、平面形は楕円形を呈する。　**出土遺物**：なし　**覆土**：不明　**遺構年代**：近世に廃絶した28号溝を掘り込むことから、近世以降と考えられる。

８号ピット（第65図）

重複：28号溝を掘り込む　**規模・形状**：径40cm、深さ15cmで、平面形は円形を呈する。　**出土遺物**：なし　**覆土**：不明　**遺構年代**：近世に廃絶した28号溝を掘り込むことから、近世以降と考えられる。



第65図　１号掘立柱建物跡・４～８号ピット平面図・断面図

９号ピット（第 66 図）

規模・形状：長径 40cm、短径 30cm、深さ 30cm で、平面形は隅丸方形を呈する。　**出土遺物**：なし　**覆土**：不明　**遺構年代**：近世か　**所見**：10 号ピットとともに 26 号溝にかけられた橋脚の柱穴となる可能性がある。

10 号ピット（第 66 図）

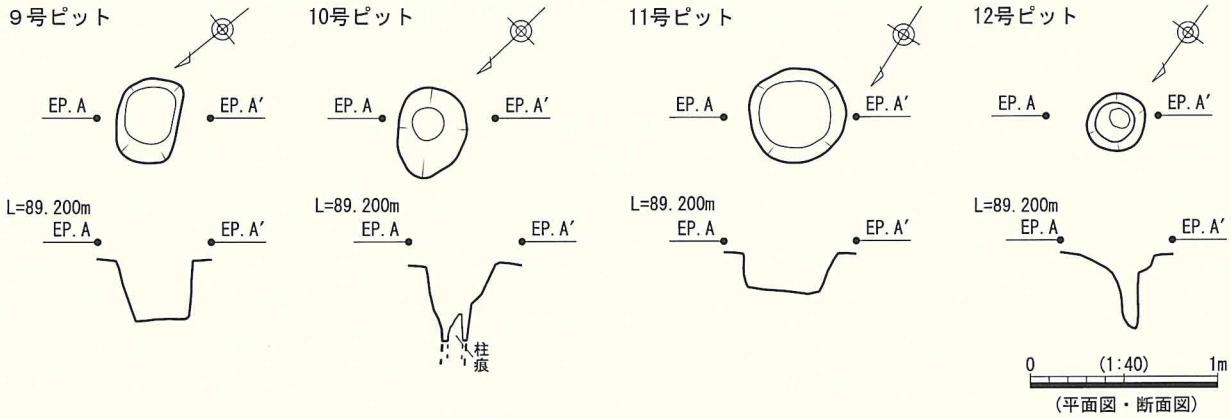
規模・形状：長径 50cm、短径 30cm、深さ 40cm で、平面形は楕円形を呈する。　**出土遺物**：軟質陶器　**覆土**：不明。柱根残存。　**遺構年代**：近世か　**所見**：９号ピットとともに26号溝にかけられた橋脚の柱穴となる可能性がある。

11 号ピット（第 66 図）

規模・形状：径 50cm、深さ 20cm で、平面形は円形を呈する。　**出土遺物**：なし　**覆土**：不明　**遺構年代**：不明

12 号ピット（第 66 図）

規模・形状：径 30cm、深さ 39cm で、平面形は円形を呈する。　**出土遺物**：なし　**覆土**：不明　**遺構年代**：不明



第66図　９～12号ピット平面図・断面図

24 号ピット（第 67 図）

規模・形状：径 35cm、深さ 44cm で、平面形は円形を呈する。　**出土遺物**：なし　**覆土**：黒褐色砂質土　**遺構年代**：As-B 降下以前　**備考**：黒色土層下の灰色土層から掘り込まれている。

32 号ピット（第 67 図）

規模・形状：径 33cm、深さ 42cm で、平面形は円形を呈する。　**出土遺物**：土師器壺小片　**覆土**：褐灰色土　**遺構年代**：不明

36 号ピット（第 67 図）

重複：11 号溝に切られる　**規模・形状**：長径 40cm、短径 30cm、深さ 28cm で、平面形は円形を呈する。　**出土遺物**：なし　**覆土**：黄色地山土ブロックを含む褐灰色粘質土　**遺構年代**：48 号溝に切られることから、中世以前と考えられる。

37 号ピット（第 67 図）

規模・形状：残存径 62cm、深さ 19cm で、平面形は楕円形を呈する。　**出土遺物**：土師器小片　**覆土**：黒褐色土　**遺構年代**：48 号溝に切られることから、中世以前と考えられる。

38 号ピット（第 68 図）

規模・形状：長径 53cm、短径 42cm、深さ 16cm で、平面形は楕円形を呈する。　**出土遺物**：土師器小片　**覆土**：黄色地山土ブロックを少量含む黒褐色土　**遺構年代**：不明

59 号ピット（第 69 図）

規模・形状：長径 75cm、短径 35cm、深さ 34cm で、平面形は不整楕円形を呈する。　**出土遺物**：土師器小片　**覆土**：黄色地山土ブロックを多量に含む黒色粘質土　**遺構年代**：不明

60 号ピット（第 69 図）

重複：11 号溝に切られる　**規模・形状**：長径（残存長）50cm、短径 50cm、深さ 12cm で、平面形は円形を呈する。　**出土遺物**：縄文土器片　**覆土**：黄色地山土ブロックを多量に含む褐灰色土　**遺構年代**：11 号溝に切られることから、中世以前と考えられる。

63 号ピット（第 69 図）

規模・形状：長径 60cm、短径 46cm、深さ 28cm で、平面形は楕円形を呈する。　**出土遺物**：土師器小片、S 字甕　**覆土**：黄色地山土ブロックを少量含む灰黄褐色粘質土　**遺構年代**：不明

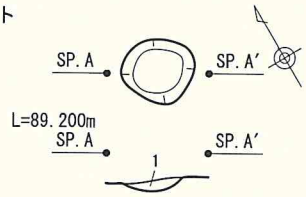
64 号ピット（第 69 図）

規模・形状：直径 49cm、深さ 21cm で、平面形は円形を呈する。　**出土遺物**：なし　**覆土**：As-A 軽石を含む　**遺構年代**：覆土の状況から、近世以降と考えられる。

66 号ピット（第 69 図）

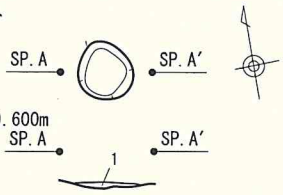
規模・形状：長径 58cm、短径 35cm、深さ 9 cm で、平面形は楕円形を呈する。　**出土遺物**：土師器小片　**覆土**：黄色地山土ブロックを少量含む灰黄褐色土　**遺構年代**：不明

22号ピット



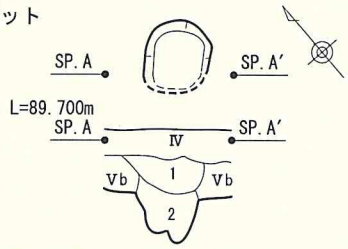
1　褐灰色土（10YR4/1）　黄色ブロック少量。
しまり・粘性強い。

23号ピット



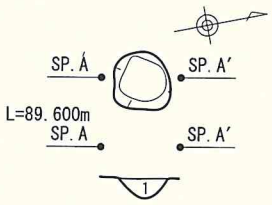
1　褐灰色土（10YR2/1）　黄色ブロック少量。
しまり・粘性やや弱い。

24号ピット



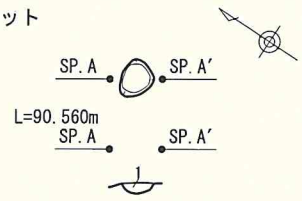
1　褐灰色土（10YR4/1）　やや砂質。軽石粒少量。
しまり強い、粘性弱い。
2　黒褐色土（10YR3/1）　砂質。黄色粒やや少量。
しまり強い、粘性弱い。

25号ピット



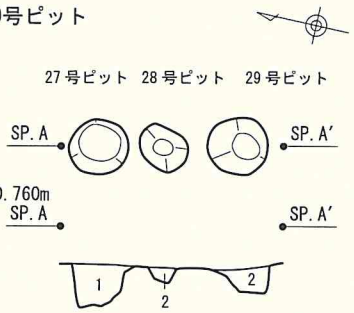
1　褐灰色土（10YR4/1）　黄色ブロック少量。
しまり強い。粘性やや弱い。

26号ピット



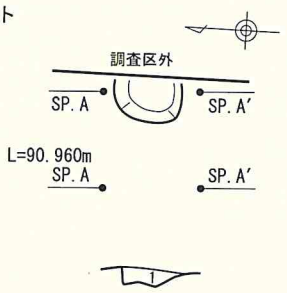
1　黒色土（10YR2/1）　黄色ブロック小量。
しまり強い、粘性やや強い。

27～29号ピット



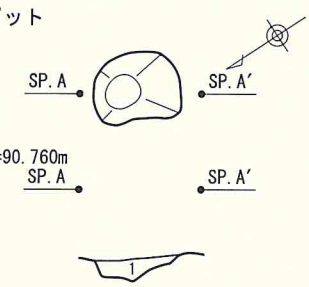
1　褐灰色土（10YR4/1）　黄色ブロック多量。
しまりやや弱い、粘性やや強い。
2　褐灰色土（10YR4/1）　黄色ブロック小量。
しまりやや弱い、粘性やや強い。

30号ピット



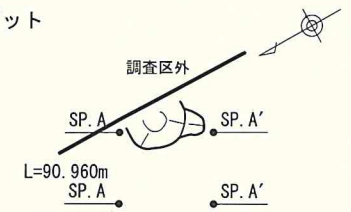
1　黄褐色土（2.5Y5/3）　黒色ブロック少量。
しまり強い、粘性やや弱い。

31号ピット

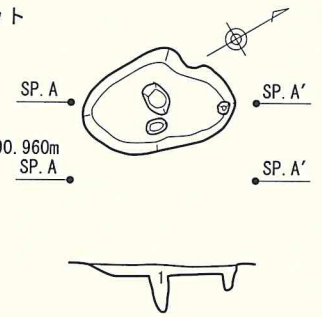


1　褐灰色土（10YR4/1）　黄色粒多量。
しまり・粘性やや弱い。

32号ピット

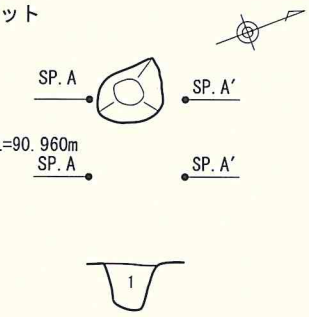


33号ピット

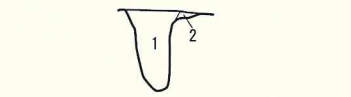


1　黒褐色土（10YR3/1）　黄色ブロック多量。
しまりやや弱い、粘性強い。

34号ピット

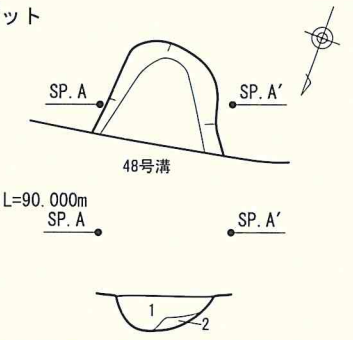


1　褐灰色土（10YR2/1）　黄色ブロック多量。
しまり・粘性やや強い。



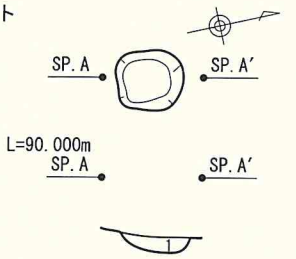
1　褐灰色土（10YR5/1）　黄色粒やや少量。
しまり強い、粘性やや弱い。
2　褐灰色土（10YR4/1）　黄色粒少量。
しまり・粘性やや弱い。

37号ピット



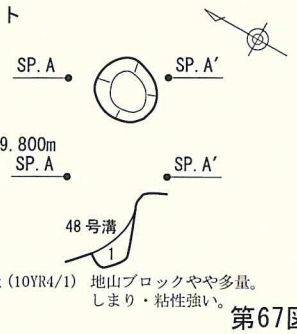
1　黒褐色土（10YR3/1）　白色粒・小石ごく少量。
しまりやや強い、粘性弱い。
2　褐灰色土（10YR4/1）　黄色土粒やや多量。
しまり・粘性やや強い。

35号ピット



1　灰黄褐色土（10YR4/2）　軽石粒やや多量。
小石ごく少量。
しまり・粘性やや強い。

36号ピット

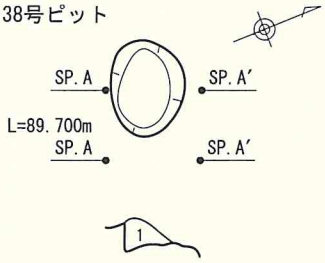


1　灰褐色土（10YR4/1）　地山ブロックやや多量。
しまり・粘性強い。

0　1:40　1m
（平面図・断面図）

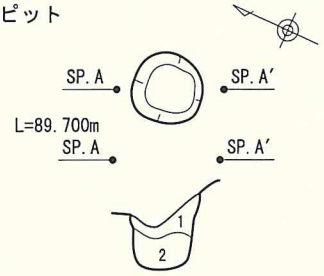
第67図　22～37号ピット平面図・断面図

38号ピット



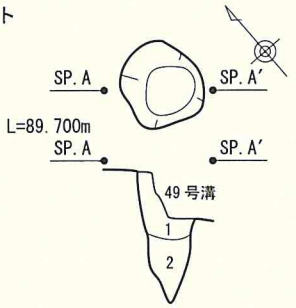
1　黒褐色土（10YR3/1）　黄色ブロックやや少量。しまりやや強い、粘性やや弱い。

39号ピット



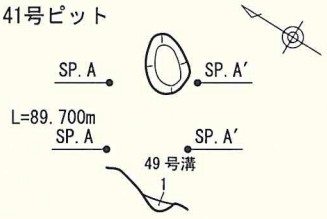
1　灰黄褐色土（10YR5/2）　黄色粒非常に多量。しまり強い、粘性やや強い。
2　褐灰色土（10YR4/1）　地山ブロック少量。しまり・粘性やや強い。

40号ピット



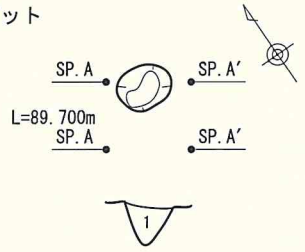
1　褐灰色土（10YR5/1）　黄色粒やや少量。しまりやや弱い、粘性やや強い。
2　黒褐色土（10YR3/1）　地山ブロック少量。しまり弱い、粘性やや強い。

41号ピット



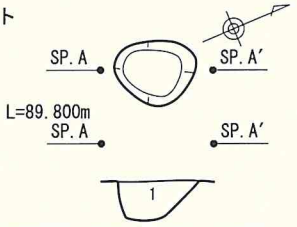
1　黒褐色土（10YR3/1）　黄色粒やや少量。しまりやや弱い、粘性やや強い。

42号ピット



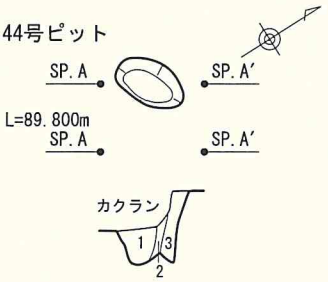
1　黒褐色土（10YR3/1）　地山粒多量。しまり強い、粘性やや強い。

43号ピット



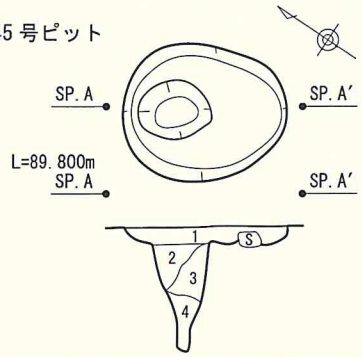
1　褐灰色土（10YR5/1）　砂粒・地山ブロック少量。しまり・粘性やや強い。

44号ピット



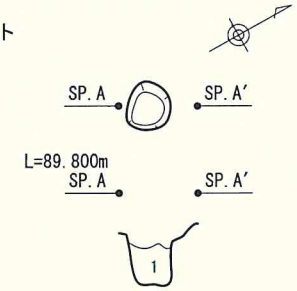
1　黒色土（10YR2/1）　地山ブロック少量。しまり弱い、粘性やや強い。
2　浅黄色土（2.5Y7/4）　地山土主体。しまり・粘性強い。
3　褐灰色土（10YR4/1）　地山ブロックやや少量。しまりやや強い、粘性弱い。

45号ピット



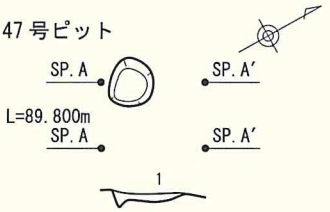
1　褐灰色土（10YR5/1）　黄色粒やや多量。しまり・粘性やや強い。
2　黒褐色土（10YR3/1）　地山粒多量。しまりやや弱い、粘性強い。
3　明黄褐色土（2.5Y6/6）　地山主体。黒色土ブロック少量。しまり強い、粘性やや弱い。
4　黒色土（10YR2/1）　地山ブロック多量。しまり弱い。粘性やや強い。

46号ピット



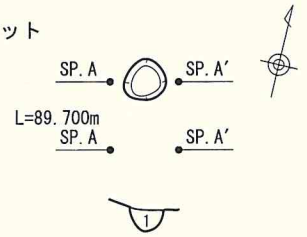
1　黒褐色土（10YR3/1）　地山ブロックごく少量。しまり強い、粘性やや弱い。

47号ピット



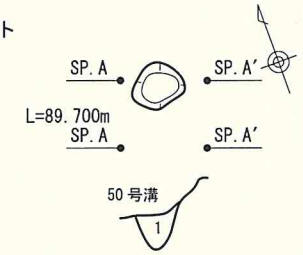
1　褐灰色土（10YR4/1）　地山ブロックやや多量。しまりやや強い、粘性弱い。

48号ピット



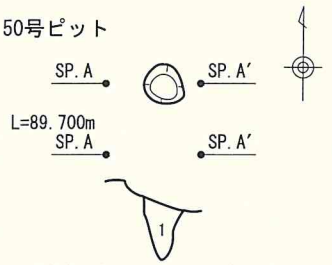
1　褐灰色土（10YR4/1）　地山ブロック少量。しまりやや弱い、粘性やや強い。

49号ピット



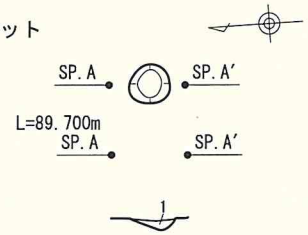
1　褐灰色土（10YR4/1）　地山ブロック多量。しまりやや弱い、粘性やや強い。

50号ピット



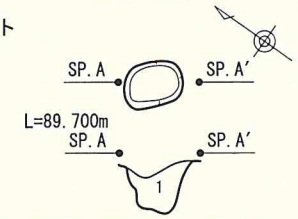
1　黒褐色土（10YR3/1）　地山ブロック少量。しまり・粘性やや強い。

51号ピット



1　黒褐色土（10YR3/1）　地山ブロック多量。しまり強い、粘性やや弱い。

52号ピット

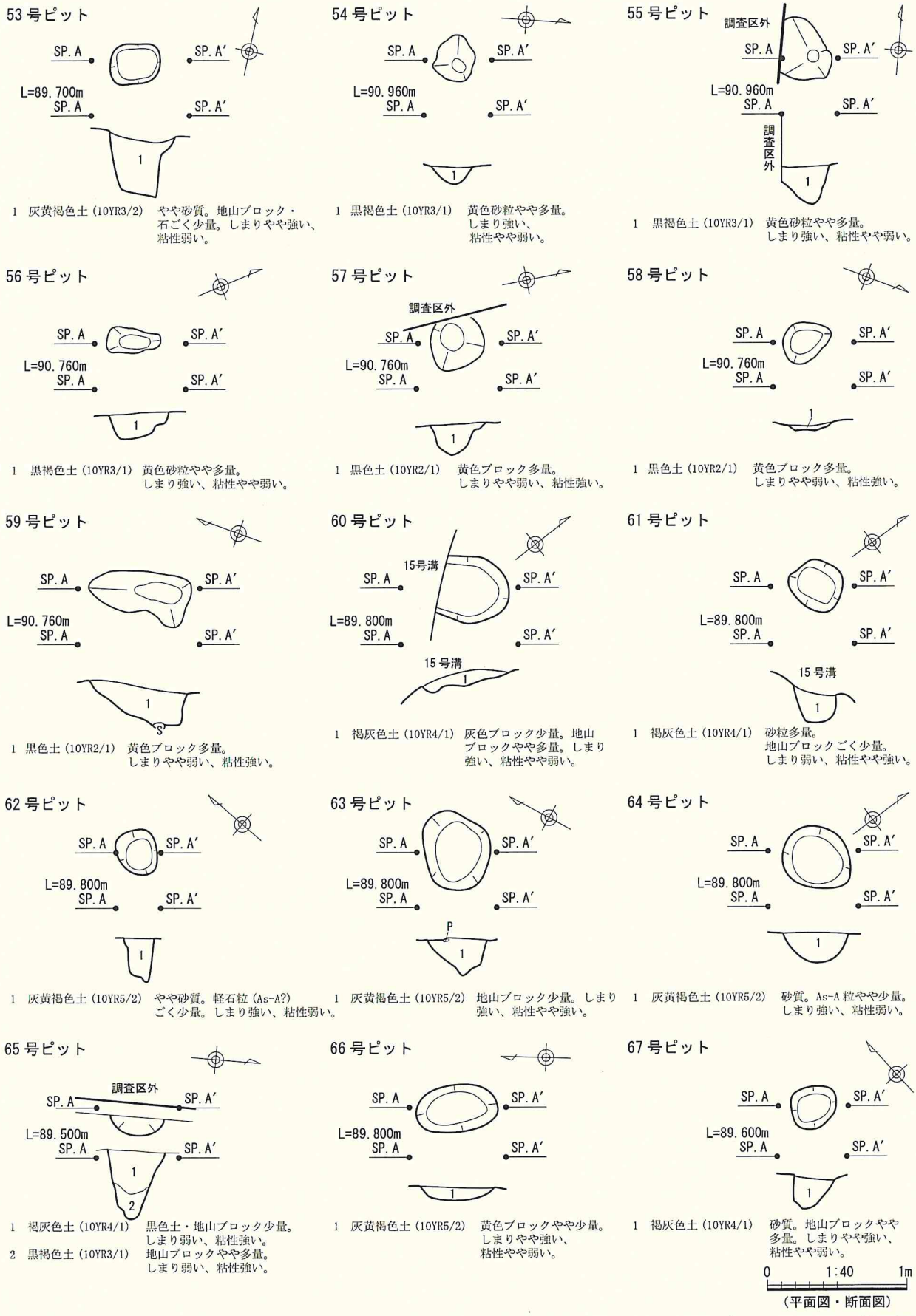


1　灰黄褐色土（10YR5/2）　地山ブロックやや少量。しまりやや強い、粘性やや弱い。

0　1:40　1m

（平面図・断面図）

第68図　38～52号ピット平面図・断面図



第69図　53～67号ピット平面図・断面図

90 号ピット（第 71 図）

規模・形状：直径 40cm、深さ 12cm で、平面形は不整円形を呈する。　**出土遺物**：なし　**覆土**：褐灰色砂質土　**遺構年代**：不明　**所見**：底面付近より平坦な礫を検出。礎石の可能性がある。

92 号ピット（第 71 図）

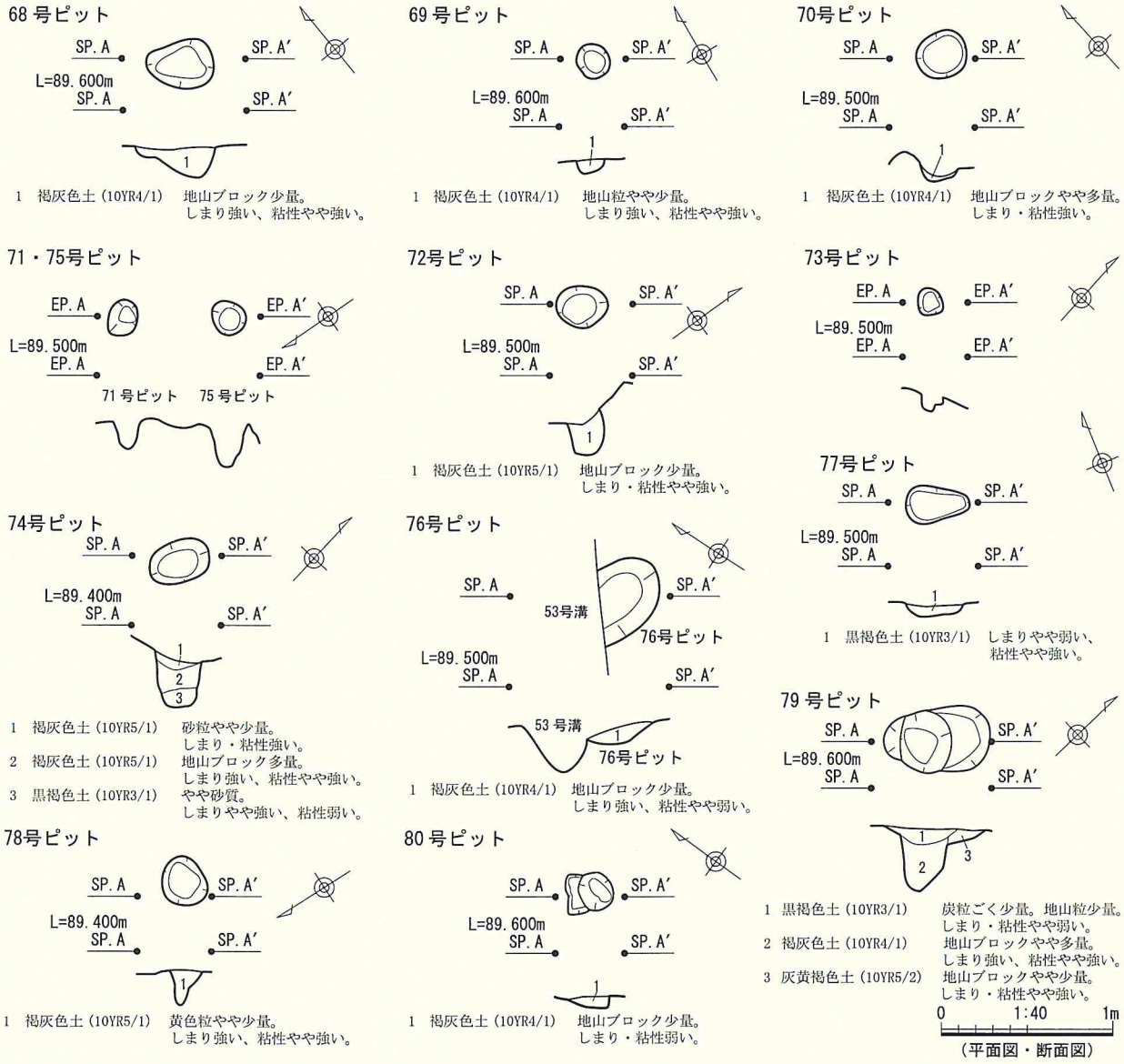
規模・形状：直径 28cm、深さ 40cm で、平面形は円形を呈する。　出土遺物：なし　覆土：黄色地山土ブロックを少量含む褐灰色粘質土　遺構年代：不明　所見：南西側に向けて斜め方向に掘削されている。

95 号ピット（第 71 図）

規模・形状：長径 97cm、短径 78cm、深さ 50cm で、平面形は楕円形を呈する。　**出土遺物**：平瓦、土師器小片　**覆土**：上層は灰黄褐色砂質土、最下層は黄色地山土ブロックを多量に含む褐灰色粘質土　**遺構年代**：出土遺物から、中世以降の廃絶と考えられる。

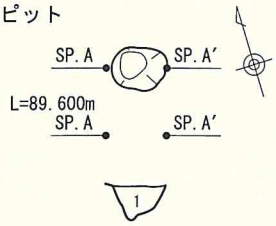
98 号ピット（第 72 図）

規模・形状：長径 75cm、短径 66cm、深さ 22cm で、平面形は円形を呈する。　**出土遺物**：軟質陶器片口鉢、丸瓦・平瓦　**覆土**：As-A 軽石を含む砂質土　**遺構年代**：出土遺物には中世に該当するものもあるが、覆土に As-A 軽石を含むことから近世以降に廃絶したと考えられる。



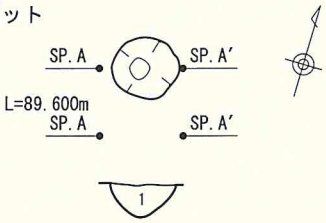
第70図　68～80号ピット平面図・断面図

81 号ピット



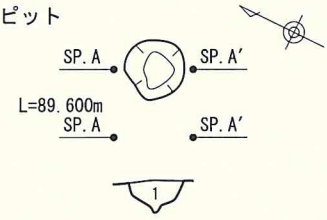
1　黒褐色土（10YR3/1）　地山ブロック多量。しまり弱い、粘性やや強い。

82 号ピット



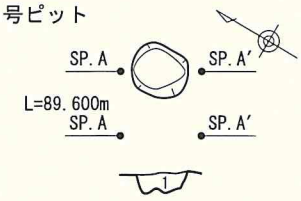
1　灰褐色土（10YR4/1）　地山ブロックやや少量。しまりやや弱い、粘性やや強い。

83 号ピット



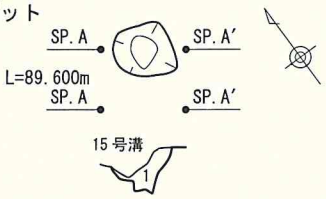
1　褐灰色土（10YR4/1）　地山ブロック多量。しまり・粘性やや強い。

84 号ピット



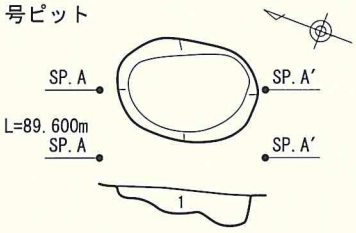
1　褐灰色土（10YR4/1）　やや砂質。黒色土・地山ブロック少量。しまり・粘性やや強い。

85 号ピット



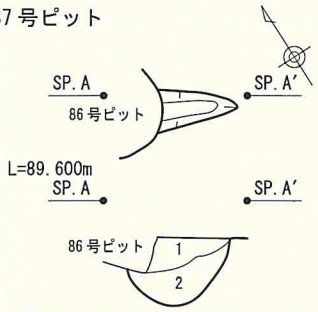
1　黒褐色土（10YR3/1）　地山ブロックやや多量。橙色粒ごく少量。しまり・粘性やや強い。

86 号ピット



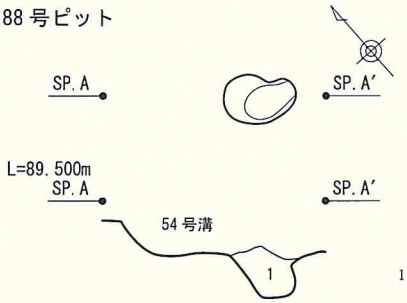
1　黒褐色土（10YR3/1）　黄色褐ブロックやや多量。黄色粒少量。しまり・粘性やや強い。

87 号ピット



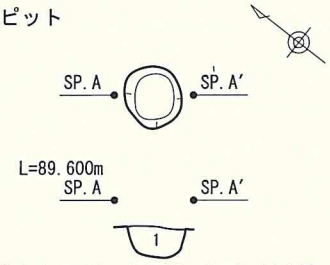
1　褐灰色土（10YR4/1）　地山ブロック少量。しまり・粘性やや強い。
2　灰黄褐色土（10YR5/2）　地山ブロック多量。しまりやや弱い。粘性やや強い。

88 号ピット



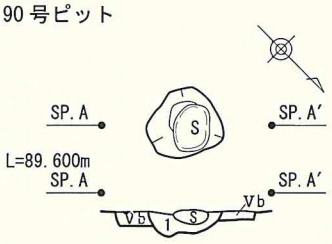
1　褐灰色土（10YR4/1）　地山ブロックやや少量。しまりやや弱い、粘性強い。

89 号ピット



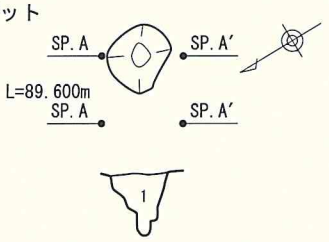
1　灰黄褐色土（10YR6/2）　やや砂質。軽石粒ごく少量。しまり・粘性やや弱い。

90 号ピット



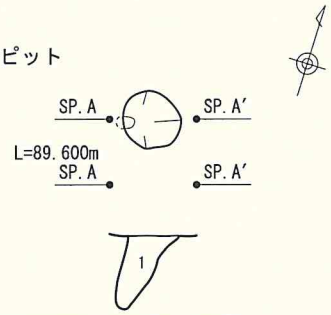
1　褐灰色土（10YR4/1）　砂質やや少量。しまり強い、粘性弱い。

91 号ピット



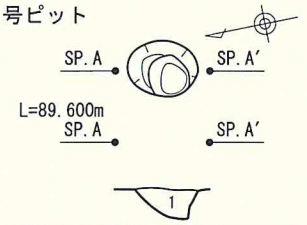
1　褐灰色土（10YR4/1）　地山ブロックやや多量。しまり強い、粘性やや弱い。

92 号ピット



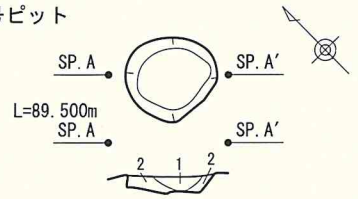
1　褐灰色土（10YR4/1）　地山ブロック少量。しまり・粘性やや強い。

93 号ピット



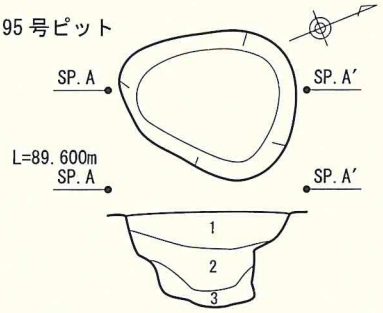
1　褐灰色土（10YR4/1）　地山ブロック多量。しまりやや強い、粘性やや弱い。

94 号ピット



1　褐灰色土（10YR4/1）　橙色粒多量。しまり・粘性やや強い。
2　褐灰色土（10YR5/1）　橙色粒多量。しまり強い、粘性やや強い。

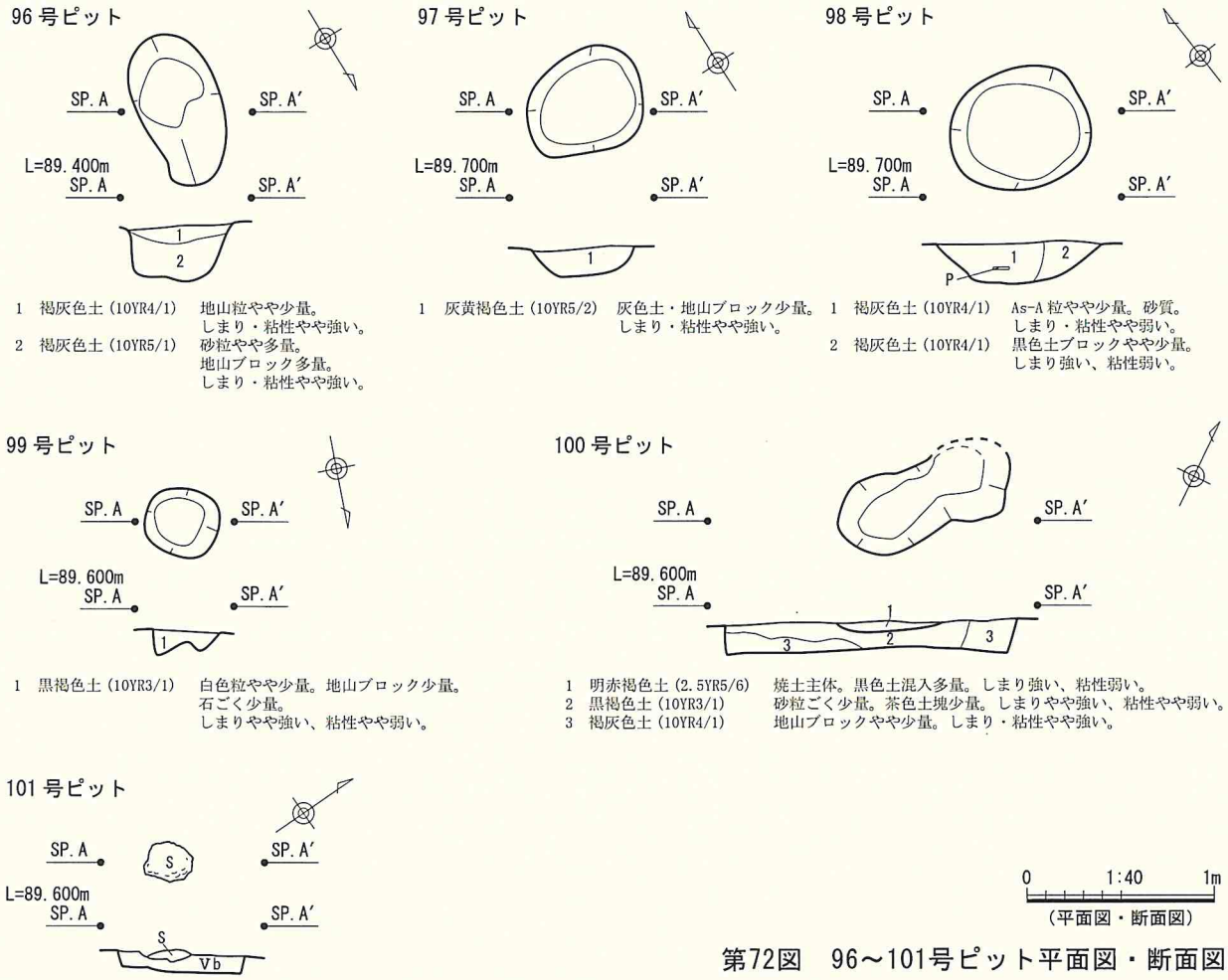
95 号ピット



1　灰黄褐色土（10YR4/2）　やや砂質。軽石粒ごく少量。地山ブロック少量。しまり強い、粘性弱い。
2　褐灰色土（10YR4/1）　地山ブロック少量。しまり強い、粘性やや弱い。
3　褐灰色土（10YR4/1）　白・橙色粒少量。地山ブロック極めて多量。しまりやや強い、粘性強い。

0　1:40　1m
（平面図・断面図）

第71図　81～95号ピット平面図・断面図



第72図　96～101号ピット平面図・断面図

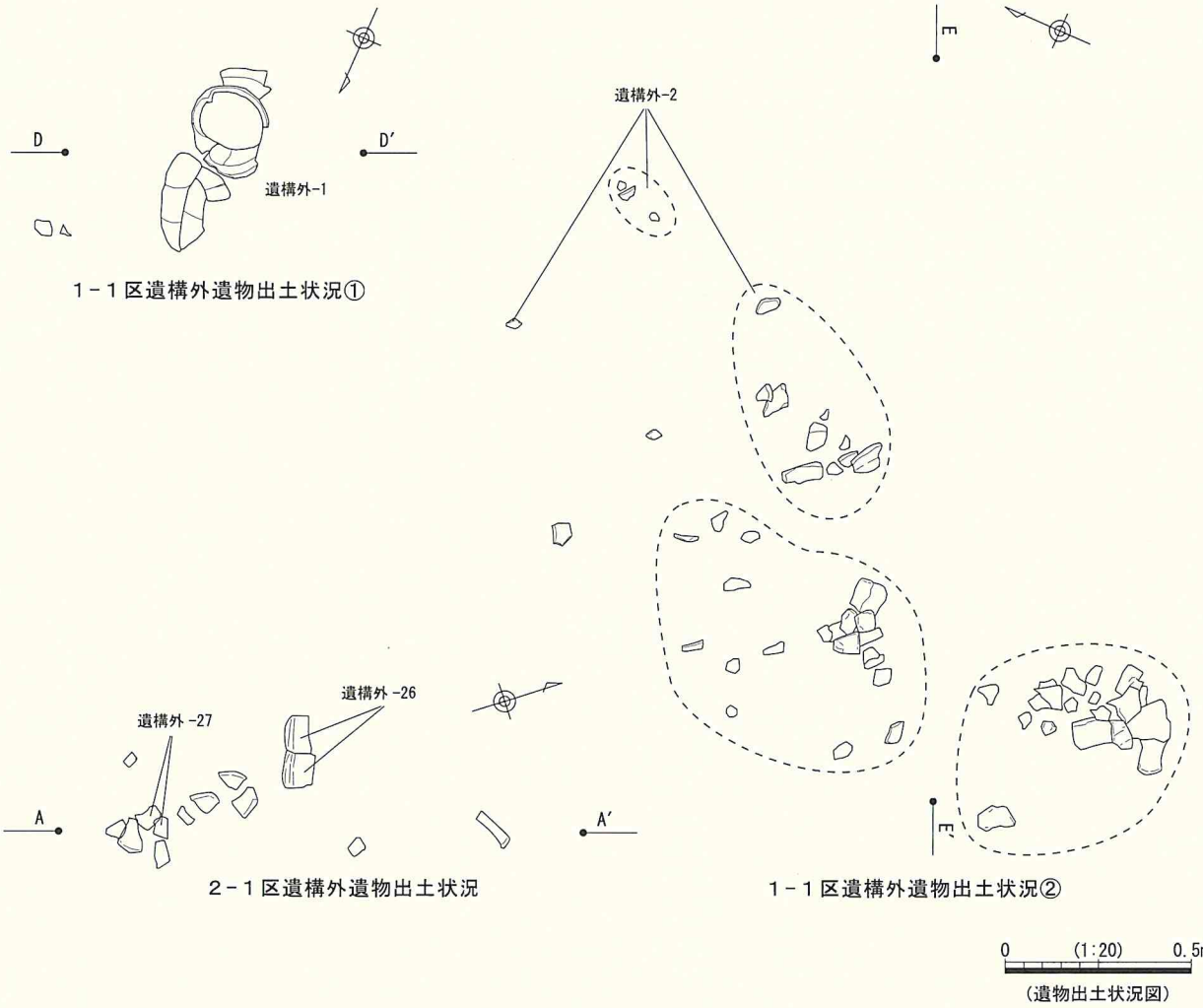
第７節　As-A 軽石充填遺構（第 73 図）

２－１区北東部の上面では As-A 軽石降下以前の畝状遺構と As-A 軽石充填遺構を検出した。およそ 20×12m の限られた範囲で検出され、畝状遺構は約 18 条を確認した。畝方向は N - 10°- E で、畝幅は 10～ 20cm、As-A 軽石の埋没する作は上端幅 14 ～ 20cm、深さ 10cm であった。覆土は明確な降下単位が観察されず一次堆積ではないと考えられるが、少なくとも As-A 軽石降下以前まで畠があったものと考えられる。遺物は近世陶器の皿が少量出土している。

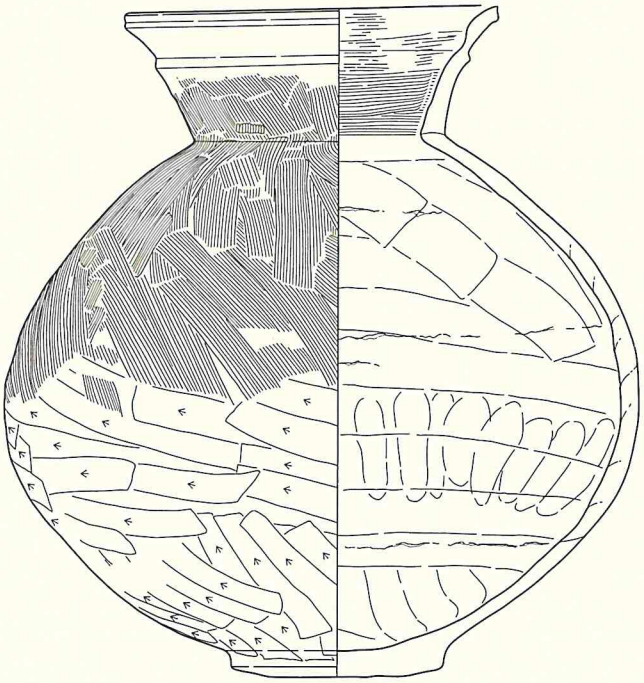
第73図　As-A軽石充填遺構平面図・断面図

第８節　遺構外出土遺物

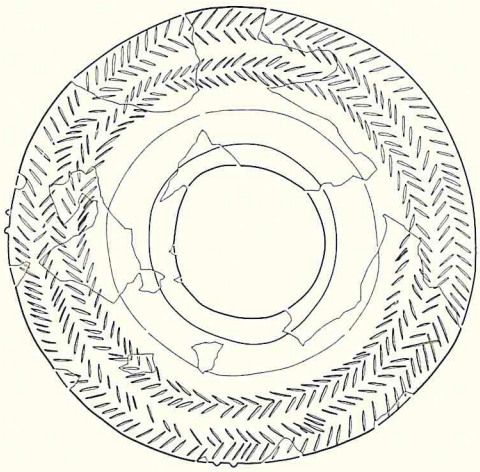
本調査では、検出した多くの遺構から様々な遺物が出土しているが、なかには明確な遺構に伴わない状態で出土するものもある。また、１－１区・４区では黒色土（Ⅳ層上面）より多量の土師器・縄文土器が出土した。いずれも明確な掘り込みが確認できなかったものの、１－１区では東海系のいわゆる柳ヶ坪型壷など古墳時代前期を中心とする土師器が数か所でまとまって出土しており、付近の７号溝から布留式系の甕が出土するなどの特徴がみられた。また、１－１区Ⅳ層上面では複合口縁壷５個体・直口壷１個体・小型丸底壷・S 字甕４個体・台付甕３個体などが、およそ７m 四方の範囲で出土している。土器の組成から祭祀遺構の可能性も捨てきれないが、本遺跡近辺での集落分布などの課題もあり、集落の縁辺部などで祭祀がおこなわれていたとの断定はできない。本節では、明確な遺構に伴わない遺物を「遺構外出土遺物」として扱い、資料化できたものを中心に掲載する。

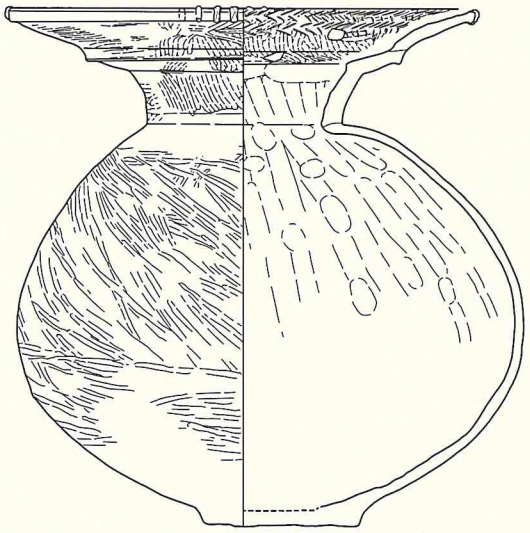


第74図　遺構外遺物出土状況図



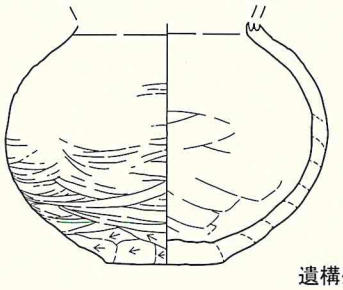
遺構外-1



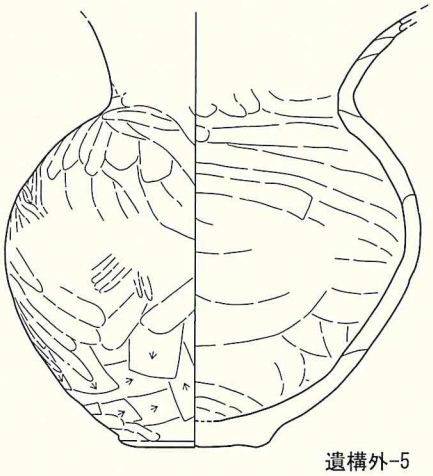


遺構外-2

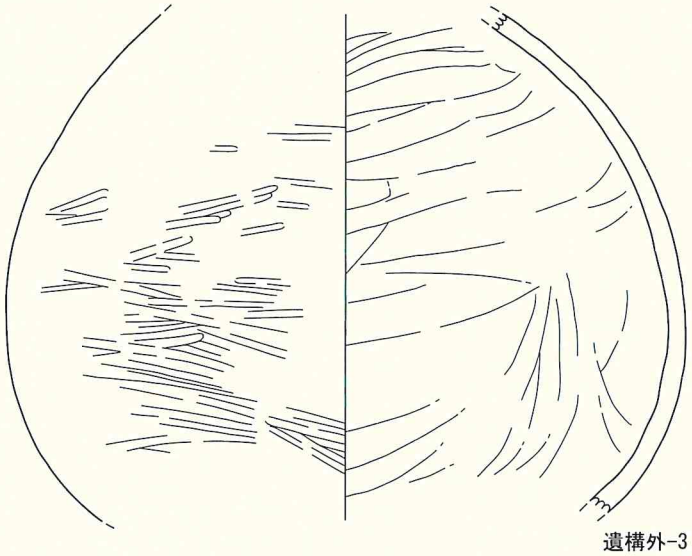
0　(1:4)　10cm
(遺構外-2)



遺構外-4



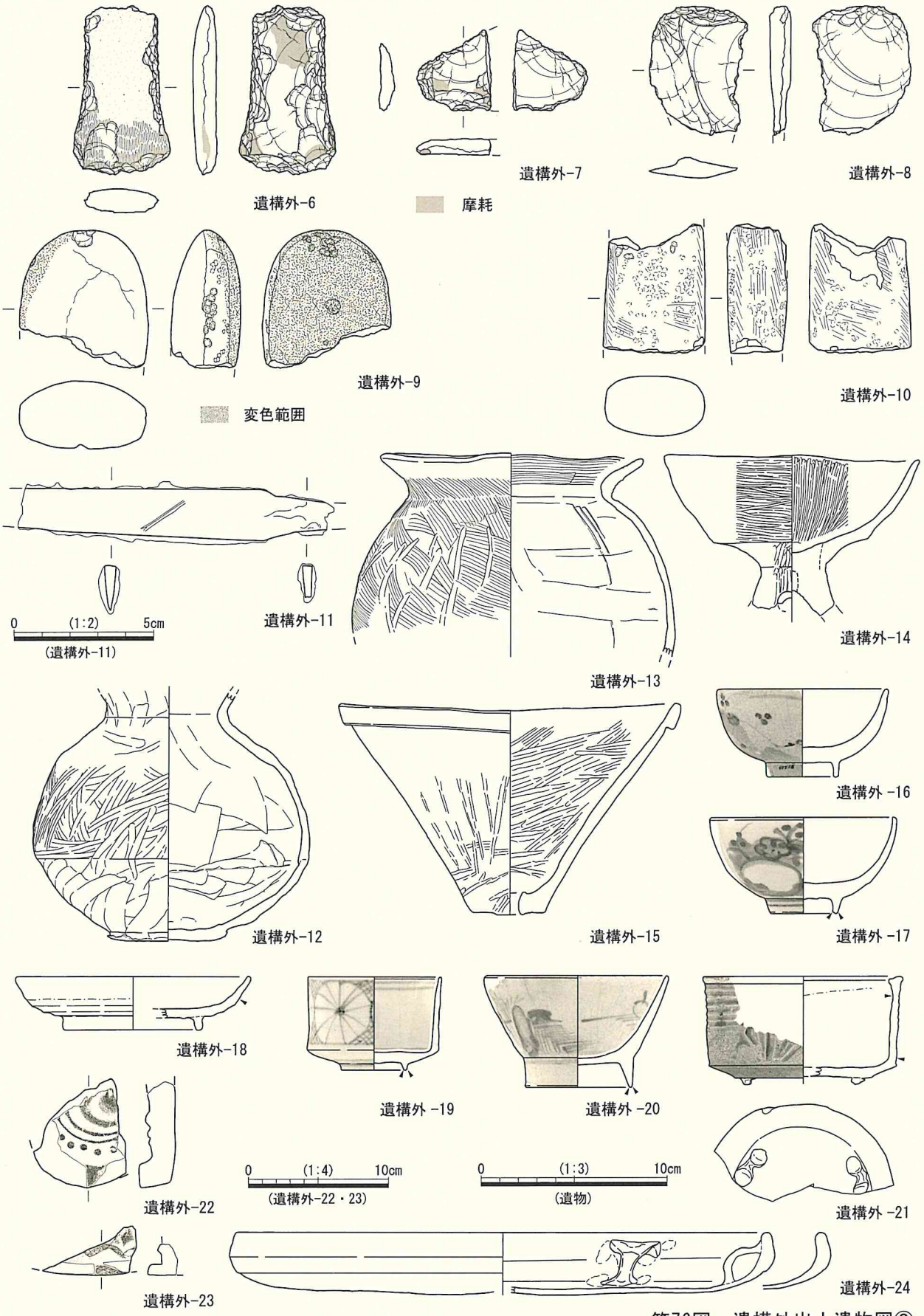
遺構外-5



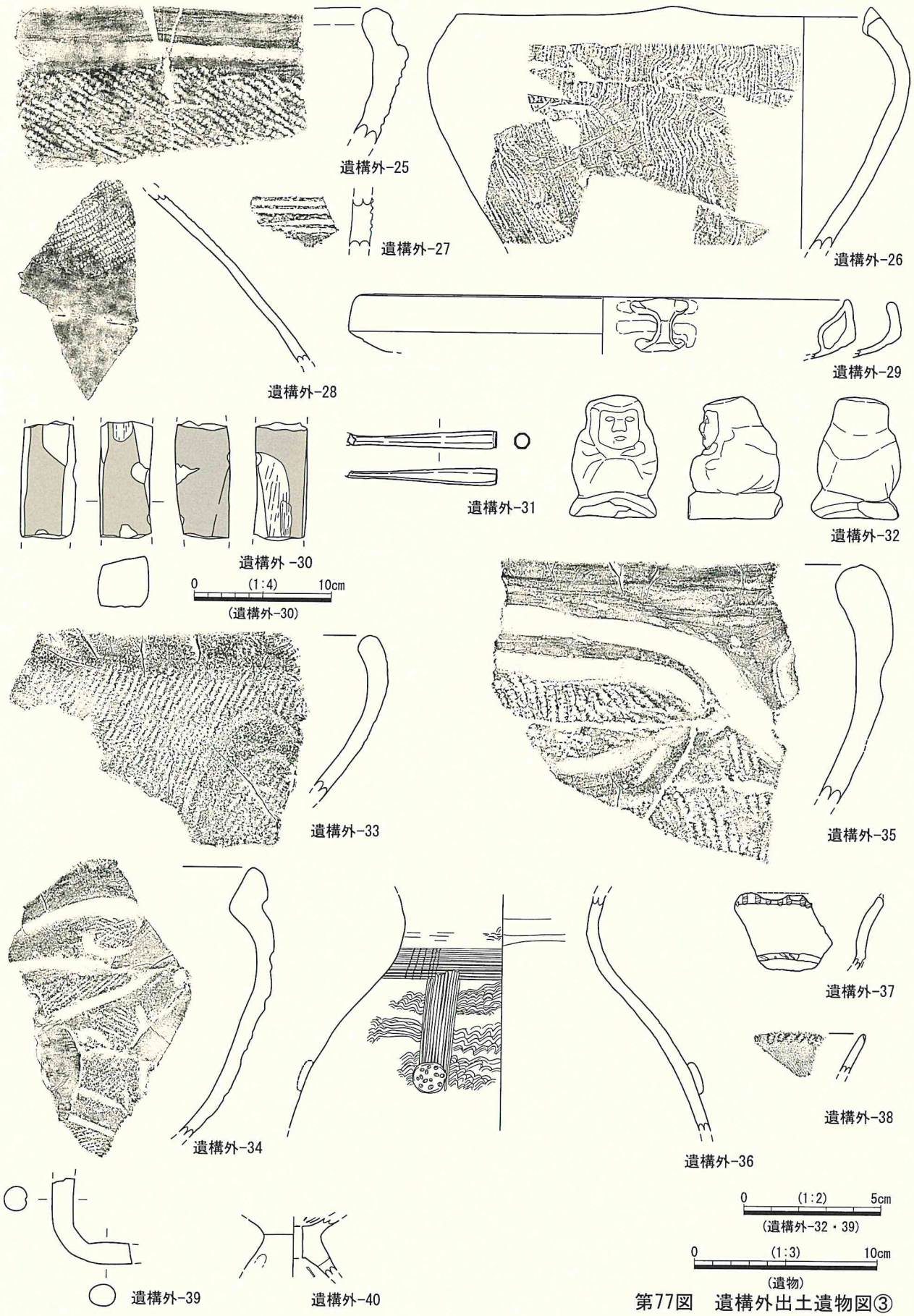
遺構外-3

0　(1:3)　10cm
(遺物)

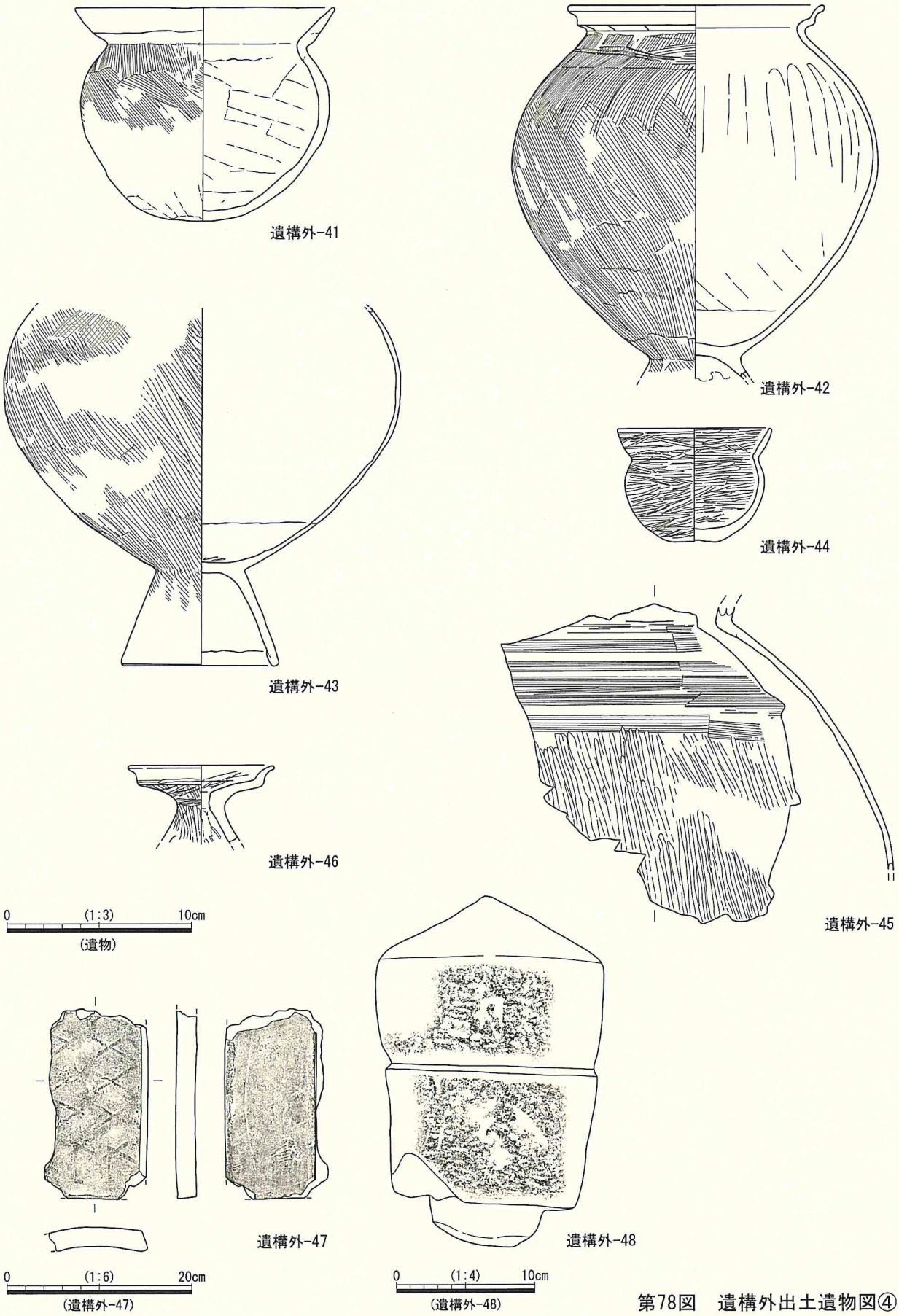
第75図　遺構外出土遺物図①



第76図　遺構外出土遺物図②



第77図　遺構外出土遺物図③



第78図　遺構外出土遺物図④

第14表　遺構外出土遺物観察表①

図版	出土地	番号	種別 器種	法量（cm） 口径	底径	器高	調整 外面	内面	色調	胎土	残存	備考
第75図 PL. 23	遺構外	1	土師器 壺	14. 6	8. 4	26. 7	口縁部ヨコナデ、頸部タテハケ、胴部上半タテ・ナナメハケ、胴部下半ヘラケズリ	口縁部ヨコハケ後ヨコナデ、頸部ヨコ・ナナメハケ後ナデ、胴部ヘラナデ	にぶい橙 7. 5YR6/4	石英、白色微細粒多量	ほぼ完形	—
第75図 PL. 23	遺構外	2	土師器 壺	24. 5	8. 3	27. 5	口唇部ヨコナデ後棒状浮文貼付。口縁～頸部タテ・ヨコミガキ。胴部ナデ後ヨコ・ナナメミガキ	口縁部タテ・ナナメミガキ後ヘラ状工具により綾杉文を施文。頸部ナデ、胴部指ナデ・オサエ	にぶい黄橙 10YR7/4	石英、黒雲母粒、チャート	2/3	柳ヶ坪型
第75図 PL. 23	遺構外	3	土師器 壺	—	—	[19. 7]	ナデ後ヨコ・ナナメミガキ	ヘラナデ	浅黄橙 10YR8/3	長石、角閃石、黒・褐色粒	3/4	—
第75図 PL. 23	遺構外	4	土師器 壺	—	6. 1	[12. 7]	胴部ナデ後ヨコミガキ、胴部下端ヘラケズリ、底部ナデ	ヘラナデ	明赤褐 10YR7/6	石英、長石、白・黒色粒	1/3	—
第75図 PL. 23	遺構外	5	土師器 小型甕	—	5. 2	[17. 2]	口縁部・底部ケズリ後ナデ、胴部ケズリ後ミガキ	ナデ、ヘラナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	石英、長石、黒雲母粒、白色微細粒	1/2	—

図版	出土地	番号	種別 器種	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g) 重さ	石材	作成技法等の特徴	残存	備考
第76図 PL. 23	遺構外	6	石器 打製石斧	9. 1	5. 2	1. 35	81. 8	頁岩	撥形。礫皮をもつ横長剥片を素材とし、直接打撃による両面加工を施す。刃部に摩耗痕。全体にリダクションが顕著。	ほぼ完形	—
第76図 PL. 23	遺構外	7	石器 スクレイパー	4. 35	4. 04	0. 9	15. 0	頁岩	剥片の縁辺に直接打撃による両面加工を施す。刃部には部分的に微細剥離痕が認められる。	—	打製石斧の未製品を転用か
第76図 PL. 23	遺構外	8	石器 リタッチドフレイク	[6. 95]	5. 3	1. 15	39. 4	頁岩	礫皮をもつ薄型剥片を素材とし、縁辺の一部に微細剥離痕が認められる。	—	—
第76図 PL. 23	遺構外	9	石器 磨石類	[7. 45]	[6. 9]	[3. 7]	250. 5	輝石安山岩	表裏面に摩耗痕。上端部の一部に敲打痕・剥離痕。両側面は敲・磨により平滑。磨→敲・磨	—	—
第76図 PL. 23	遺構外	10	石器 磨製石斧	[7. 0]	[5. 5]	[3. 25]	260. 4	緑色岩類	基部・刃部とも欠損。敲→磨。部分的に敲打痕が残存。	—	—

図版	出土地	番号	種別 器種	法量（cm） 長さ	幅	厚さ	調整 外面	内面	色調	胎土	残存	備考
第76図 PL. 23	遺構外	11	鉄製品 刀子	[11. 4]	2. 2	0. 8	—	—	—	—	4/5	—

図版	出土地	番号	種別 器種	法量（cm） 口径	底径	器高	調整 外面	内面	色調	胎土	残存	備考
第76図 PL. 23	遺構外	12	土師器 小型壺	—	6. 4	[13. 3]	頸部ヘラナデ、胴部上位ミガキ、胴部下位ヘラナデ、底部ヘラケズリ	頸部～胴部ヘラナデ、底部指オサエ	にぶい橙 7. 5YR7/4	長石、黒雲母、褐色粒	1/2	—
第76図 PL. 23	遺構外	13	土師器 甕	14. 1	—	[10. 9]	口縁部ナナメハケ後ヨコナデ、胴部ナナメ・ヨコハケ後ミガキ	口縁部ヨコハケ、胴部ヘラナデ	灰褐 7. 5YR4/2	石英、雲母粒	1/3	—
第76図 PL. 23	遺構外	14	土師器 高坏	13. 8	—	[8. 7]	坏部ヨコミガキ、脚部タテミガキ	タテミガキ	橙 7. 5YR7/8	長石、黒・褐色粒	1/2	—
第76図 PL. 23	遺構外	15	土師器 有孔鉢	[18. 2]	4. 0	11. 0	口縁部細い粘土紐付加による折り返し後、ヨコナデ。体部ミガキ、底部ナデ	口縁部ヨコナデ、体部ケズリ、底部指ナデ	明黄褐 10YR6/6	石英、黒雲母粒	3/4	内外面赤彩、底部焼成前穿孔
第76図 PL. 23	遺構外	16	磁器 染付碗	(9. 3)	(4. 0)	5. 0	灰釉＋呉須絵。雪輪梅樹文。高台際圏線。	灰釉	灰白 5GY8/1	黒色粒	1/4	波佐見系 17世紀末～18世紀中頃
第76図 PL. 23	遺構外	17	磁器 染付碗	10. 0	3. 7	5. 2	灰釉＋呉須絵。雪輪梅樹文。高台際圏線。	灰釉	灰白 2. 5GY8/1	黒色粒	3/4	肥前系 1710～1780年代
第76図 PL. 23	遺構外	18	陶器 皿	12. 6	7. 5	2. 9	口縁部のみ灰釉	灰釉	淡黄 5Y8/3	長石	1/2	瀬戸・美濃系 18世紀
第76図 PL. 23	遺構外	19	磁器 筒型碗	(7. 1)	3. 6	5. 0	灰釉＋呉須絵。菊花ちらし文。高台際圏線。	灰釉。見込手描五弁花。	灰白 N8/0	黒色粒	1/2	肥前系 18世紀後半
第76図 PL. 23	遺構外	20	陶器 碗	9. 9	5. 8	6. 0	灰釉＋呉須絵。高台際圏線。	灰釉。口唇・高台際圏線。	灰白 5Y7/2	黒色粒	ほぼ完形	肥前系
第76図 PL. 24	遺構外	21	陶器 筒型香炉	(10. 8)	(10. 1)	5. 8	底部を除き飴釉。菊花文押印。腰部に粘土紐脚付。	口縁部飴釉。	暗オリーブ 5Y4/4	黒色粒	1/3	瀬戸

図版	出土地	番号	種別 器種	瓦当径 (cm)	内区 内区径	外区 外縁幅	外縁高	外区文様	全長 (cm)	瓦当厚 (cm)	凸面調整	凹面調整	接合法	色調 焼成	残存	備考
第76図 PL. 24	遺構外	22	巴文軒丸瓦 （左巴）	—	—	1. 7	1. 0	珠文	[2. 2]	2. 0	周縁ナデ	瓦当裏面ナデ	—	3B/軟質	瓦当部	—

図版	出土地	番号	種別 器種	上弦幅 (cm)	下弦幅 (cm)	瓦当部 外縁幅	全長 (cm)	瓦当厚 (cm)	凸面調整	凹面調整	接合法	色調 焼成	残存	備考
第76図 PL. 24	遺構外	23	剣頭文軒平瓦	—	[6. 5]	0. 9	[2. 2]	—	顎凸面ヨコナデ	—	—	1A/軟質	瓦当部	—

図版	出土地	番号	種別 器種	法量（cm） 長さ	幅	厚さ	調整 外面	内面	色調	胎土	残存	備考
第76図 PL. 24	遺構外	24	軟質陶器 焙烙	(38. 5)	—	4. 5	口縁部ヨコナデ。底部外周1. 5cmヘラケズリ。底部離れ砂。	ナデ、指オサエ	橙 5YR6/6	長石、雲母粒	1/4	内耳2ヵ所残存。外面口縁部スス付着。

第15表　遺構外出土遺物観察表②

図版	出土地	番号	種別 器種	法量（cm） 口径	底径	器高	成・整形技法の特徴		色調	胎土	残存	備考
第77図 PL. 24	遺構外	25	縄文土器 深鉢	—	—	[7.5]	口縁端部は内湾し、肥厚する。口縁上位に棒状工具による沈線を1条巡らせる。地文はRLの単節節縄文を横位施文。無文部は平滑に仕上げる。		にぶい橙 7.5YR7/3	石英、長石、雲母粒	口縁部破片	縄文中期後半
第77図 PL. 24	遺構外	26	縄文土器 深鉢	23.3	—	[13.2]	口縁端部は内湾し、指ナデを施す。胴部は櫛歯状工具による条線を縦位施文。		橙 5YR6/6	長石、黒雲母	1/4	縄文中期後半
第77図 PL. 24	遺構外	27	縄文土器 深鉢	—	—	[2.7]	半截竹管による平行沈線を横位施文。		明褐 7.5YR5/6	石英、雲母粒、白色粒	胴部破片	縄文前期後半
第77図 PL. 24	遺構外	28	弥生土器 壺か甕	—	—	—	肩部縄文を施文。	ヨコミガキ	灰白 10YR8/2	長石、黒・褐色粒	肩部破片	吉ヶ谷・赤井戸系
第77図 PL. 24	遺構外	29	軟質陶器 焙烙	36.0	—	[4.2]	口縁部ヨコナデ、底部外周1.5cmヘラケズリ、底部離れ砂。	ヨコナデ	橙 5YR6/6	黒雲母、長石、黒色粒	口縁部 1/2	内耳1ヵ所残存。外面口縁部スス付着。

図版	出土地	番号	種別 器種	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g) 重さ	石材	作成技法等の特徴	残存	備考
第77図 PL. 24	3区 遺構外	30	石製品 砥石	[6.2]	3.0	2.8	87.5	流紋岩	4面に研磨痕。	破片	—

図版	出土地	番号	種別 器種	法量（cm） 長さ	幅	重量(g) 重さ	作成技法等の特徴	色調	色調	残存	
第77図 PL. 24	3区 遺構外	31	銅製品 煙管	[8.2]	0.4～ 1.0	7.1	—	—	材質：銅	ほぼ完形	—
第77図 PL. 24	3区 遺構外	32	土人形 だるま	4.5	3.3	3.1	型抜き	灰白 10YR8/1	長石、黒色粒	ほぼ完形	—

図版	出土地	番号	種別 器種	法量（cm） 口径	底径	器高	成・整形技法の特徴	色調	胎土	残存	備考
第77図 PL. 24	4区 遺構外	33	縄文土器 深鉢	—	—	[9.1]	口縁部は内湾する。地文にLR単節縄文を施文し、棒状工具による沈線を上端∩状の区画を描く。	にぶい黄橙 10YR5/4	石英、長石、褐色粒	口縁部破片	縄文中期後半
第77図 PL. 24	4区 遺構外	34	縄文土器 深鉢	—	—	[8.0]	口縁部は楕円区画と渦文を隆帯により表出。区画内はRLの単節縄文を施文。	にぶい黄橙 10YR7/2	石英、長石、雲母粒	口縁部破片	縄文中期後半
第77図 PL. 24	4区 遺構外	35	縄文土器 深鉢	—	—	[14.8]	口縁端部に丸棒状工具を用いた沈線による渦文を伴う半円板状の小突起が配される。地文には撚糸文を施す。	褐灰 7.5YR5/2	石英、黒雲母、白色粒	口縁～胴部破片	縄文中期後半

図版	出土地	番号	種別 器種	法量（cm） 口径	底径	器高	調整 外面	内面	色調	胎土	残存	備考
第77図 PL. 24	4区 遺構外	36	樽式土器 甕	—	—	[12.9]	頸部櫛描簾状文、肩部3段の櫛描波状文→タテハケ→刺突円形浮文貼付。	ヘラナデ	黄褐 10YR5/6	長石、雲母粒、角閃石安山岩	頸部～胴部破片	—
第77図 PL. 24	4区 遺構外	37	弥生土器 甕	—	—	[4.0]	口唇部板状工具小口によるキザミ。口縁部ナ	ナデ	にぶい黄橙 10YR6/4	長石、黒雲母	口縁部破片	—
第77図 PL. 24	4区 遺構外	38	弥生土器 甕	—	—	[2.2]	口唇部板状工具小口によるキザミ。口縁部ヨコナデ後ナナメハケ。	ヨコハケ後ナデ	にぶい橙 7.5YR7/4	石英	口縁部破片	—

図版	出土地	番号	種別 器種	法量（cm） 直径	成・整形技法の特徴	色調	胎土	残存	備考
第77図 PL. 24	4区 遺構外	39	土製品 不明	0.8	ナデ	明黄褐 10YR7/6	白色粒	破片	—

図版	出土地	番号	種別 器種	法量（cm） 口径	底径	器高	調整 外面	内面	色調	胎土	残存	備考
第77図 PL. 24	4区 遺構外	40	土師器 器台	—	—	[3.4]	ハケナデ	器受部ヘラミガキ、台部ナデ	橙 7.5YR6/6	石英、角閃石安山岩、白色微細粒	破片	透かし孔3ヵ所残存
第78図 PL. 24	4区 遺構外	41	土師器 小型甕	14.1	—	(11.6)	口縁部ナデ、胴部上半ハケナデ、胴部下半～底部ヘラケズリ・ナデ	口縁部ナデ、胴部～底部ヘラナデ	にぶい黄 2.5Y6/4	チャート、黒・褐色粒	1/2	—
第78図 PL. 24	4区 遺構外	42	土師器 S字甕	13.8	—	[20.4]	口縁部ヨコナデ、頸部刺突文。肩部ナナメハケ後ヨコハケ、胴部～台部ナナメハケ	口縁～頸部ヨコナデ・一部指オサエ。胴部指ナデ、底部ヘラナデ。	にぶい黄橙 10YR6/3	長石、雲母粒	1/2	台部内面に砂粒を多く含む粘土貼付
第78図 PL. 24	4区 遺構外	43	土師器 台付甕	—	8.5	[19.5]	胴部ナナメハケ、台部ナナメハケ後指ナデ	胴部指ナデ、底部ヘラナデ。台部下端折り返し後指ナデ・オサエ	灰褐 7.5YR5/2	長石、雲母粒、白色微細粒	1/3	—
第78図 PL. 24	4区 遺構外	44	土師器 小型壷	(8.4)	2.5	6.2	微細なヘラミガキ	微細なヘラミガキ	にぶい褐 7.5YR5/4	黒雲母、黒・褐色粒	1/2	—
第78図 PL. 24	4区 遺構外	45	土師器 壷	—	—	[14.3]	肩部ヨコハケ、胴部タテミガキ	指ナデ後オサエ	明黄褐 10YR6/6	黒雲母、褐色粒	頸部～胴部破片	—
第78図 PL. 24	4区 遺構外	46	土師器 器台	8.0	—	[4.2]	口唇部ナデ、器受～台部ヘラミガキ	器受部ヘラミガキ、台部指ナデ	明黄褐 7.5YR6/4	雲母粒、角閃石安山岩	1/6	透かし孔1ヵ所残存

図版	出土地	番号	種別 器種	全長・幅 (cm)	厚さ (cm)	凸面調整	凹面調整	側端面調整	色調/焼成	残存	備考
第78図 PL. 24	4区 遺構外	47	熨斗瓦	全長：[20.6] 幅：11.0	2.0～ 2.3	斜格子叩き。離れ砂付着。	無文叩き。離れ砂付着。	凹側面を面取り。半截面未調整。	1A/軟質	2/3	截線を入れ焼成後に分割

図版	出土地	番号	種別 器種	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(kg) 重さ	石材	作成技法等の特徴	残存	備考
第78図 PL. 24	4区 遺構外	48	石製品 五輪塔	25.5	16.5	14.2	5.6	輝石安山岩	縦位の細い工具痕が残る。	ほぼ完形	空・風輪

第９節　自然科学分析

上中居前屋敷遺跡（3 次調査）の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

上中居前屋敷遺跡（高崎市上中居町地内）は、烏川左岸の高崎台地（広義の前橋台地）上に位置する。本遺跡の発掘調査では、出土遺物から近世（18 世紀後半）頃と考えられる井戸跡等が検出されている。

本報告では、上述した井戸跡から出土した種実および昆虫遺体の同定を行い、当時の古環境や食料に関する検討を行った。

1. 試料

試料は、近世の井戸跡（３区 15 号井戸）の基底付近（4 層下部）から出土した種実遺体 10 点（№1 ～ 10）と、昆虫遺体 3 点（№1 ～ 3）の計 13 点である。

2. 分析方法

(1) 種実同定

試料を双眼実体顕微鏡下で観察する。種実遺体の同定は、現生標本と石川（1994）、中山ほか（2000）等の図鑑類を参考に実施する。分析後は、種実遺体を容器に入れ、約 70% のエタノール溶液で液浸し、保管する。

(2) 昆虫同定

試料を双眼実体顕微鏡下で観察する。昆虫遺体の同定は、形態的特徴より実施する。分析後は、乾燥を防ぐために昆虫遺体を水入りの管瓶で保管する。なお、同定･解析は、松本浩一氏（東京農業大学）の協力を得た。

3. 結果

(1) 種実同定

井戸跡（3 区 15 号井戸）出土種実は、裸子植物 1 分類群（常緑針葉樹のスギ）1 点、被子植物 4 分類群（広葉樹のコナラ、クリ、モモ、エゴノキ）9 点に同定された。

種実遺体群は全て木本から成り、栽培種はモモの核が 1 点（№1）確認された。栽培種を除いた分類群は、常緑高木のスギの球果が 1 点（№2）、落葉高木のコナラの果実が 6 点（№4 ～ 9）、クリの果実が 1 点（№3）、落葉小高木のエゴノキの種子が 1 点（№10）確認された。

(2) 昆虫同定

同定結果を表 1 に示す。昆虫遺体 2 点（№1,2）は、カナブン（Pseudotorynorrhina japonica ：コウチュウ目コガネムシ科）の前胸（№1）と右中脚（№2）に同定された。残りの 1 点（№3）は、スジコガネムシ属（コウチュウ目コガネムシ科）の一種の上翅の一部に同定された。

4. 考察

18 世紀後半とされる井戸跡（３区 15 号井戸）から出土した種実遺体は、モモ、スギ、コナラ、クリ、エゴノキに同定され、昆虫遺体は、カナブン、スジコガネムシ属に同定された。

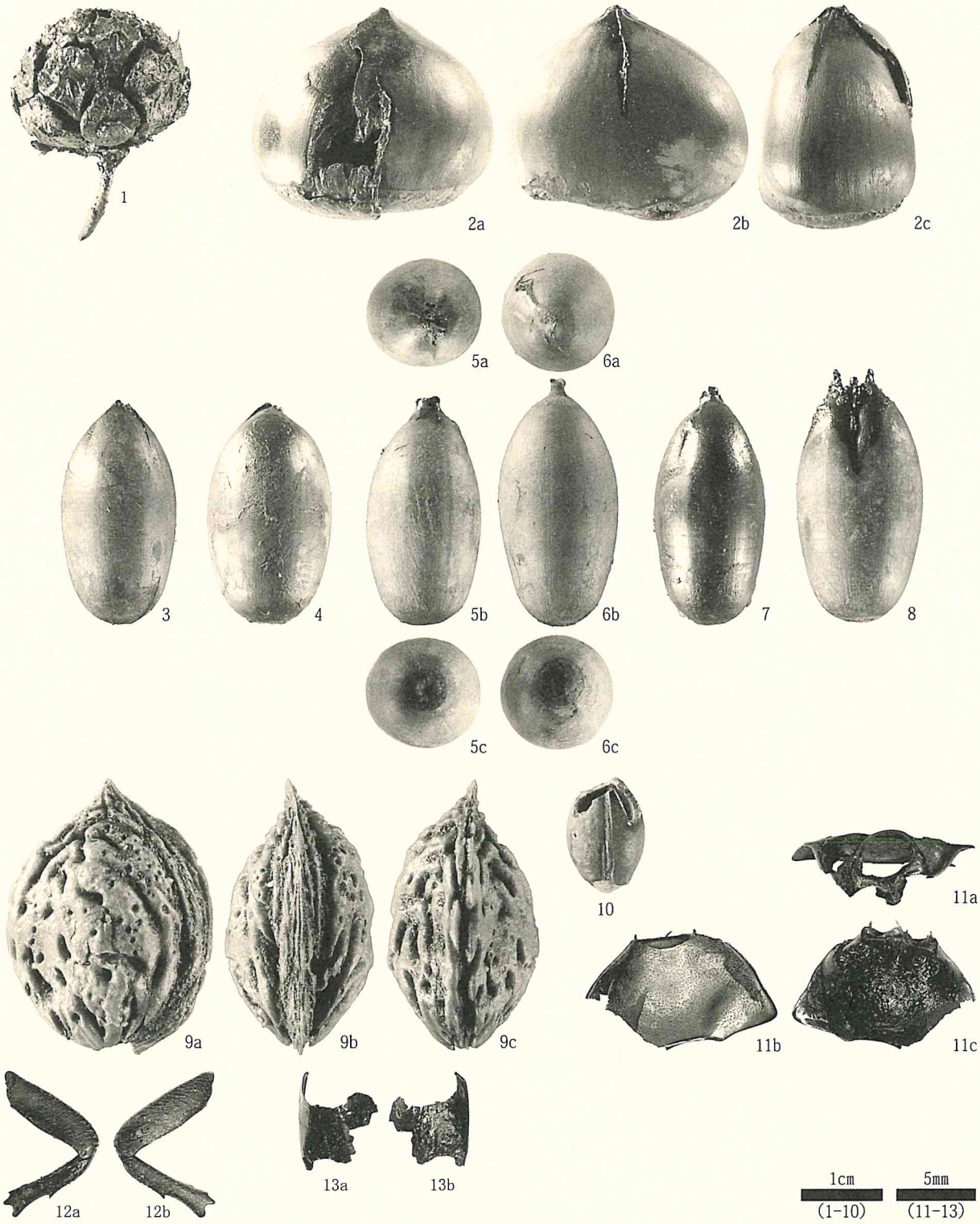
種実遺体で確認された栽培種であるモモは、果実や種子が食用、薬用、祭祀等に、花が観賞用に利用される。詳細な用途を言及することは難しいが、少なくともモモ核の出土から植物質食料としての利用が推定される。

栽培種を除いた分類群では、針葉樹のスギは、山地の沢沿いに生育する常緑高木で、よく植栽される有用樹である。広葉樹のコナラやクリは、山地や丘陵等に生育する二次林要素の落葉高木であり、エゴノキは山麓の雑木林や山地の谷間、小川のほとり等に生育する落葉小高木である。これらの分類群は、種実が出土したことから、植栽された可能性も含めて、調査地付近の森林に生育していたと考えられる。また、クリは、果実内部の子葉が生食可能で、コナラは子葉があく抜きすれば食用可能な有用植物である。ただし、井戸跡から出土した果実は完全な状態を保っており、利用の痕跡は見出せなかった。

昆虫遺体で確認されたカナブンは、日本全土の平地から低山に極めて普通の種で、雑木林の樹液や熟果に集合する。スジコガネムシ属は花の花粉や花蜜に集合する。これらの出土昆虫は、調査地周辺の雑木林やその周辺に生息していたと考えられる。

引用文献

石川茂雄，1994，原色日本植物種子写真図鑑．石川茂雄図鑑刊行委員会，328p.
中山至大・井之口希秀・南谷忠志，2000，日本植物種子図鑑．東北大学出版会，642p.



1. スギ 球果(3区SE15;No.2)　2. クリ 果実(3区SE15;No.3)
3. コナラ 果実(3区SE15;No.4)　4. コナラ 果実(3区SE15;No.5)
5. コナラ 果実(3区SE15;No.6)　6. コナラ 果実(3区SE15;No.7)
7. コナラ 果実(3区SE15;No.8)　8. コナラ 果実(3区SE15;No.9)
9. モモ 核(3区SE15;No.1)　10. エゴノキ 種子(3区SE15;No.10)
11. カナブン 前胸(3区SE15;No.1)　12. カナブン 右中脚(3区SE15;No.2)
13. スジコガネムシ属の一種 上翅の一部(3区SE15;No.3)

第79図　種実遺体・昆虫遺体

第４章　成果と課題

第１節　上中居前屋敷遺跡の遺構変遷

今回報告をおこなった上中居前屋敷遺跡の調査では、縄文時代から近世まで幅広い時期の遺構・遺物が検出された。特に古墳時代の溝群・中世寺院に関連する建物跡や区画溝を確認できたことは大きな成果である。本章では、本遺跡の遺構変遷および特筆すべき項目について若干の考察をおこない、本報告のまとめとする。

縄文時代　縄文時代の遺構としては２－１区で検出した22号土坑があげられる。覆土中位より加曽利Ｅ３式を中心とする多量の縄文土器が出土していることから、縄文中期後葉の土坑と考えられる。当地域で確認されている縄文時代の遺構は少なく、上中居遺跡群で縄文中期後半頃を中心すると考えられる集石遺構、土坑、被熱痕跡および当該期の土器群、下中居条里Ⅲ遺跡で縄文中期後半の竪穴住居跡１軒、土坑５基が確認されるなど、ごくわずかである。本遺跡は上中居遺跡群と下中居条里Ⅲ遺跡のほぼ中間に位置し、中居町一丁目遺跡などでも縄文時代の土器が出土していることから、当地域の微高地上を中心に縄文時代の遺跡が広がっていたことが想定される。

弥生時代　弥生時代では遺構は確認されていないものの、弥生後期の樽式土器が９号溝・４号井戸・遺構外から出土している。

古墳時代　古墳時代前期の遺構としては溝跡８条、１区で検出した土坑４基と４区で検出した土坑１基があげられる。中でも、１区の７号溝ではＳ字甕・小型丸底壷が多量に出土しており、布留系・東海西部系・吉ヶ谷式系などの外来系土器が主体となっている。また、45号溝では肩部に櫛歯状工具による綾杉文を刺突する南関東系の壷、遺構外からは柳ヶ坪型の二重口縁壷が出土しており、本遺跡の性格の一端を示す貴重な資料となった。

古墳時代中期の遺構としては３区で検出した33号溝が中期まで存続するものの、それ以外で確実に中期に機能していた遺構は確認されておらず、古墳時代前期や後期と比較して希薄である。

古墳時代後期の遺構としては１・３区で検出した溝跡７条があげられる。これらの多くはHr-FA起源と考えられる洪水層を覆土とすることから、６世紀初頭以前には開削されており、Hr-FA起源の洪水により埋没したと考えられる。また、古墳時代前期の溝である７号溝と後期の溝である８～10号溝は、土層の堆積状況から洪水により埋没したものを掘り返しながら継続的に利用していたことがうかがえる。これらの利用状況や古墳時代から中世を通じて北西から南東に流下する多数の溝は、当地域の水利経営を考えるうえで重要なものであり、今後調査を実施する際にも留意すべきものである。

中・近世　中世の遺構としては２・４区で検出した溝跡11条と井戸跡９基、２区で検出した礎石建物１棟、掘立柱建物２棟、土坑３基があげられる。中でも、２・４区にかけて検出した区画溝とみられる16・17・23・25・44・45号溝、軒瓦を含む多量の瓦類や軟質陶器・火鉢の出土した11・13・15号溝と８・19・22号井戸および建物跡は中世寺院に関連する遺構群と考えられる。なお、瓦類の出土は11・13・15号溝と22号井戸にほぼ限定されることや瓦の出土量からみて、瓦葺建物は１号礎石建物のみと考えられる。また、27号溝から出土した板碑片や44号溝から出土した五輪塔、11・45号溝から出土した銅銭などから中世墓の存在も考慮する必要がある。

近世の遺構としては２区で検出した溝跡４条・井戸跡１基や３区で検出した溝跡３条・井戸跡３基、４区で検出した47号溝・20号井戸、土坑５基があげられる。このうち、40・44号土坑は永楽通寶を中心とする銅銭が６枚ずつ出土していることから土坑墓である可能性も考えられる。

上中居前屋敷遺跡の遺構変遷についてまとめると、縄文時代の遺構はわずかながら２－１区で縄文時代中期後葉（加曽利Ｅ式期）の土坑を確認できた。その後、弥生時代前期から中期の空白期間がある

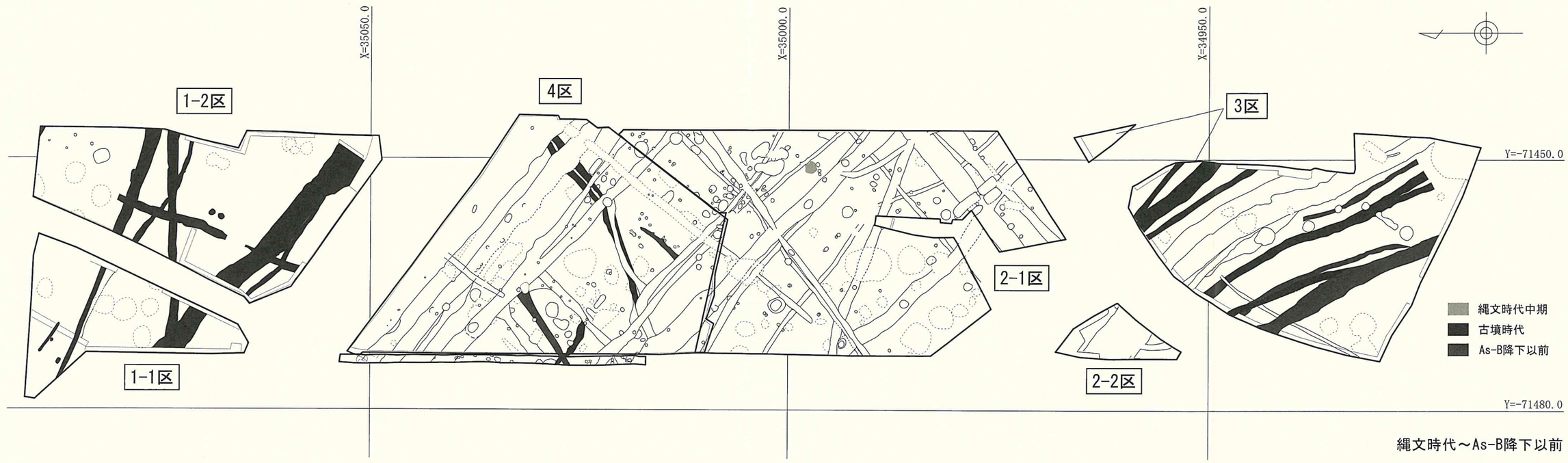
ものの、弥生時代後期から古墳時代前期にかけて多くの水路が掘削されるなど、当地域の水利経営における画期が認められる。また、この時期に布留系・東海西部系・吉ヶ谷式系などの外来系土器を中心とする土器組成は、本遺跡の性格を考えるうえで重要である。その後、古墳時代中期にはやや希薄になるが後期になると再び多くの水路が掘削されるようになる。これは周辺遺跡の集落動向とも合致している。そして古代から14世紀半ばまで遺構・遺物とも希薄になるものの、13世紀後半から14世紀初頭には中世寺院が造営され、また11・45号溝出土の銅銭や27号溝出土の板碑により、寺院に先行する中世墓が近隣に存在した可能性がある。その後、永楽通寶を副葬品とする近世初頭の土坑墓が営まれ、以後近世に至るまで屋敷地として存続したと考えられる。

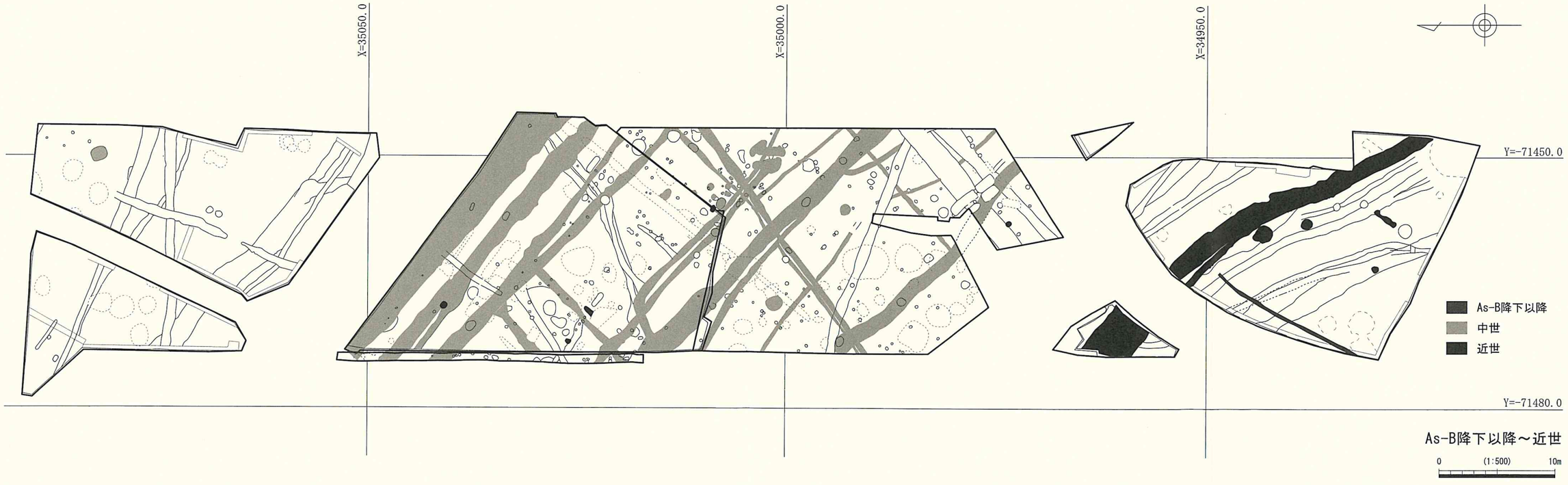
第２節　中世寺院と墓域

中世寺院とみられる遺構は、２・４区にかけて検出された。区画溝とみられる16・17・23・25・44・45号溝、１号礎石建物、８・19・22号井戸が中世寺院に関連する遺構群と考えられる。また、２－１区で検出した２・３号掘立柱建物は側柱建物と考えられ、区画溝とみられる16号溝と主軸方位が近似していることや位置関係などにより、中世寺院と関連する施設である可能性もある。そして、27号溝から出土した板碑片や44号溝から出土した五輪塔、11・45号溝から出土した銅銭や４区北西で検出した銅銭を伴う40・44・45号土坑により墓域の存在がうかがわれ、遺跡の性格を考えるうえで考慮する必要がある。なお、瓦類の出土が11・13・15号溝と22号井戸にほぼ限定されることや瓦の出土量からみて、瓦葺建物は１号礎石建物のみと考えられる。１号礎石建物は明瞭な寺院としての遺構である基壇などは伴わないため、「村堂」のような施設であったことが考えられよう。なお、２・３号掘立柱建物については遺構の構築時期や埋没状況の記録が不十分であり、詳細は不明である。本来ならば、この節で扱うべきものではないかもしれないが、将来隣接地の調査が可能となった際の一助となることを願い、ここに報告する次第である。

次に４区で検出した墓とみられる土坑について、若干の考察を述べることにする。まず、40号土坑は円形の平面プランを呈し、出土した銭貨６枚すべてが永楽通寶である。北関東では中世後期に永楽通寶をはじめとする明銭が六道銭の組成に加わることが指摘されており[註1]、40号土坑の年代も15～16世紀と推定される。44号土坑は隅丸長方形の平面プランを呈し、永楽通寶を含む銭貨６枚が出土しており、やはり15～16世紀と推定される。45号土坑は隅丸長方形の平面プランを呈し、洪武通寶を含む銭貨６枚が出土しており、このうち１枚には布が付着していた。このことから布に包まれた状態で埋納されたことが明らかとなった。また、遺構の時期については14世紀末から15世紀前半を上限とするものと考えられる。これら３基の土坑は、群馬・栃木では円形土坑墓の出現は近世以降とみられること、六道銭の成立が16世紀頃とみられることなどから[註2]、中世後期から近世初頭にかけての土坑墓である可能性が極めて高いといえる。さらに、付近の44号溝から出土した小型五輪塔の存在から、石造物を伴う銭貨埋納中世墓である可能性も考えられる。高崎市においては、小八木志志貝戸遺跡や天田・川押遺跡で小型五輪塔を伴う銭貨埋納土坑墓が確認されており、本遺跡での造墓階層や地域性を考えるうえで考慮する必要があろう。

註１　齊藤弘　2009a「北関東の中世墓」『日本の中世墓』狭川真一編　高志書院
註２　藤澤典彦 1994「六道銭の成立」『出土銭貨』第２号　出土銭貨研究会
　　齊藤弘　2009a「北関東の中世墓」『日本の中世墓』狭川真一編　高志書院





第80図　上中居前屋敷遺跡遺構変遷図

第３節　中世瓦の分析

１．製作技法

軒丸瓦　軒丸瓦は左巻きの巴文軒丸瓦３種を確認した。SD13-2(A 種）は外縁の幅と高さが２：１で、巴頭部はやや尖る。圏線を欠き、巴の尾は長くのびる。瓦当厚は 1.4cm で、丸瓦との接合部は補強のため、裏面に粘土を貼り付け、指ナデ調整を施す。丸瓦部凸面にも補充粘土を用い、ヘラナデ調整を施している。色調は褐灰色で焼成は軟質である。SD17-5(B 種）も外縁の幅と高さが２：１で、巴頭部はやや尖る。巴の尾は長くのび、圏線と連なる。珠文は A 種と比べやや小さい。色調・焼成は A 種と同様である。遺構外 -22(C 種）は外縁の幅がおよそ２：１で、巴頭部はやや尖る。巴の尾は長くのび、圏線と連なる。色調はにぶい黄橙色で焼成は軟質である。いずれも笵傷が顕著である。

軒平瓦　軒平瓦は剣頭文軒平瓦２種を確認した。SD13-3 ～ 10・SD26-7(A 種）は陽刻の下向き剣頭文軒平瓦である。剣の長さと幅の比はおよそ 1：0.8 で、剣および鎬部分は凸線で表現され、地の部分は平坦である。平瓦部凹面から瓦当面にかけて連続した布目を残し、瓦当裏面には指オサエによる凹凸の痕跡があり、いわゆる「完成した段階の折り曲げ造り」である（註８）。いずれも笵傷が顕著であり、SD13-3・4 は笵型を切り詰めた痕跡（笵詰め）がみられる。遺構外 -23(B 種）は下向きの陽刻剣頭文軒平瓦であるが、剣および鎬部分は太く尖っている。破片資料のため製作技法は不明であるが、瓦当面に布目痕がみられないことから、別の技法で製作された可能性も考えられる。色調は褐灰色・にぶい黄橙色の２つがあり、焼成はいずれも軟質である。

丸瓦　丸瓦はいずれも玉縁を有するもの（有段式）で、製作技法にも違いはみられなかった。法量は全長 35.6cm で、縦糸・横糸がそれぞれ３cm 内に 30 本前後と布目痕は非常に細かい。粘土板を模骨に巻き付けて凸面に縄叩きを施すが、縄叩き後丁寧なナデ調整をおこなうため、縄目はほとんど残存しない。凹面には模骨から粘土板をはがしやすくするために布筒を被せるので布目が残存する。また、玉縁部凸側縁・凹面端部・側縁および胴部凹側面・側縁、広端部凹側面を面取りし、胴部凸面側縁を丸くナデ調整する。色調は褐灰色・黄灰色・にぶい黄橙色の３つがあり、焼成はいずれも軟質である。

平瓦　平瓦は凸面に斜格子叩きを施すものと文様のない板状工具を用いた無文叩きを施す２種がある。また、SD13-19・20 は凹面側に布目痕が残存し、SD13-15・17・18 は凹面に布目痕がなく、凹凸両面に離れ砂が付着している。これらの特徴から、凸型成形台の上で１枚ずつ叩きしめて４枚積み重ねる、凸型成形台積み重ね四枚作り技法が用いられた可能性も考えられる。この技法は 14 世紀前後の高崎市来迎寺・浜川北遺跡や神奈川県金沢文庫遺跡で、ほぼ４枚に１枚ほど凹面に布目があり、他の３枚ほどは布目がなく、凹凸両面に離れ砂と格子叩きの痕跡が残存することから、中世において確かに存在したと考えられる。面取りは側面と凹面側の広端部にみられ、狭端部はナデ調整を施すものがある。また、SD13-17・18 には焼成前に凹面側から穿孔した釘穴が残存する。色調は褐灰色・黄灰色・にぶい黄橙色の３つがあり、焼成はいずれも軟質である。

道具瓦　道具瓦は熨斗瓦のみ確認した。製作技法は基本的に平瓦と同一である。焼成前に分割截線を刻み、焼成後に分割したと考えられる。半截面は未調整のため、分割截面が残る。凸面には斜格子叩きを施すものと文様のない板状工具を用いた無文叩きを施す２種がある。色調・焼成は褐灰色と黄灰色の２つがあり、焼成は軟質である。

２．中世瓦の年代観

上中居前屋敷遺跡では軒丸瓦３種、軒平瓦２種が出土した。軒丸瓦はいずれも外区の圏線を欠き、珠文が小さく、巴頭部はやや尖り、尾は長くのびる。軒平瓦 A 種は下向きの陽刻剣頭文軒平瓦である。剣頭文軒平瓦には陰刻と陽刻があり、鎌倉・鶴岡八幡宮や永福寺などの瓦研究から、陰刻→剣および鎬部分が外区より低い陽刻化したもの→陽刻の順に変化していったと考えられている。本遺跡に先行する剣頭文軒平瓦として太田市・長楽寺の瓦（２型）をあげることができる。長楽寺出土瓦について、

山崎信二氏は、「長楽寺遺跡出土瓦のうち、最古のものは「陰刻」による下向き剣頭文軒平瓦である。ただし、剣中央の鎬部分が、外区よりやや低くなっており、埼玉県本庄市東谷中世墳墓例ほど「陽刻化」の傾向は強くないけれども、中世Ⅰ期の鎌倉鶴岡八幡宮や常陸日向廃寺例が完全な「陰刻」による製品であるのと異なっており、長楽寺例を1220年代に置くことに矛盾がないことを示している。この製品は折り曲げであろう。」(註2) としている。これによれば、本遺跡の剣頭文軒平瓦Ａ種は「陽刻」による下向き剣頭文軒平瓦であり、平瓦部凹面から瓦当面にかけて連続した布目を残す「完成した段階の折り曲げ造り」であることから、長楽寺例に比べ後出するものと考えられる。また、下向き剣頭文軒平瓦は、埼玉県児玉町般若寺など一部で中世Ⅳ期まで存続する例もあるが、概ね中世Ⅲ期には上向き剣頭文軒平瓦と併存するようになるとみられる。さらに、剣頭文軒平瓦Ｂ種は長楽寺１型と近似しており、製作技法は不明ながらほぼ同時期と考えられる。このことから、剣頭文軒平瓦Ａ種は中世Ⅲ期からⅣ期、Ｂ種は中世Ⅲ期に該当するものと考えられよう。

註１　上原真人「古代末期における瓦生産体制の変革」『古代研究』13・14　1978

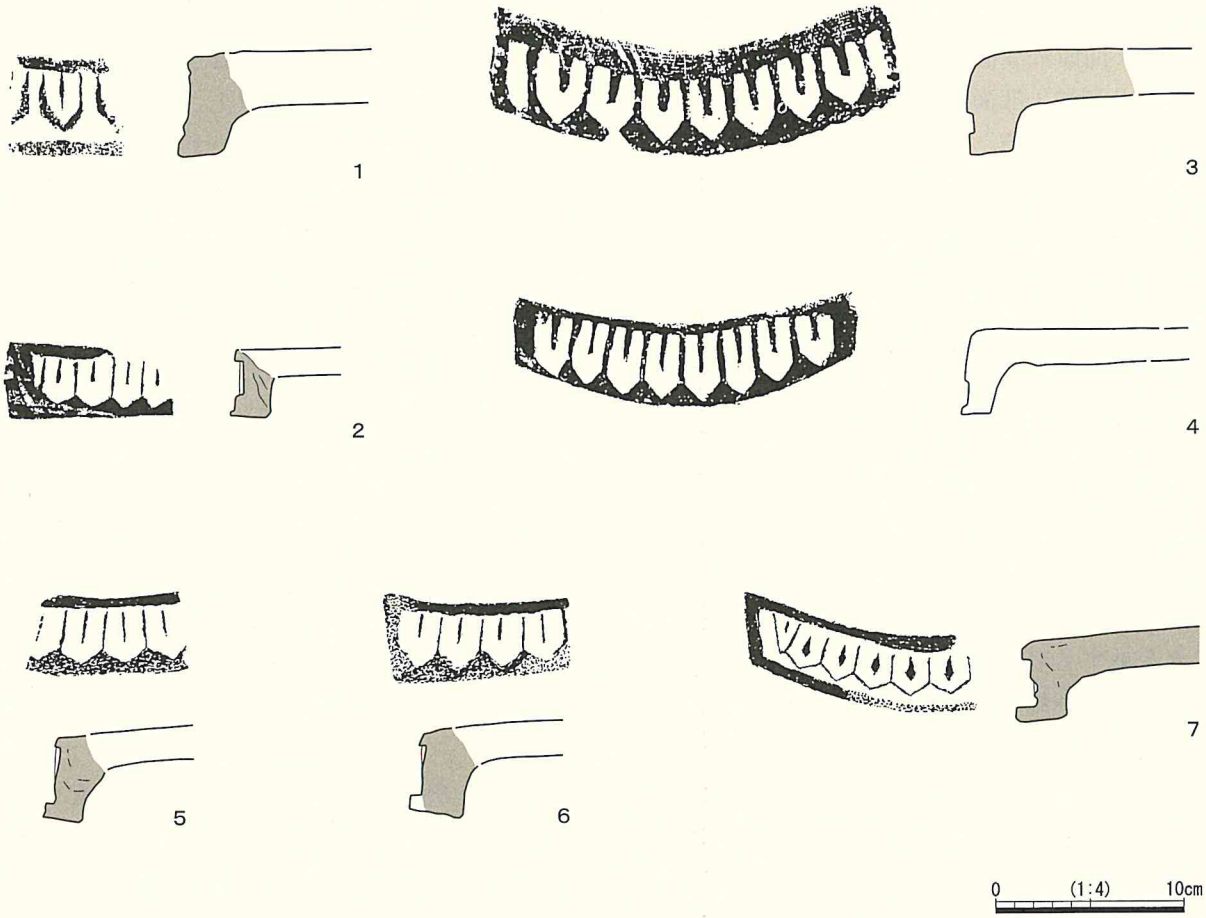
註２　山崎信二『中世瓦の研究』奈良国立文化財研究所　2000

中世瓦の年代については註２を参考に以下の年代をあてている。

中世Ⅰ期：1180年～1210年

中世Ⅱ期：1210年～1260年

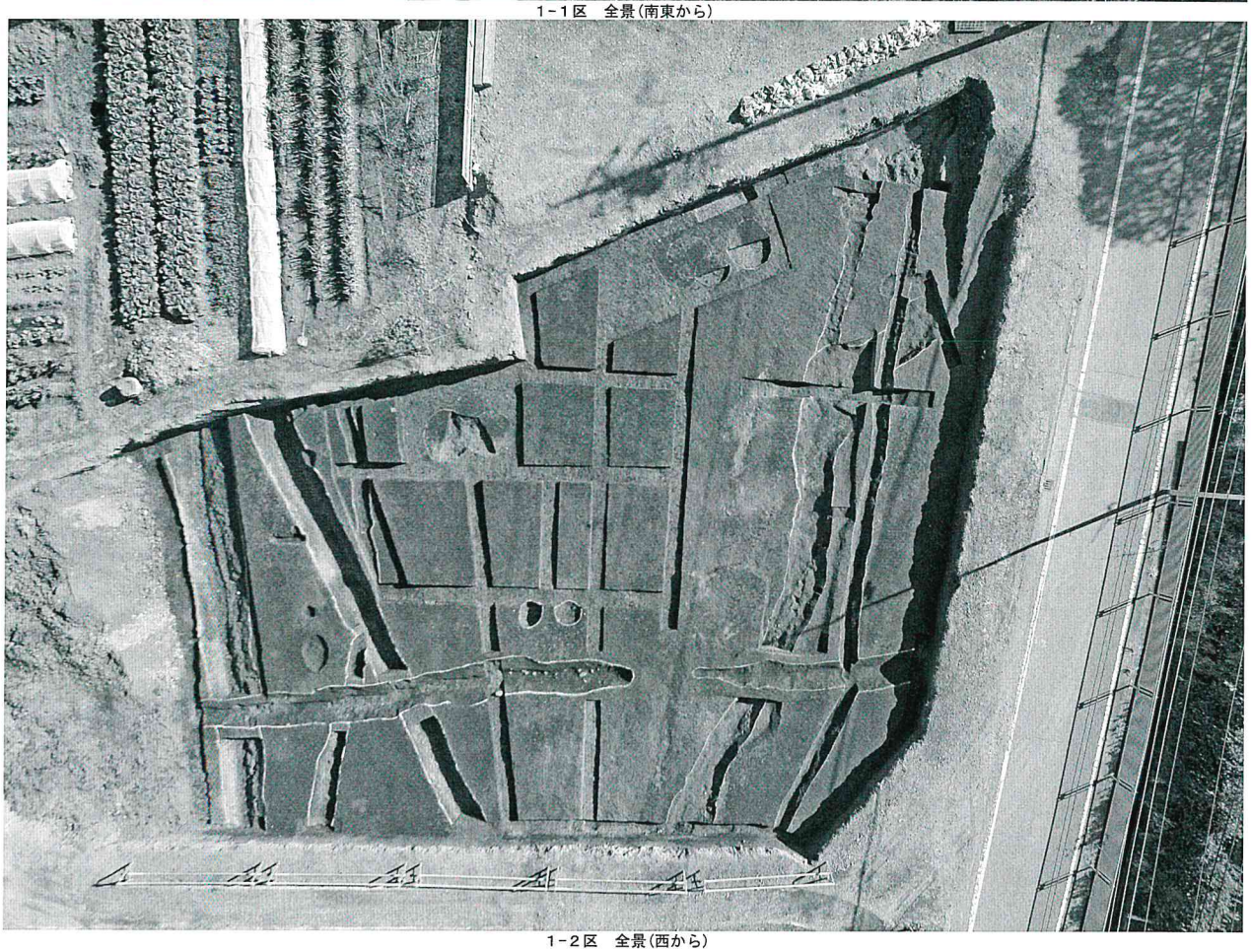
中世Ⅲ期：1260年～1300年



１.鶴岡八幡宮　２.東谷中世墳墓　３・４.日向廃寺　５～７.長楽寺

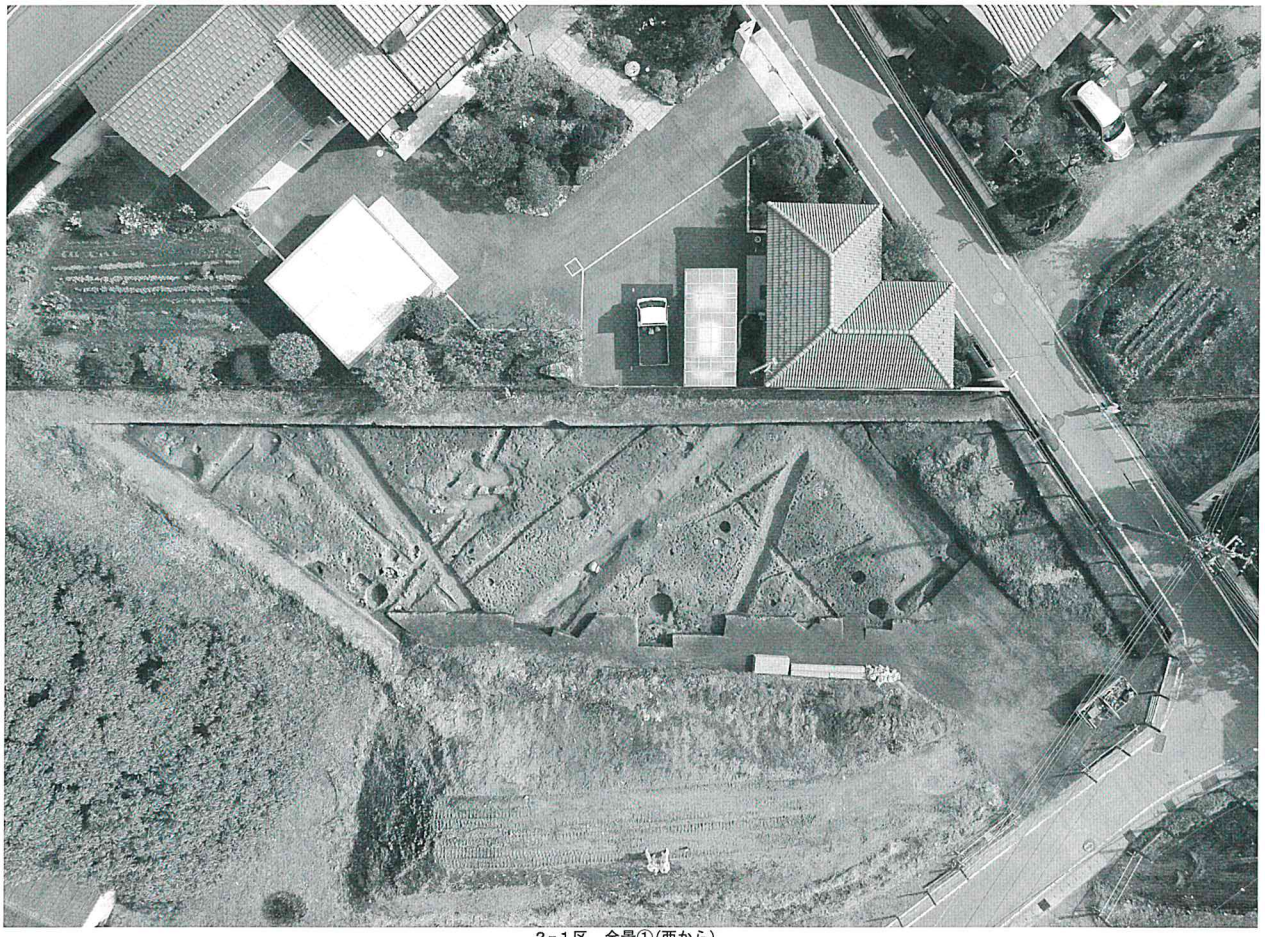
第81図　中世Ⅰ～Ⅲ期の剣頭文軒平瓦

１－１区　全景（南東から）

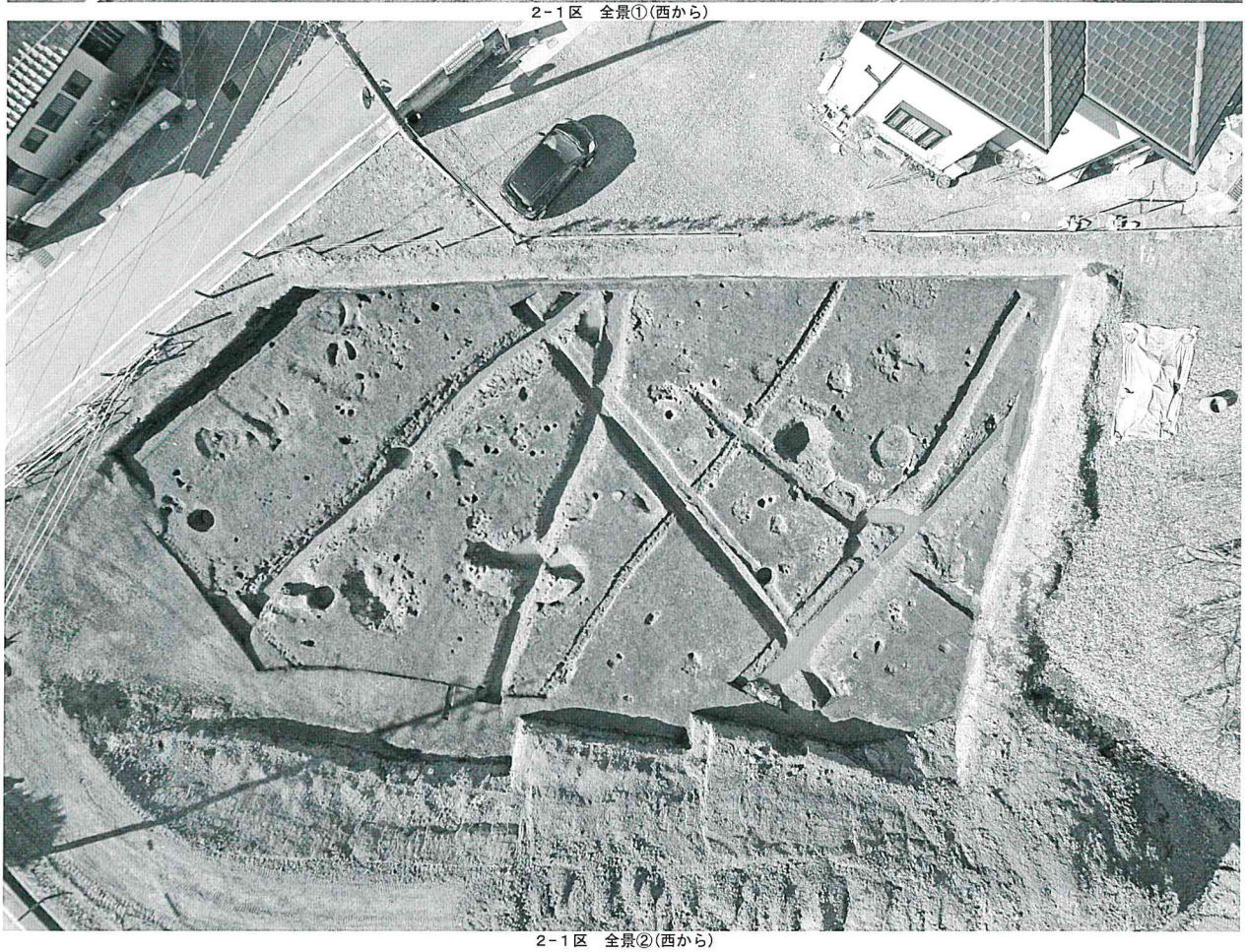


１－２区　全景（西から）

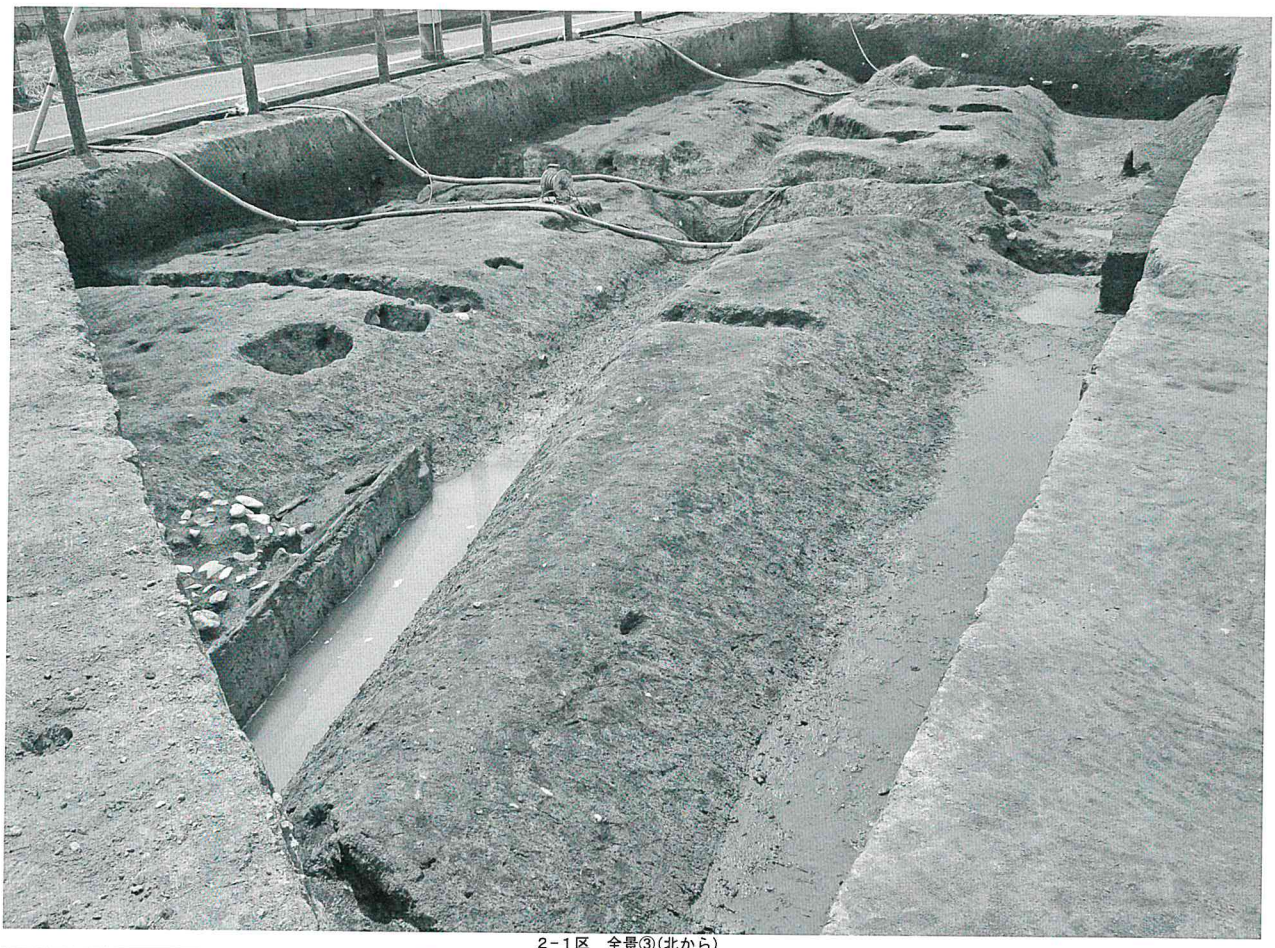
写真図版２



２－１区　全景①(西から)



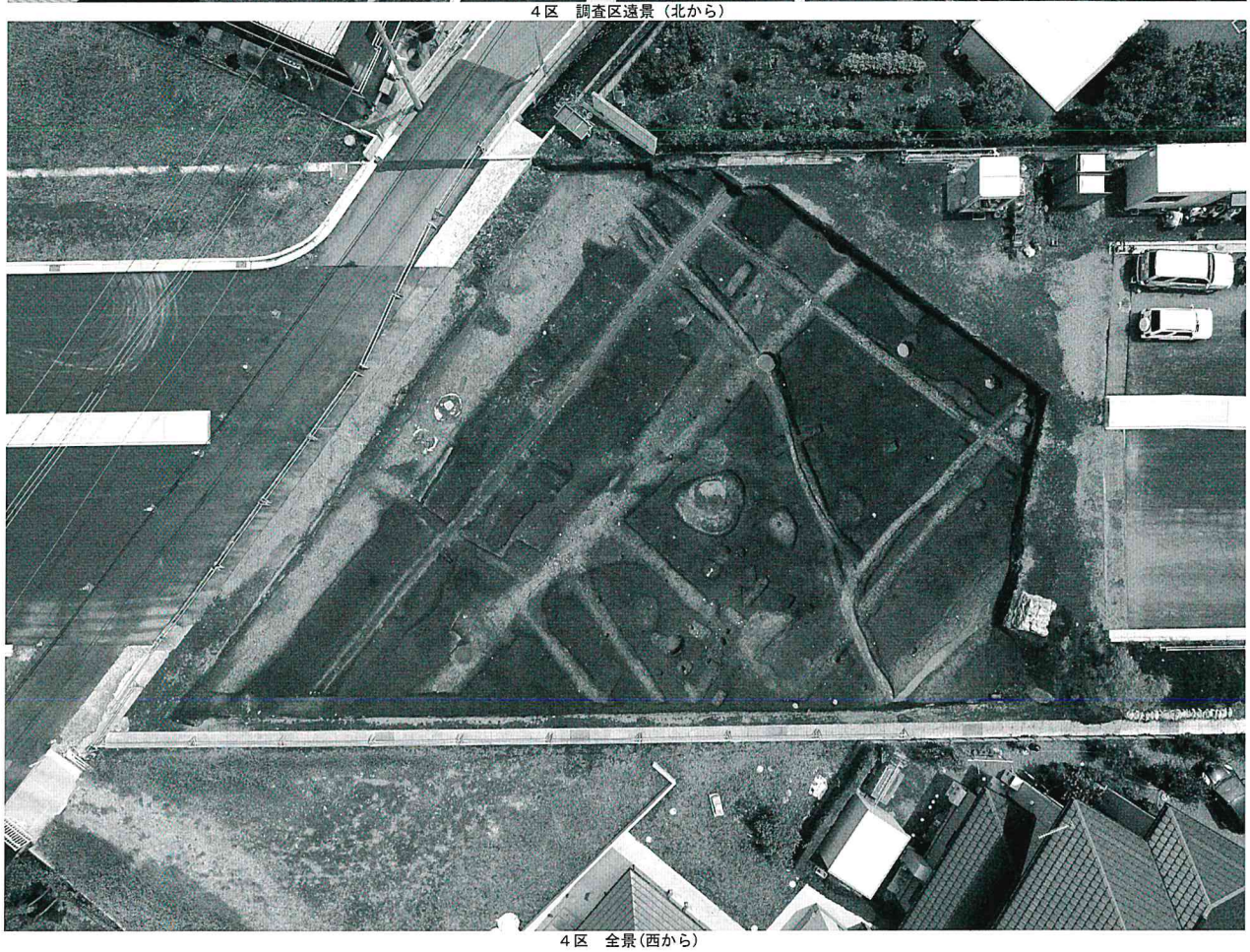
２－１区　全景②(西から)



２－１区　全景③(北から)

３区　全景(南から)

４区　調査区遠景（北から）

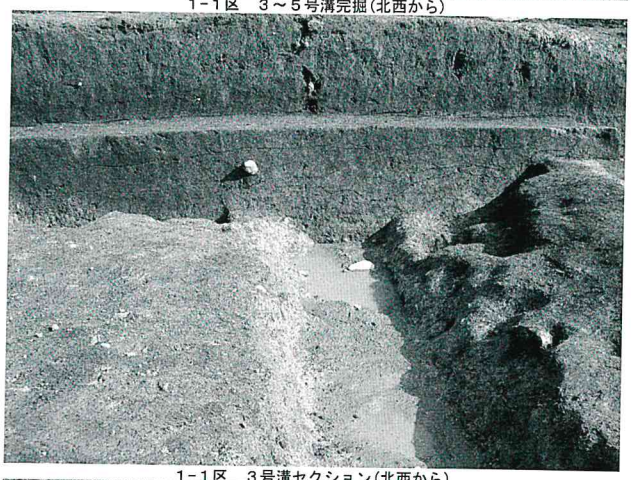


４区　全景（西から）

１－１区　２・３号溝完掘（東から）

１－１区　３～５号溝完掘（北西から）

１－１区　５・７号溝セクション（南東から）



１－１区　３号溝セクション（北西から）

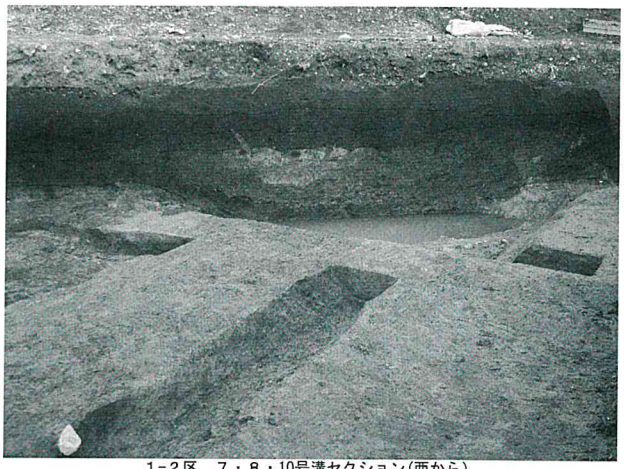
１－１区　３号溝遺物出土状況①（南東から）

１－１区　３号溝遺物出土状況②（南西から）

１－２区　３号溝遺物出土状況③（南から）

１－２区　４号溝完掘（南東から）

１－２区　７・８・10号溝完掘（北西から）

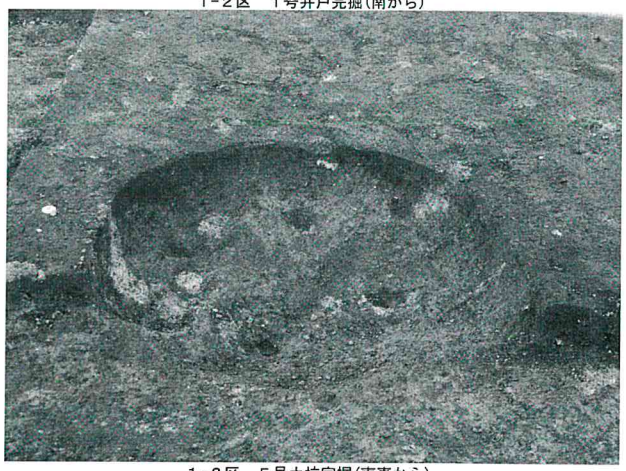


１－２区　７・８・10号溝セクション（西から）

１－２区　７号溝遺物出土状況（南東から）

１－２区　１号井戸完掘（南から）

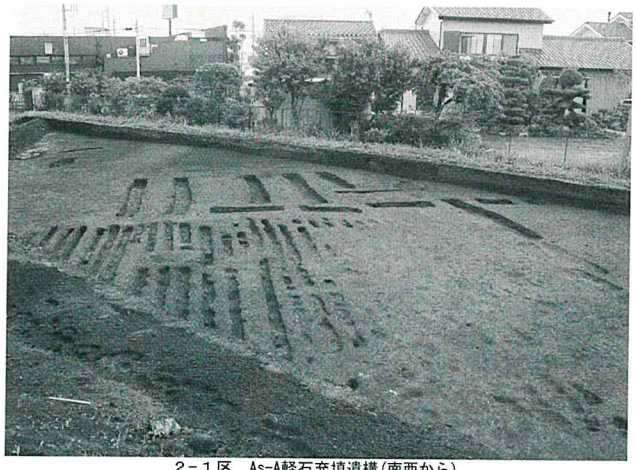
１－２区　４号土坑完掘（南東から）



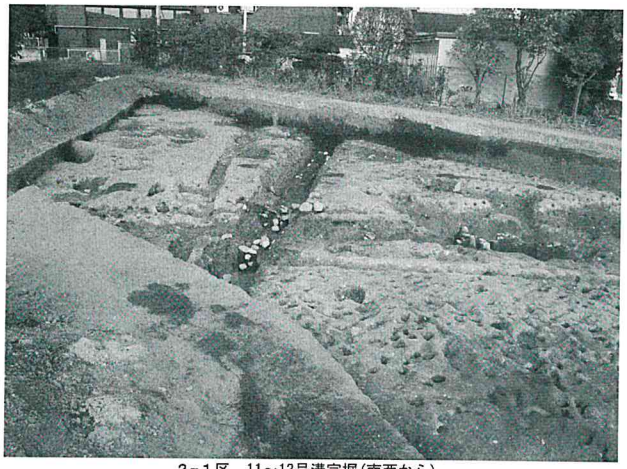
１－２区　５号土坑完掘（南東から）

１－１区　遺構外遺物出土状況①（南西から）

１－１区　遺構外遺物出土状況②（西から）

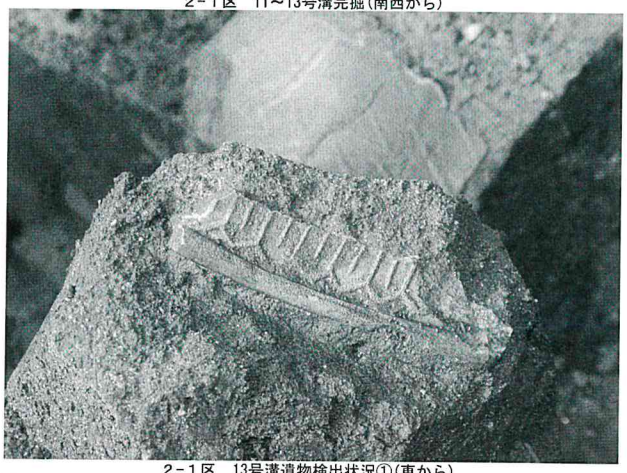


2－1区　As-A軽石充填遺構(南西から)



2－1区　11～13号溝完掘(南西から)

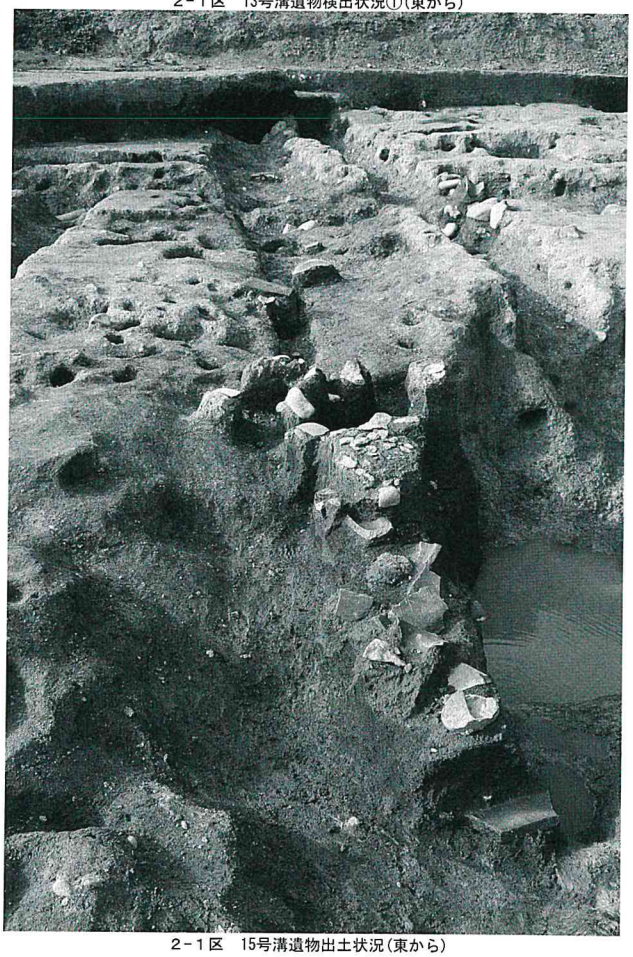
2－1区　12・13号溝遺物出土状況(西から)



2－1区　13号溝遺物検出状況①(東から)

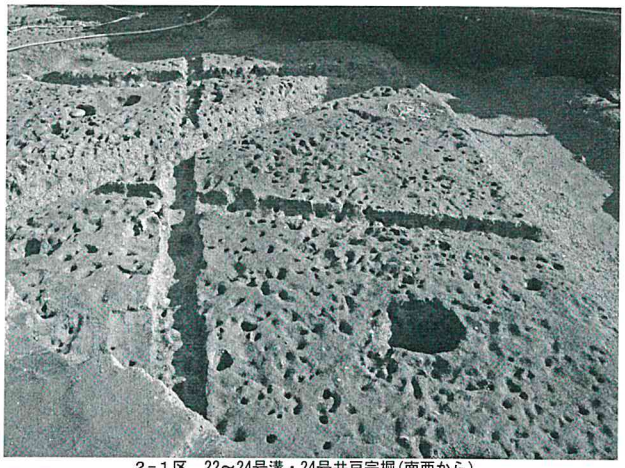
2－1区　13号溝遺物出土状況②(南西から)

2－1区　17・18号溝完掘(西から)



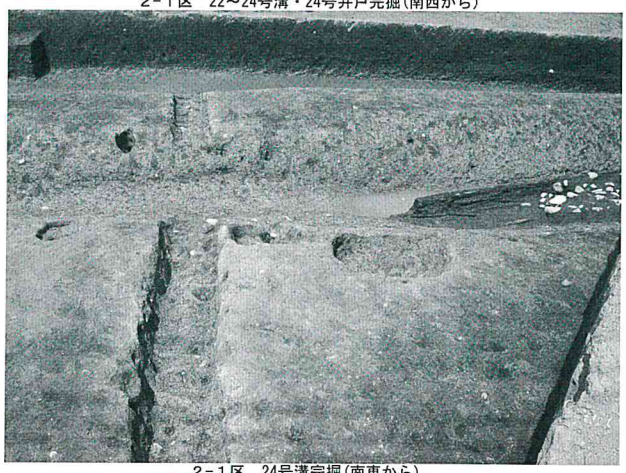
2－1区　15号溝遺物出土状況(東から)

２－１区　17号溝遺物出土状況(北東から)



２－１区　22～24号溝・24号井戸完掘(南西から)

２－１区　22～24号溝完掘(西から)



２－１区　24号溝完掘(南東から)

２－１区　26号溝完掘(南西から)

２－１区　２号井戸完掘(南東から)

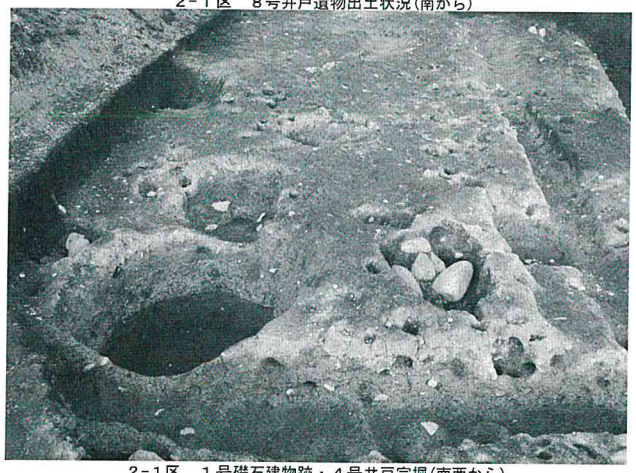
２－２区　29・30号溝完掘(南西から)

2－1区　3号井戸完掘(西から)

2－1区　6号井戸遺物出土状況(北西から)

2－1区　8号井戸遺物出土状況(南から)

2－1区　13号井戸完掘(東から)



2－1区　1号礎石建物跡・4号井戸完掘(南西から)

2－1区　6号土坑(南西から)

2－1区　7号土坑(南東から)

2－1区　9号土坑(北東から)

３区　31～33号溝完掘（西から）

３区　34・35・37号溝完掘（南西から）

３区　34～36号溝セクション（東から）

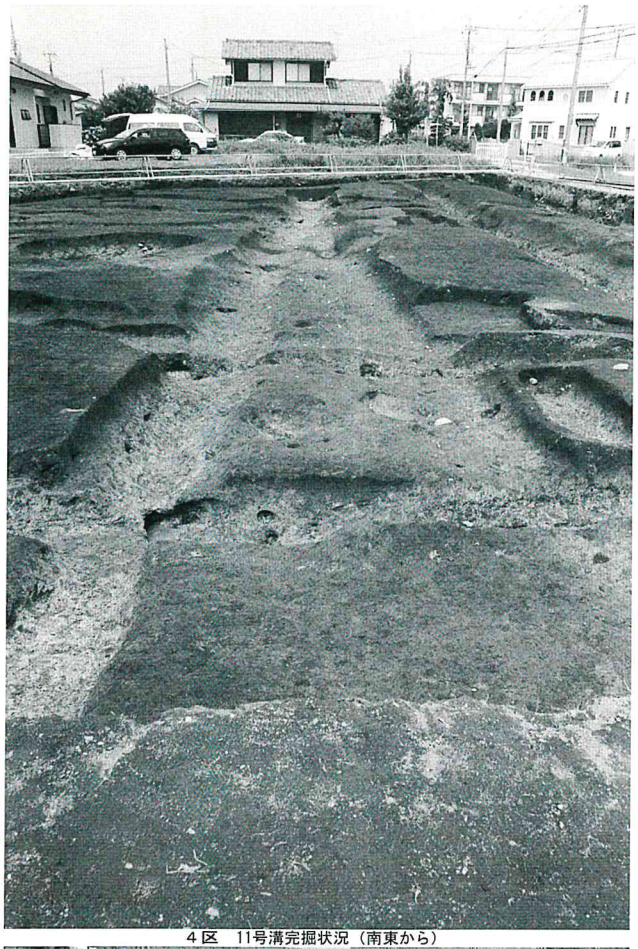
３区　39・41号溝完掘（南東から）

３区　39・42・43号溝完掘（北西から）

３区　42号溝完掘（南東から）

３区　15号井戸完掘（東から）

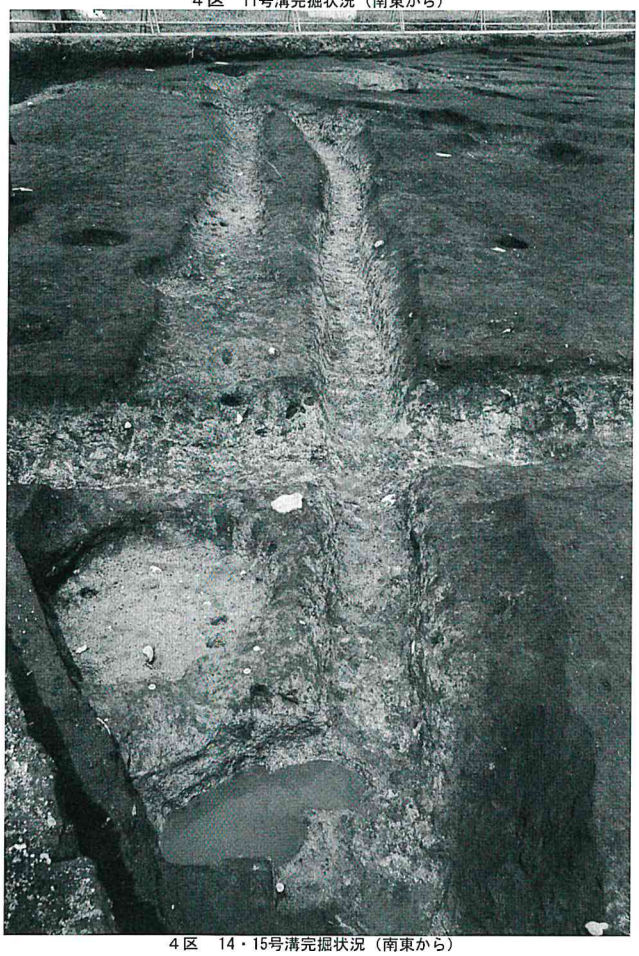
３区　16号井戸完掘（東から）



4区　11号溝完掘状況（南東から）

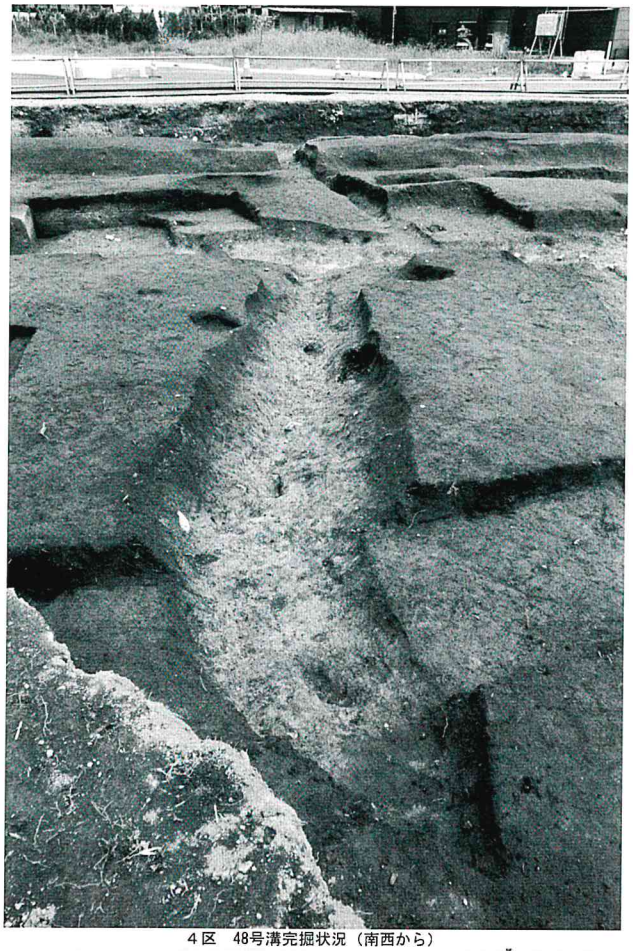
4区　11・44・45号溝完掘状況（南東から）

4区　44号溝五輪塔・瓦出土状況（南から）

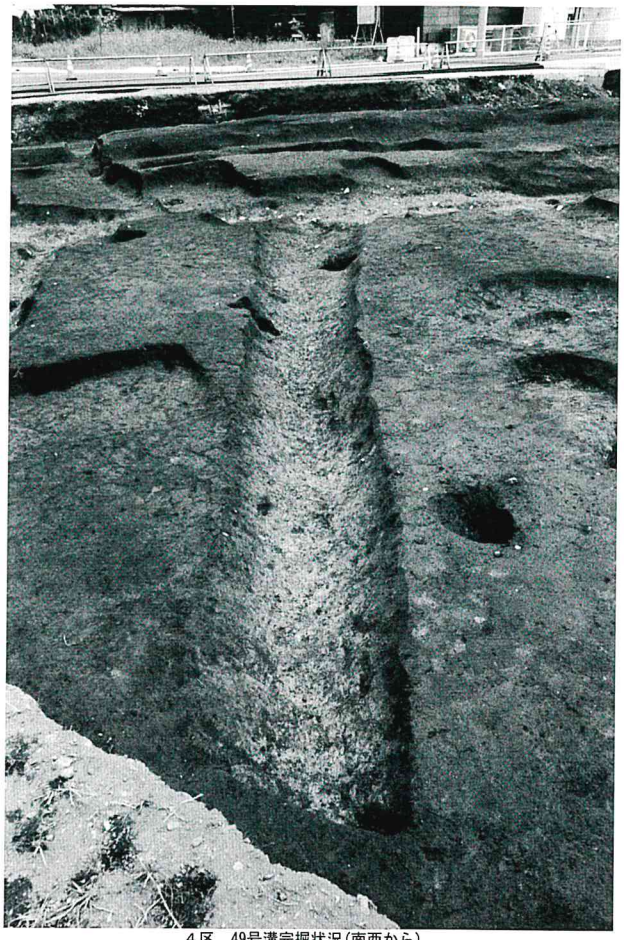


4区　14・15号溝完掘状況（南東から）

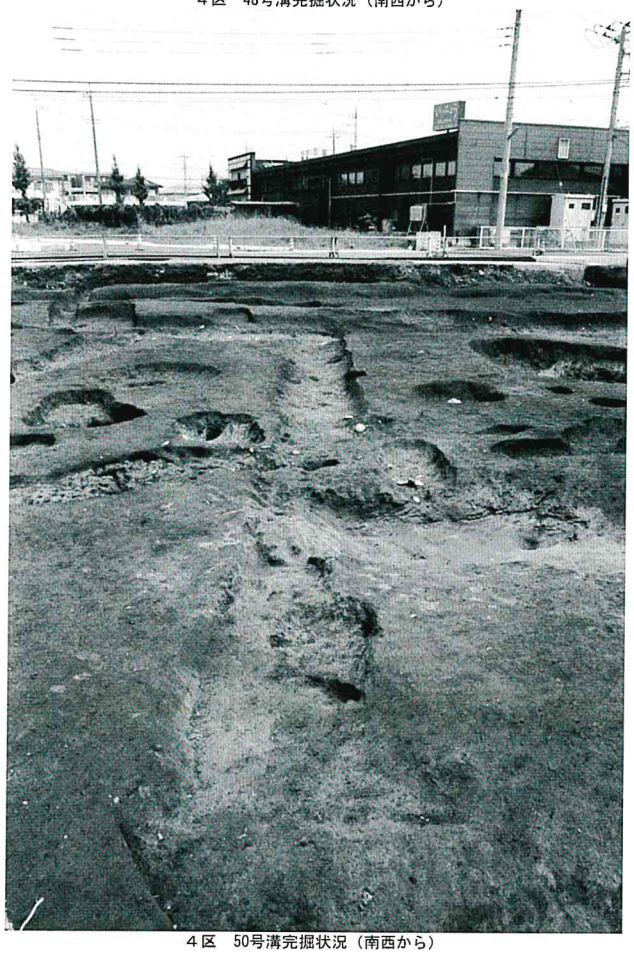
4区　45号溝完掘状況（南東から）



４区　48号溝完掘状況（南西から）



４区　49号溝完掘状況(南西から)



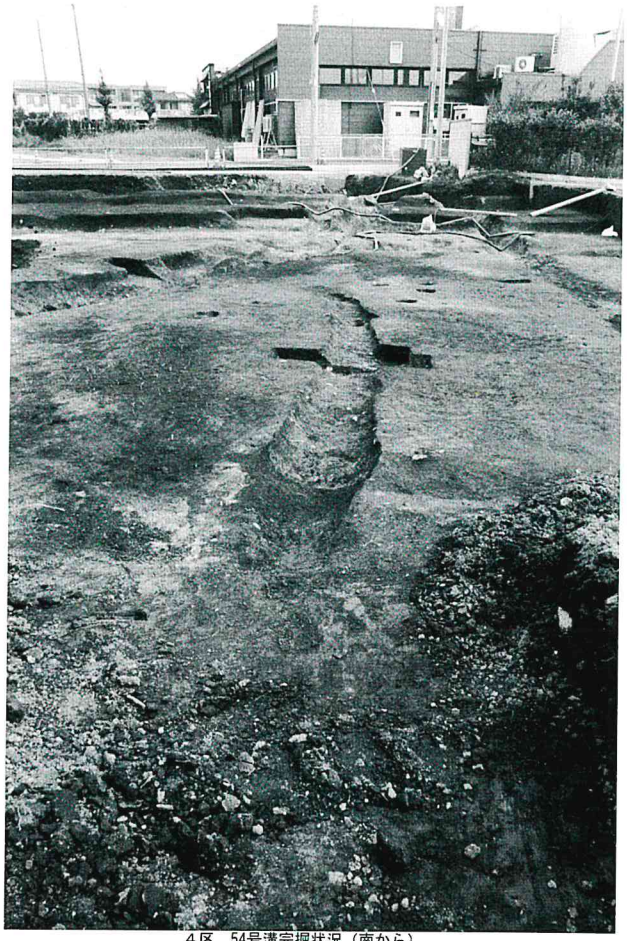
４区　50号溝完掘状況（南西から）

４区　50号溝瓦出土状況（西から）

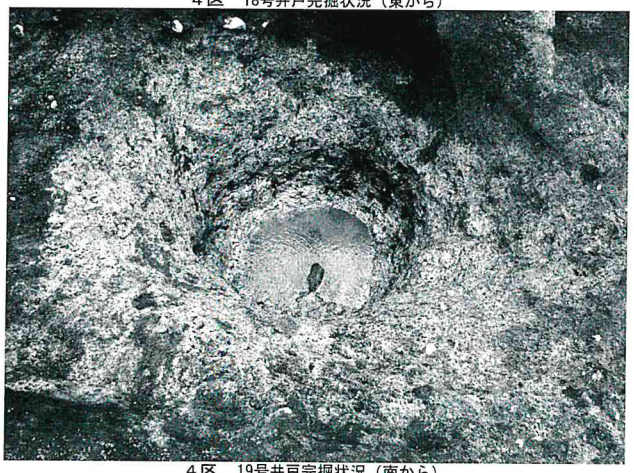
４区　51号溝完掘状況（西から）

4区　52・53号溝完掘状況（南西から）

4区　18号井戸完掘状況（東から）



4区　54号溝完掘状況（南から）



4区　19号井戸完掘状況（南から）

4区　20号井戸完掘状況（北から）

4区　22号井戸完掘状況（南から）

4区　90号ピット断ち割り状況（北から）

4区　17号溝完掘(南東から)

4区　44号溝完掘(南東から)

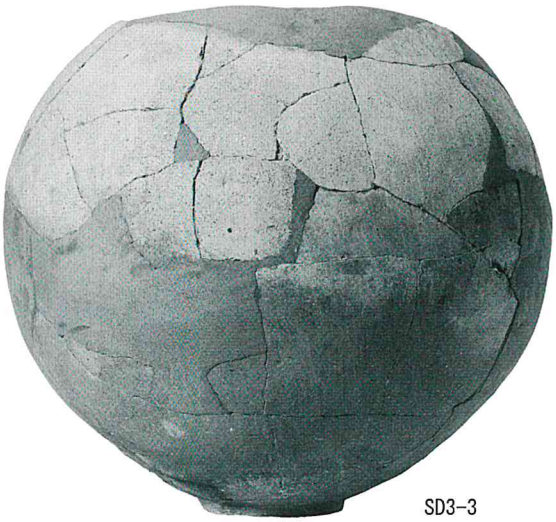
4区　45号溝土層堆積状況(南東から)

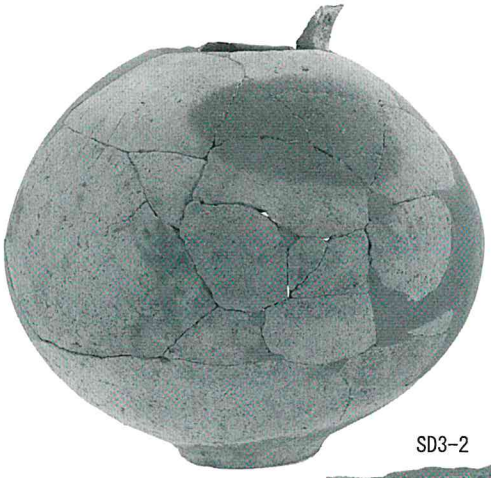
4区　19号井戸瓦出土状況(南から)

4区　22号井戸遺物出土状況(北から)

4区　40号土坑遺物出土状況(東から)

SD3-1


SD3-3


SD3-2

SD3-4

SD3-5

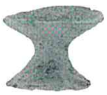
SD3-6

SD3-7

SD3-8

SD3-9

SD3-10


SD3-11

SD3-12

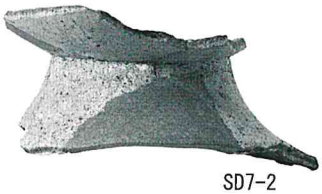
SD3-13

SD3-14

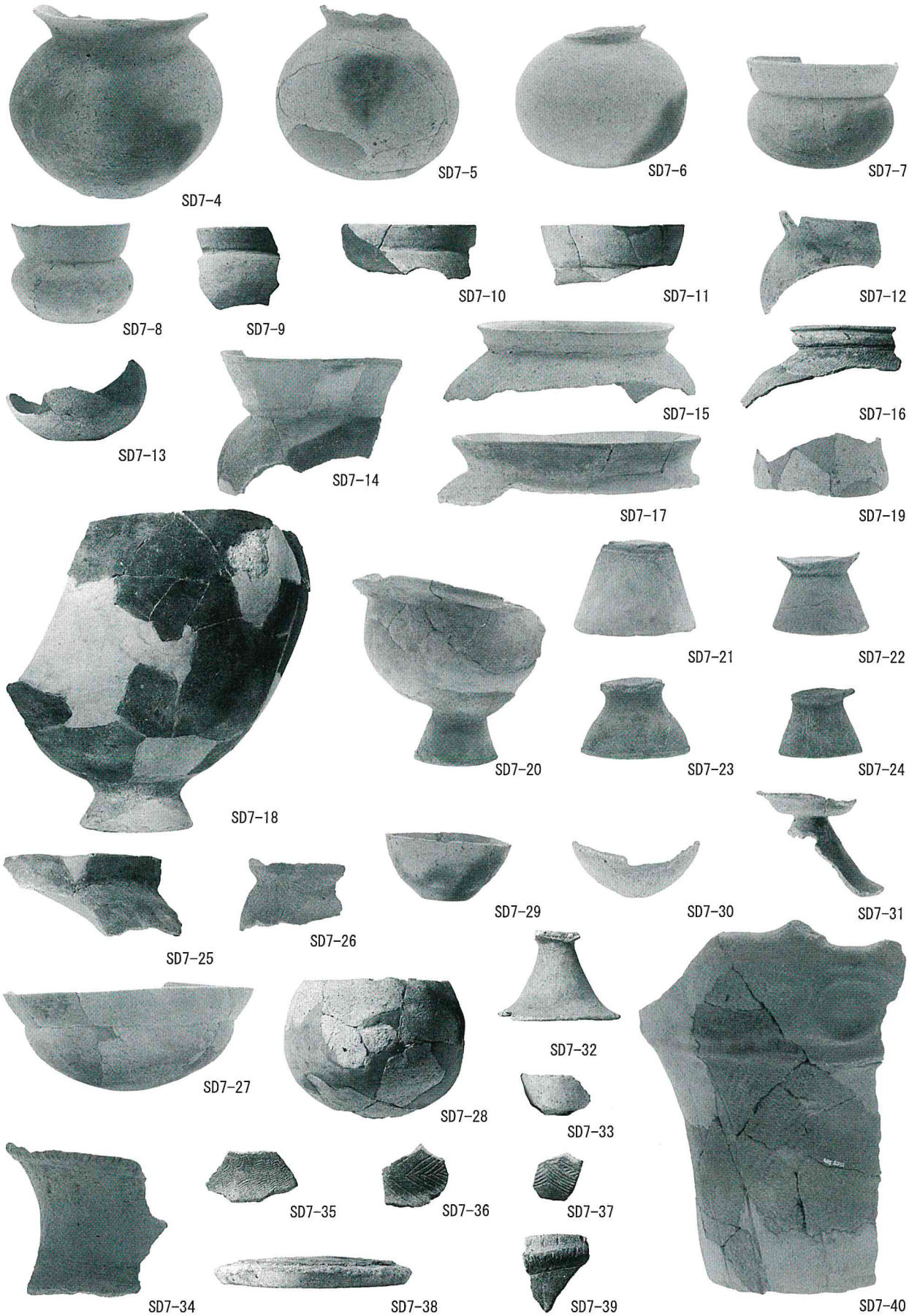
SD4-1

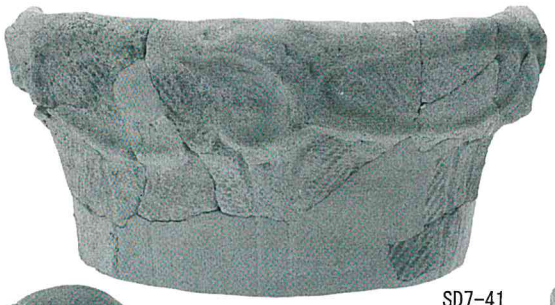
SD7-1

SD4-2


SD7-2

SD7-3


SD7-4
SD7-5
SD7-6
SD7-7
SD7-8
SD7-9
SD7-10
SD7-11
SD7-12
SD7-13
SD7-14
SD7-15
SD7-16
SD7-17
SD7-19
SD7-18
SD7-20
SD7-21
SD7-22
SD7-23
SD7-24
SD7-25
SD7-26
SD7-29
SD7-30
SD7-31
SD7-27
SD7-28
SD7-32
SD7-33
SD7-34
SD7-35
SD7-36
SD7-37
SD7-38
SD7-39
SD7-40


SD7-41

SD7-42

SD7-43

SD7-44

SD7-45

SD7-46

SD7-48

SD7-47

SD7-49

SD7-50

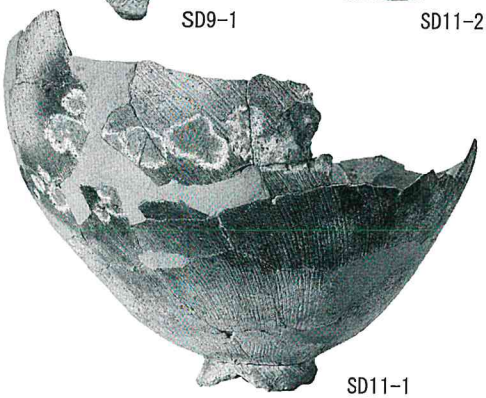
SD7-51

SD9-1

SD11-2

SD11-3

SD11-5


SD11-1

SD11-4

SD11-6

SD11-7

SD11-8

SD11-9

SD13-1

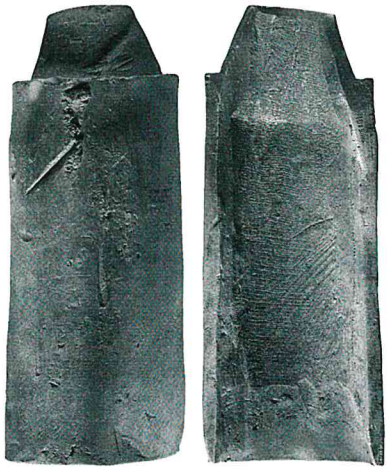
SD13-2

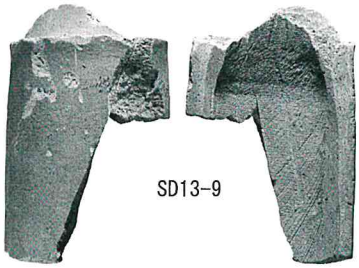
SD13-3

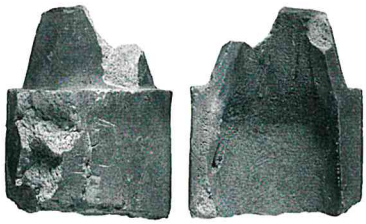
SD13-4

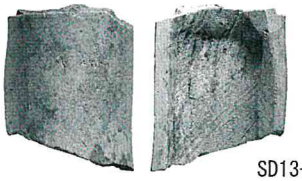
SD13-6

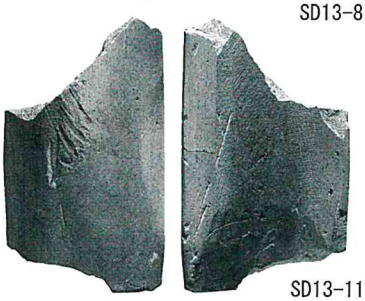
SD13-5


SD13-7

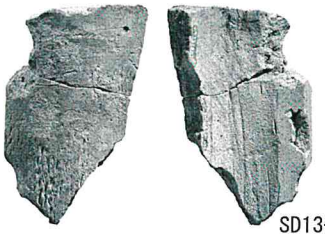

SD13-9

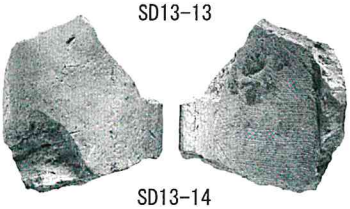

SD13-8

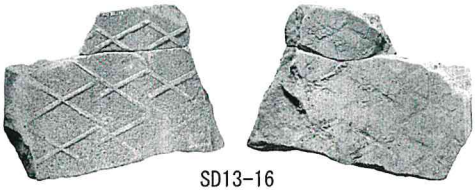

SD13-10

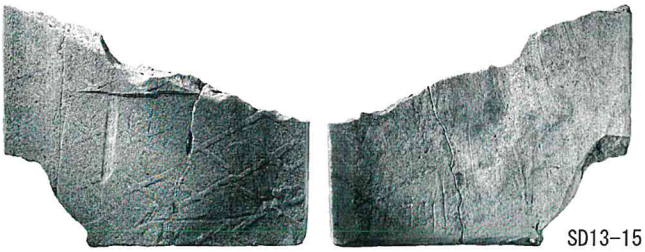

SD13-11

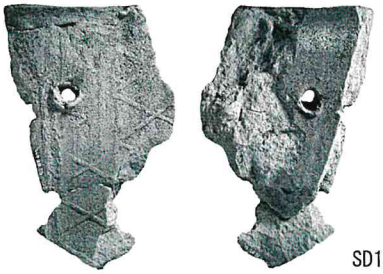
SD13-13

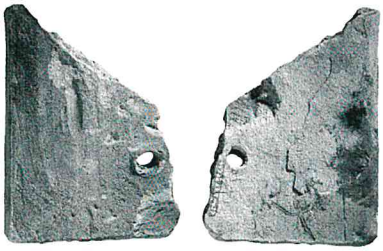

SD13-12

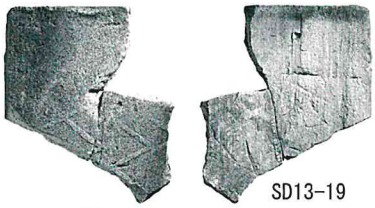

SD13-14

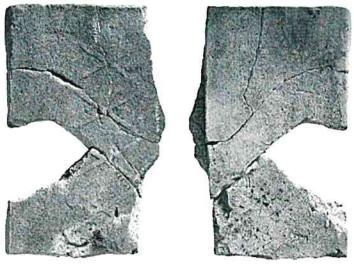

SD13-16


SD13-15


SD13-17


SD13-18


SD13-19


SD13-21

SD13-20

SD13-22

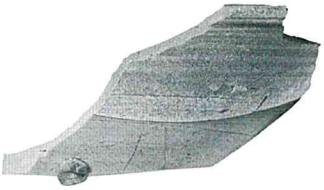
SD13-23

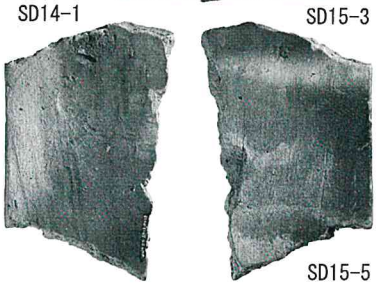
SD14-1

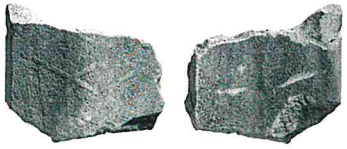
SD15-1

SD15-3

SD15-2

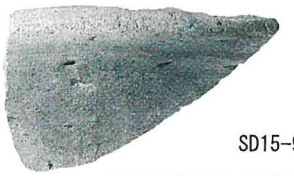

SD15-4


SD15-5


SD15-7

SD15-6

SD15-8

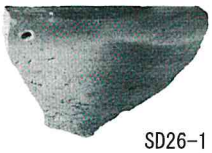

SD15-9

SD17-1

SD17-3

SD17-4

SD22-1

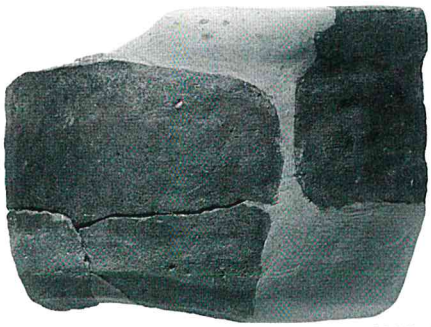

SD26-1

SD17-2

SD17-5

SD26-2

SD26-3


SD26-4

SD26-5

SD27-1 (S=1/6)

SD26-6 (S=1/6)

SD26-7

SD26-8

SD28-1

SD28-2

SD28-3

SD28-5

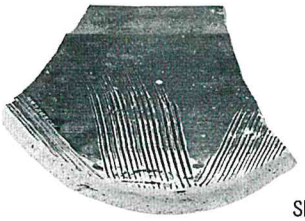
SD28-6

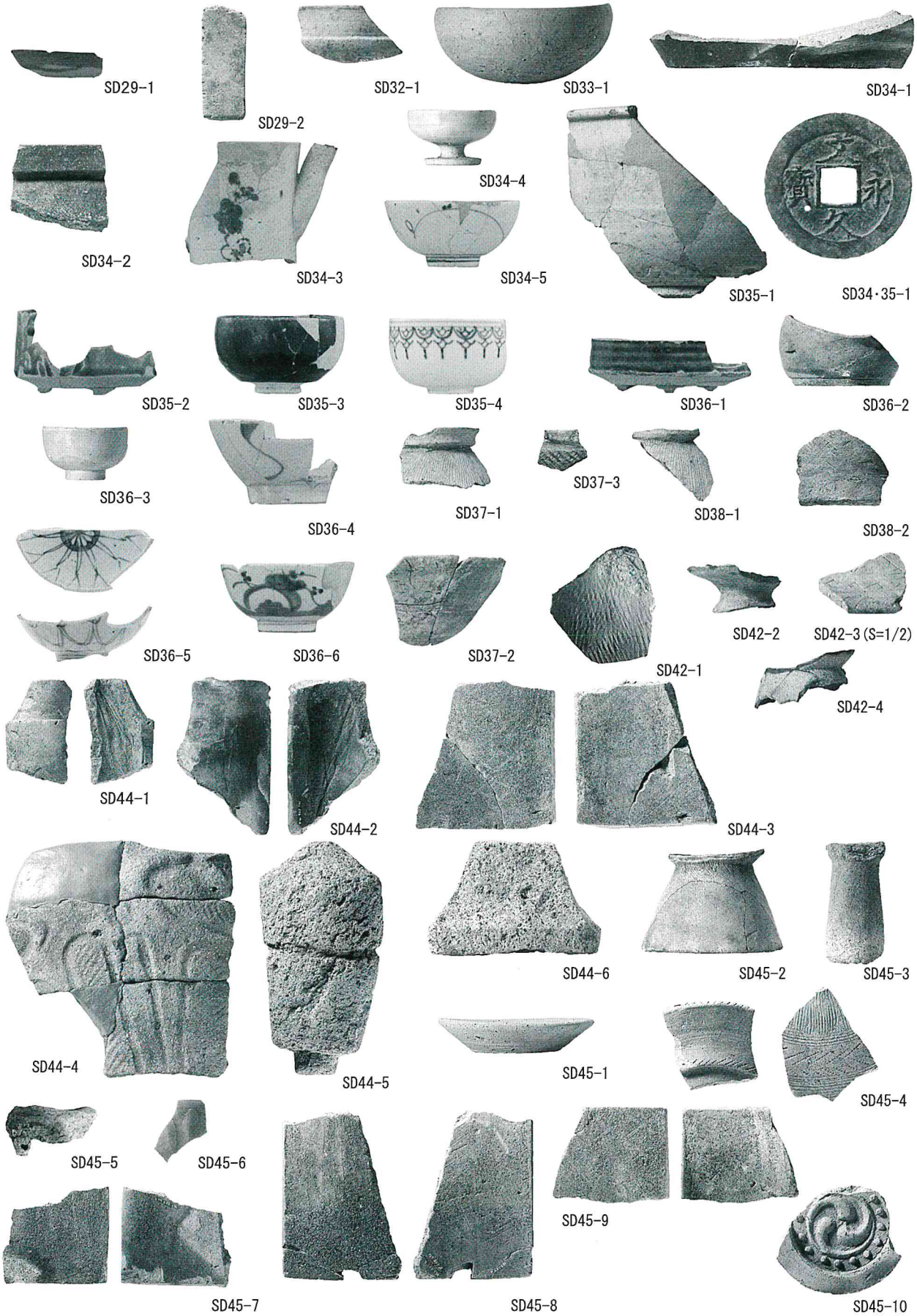
SD28-4

SD28-10

SD28-9

SD28-7


SD28-8

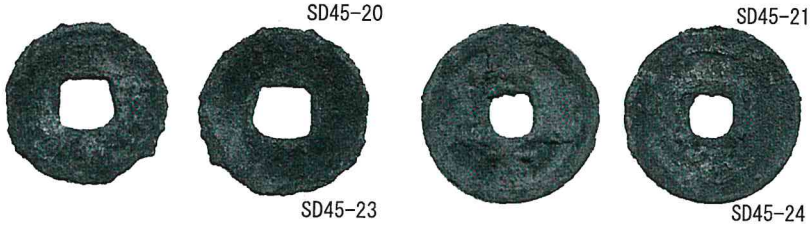

SD29-1
SD29-2
SD32-1
SD33-1
SD34-1
SD34-2
SD34-3
SD34-4
SD34-5
SD35-1
SD34・35-1
SD35-2
SD35-3
SD35-4
SD36-1
SD36-2
SD36-3
SD36-4
SD37-1
SD37-3
SD38-1
SD38-2
SD36-5
SD36-6
SD37-2
SD42-1
SD42-2
SD42-3 (S=1/2)
SD42-4
SD44-1
SD44-2
SD44-3
SD44-4
SD44-5
SD44-6
SD45-1
SD45-2
SD45-3
SD45-4
SD45-5
SD45-6
SD45-7
SD45-8
SD45-9
SD45-10

SD45-11 SD45-12 SD45-13

SD45-14 SD45-15 SD45-16

SD45-17 SD45-18 SD45-19

SD45-20 SD45-21 SD45-22


SD45-23 SD45-24

SD50-1

SD50-2

SD50-3

SD53-1

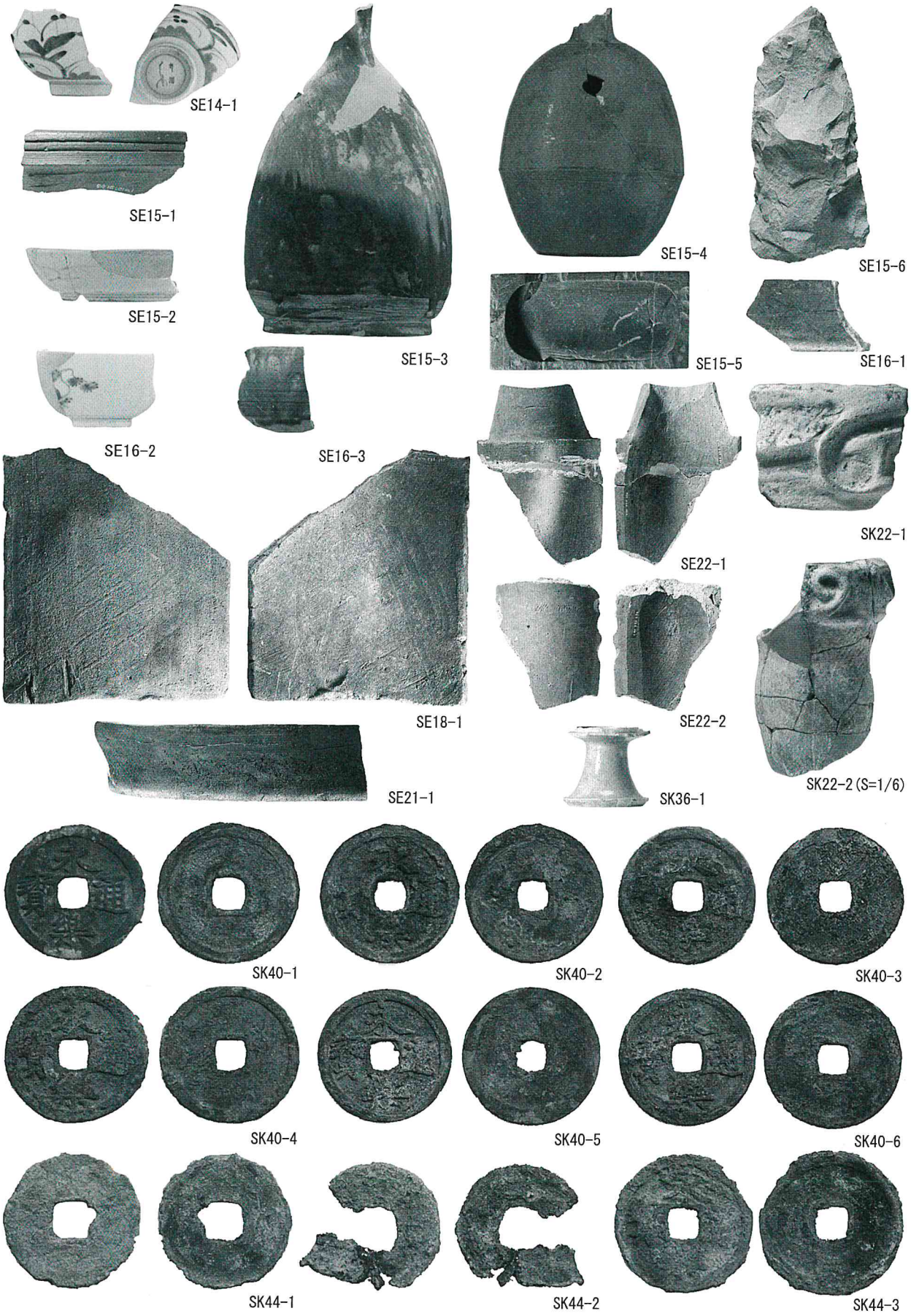
SE1-1

SE4-1

SE6-1

SE8-1

SE8-2


SE14-1
SE15-1
SE15-2
SE15-3
SE15-4
SE15-5
SE15-6
SE16-1
SE16-2
SE16-3
SE18-1
SE21-1
SE22-1
SE22-2
SK22-1
SK22-2(S=1/6)
SK36-1
SK40-1
SK40-2
SK40-3
SK40-4
SK40-5
SK40-6
SK44-1
SK44-2
SK44-3

SK44-4　SK44-5　SK45-1

SK45-2　SK45-3　SK45-4

遺構外-1(S=1/6)

遺構外-2
(S=1/6)

SK46-1(S=1/4)

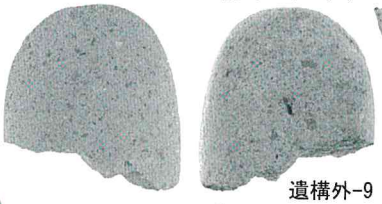
遺構外-4

遺構外-3(S=1/6)

遺構外-5(S=1/6)

遺構外-6

遺構外-7



遺構外-9

遺構外-14

遺構外-8

遺構外-10

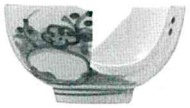
遺構外-11

遺構外-12

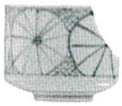
遺構外-13

遺構外-15

遺構外 -16



遺構外 -17



遺構外 -19

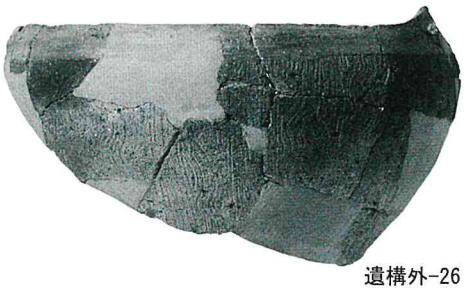
遺構外 -20

遺構外-18

遺構外 -21

遺構外-22

遺構外-23


遺構外-26

遺構外-25

遺構外-24

遺構外-27

遺構外-28

遺構外-29

遺構外-30

遺構外-32

遺構外-31

遺構外-33

遺構外-34

遺構外-35

遺構外-36

遺構外-37(S=1/3)

遺構外-38(S=1/3)

遺構外-39(S=1/2)

遺構外-40(S=1/3)

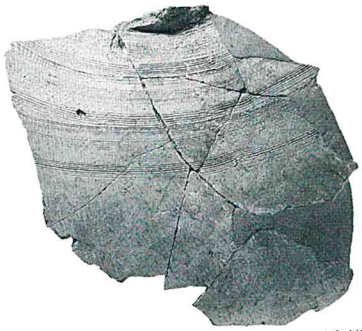
遺構外-41

遺構外-42

遺構外-43

遺構外-44(S=1/3)

遺構外-45(S=1/3)


遺構外-46

遺構外-47

遺構外-48

発掘調査報告書抄録

ふりがな	かみなかいまえやしきいせき
書名	上中居前屋敷遺跡
副書名	高前幹線事業に伴う発掘調査
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第327集
編著者名	大野　義人、手島芙実子
編集機関	高崎市教育委員会
所在地	群馬県高崎市高松町35番地1
発行年月日	平成26年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
かみなかいまえやしき 上中居前屋敷 いせき 遺跡	ぐんまけん たかさきし 群馬県高崎市 かみなかいまち 上中居町	102020	447	139°02'03"	36°18'58"	2009.06.15 ～ 2009.12.25	5150 ㎡	道路建設
			485			2010.08.17 ～ 2010.12.01		
			547			2012.07.06 ～ 2012.08.29		
			563			2013.06.10 ～ 2013.08.08		

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上中居前屋敷遺跡	寺院	中世	溝・土坑・井戸・掘立柱建物・礎石建物	瓦・軟質陶器・灰釉陶器・火鉢・板碑・五輪塔・経筒	中世寺院、瓦、経筒、縄文時代土坑
	墳墓	中近世	土坑墓	古銭	
	集落	古墳	溝・土坑・井戸	土師器・須恵器・縄文土器	

要約

本遺跡の調査では、中世の掘立柱建物、溝跡54条、井戸跡22基、土坑52基、ピット101基であり、縄文時代および古墳時代から中世まで幅広い時期の遺構を確認した。特に、２・４区で検出した中世寺院に関連する掘立柱建物・溝跡・井戸跡や軒瓦を含む瓦類は貴重な資料となった。また、１区では古墳時代前期の溝を多数検出し、包含層中を含めて、S字甕・柳ヶ坪型壺など東海系の土器が多量に出土し、２－１区では縄文時代中期後葉の土坑と縄文土器が確認された。本遺跡周辺では縄文時代の遺構は希薄であり、周辺遺跡における時期別の変遷を考えるうえで重要な知見を得ることができた。

高崎市文化財調査報告書第327集

上中居前屋敷遺跡

—高前幹線事業に伴う発掘調査—

印刷・発行　平成26年３月31日

発行　群馬県高崎市教育委員会
〒370-8501
群馬県高崎市高松町35番地１

印刷　上武印刷株式会社